

グローバル30総括シンポジウム
大学の国際化のための
ネットワーク形成推進事業

採択大学の取組 [詳細版]

平成26年2月14日(金)

グローバル30総括シンポジウム
大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業
採択大学の取組 [詳細版]

目 次

①東北大学	1
②筑波大学	18
③東京大学	35
④名古屋大学	54
⑤京都大学	66
⑥大阪大学	80
⑦九州大学	96
⑧慶應義塾大学	120
⑨上智大学	148
⑩明治大学	160
⑪早稲田大学	173
⑫同志社大学	187
⑬立命館大学	203

グローバル30総括シンポジウム

東北大学

5年間の取り組みについて

・英語コースの開設

英語による授業のみで学位を取得できるコースを開設

平成21年度：既設大学院3コースのほか大学院1コース開設

平成22年度：大学院3コース開設

平成23年度：学部3コース、大学院4コース開設

平成24年度：大学院2コース開設

・海外大学共同利用事務所の開設

ロシアとの教育・研究交流を深めるため、モスクワ大学内に事務所を設置、日露大学間交流に資する諸事業の企画・実施等の推進

平成22年9月：ロシア海外大学共同利用事務所開設

平成23年度：第2回日露学長会議(モスクワ)開催、第3回日露学長会議(仙台)開催、

第1回日露人文社会フォーラム(モスクワ)開催、第1回日露大学合同説明会(モスクワ)開催

平成24年度：第1回日露医学フォーラム(モスクワ)開催、第2回日露大学合同説明会(ノボシビルスク)開催、

第3回〃説明会(モスクワ)開催、第4回〃説明会(ウラジオストク)開催

平成25年度：第4回日露学長会議(モスクワ)開催、第2回日露人文社会フォーラム(モスクワ)開催、

第5回日露大学合同説明会(ノボシビルスク)開催、第6回〃説明会(モスクワ)開催、

第7回〃説明会(ウラジオストク)開催予定

・国際化推進体制の確立

中期目標・中期計画に基づき、大学の国際化に向けた取り組みを全学で推進

平成21年度：グローバル30の企画、運営を行う「国際教育院」を設置

・奨学生制度の創設

私費外国人留学生を対象とした奨学制度を創設、入学検定料・入学金・授業料相当の支援
 平成23年度：総長特別奨学生制度開始
 （平成25年度から学部英語コースの入学検定料無料化を実施）

・外国人留学生と日本人学生との交流

留学生専用の国際交流会館のほか、日本人学生との混住寮であるユニバーシティハウスの整備、外国人留学生と日本人学生との共修プログラムの実施
 既設混住寮：ユニバーシティハウス三条（定員416人）
 平成25年 4月：ユニバーシティハウス片平入居開始（定員48人）
 平成25年10月：ユニバーシティハウス三条Ⅱ入居開始（定員216人）

・短期受入プログラムの拡充

大学間等学術交流協定を締結している大学を中心に、短期受入プログラムを拡充、外国人留学生の受入を促進
 平成22年度：既設理系サマープログラム（TSSP・2週間）のほか、工学系サマープログラム（TESP・2週間）及び人文社会系短期交換留学受入プログラム（IPLA・1年間）の開始
 平成23年度：人文社会系サマープログラム（TASP・2週間）の開始
 平成25年度：日本語サマープログラム（TUJP・2週間）の開始

・国際化ネットワークの活用

本事業により確立したネットワーク（大学間や産業界等）を活用し、シンポジウムの開催等による情報共有、連携等
 平成22年度から国際シンポジウム、セミナー等8回実施
 平成22年度から留学生のためのジョブフェアを毎年開催

2

目次

1. 本事業の成果

- ① 特筆すべき成果と波及効果
- ② 留学生（英語コース留学生を含む。）からの評価等
- ③ 留学生の受入
- ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施
- ⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大
- ⑥ 教育体制の充実

2. 取組状況

- ① 英語による授業のみで学位が取得できるコース
- ② 留学生受入のための環境整備
- ③ 拠点大学の国際化とネットワークの形成

3. 経費の使用状況

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

3

1. 本事業の成果

①特筆すべき成果と波及効果

○全学的な教育国際化推進方針の確立

- ・ 中期目標・計画において大学の国際化を最重点項目の一つに設定
- ・ 国際交流戦略会議、G30運営会議による全学的な国際化推進体制の確立
- ・ G30を体系的な国際戦略の中に位置付け

○ネットワーク形成の強化

- ・ 北日本エリアネットワーク(東北地区47大学)の確立、学部仙台コンソーシアム(宮城県17大学)の活用
- ・ 国際シンポジウムを積極的に開催し、情報をグローバル30採択校、北日本エリアネットワークを通じて配信

○交流協定締結校の拡大と学生交流の活発化

- ・ G30採択後、大学間協定40校、部局間協定46校計86校の増加。COLABS(大学院理系短プロ)、IPLA(学部文系短プロ)、スタディアブロードプログラム(カリフォルニア大、シドニー大派遣)等により学生交流が活発化
- ・ トップ・ダウンによる大学間協定の締結の導入(上海交通大学・ハワイ大学等)

○大学院における英語授業共修の定着と学士コースの英語授業への日本人学生のチャレンジ

- ・ 大学院9研究科13コースの開設による英語授業共修の定着及び学士コースの英語授業への日本人学生のチャレンジ(履修登録)増により、日本人学生と留学生の相互啓発が進展

○海外紹介機会の拡大

- ・ 海外での東北大学デイ開催(2カ国7回)、留学フェア参加(延べ36カ国57カ所)、高校訪問(延べ39カ国124校)により、世界における東北大学の教育・研究の認知度が確実にアップ

4

②留学生(英語コース留学生を含む。)からの評価等

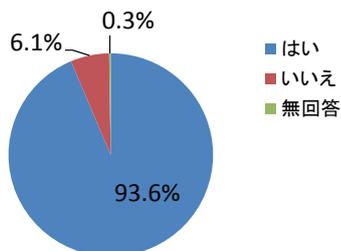
- 教育国際化の推進に資するため、また、地震等の震災時における学生支援の在り方を強化するため、在学する全ての留学生を対象に、「留学の動機等」「学習・研究環境」「学生生活」「キャリアプラン」「東日本大震災の留学への影響」についてアンケート調査を実施

調査概要

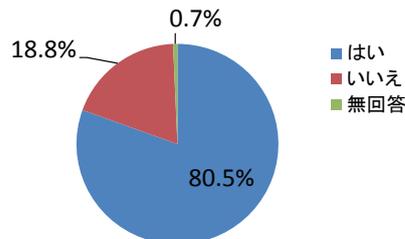
調査実施期間： 2012年6月25日(月)～7月13日(金)
対象者： 2012年5月1日時点で東北大学に在籍する留学生 1,431名
回収数： 739 回収率： 51.6%

留学生からの評価 (その1. 留学の動機)

日本は留学したい国として第一希望でしたか？



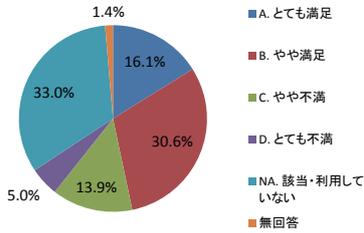
東北大学は日本の中で留学したい大学として第一希望でしたか？



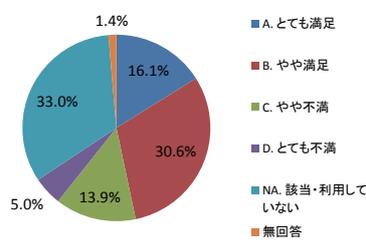
5

留学生からの評価（その2. 学習・研究環境）

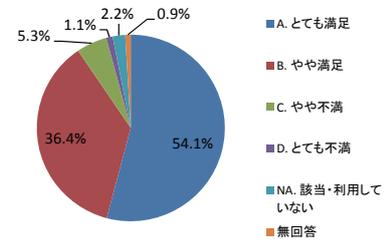
英語で開講されている専門教育



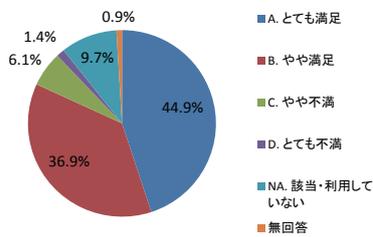
チューターの支援



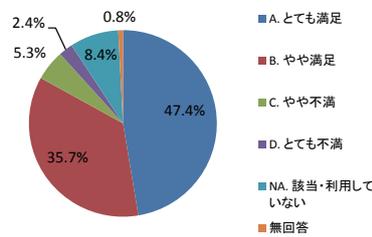
教務係など事務窓口の対応



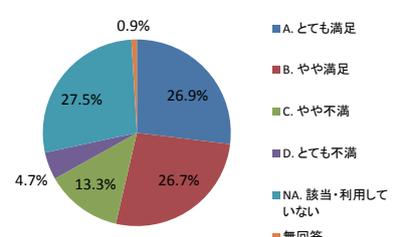
授業担当教員の指導



研究室の環境や設備



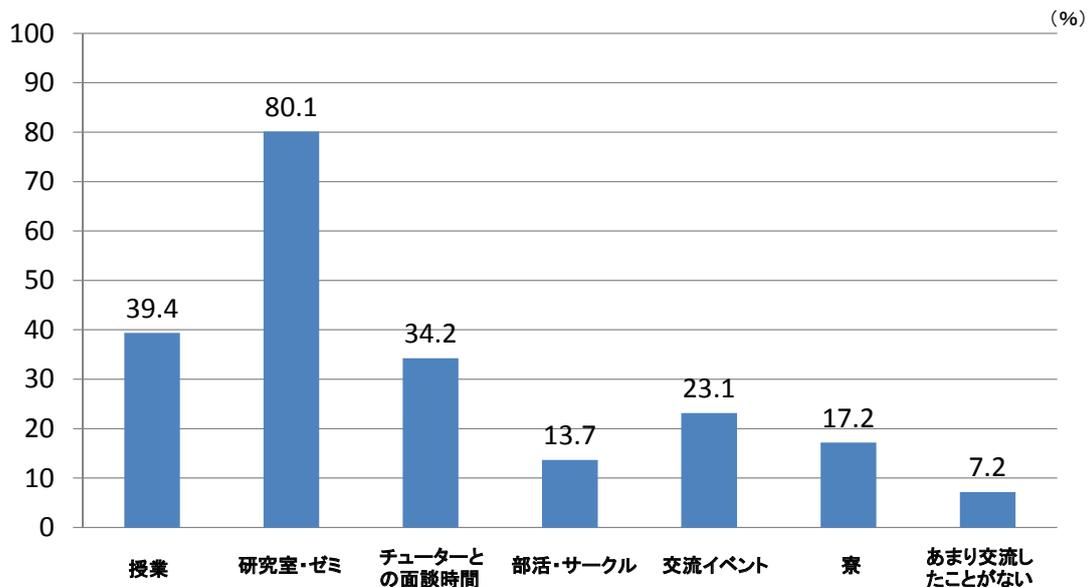
大学寮(国際交流会館、UHSなど)



6

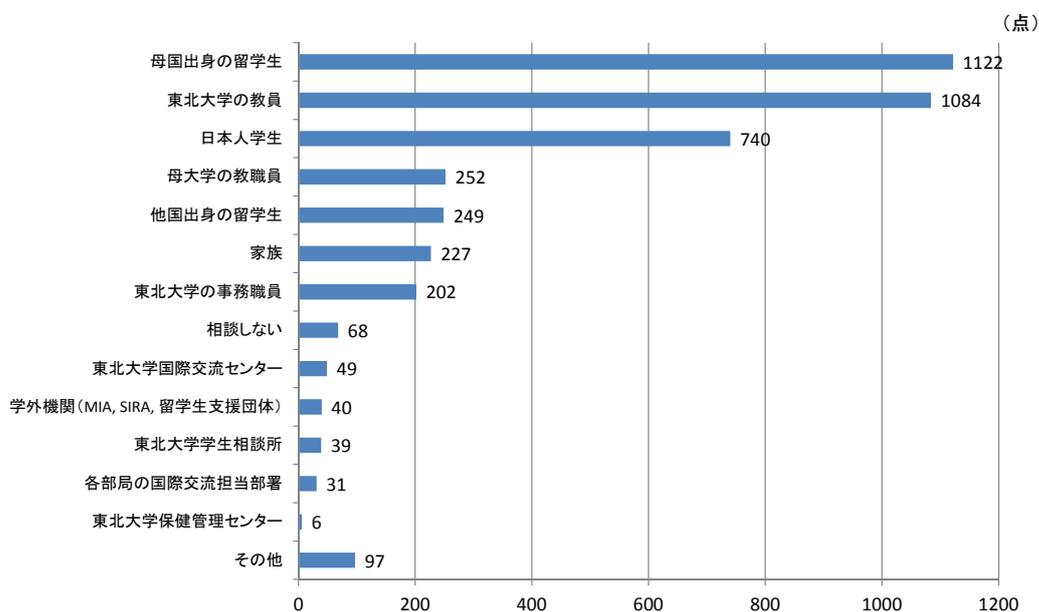
留学生からの評価（その3. 学生生活）

あなたは、これまで東北大学の中で、どのような時に日本人学生と交流しましたか？（複数回答可）



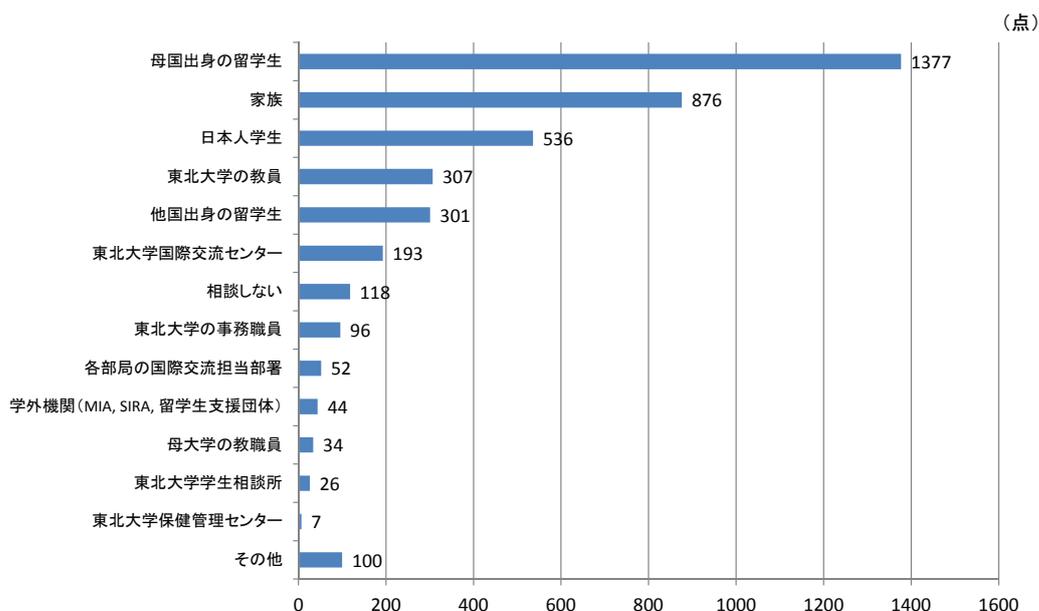
7

あなたは、学業や生活などの問題で悩みや心配事が生じたら、どのような相手に相談しますか。以下の選択肢より3つ選び、1位から3位まで順位を付けてください。(学業について)



8

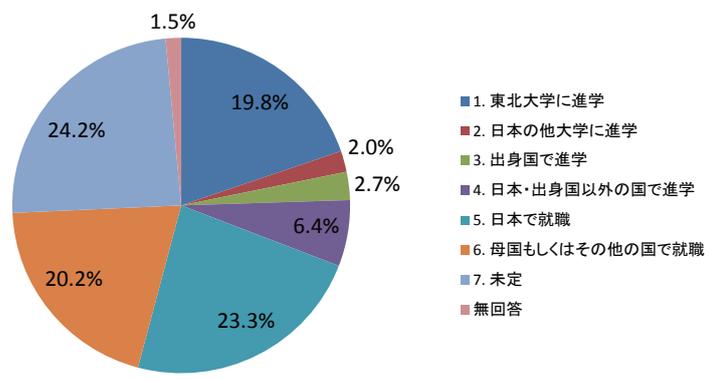
あなたは、学業や生活などの問題で悩みや心配事が生じたら、どのような相手に相談しますか。以下の選択肢より3つ選び、1位から3位まで順位を付けてください。(生活について)



9

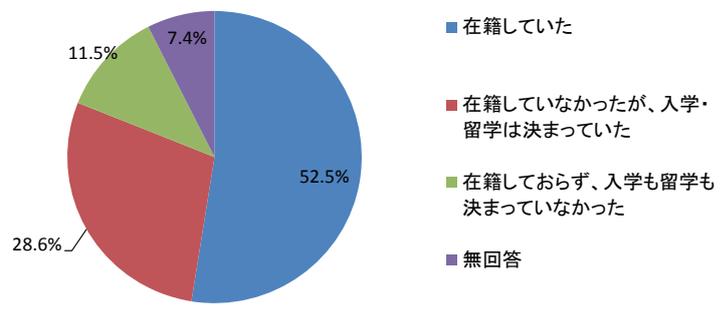
留学生からの評価（その4. キャリアプラン）

現在、在籍している課程(交換留学生は母国での課程)を卒業・修了した後の進路についてお聞きします。以下のうち、最も可能性の高いもの一つを選び、その理由を書いてください。



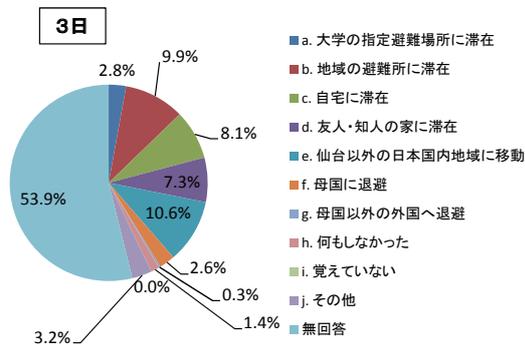
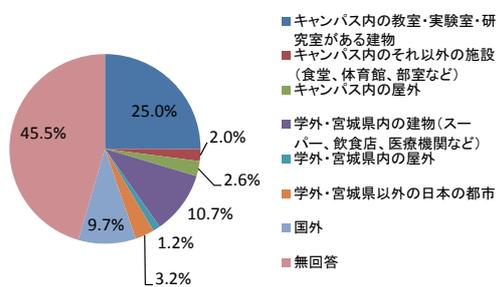
留学生からの評価（その5. 東日本大震災の留学への影響）

あなたは東日本大震災の時、東北大学に在籍していましたか？

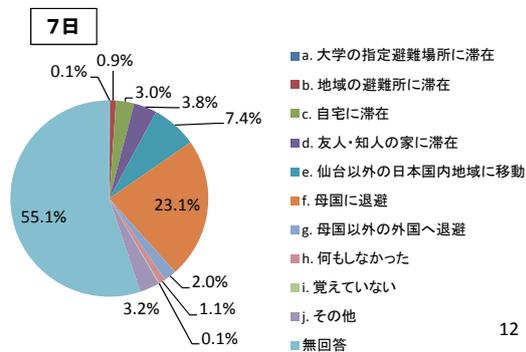
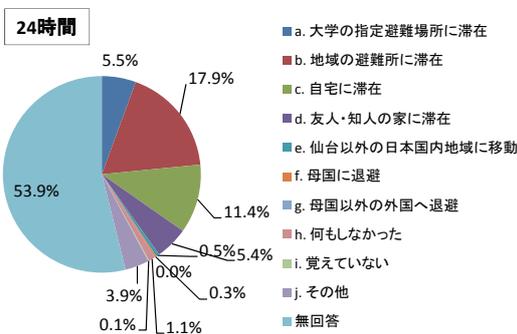


(東日本大震災の時東北大学に在籍している回答者対象)

地震発生時はどこにいましたか？



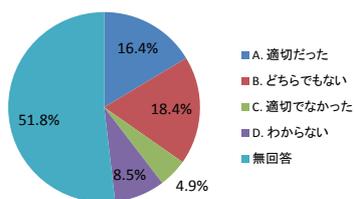
地震発生から「24時間」「3日」「7日」の期間にあなたがとった主な行動を、次の選択肢から1つずつ選び、それぞれ回答してください。



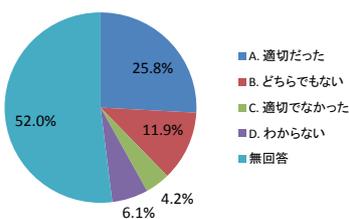
12

あなたは東北大学の震災への対応をどのように感じていますか。

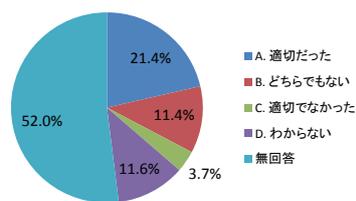
1. 震災前の地震に関する情報提供



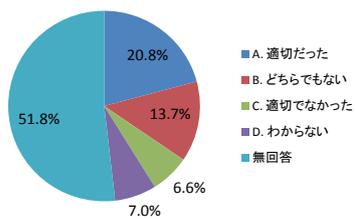
3. 震災直後の教職員による指示・案内



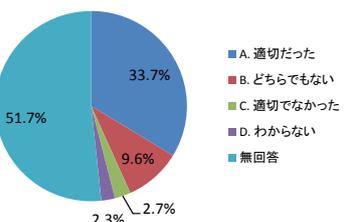
教務係など事務窓口の対応



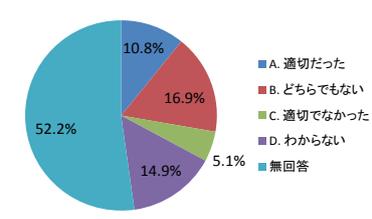
2. 学内の防災訓練



4. 震災後の安否確認連絡



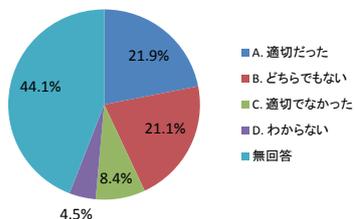
大学寮(国際交流会館、UHSなど)



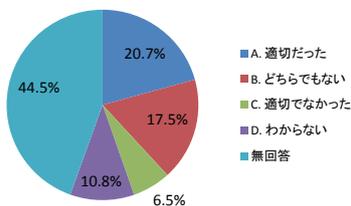
13

あなたは東北大学の震災への対応をどのように感じていますか。

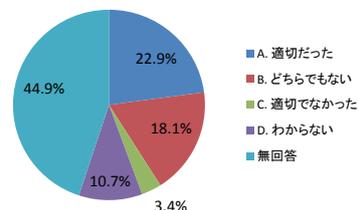
7. 震災後の地震・原発事故に関する情報提供



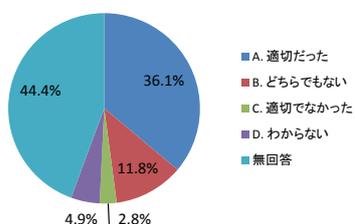
9. 経済支援に関する情報提供



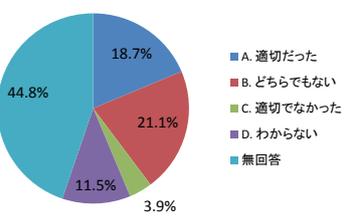
11. 被災地の復興支援への取組



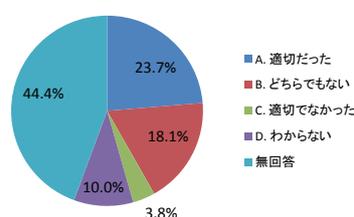
8. 震災後の大学再開に関する情報提供



10. ボランティア活動等に関する情報提供



12. 東北大学の復旧に関する国内外への情報発信



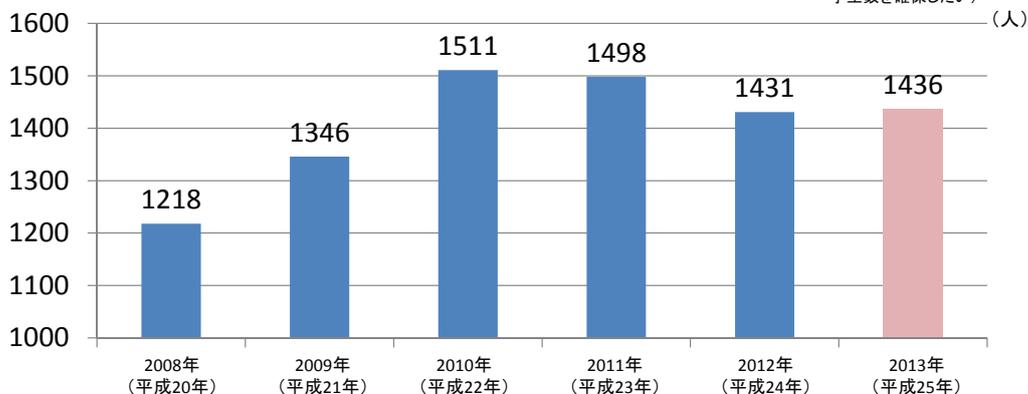
14

③留学生の受入

- 留学生の受入は、平成20年度以降10%以上の順調な増加を示していたが、東日本大震災及び福島原発事故の影響により、震災以降減少傾向
このため、東北大学は地震被害の復旧に努め、現在は震災前と変わらない教育・研究環境を確保していること、原発事故による放射能の影響は無いことを広報
- 当初計画の2020年倍増の実現を目指す、当面、2010年の回復を目指す。

留学生数

(目標: 先ず、2010年留学生数を確保したい)



注) 留学生は、在留資格「留学」のみで計上(各年5月1日現在)

15

④海外大学との連携プログラムの新たな実施

○ G30スタート後、学生の国際交流の活性化を目指し、特に交流協定締結校との連携による学生交流事業を新たに実施
「主な交流協定校との連携プログラム」

プログラム	概要	受入実績	派遣実績
Cooperative Laboratory Study Program 【受入】(2009～) 【派遣】(2012～)	自然科学系大学院生が10日間又は1年間交換留学し、単位互換できるプログラム	88人	45人
Industrialised Countries Instrument Education Cooperation Program 【受入】(2009～2011) 【派遣】(2009～2011)	東北大学、京都大学、大阪大学と欧州側コンソーシアム(オランダ1、ドイツ2、スウェーデン1大学)の間で、自然科学系大学院生が6月程度留学し、単位互換できるプログラム	7人	11人
東北大学交換留学プログラム 【派遣】	学部及び大学院学生を半年又は1年間派遣するプログラム		226人
Study Abroad Program カリフォルニア大学・サンディエゴ校【派遣】(2009・2010) ・リバーサイド校【派遣】(2010～) ハワイ大学マノア校【派遣】(2013～) ほか多数のプログラムを実施	春期休業と夏季休業の期間中、カリフォルニア大学等に3～5週間、英語能力を高めるために派遣するプログラム		545人
Junior Year Program in English 【受入】	協定校の教育、理学、工学、農学の学部学生を1学期又は1年間受入れるプログラム	294人	
Direct Enrollment Education Program 【受入】	協定校の学部・大学院学生を1学期又は1年間受入れるプログラム。研究室に配属	272人	
Tohoku University International Program in Liberal Arts【受入】(2010～)	文科系の学部学生、大学院学生を1年間受入れ、単位を認定するプログラム	85人	

※ ()は、G30以降の新規

16

「主な交流協定校との連携プログラム」

プログラム	概要	受入実績	派遣実績
Tohoku University Science Summer Program【受入】2007～	理工系学部学生を2週間程度受入れるサマープログラム	60人	
Tohoku University Arts and Letters Summer Program【受入】(2011～2013)	文化系学部学生を2週間程度受入れるサマープログラム	37人	
Tohoku University Engineering Summer Program【受入】(2010～)	工学系修士課程学生を2週間程度受入れるサマープログラム	81人	
Tohoku University Japanese Program【受入】(2013～)	日本語・日本文化に興味ある学部学生を2週間程度受入れるサマープログラム	23人	

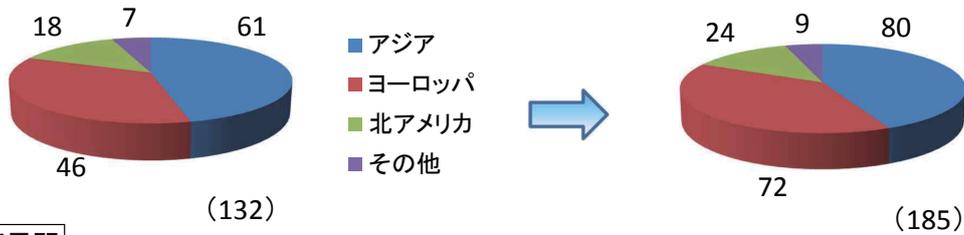
※ ()は、G30以降の新規

17

⑤大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

a. 協定校の締結数

大学間



部局間



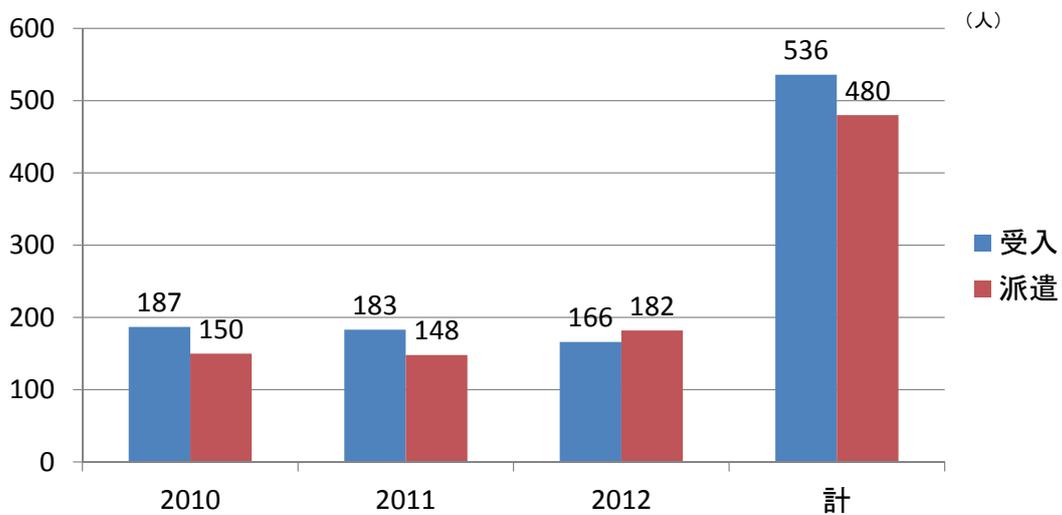
2008

2012

18

b. 協定等に基づく学生の受入・派遣

- 交流協定締結校の拡大に伴い、新たな学生交流プログラムによる学生交流が活発化
 交流協定締結校は、2008年以降、大学間協定40校、部局間協定46校計86校増加
 特に、COLABS(理系短プロ)による相互交流、IPLA(文系短プロ)の短期受入プログラム、SAP(カリフォルニア大学、シドニー大学での英語研修)等のショートプログラムが活発化

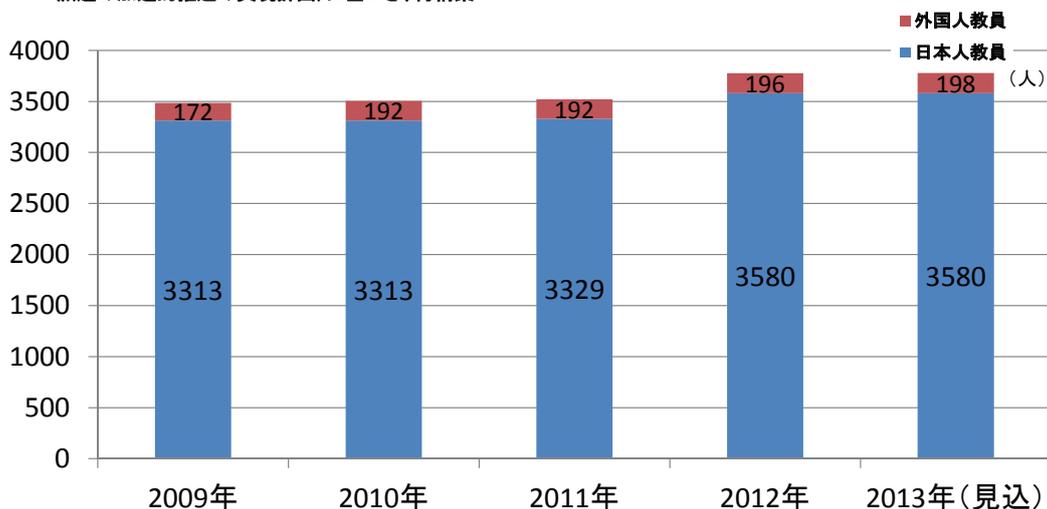


19

⑥教育体制の充実

a. 外国人教員の雇用

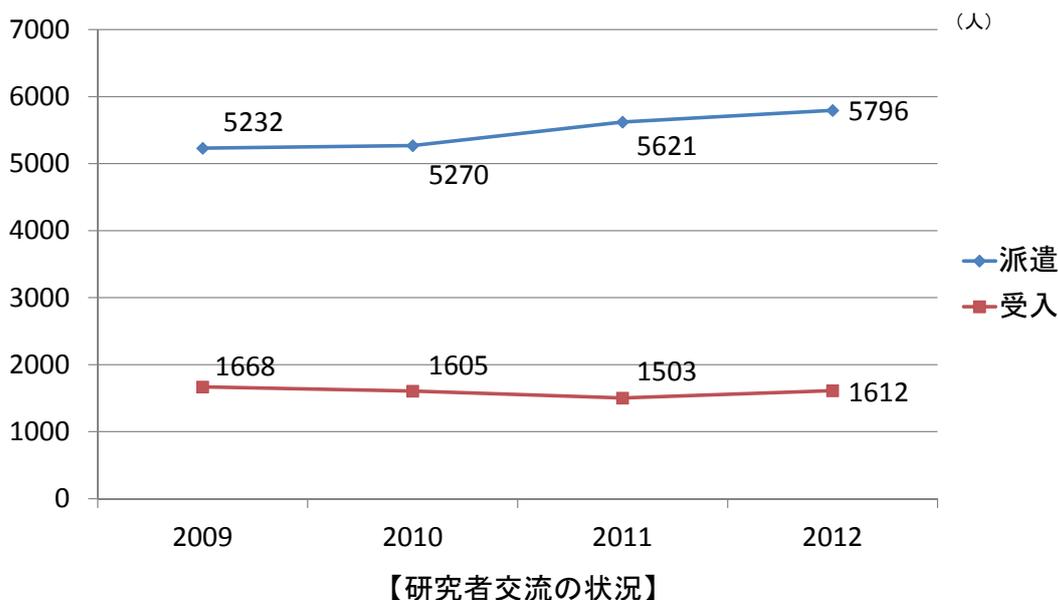
- 英語による学位取得コースの拡大、世界的な競争環境の中での研究展開等々により、常勤外国人教員の雇用は拡大。日本人教員も、特に近年は、英語論文の作成、英語発表が常態化しつつあり、海外での研究も、若手段階で実績を積み込むことが常態化
- G30プログラムにより採択した英語教育のための外国人教員については、教育国際化の継続方針(国際的に通用する人材の育成方針に基づく英語コースの継続)と新たな展開(グローバル人材育成推進事業への採択による学生の海外派遣の加速的推進の実現計画)に基づき、再構築



20

b. 日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

- 研究中心大学として、高度かつ先端的研究を世界的レベルで実践しており、海外での学会、研究活動は活発。同時に、海外研究者の滞在研究、訪問研究も活発



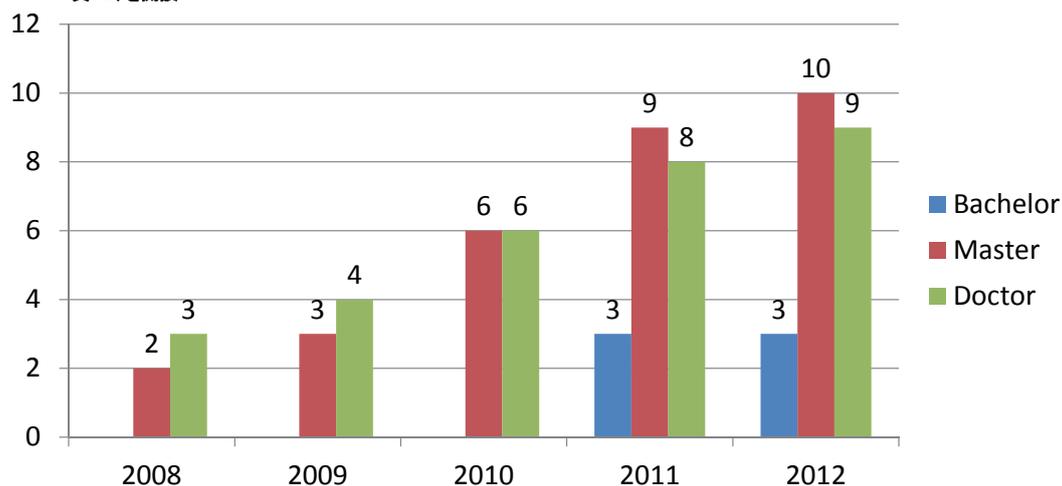
21

2. 取組状況

①英語による授業のみで学位が取得できるコース

a. 英語コースの開設

- ・大学院においては、G30開始前の2001年に1コース、2004年に1コース、2005年に1コースを開設済
- ・学士課程(国際学士コース)については、2011年10月から理学部、工学部、農学部においてコースを開設
- ・大学院については、2009年10月に1コース(修士・博士コース)、2010年10月に3コース(修士1コース、修士・博士2コース)2011年4月に2コース(修士1コース、修士・博士1コース)、2011年10月に2コース(修士1コース、博士1コース)、2012年10月に2コース(修士1コース、博士1コース)を開設。合わせて13コース(修士定員 88、博士定員75)を開設



22

b. 学生確保の状況

(人)

コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	入学者数	在籍者数
Advanced Molecular Chemistry	理学部	2011/10	B	10	5	16
International Mechanical and Aerospace Engineering	工学部	2011/10	B	10	8	26
Applied Marine Biology	農学部	2011/10	B	10	4	14
International Doctoral Program in Engineering, Information Sciences and Environmental Studies	工学・情報・環境	2001	D	25	5	30
International Graduate Program for Advanced Science	理学研究科	2004	M	20	20	30
			D	20	13	35
International Post-Graduate Program in Human Security	医・農・国文・環境	2005	M	8	9	13
			D	3	1	5
International Program for Environmental Sustainability Science	環境科学研究科	2009/10	M	7	2	2
			D	5	0	4
International Mechanical and Aerospace Engineering Course-Graduate	工学研究科	2010/10	M	5	7	14
			D	5	9	15
International Materials Science and Engineering	工学研究科	2010/10	M	10	2	4
International Program in Economics and Management	経済学研究科	2010/10	M	8	8	18
			D	4	5	15

23

b. 学生確保の状況

							(人)
コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	入学者数	在籍者数	
Information Technology and Science Course	情報科学研究科	2011/04	M	15	9	12	
International Course of Life Sciences	生命科学研究所	2011/04	M	5	4	8	
			D	3	5	19	
Interface Oral Health Science Course	歯学研究科	2011/10	D	5	5	6	
International Graduate Program in Language Sciences	国際文化研究科	2011/10	M	5	4	6	
Basic Medicine Course	医学系研究科	2012/10	M	5	2	2	
Network Medicine Course	医学系研究科	2012/10	D	5	2	2	

* 入学者数：2013年度入学者
在籍者数：2013.10.01現在

24

c. 質の高い教育の提供と教育の質の向上

○質の高い教育を提供するため、次のような方法を導入

- ・ 国際学士コース学生のカリキュラムは、全学教育部分と専門教育部分で構成するが、作成に当たっては、G30実施委員会の下に全学教育担当と学部教育担当の合同委員会を置き、合同委員会で精査し、最終的には、全学の学務審議会の中のG30全学教育委員会を経て決定
- ・ 学生の成績評価は、全学的な評価基準を学務審議会で定め、教員及び学生に明示

○教育の質の向上のため、次のような事項を実施

- ・ G30により採用した外国人教員は国際教育院に配置し、毎週1回、相互の教育情報提供、教育方法改善の協議ができるよう、G30実施委員会幹部を交えたミーティングを実施

○外国人教員による日本人教員の授業スキルの向上

- ・ 教員FDは、東北大学高等教育開発推進センターの大学教育支援センターが中心となって、「英語で授業を」「実践的英語力養成セミナー」「新任教員英語集中海外派遣」等を実施

25

②留学生受入のための環境整備

a. 留学生に対する支援(修学、生活、経済、就職等)

「修学関係」

- ・ 国際学士コース留学生については、1年次の段階から、指導教員制による修学支援を実施
- ・ 修学支援、教育支援が必要な場合は、TA、RAを配置
- ・ SLA(スチューデント ラーニング アドバイザー)システムを設け、常に教育相談できる体制の整備

「生活・経済関係」

- ・ 特に初期の段階で安心して学べる環境を確保するため、ユニバーシティハウス(混住寮)への入居を配慮
- ・ 成績優秀者には、外国人特別奨学生(総長特別奨学生)制度による奨学金(月額:授業料相当額)を給付
- ・ 一般学生と同様に授業料免除制度が活用可能

「就職」

- ・ キャリア支援室による就職情報の提供
- ・ 留学生のためのジョブフェアの実施

「その他」

- ・ 留学生と日本人学生の交流の機会を設ける。(混住寮での企画、ボランティア活動、サークル等)
- ・ 学生相談所、保健管理センターにおける英語を含む多言語での対応の実施

26

b. 日本語・日本文化の学習機会の提供

- 国際学士コースの学生は、要卒124単位中10単位は日本語・日本文化の学習が必修
- 実験科目、体育における日本人学生との共修授業の実施による日本語学習機会の提供
- 史跡見学・行事参加等による日本文化学習機会の提供
- 国際交流センターの教室をボランティアによる日本語・日本文化の学習に開放

c. 海外拠点の設置と留学生の受入促進

- 2カ国に3つの海外事務所と、7カ国に9つの海外リエゾンオフィスを持ち、学術交流の拠点、教育交流のための基地として活用。海外事務所はロシアと中国に持ち、日本語又は英語が可能な現地職員を雇用
- G30構想における重点国として、ロシア、中国、インドネシアを掲げている。
中国は復旦大学の協力により上海事務所を立ち上げ、留学生受入れの協力体制は確立。現在更に清華大学との協力を協議中
インドネシアはNGOの協力により留学生の受入れが拡大
ロシアについては、現在は高校までの教育制度の違いにより、受入れが進んでいない。これを克服する方法をロシアの高等教育機関と協議。また、近い将来12年の教育制度に変更されるのに備え、受入れのための情報を収集

27

d. 海外大学共同利用事務所

- 2010年9月に、モスクワ大学内に「ロシア海外大学共同利用事務所」を開設。英語で対応可能な現地職員を配置
これまで、日露大学間交流に関する意見交換、日露大学合同説明会、日露間の教育・研究の在り方調査、日露文系フォーラム、大学院入試面接等、様々な利用

【利用した機関】

- 2010年： 文部科学省、ロシア日本大使館、科学技術振興機構、東京大学、東京農工大学、民間企業開発部、東北大学
- 2011年： 文部科学省、日本センター、国際科学技術センター、日本学生支援機構、モスクワ大学、北海道大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、広島大学、慶應大学、明治大学、同志社大学、大阪市立大学、民間企業開発部、東北大学その他
- 2012年： 東京大学、名古屋大学、岩手大学、筑波大学、東京外国語大学、東北大学

28

③拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化

- 学術協定校の増加、トップダウンによる学術協定の締結。スタディアブロードプログラムやIPLA等の新規プログラム開発による学生交流の活発化
- 留学生と日本人学生の混住環境、共修環境の整備。キャンパスの国際化が進展
- 英語授業の共修の拡大

b. 大学間ネットワークの形成(国内大学との連携)

- グローバル30採択校、北日本エリアネットワーク(東北地区47大学)、G30パイロット・ネットワーク(筑波大学、名古屋大学、東北大学)、学都仙台コンソーシアム(宮城県17大学)等多様なネットワークの活用。国際シンポジウムの周知など

参考：今年度G30開催シンポジウム

9月「留学生と日本人がともに学ぶ場を作るーグローバル人材を育成する授業とはー」

12月「東日本大震災から学ぶ国際連携ー留学生支援ネットワークと大学の危機管理」

- 日本語のホームページの新設によるグローバル教育の取組の周知

c. 産業界との連携

- 留学生対象の就職フェアやグローバル企業見学ツアー等を実施。今後日本人学生も対象にグローバル人材のキャリア支援を産業界との連携で強化

29

d. 事務体制の国際化

- 一定の外国語スタンダード(TOEIC800点等)を満たす事務職員は、定員989人中2.6%26人
 その他に、国際交流・留学生セクション、外国人研究者を多数抱える部局等において、英語能力の高いものを有期雇用職員として採用
- 採用時に、外国人教員の協力を得て、英語の試験・面接を実施。採用後、職員語学研修として英語研修・中国語研修を実施
- グローバル教育や国際化に関する教職員研修を開催
- G30事業として学内教務関係の文書を英語化。学内で閲覧可能 → 今後学外への公表予定
- eラーニングを教職員にも開放

e. 評価の実施と改善

□中間評価結果における指摘事項等への対応状況

- 中間評価においては、これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断されるとしているが、学生の海外派遣について、新規プログラムの開発、情報提供等の対応に工夫が望まれるとの指摘を受けた。
 この点、改善に取り組み「1. 本事業の成果④海外大学との連携プログラムの新たな実施」に示したとおり、学生の海外派遣数は増加

□外部有識者等による評価の実施と改善

- 国際研究大学として「世界リーディング・ユニバーシティ」を実現するため、財政、教育、研究、社会貢献等の全般について、欧州大学協会(EUA)の機関別評価プログラムを受審(2009～2010)
- G30プログラム外部評価を実施(2010)。指摘事項は、①ホームページへのアクセスの改善 ②日本人留学生の海外派遣の増加③コンピュータ室の老朽対策

いずれも、関係部署との連携により改善したが、更なる改善は必要

30

3. 経費の使用状況

①予算額の推移と使用実績

【2009～2012の補助金(事業推進費、人件費、旅費、施設・備品費)と大学負担額】

(千円)

	補助費					総長裁量	合計	備考
	設備・備品費	旅費	人件費	事業推進費	計	大学負担額		
H21年度	9,066	95,878	69,896	106,260	281,100	131,399	412,400	
H22年度	0	60,800	132,318	30,172	223,290	141,220	364,510	
H23年度	0	61,175	157,243	33,482	251,900	171,895	423,795	
H24年度	0	52,340	167,314	37,753	257,407	150,473	407,880	

②内部監査等の実施

- 毎年度実施される公認会計士監査及び監事監査において、全学的な監査状況を踏まえ、必要によって留学生課グローバル30実地監査が実施される仕組み

31

4. 今後の取組施策と事業終了後の見通し

○東北大学における教育の国際化

グローバル教育を推進するための組織改革

- ・グローバル社会で指導的役割を果たすための基礎力を修得させる「グローバル・リーダー育成プログラム」の策定・実施、日常的にグローバルな環境で生活・学習・研究できるよう「グローバル・キャンパス」の実現のため、平成24年度に「グローバル・ラーニング・センター」を設立し、グローバル人材育成の一層の教育環境整備を推進している。
- ・教養教育の高度化、教育内容・カリキュラム編成など教育活動の全面にわたって、大学全体の教育資源を活用した教育改革を推進するため、教育改革推進本部(仮称)及び高度教養教育・学生支援機構(仮称)の設置(平成26年年度)を進めている。

グローバルな修学環境の整備

- ・外国人留学生の増加を目指し、本事業の実績を基に重点的な地域・分野・プログラム等を内容とする外国人留学生受入戦略を策定し、外国人留学生の教育プログラムの充実と様々な支援等を行い、平成32年度末で3,000人の外国人留学生を受け入れることを目標とする。
- ・学術交流協定の拡充や海外ブランチの活用により、日本人学生の短期派遣・交換留学を促進する。特にスタディ・アブロード・プログラムを始めとする短期派遣留学の促進体制を整備し、平成26年度以降も順次進めて行く。
- ・異文化の理解と実践的なコミュニケーション能力を養成するため、国際共修科目の開発・実施を進める。英語による授業数を428クラス(平成24年度現在)から平成29年度を目処に650クラスに拡充することを目標とする。

32

IMAGINE
THE
FUTURE.



グローバル30総括シンポジウム

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

筑波大学



2010年8月G30学士課程初の入学者
2014年現在4年次在籍



2012年11月日本留学説明会の開催
アルジェリア国オラン科学技術大学



2013年10月第3回日本-北アフリカ学長会議
モロッコ王国ラバト市モハメッドV世大学
海外大学共同利用チュニス事務所

IMAGINE
THE
FUTURE.

国際化拠点整備事業の歩み

University of Tsukuba

1973.10 筑波大学建学：「開かれた大学」を謳う新構想大学

2009.7 「国際化拠点整備事業」（グローバル30採択）：「国際性の日常化」をテーマに

	ロケットスタート型基盤整備 学内の国際化・学生支援	海外大学共同利用 事務所活動
2010	英語コースの拡充 【12コース】 修士課程10コース、博士課程2コース 新設G30英語コース（学士・大学院）早期開設準備 10月 学生募集要項Web公開 11月期&2月期 オンライン入試 3月 合格者発表 【22コース】学士課程2コース 修士課程15コース、博士課程5コース 8月 G30学士課程1期生入学式	7月 在チュニジア日本大使館にて記者発表 11月 海外大学共同利用チュニス事務所開所 2-3月 日本留学説明会初開催 (チュニジア、アルジェリア、モロッコ) 3月 国内セミナー 5月 第1回日本・北アフリカ学長会議 (JaNAUS)
2011	大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 構想見直し 3月 学生宿舎での震災対応説明会 留学生センターでの学生相談 大学間ネットワーク活動 7月～ 関東甲信越大学間コンソーシアム 8月～ パイロットネットワーク (筑波大、東北大、名古屋大)	東日本大震災「アラブの春」 3月 Webページによる震災対応情報の発信 2月 第2回JaNAUS 「震災」「アラブの春」後の社会再構築における大学の役割を議論 10月 第3回JaNAUS 「Mobility & Networking」を議論
2012	【26コース】学士課程3コース 修士課程17コース、博士課程6コース 【30コース】学士課程3コース 修士課程21コース 博士課程6コース	12月～ 日本・アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN) アフリカとの学術交流における日本の大学のリソースを共有
2013		
2014	3月 G30学士課程初の卒業生 (早期卒業)	



自走するポストG30体制へ

1. 本事業の成果	
① 特筆すべき成果と波及効果	4
② 英語コースの学生からの評価	5
③ 外国人留学生の受入	9
④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施	10
⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大	12
⑥ 教育体制の充実	14
2. 取組状況	
① 英語による授業のみで学位が取得できるコース	16
② 留学生受入のための環境整備	22
③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成	30
3. 経費の使用状況	33
4. 今後の課題と事業終了後の見通し	34

【筑波大学の国際化拠点整備事業】

- 建学の理念である「開かれた大学」を実現するために、あらゆる面でグローバル化に向けた改革を遂行している。
- グローバル30事業では「国際性の日常化」をさらに推進し、留学生に魅力的な国際水準の教育等を提供し、留学生と切磋琢磨する環境の中でグローバルに活躍できる高度な人材を育成する。

●英語による授業のみで学位を取得できるコースの設置 2008年度比3.8倍に増加

5年間に新設した英語コース; 学士3、修士14、博士5
2008年度において既設; 修士7、博士1 ⇒ 現在30コースを開講

→外国人留学生数の増加 2008年度比2.2倍に増加

2008年度1,337人、2013年度3,000人(うちG30留学生数; 学士135人、修士180人、博士92人⇒計407人)

→海外派遣学生数の増加 2008年度比2.4倍に増加 2008年度221人、2013年度530人

→外国人教員数(非常勤講師を含む)の増加 2008年度比2.1倍に増加 2008年度86人、2013年度180人

※2013年度は見込み数

●日本の大学の認知度の向上; 海外大学共同利用チュニス事務所

マグレブ3か国(チュニジア、アルジェリア、モロッコ)の高等教育省と国際交流に関する包括協定を締結
3回の日本-北アフリカ学長会議、13回の日本留学説明会、3回の日本-アフリカ大学連携ネットワーク会議

→ガバナンス体制の改革

学長による国際化推進委員会、副学長による7種類の業務別小委員会で構成する推進体制
⇒2013年度「国際性の日常化」を具現化するグローバル・コモンズ機構の設立
⇒グローバル30事業の自走化及び更なるグローバル化の推進

アンケート調査 2012年9月

対象 G30留学生(回答者数/全数)

- ・ 学士課程 (46人/82人)
- ・ 大学院課程 (112人/266人)
- ・ 全体 (158人/348人、回答率45.4%)

質問項目

- ・ G30プログラムをどこで知ったか
- ・ 筑波大学を志望した理由
- ・ 筑波大学以外に出願したか
- ・ 出願において困難だった点
- ・ 教育の質・内容
- ・ 教員の英語力
- ・ 教員の指導力・専門知識
- ・ 日本語指導の満足度
- ・ 大学生生活の満足度
- ・ 支援室からのサポート
- ・ 職員の英語力
- ・ チュータの対応
- ・ 住環境の満足度
- ・ 学生食堂のメニュー
- ・ 卒業・終了後の進路指導・就職指導
- ・ 日本留学の印象
- ・ 後輩への推薦の意志
- ・ 自由記述

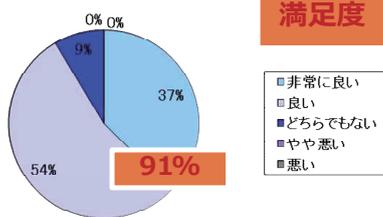
筑波大学の良い点

- ・ キャンパス環境及びつくば市全体の都市環境
- ・ アカデミックな教育システム及び英語プログラム
- ・ 教員評価や支援室によるサポート体制
- ・ まとまった不満の意見はないように思われる

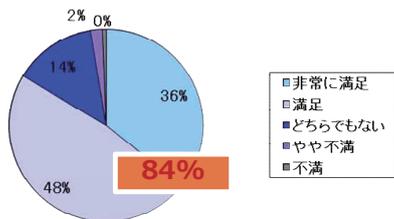
不満な点

- ・ 学生宿舎の質に関する不満の割合が高い
- ・ 日本語によるコミュニケーションやドキュメントの提出が必要な場面はまだ多い
- ・ 英語による情報提供の拡大を求める声が多くある

1. 日本留学への全体的な印象？



2. 教育の内容・質に満足している？



ウガンダ Aさん

社会国際学教育プログラム2010年8月入学、3年次

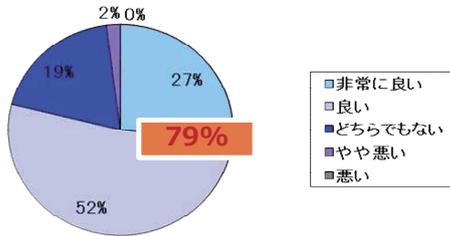
Global30プログラムの全留学生にすばらしい機会を与えてくださった大学に感謝いたします。まず感動したことは先生方がそれぞれ担当の分野に経験豊かな専門知識を持っておられることです。このすばらしい教授陣の確保にご尽力してくださっている大学に対し何よりありがたく思っています。G30の科目は国際的・学際的で、政治や経済、法学、社会学、生物学、語学など様々な広範囲の専門知識を私たちに与えてくれ、とても魅力的です。そして、学群から継続的で親切なサポートを受けていることも感謝しています。

貧困や健康、人権、人間の安全保障、紛争など地球規模の課題のギャップを根絶・縮小するため国際的に活躍するキャリアをめざし、一生懸命勉強して優秀な成績で国際社会科学士を取得したいと思っています。その後また奨学金を頂くことができれば、政策原則をさらに理解するため公共政策や公衆衛生の修士課程に進みたいと考えています。公共政策は、グローバルな課題に取り組む際の堅実な手段の一つであると信じています。

卒業後は母国のウガンダに戻り、またコミュニティワーカーやソーシャルワーカーとして働きたいと思っています。しかし今度は確実な知識と技能を持ったプロのソーシャルワーカーとして働くつもりです。理論に精通していれば、責務を果たすに当たって理論的構成概念を実践に移すことができるようになると思います。

2010年11月

3. 教員の英語力は十分?



インド Bさん

生命環境科学研究科 大学院博士後期課程 1年次

筑波大学はとてもよく組織化されており、教育研究面からみて、学生をサポートするプログラムも素晴らしい。しかし奨学金の数が限られており、しかも奨学金志望者の数は多い。経済的に不安定です。奨学金を増大させて欲しい。

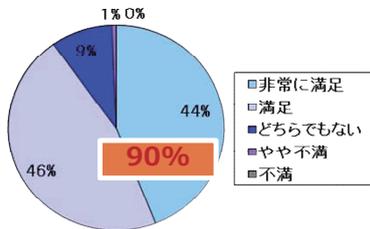
また、大学院での研究を成功させるためには、G30プログラムにおける研究費の充実も望まれます。

筑波大学における教育研究面に、私はとても満足しています。筑波大学で私たちに提供されている研究設備は、ほかに比べてとてもとても充実しているし、私は筑波大学での学修をとて強く勧めたいと思っています。

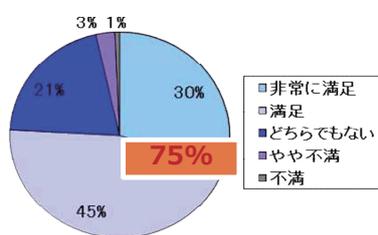
2012年9月

4. 各種サポートは十分?

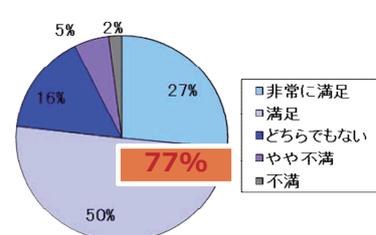
① 支援室からのサポートは十分?



② 学習や生活支援のためのチューターの対応は十分?



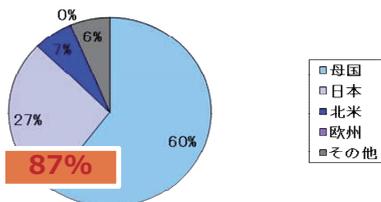
③ 住まいの環境に満足していますか?



©2010 University of Tsukuba

7

5. どの国・地域に就職したい?

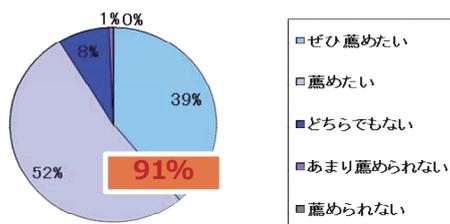


学生からの意見 (良い点)

- 学習環境はすばらしく良い。教員も魅力的で、専門知識に優れている。学生のための教育研究施設も充実している。
- アドミニストレーション及び英語プログラムは充実している。よりチャレンジングな内容を望むという意見もある。
- 博士後期課程の学生から、研究一筋でアカデミック授業を受講する機会が欲しいという意見があった。

(補足説明:博士課程には原則として授業はないが、修士課程及び学士課程の授業を受講することは可能である)

6. 母国の学生に筑波大学を薦めたい?



学生からの意見 (今後の改善点)

- 日本人教員の中には、英語力の向上及び英語による授業を改善してほしい点がある。
- 奨学金の数と内容の充実を求める声が多。奨学金や進路など、日本語による表示や掲示が多く、情報が伝わらない。
- ビザの取得、住まい、日常生活のきめ細かなサポートを充実させて欲しい。
- リニューアルされた宿舎に比べて、古くて不備な宿舎がある。
- 日本人学生との交流の機会を増やして欲しい。

©2010 University of Tsukuba

8

- 計画時(2008年5月現在)の留学生は1,337人(在留資格「留学」のみ)*1
- 2014年3月末に3,000人にのぼる見込み(2008年比2.2倍)
- 現在、G30英語コースに在籍する留学生は407人

*1 2008年度以前は在留資格が「留学」のみをカウントしていた。G30以降、在留資格が「留学」以外でも学修目的の留学生を含めてカウントすることとしている。



注1) 2008~2012年度は実績、2013年度は見込み数

注2) 実績の計上方法は、当該年度の在籍数である。

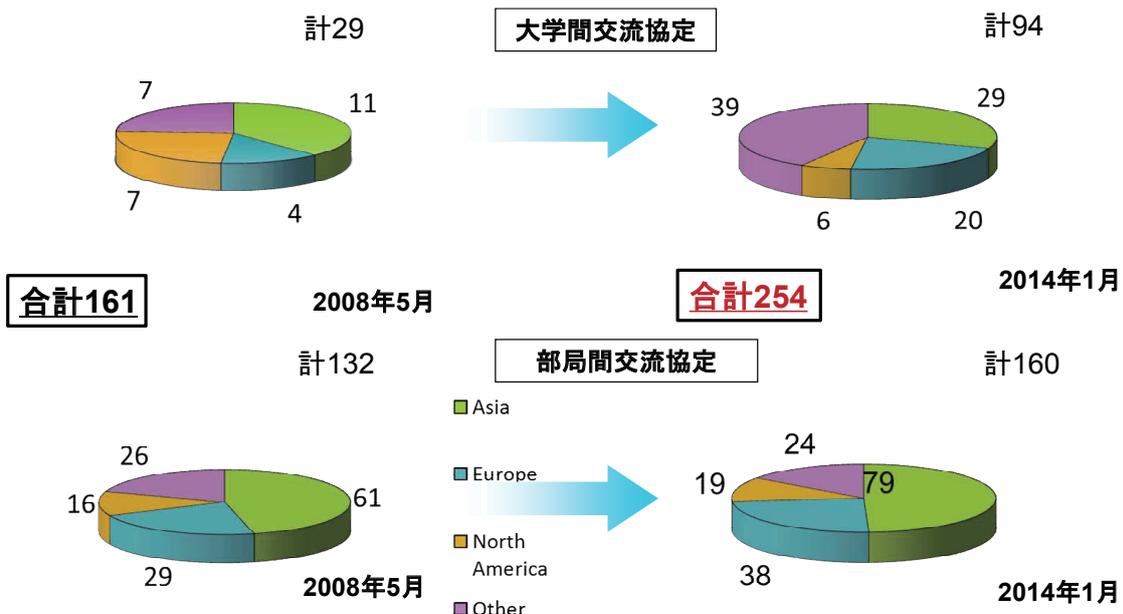
- ① **外国語センター**：学生の語学運用能力を高めるため、ドイツ語、中国語、ロシア語について協定校との間で語学研修に関する協定を締結し、平成20年度はパイロイト大学8名、湖南大学6名、サンクトペテルブルグ大学5名、平成22年度はパイロイト大学13名、湖南大学3名の派遣実績がある。
- ② **人文・文化学群日本語・日本文化学類**：授業科目「日本語・日本文化国際実地研修」として、毎年10名前後を協定校であるカタニア大学(イタリア)、リュブリャナ大学(スロベニア)、静宜大学(台湾)、ボアジチ大学(トルコ)、リヨン第3大学(フランス)に派遣し、現地教員の指導のもとに日本語教育の実習とインターンシップを実施している。平成23年度以降、ホーチミン・シティ師範大学、ハノイ国家大学外国語大学(ベトナム)においても日本語実習を実施している。
- ③ **社会・国際学群国際総合学類**：科学技術衛星「きずな」を活用して、タイ国アジア工科大学・チュラロンコン大学、マレーシア国マルチメディア大学との間で、共通授業「国際学特別講義」「パターン認識及び逆問題」「基礎日本漢字」「アジア市民社会」「アジアにおけるメディア技術とインターネット」を実施している。
- ④ **生命環境学群生物資源学類**：インターンシップ科目として「国際農業研修」を開設し、毎年15名程度の学生をカセサート大学(タイ)など協定校に派遣し、実習・調査を通して当該国の農業の特色や地域性を学ぶ機会を設けている。平成22年度は、カセサート大学(タイ)20名、ポルドー大学(フランス)10名の派遣実績がある。
- ⑤ **アラビア語短期講習**：チュニジア政府の奨学金プログラムによりチュニス・アル・マナール大学ブルギバ現代言語研究所に毎年4-7名の学生をアラビア語集中講座に派遣する。また、平成23年度から外国語センターに初級アラビア語を開講している。これに加え、平成25年度はヨルダン科学技術大学へもアラビア語研修および環境・農業分野における現地サイト見学プログラムを実施し、2名の学生を派遣した。
- ⑥ **情報学群情報科学類・情報メディア創成学類**：平成21年4月から、先端ITベンチャー企業(株式会社アクセル及び株式会社ネットディメンション)との連携によるIT技術者養成プログラム「組み込み技術キャンパスOJT」を開設し、日本人学生および留学生が参加している。
- ⑦ **人文・文化学群日本語・日本文化学類**：学士課程から博士課程まで一貫した教育プログラム「人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム：TRANS」の一環として、リュブリャナ大学(スロベニア)・モスクワ市立教育大学(ロシア)・ボン大学(ドイツ)・ヴェネツィア大学(イタリア)との協働教育により、世界における日本文化・社会の特色を発信し、交流するスキルを鍛え、国際交渉力の基礎を確立する学位プログラム「日本語・日本文化コミュニケーション養成プログラム」を平成23年度より実施している。
- ⑧ **社会・国際学群国際総合学類**：平成25年度、アル=アハワイン大学(モロッコ)の教員2名を招へいし、集中授業「中東・北アフリカ国際関係論」「中東・北アフリカ経済開発論」を実施した。同大学へ本学の教員2名を派遣し、集中授業を行う予定である。

④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施
〔大学院レベル〕

- ① 数理工学物質科学研究科物理学専攻：「宇宙史一貫教育プログラム」において米国フェルミ研究所、欧州原子核研究機構に拠点・分室を設置し、学生を派遣して世界の最先端の研究に触れさせている。
- ② システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻：専攻内専修プログラムにおいて、経団連を窓口とした産業界の協力を得て企業から本学に講師を派遣している。また、平成22年度からは、経団連高度情報通信部会を発展させたCeFIL(高度情報通信人材育成支援センター)の支援を受けて、学内資金によりさらに発展させている。
- ③ 生命環境科学研究科日中フォーラム；隔年で学生及び教員を派遣：それぞれ修士及び博士課程学生が相手校への訪問や相手国でのフィールド調査を、学生の研究課題として行っている。バイオシステム学コースでは過去5年平均10名/年、生命産業科学専攻では5名/年の学生の短期研究派遣（1週間から1ヶ月）を行っている。
- ④ 生命環境科学研究科環境科学専攻：インターンシップの一環としてポゴール農科大学(インドネシア)に学生5名程度を派遣し、国立公園の管理システムや劣化した植生の修復活動などの視察等を行った。また、中国雲南省雲南大学に3名程度学生を派遣し、環境破壊地域の実態調査や、生物種多様性の変化の現地調査を行っている。
- ⑤ 生命環境科学研究科情報生物学専攻及び構造生物学専攻：(財)ユネスコ・アジア文化センター・ユネスコ青年交流信託基金事業によるプログラム「アジア太平洋地域の生物系大学院生ネットワーク活動を基盤とするチャオブラヤ・デルタ・メコン・デルタ生態系の総合的研究」と「持続可能な地下水資源管理を目指して：モンゴルにおけるUNESCO Chairを通じて」により、学生12名をタイ、ベトナムに派遣した。
- ⑥ 生命環境科学研究科生物資源科学専攻：「国際農学ESDインターンシップ」を設け、上限4名の院生をタイ国ユネスコ事務所に派遣し、同事務所でのインターンシップと課題発表を経験させると同時に日本で開催の国際シンポジウム「ESDシンポジウム」の運営に参加させてきた。
- ⑦ 人間総合科学研究科医学系専攻：平成20年度から3年間の大学院教育改革支援プログラム「個性とキャリアを繋ぐ医学教育ルネサンス」により、平成20年度は17名の大学院学生がホーチミン市の大学及び同市のチョー・ライ病院を訪れ、研究に従事した。これらの研究は帰国後のベトナム報告会において成果を報告し、審査・評価を受けることにより実質化を図っている。
- ⑧ 人文社会科学研究科：大学院生の語学研修、フィールドワーク、インターンシップ、学術会議、学生会議等の国際活動を支援し、韓国・中国・台湾・ウズベキスタン・キルギス・タイ・スロベニア・ドイツ・フランス・チェコ・オーストリア・スイス・ベルギー・ノルウェー・チュニジア・アメリカ・カナダ・ペルーの協定校及び関連大学に学生45名を派遣した。
- ⑨ ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻：平成20年度からグルノーブル経営学院（フランス）とテレビ会議システムを活用した遠隔授業を行っている。
- ⑩ 人文社会科学研究科：「人社会系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム：TRANS」の一環として、ボン大学（ドイツ）・高麗大学校（韓国）との協働による「日独韓共同修士プログラム：TEACH」、ボン大学（ドイツ）・ベルリン自由大学（ドイツ）・フランシュコンテ大学（フランス）・リュブリャナ大学（スロベニア）・高麗大学校（韓国）並びにドイツ学術交流会（DAAD）との協働による博士学位プログラム「現代日本国際比較研究履修証明プログラム：COMPAS-CJS」を平成23年度より実施している。

⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大(その1)

a. 協定の締結数

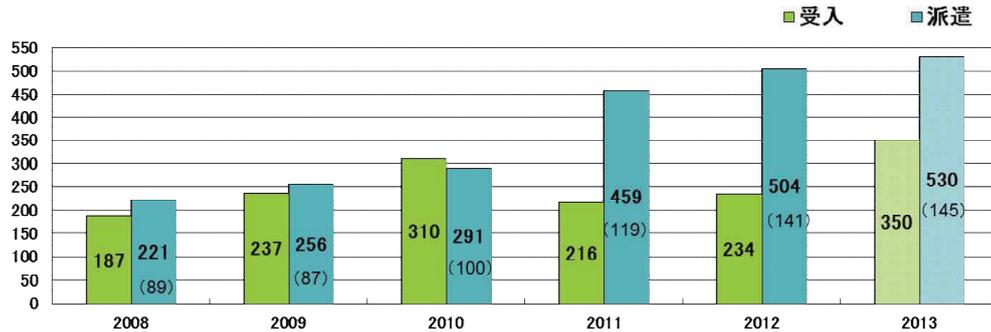


⑤大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大(その2)

b. 協定等に基づく学生の受入・派遣

- 計画時(2008年度)の大学間交流協定数は29、部局間交流協定数は132、合計で161
- 2013年度で大学間交流協定数は94、部局間交流協定数は160、**合計で254 (1.6倍)**
- 2013年度の学生の交流は計画時に比べて、受入が187人→ **350人(1.9倍)**、派遣が221人(うち協定等に基づく派遣89人) → **530人(2.4倍)** (うち協定等に基づく派遣145人)
- 2011年度の受入数激減は福島原発事故の影響と思われる。

*なお、計画時の目標は2013年度末で、受け入れが350人、派遣が500人



注1) 2008～2012年度は実績、2013年度は見込み数

注2) 実績の計上方法は、当該年度の在籍数である。

注3) ()内は協定等に基づく派遣を内数で示す。

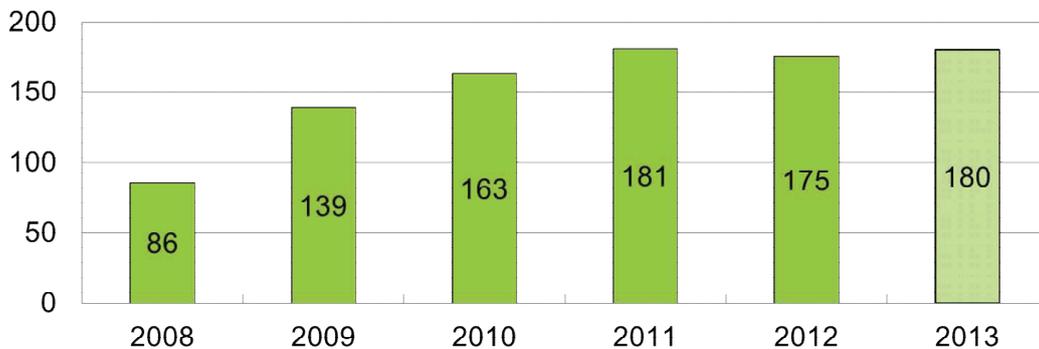
⑥教育体制の充実(その1)

a. 外国人教員の雇用



- 外国人教員の受入促進策として、国際公募、英語による職場環境の整備を行った
- 外国人教員数は計画時に86名 → **2013年度末に180名の見込み (目標は160)**
- 補助金終了後も、G30英語コースを維持・拡充する方針を学長声明として公表(2012.8)
- 事業終了後の措置については、教員業績評価を行い、雇用継続者は学内で措置する

【外国人教員(兼任を含む)数】

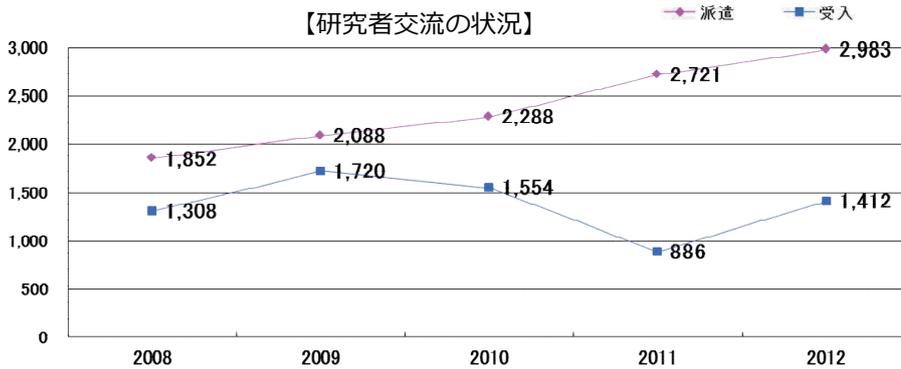


注) 2008年度は5月1日現在、2009～2012年度は年度末の実績値。2013年度は見込み値。

⑥教育体制の充実(その2)

b. 日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

- 日本人教員の海外派遣数は、2008年度 1,852名から2012年度2,983名に年々増加している
- 重点交流協定校の一つである英国シェフィールド大学とは、学術交流プログラムにより教員及び大学院生を派遣している
- **2011年度福島原発事故の影響により、受け入れ研究者数が激減した**
- 本学は2014年1月現在で60か国の大学と254協定を締結している。今後は、さらに協定校での本学教員の授業等による実践型研修の機会を増やす



©2010 University of Tsukuba

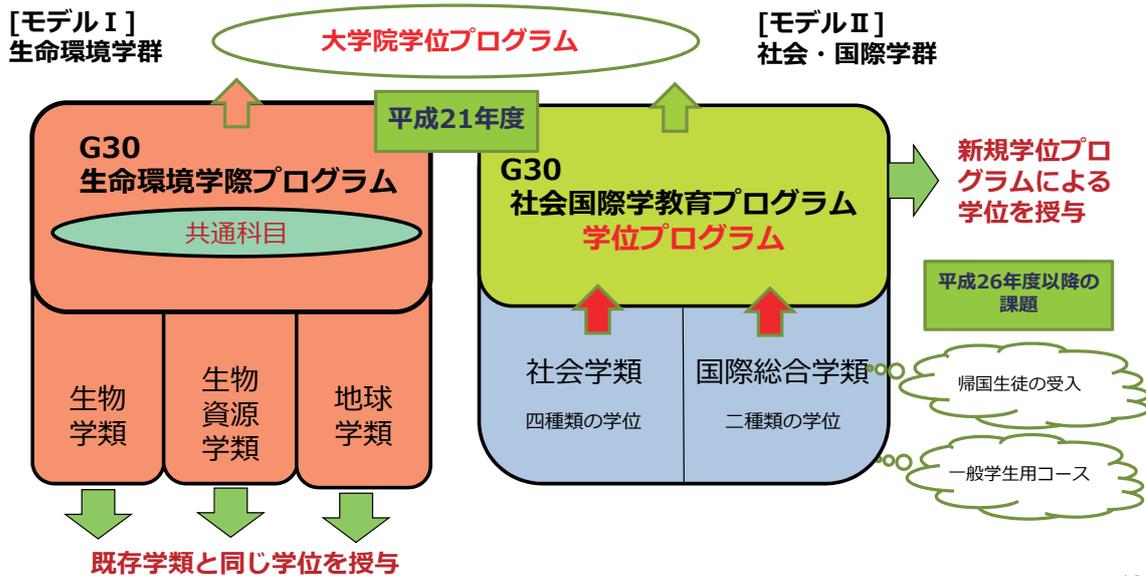
15

2. 取組状況

①英語による授業のみで学位が取得できるコース(その1)

a-1. 英語コースの開設

学位プログラム:人材養成目的に沿って学生が身に付けるべき知識・能力を付与する英語で開講される課程プログラム



©2010 University of Tsukuba

16

IMAGINE THE FUTURE.

①英語による授業のみで学位が取得できるコース(その2)

a-2. 英語コースの開設

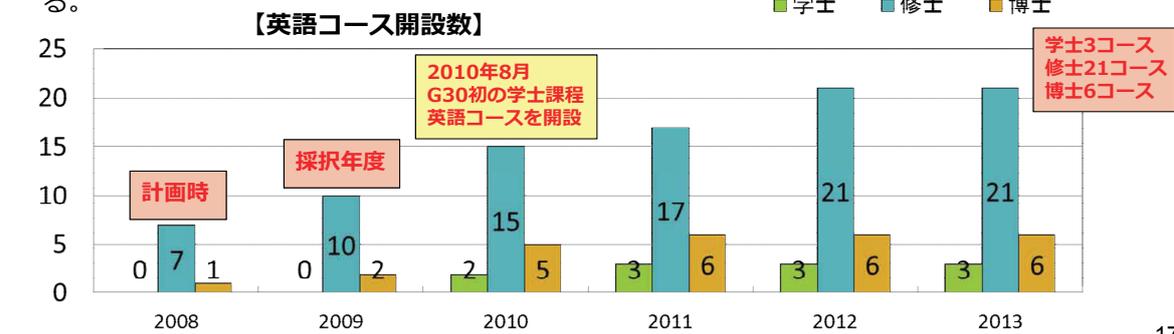


【開設のあゆみ】

- 2009年度; 既設の修士課程7コース、博士課程1コースに加えて、修士課程3コース、博士課程1コースを新たに発足させた。
- 2010年度; 新たに、学士課程で2コース(G30初)、修士課程で5コース、博士課程で3コースを開講した。
- 2013年度現在; 当初計画の20コースを上回る全30コース(学士課程で3コース、修士課程で21コース、博士課程で6コース)を開講している。

【英語コースの特徴】

- 3学群、7研究科において多彩な学問分野にわたる30コースを開設
- 国際性の日常化環境の提供(スチューデント commons)
- 出身国の多様性から生じる国際感覚の醸成
- 卓越した日本語・日本文化学習環境の提供



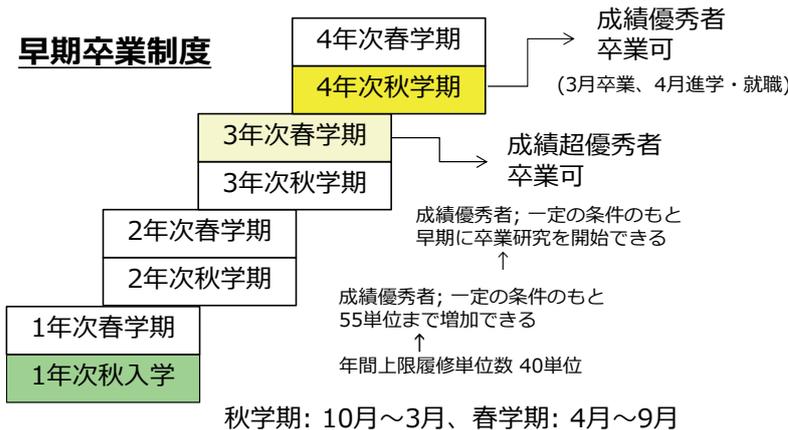
IMAGINE THE FUTURE.

①英語による授業のみで学位が取得できるコース(その3)

a-3. 英語コースの開設



早期卒業制度



G30英語科目を受講している日本人学生 (生命環境・社会国際)

- 科目数 127
- 学生数 のべ2,027人

留学生と日本人学生の交流の場
スチューデント・commons



Cosmos - Cafe Internationale (1回/週開催)

留学生と市民の交流の場
City Chat Café (1回/月開催)

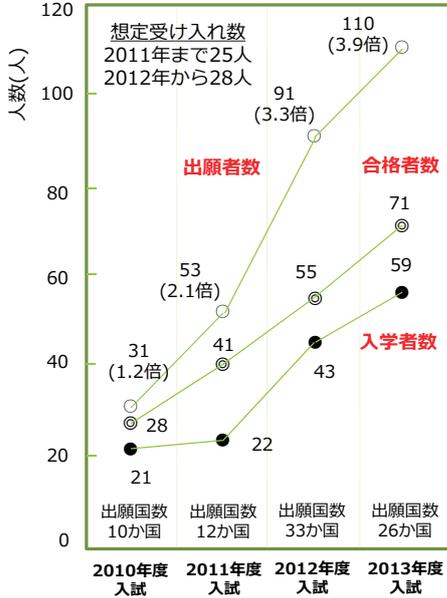
2010年8月 G30学士課程初の入学者

➡ 2014年3月 G30学士課程初の卒業生(早期卒業)

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース(その4)

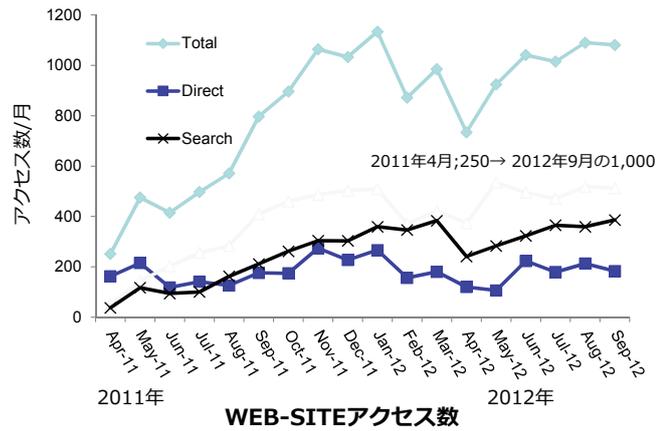
b. 学生確保の状況

学士課程における志願者数および入学者数



©2010 University of Tsukuba

- 現地オンライン入試、検定料のカード決済、WEB-SITE情報提供システム
- 大学独自の『つくばスカラシップ』(留学生、海外派遣、緊急)の創設
- WEB-SITEや日本留学説明会の充実により、2013年度学士課程入試において26か国から110名の応募(3.9倍)があった
- 留学生の出身国も、ウガンダ、ナイジェリア、ウズベキスタン、エチオピア、シリア、マルタなど、これまで我が国とのなじみが薄かった国々に広がっている
- ノル웨이政府奨学生、カナダ、アメリカなど、欧米先進国の留学生も増加している



19

G30英語コースと外国人留学生数(平成25年10月)

系	G30英語コース	学生数	計
人文社会系	B; International Social Sciences	49	85
	M; Special Program for Central Asian Countries in International Relations and Public Policy M; Special program for Central Asian Countries in Education and Cultural Policy M; Special Program for Central Asian Countries in Japanese Studies M; Special Program in International Relations M; Program in Economic and Public Policy Management	36	
ビジネスサイエンス系	M; Graduate School of Business Sciences, MBA Program in International Business	17	17
数理物質系	M; Materials Science and Engineering course	13	13
	M; Physics Course M; Nano Chemistry course M; Nano Science course M; Materials Science course		
システム情報系	M; Computational Science Program	4	4
生命環境系	B; Life and Environmental Sciences	81	252
	M; Professional Training Program in International Agricultural Research M; Environmental Diplomatic Leader Education Program M; Biodiplomacy Courses	97	
	M; International Collaborative Environmental Program (ICEP) M; International Collaborative Expert Education Program for Sustainable Agricultural and Rural Development M; Waste Management Expert Course	74	
	D; International Bioindustrial Sciences Course D; Environmental Diplomatic Leader Education D; International Collaborative Environmental Program (ICEP) D; International Collaborative Expert Education Program for Sustainable Agricultural and Rural Development D; Arid Land Resources Science Course for Doctoral Program		
人間系(医学医療)	B; Medical Sciences	5	33
	M; Master of Public Health Program M; Dual Master's Degree Program	10	
	D; International Doctoral Program in Medical Sciences	18	
図書館情報メディア系	M; English Program in Library and Information Science	3	3
全体	30コース B; 3コース M; 21コース D; 6コース	135 177 95	407

20

①英語による授業のみで学位が取得できるコース

c. 質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

「教育の実質化」と「教育の質保証」を目的とした教学システムの改革

- 学位を与える「課程中心の考え方」を整理し、人材養成目的に沿った「学位プログラム」化に取り組んだ。
- 教育の目標と達成方法及び教育の枠組みを、教育宣言「筑波スタンダード」として公表した。
- 国際化及び秋入学に適した2学期6モジュール制(春A・春B・春C、秋A・秋B・秋C)に、平成25年度から移行した。
- 単位制度の実質化(1単位45時間の学修)の徹底を図った。
- シラバスの充実、主体的な学び(アクティブ・ラーニング)の確立などを進めた。
- 平成25年度からGPA制、ナンバリングの導入などの体系的なカリキュラムの整備などを準備を進めた。
- グローバル人材育成の基礎となる教養教育と外国語教育(グローバル・リベラルアーツ)の改革を進めた。

©2010 University of Tsukuba

国際性の日常化／世界が学びの場

Tsukuba Study Abroad プログラム

- 留学生の受け入れ&海外留学の推進
- 英語コース&海外留学プログラムの提供
- グローバル関連科目群/実修科目群の開設
実用英語、実用日本語、交流協定校招聘教授科目、サマースクール/スプリングスクール科目
異文化体験学習、海外語学研修、海外インターンシップ、海外フィールド調査
- グローバル人材認定書



授業風景

21

②留学生受入のための環境整備

a. 留学生に対する支援(就学、生活、経済、就職等)

- G30取りまとめ担当(5名)、留学生/教育/就職/メンタルヘルス担当(5名)、各支援室担当(7名)、生命環境系担当(5名)、社会科学系担当(4名)、医学系担当(3名)及び多言語対応事務職員を配置した。
- 独自の奨学金「つくばスカラシップ」を創設し、学士課程の初年度の授業料及び入学金は全員不徴収、成績優秀な定員の約半数に対しては4年間の奨学金(月額6万円、授業料免除、初年度は渡航費10万円)を給付した。
- 留学生優先で学生宿舎に入居させる体制をとっている。平成25年度末には、学生宿舎全体(60棟3,927室)の5割を超える31棟(1,826室)が改修整備される。日本人学生と留学生の混住型を進め、日常生活を通じた交流の場を創出する。
- ポテンシャルの高い外国人留学生の採用に取り組む企業が増えていることに鑑み、外国人留学生に対するキャリア・就職支援講座の開設や企業説明会の充実により外国人留学生と企業とのマッチングを行っている。

b. 日本語・日本文化の学習機会の提供

- 留学生センターでは、国費留学生を対象とした半年間の日本語予備教育、及びこれ以外の留学生で受講を希望する学生を対象とした日本語補講コースを開講している。
- 「ゼロレベルからの日本語自習e-ラーニングシステム(インターネット利用とDVD利用)」を開発し、渡日前及び入学後の日本語指導を行っている。
- 日本の文化や歴史、地域産業に対する理解を深める目的で、留学生のための文化研修を年間4コース実施している。コースは関東近辺の代表的な歴史・文化施設等を見学するものである。

©2010 University of Tsukuba



日本語自習e-ラーニングシステム

22



c. 海外拠点の設置と留学生の受入促進

筑波大学国際地域戦略

—地域の特性に応じた国際化戦略を設定—

- 先端学術研究との協働を目指す地域
- **本学のレバレッジを活用する地域**
- 集中的に優秀な学生の獲得を目指す地域
- 将来の発展が期待できる地域

海外拠点事務所

筑波大学の国際交流に資する教育研究施設

海外大学共同利用事務所

日本全体の大学の情報発信やワンストップサービスによる支援

- 日本の大学の認知度の向上
- 日本の大学の情報発信
- 全国大学のオンサイト利用支援
- 日本-アフリカ大学連携ネットワーク構築

海外拠点事務所

- チュニジア
- ウズベキスタン
- ベトナム
- 中国(北京)
- ドイツ
- 中国(上海)
- インドネシア
- フランス

海外拠点の設立

- 2006
- 2007
- 2009
- 2012
- 2013

海外大学共同利用
チュニス事務所

チュニスで記者発表

マグレブ諸国高等教育省と
包括的学術交流協定締結
[在日・在アフリカ大使館との連携]

2005	チュニジア
2011	アルジェリア
2012	モロッコ

©2010 University of Tsukuba

海外大学共同利用チュニス事務所(BUTUJ)



日本留学説明会の開催



G30海外大学共同利用チュニス事務所	チュニジア	2009年11月
北アフリカ・地中海事務所	チュニジア	2006年5月
中央アジア事務所	ウズベキスタン	2007年6月
東南アジア事務所 ホーチミンオフィス (千葉大学共同)	ベトナム	2009年8月
中国事務所 北京オフィス	北京	2009年10月
中国事務所 上海教育研究センター	上海	2012年6月
欧州事務所 ボンオフィス	ドイツ	2009年12月
東南アジア事務所 インドネシアオフィス (千葉大学共同)	インドネシア	2013年4月
欧州事務所 ボルドーオフィス	フランス	2013年10月

日本留学説明会開催

参加大学	参加者数	直接経費(千円)				
1	2010.2	チュニジア	チュニジア国立農業学院	2	500	110
2	2010.2	アルジェリア	ホウアリ・ブーメディエン工科大学	3	880	120
3	2010.3	モロッコ	ハッサンII世農獣医学院	3	400	214
4	2010.11	チュニジア	チュニジア国立農業学院	1	40	23
5	2010.11	チュニジア	サディキ・カレッジ (高校)	1	50	23
6	2011.2	モロッコ	アル=アハフィン大学	1	30	162
7	2011.2	モロッコ	シディ・モハメド・ベン=アブタラー大学	1	500	162
8	2011.2	モーリタニア	ヌアクショット大学	1	80	320
9	2011.11	チュニジア	ホテル イベロスター	6	350	156
10	2012.3	モロッコ	カディ・アイヤード大学	3	940	540
11	2012.11	アルジェリア	オラン科学技術大学	3+1	858	400
12	2012.11	アルジェリア	アルジェ第2大学	3+1	711	400
13	2013.10	モロッコ	モハメドV世大学-アグダル校	7+1	250	420

国内セミナー開催

「北アフリカ諸国との学術パートナーシップ確立に向けて」

2010.3	東京	北アフリカ3カ国13大学	80名参加
--------	----	--------------	-------

学術シンポジウム開催

チュニジア-日本
文化・科学・技術
学術会議

2009.11
2010.11
2011.11
2012.11
2013.11

アルジェリア-日本
文化・科学・技術
学術会議

2010.11
2012.5

モロッコ-日本
文化・科学・技術
学術会議

2012.3

* 旅費を除く、平均234千円

日本-北アフリカ学長会議(JaNAUS)

第1回	2010.5	チュニジア	New Phase of Academic Cooperation for the Next Decade
第2回	2012.2	つくば市	Role of Universities on Society Renovation
第3回	2013.10	モロッコ	Mobility and Academic Networking

日本-アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)

2012.10	つくば	筑波大	アフリカ大使団と会合
2012.12	東京	筑波大	JAAN準備会合
2013.5	横浜	横浜国立大	JAAN実務者会合
2013.6	横浜	パシフィコ横浜	TICAD-V ブース展示
2014.1	東京	筑波大	JAAN実務者会合

特別なイベント

2013.6	東京	筑波大	チュニジア大統領講演会
2014.1	安倍首相アフリカ諸国訪問		永田筑波大学長随員

©2010 University of Tsukuba

□北アフリカ諸国における筑波大学のプレゼンス及び相互理解の向上に寄与

□留学生受け入れ環境の整備

- ・拠点事務所にTV会議システムを設置し、G30現地入試を実施/他大学の入試支援
- ・海外拠点を活用した留学説明会(留学フェア)を開催
- ・留学説明会でのDVD配布による日本語自習指導
- ・留学予定者への現地での渡日前留学情報及び日本語自習教材の提供
- ・e-ラーニングによる渡日前日本語教育の実施

□海外事務所の共同利用

- ・千葉大学インドネシア事務所と筑波大学ベトナム事務所の相互利用

パイロットネットワーク

東北大学 | 名古屋大学 | 筑波大学

関東甲信越大学間コンソーシアム

筑波大学、筑波技術大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学、長岡技術科学大学、上越教育大学、山梨大学、総合研究大学院大学、新潟大学、高崎健康福祉大学、流通経済大学、つくば国際大学、千葉大学

-テレビ・新聞での報道-

- 2009年7月 チュニスにおける海外大学共同利用事務所現地新聞 (La Quotidien紙)
- 2009年11月 BUTUJ開所式現地新聞 (La Press、l'Expert紙: 1面トップ)
- 2009年12月 「季刊アラブ」誌冬号
- 2010年2月 留学説明会 現地国営放送の夜のニュース
- 2010年5月 第1回日本・北アフリカ学長会議現地アラビア語新聞 (アル=アーム紙)
- 2010年5月 2010年5月24日付け「文教ニュース」第1回日本・北アフリカ学長会議
- 2010年7月 BUTUJの活動; 文部科学時報2010年7月号
- 2010年9月 「季刊アラブ」誌2010円秋号 (No. 134)
- 2011年2月 首相および高等教育大臣との会談現地新聞 (Horizons紙)
- 2011年5月 大学マネジメント誌2011年5月号
- 2012年7月 留学説明会; NHK WORLDラジオ短波フランス語放送
- 2012年7月 「毎日フォーラム」誌2011年11月
- 2012年11月 留学説明会; NHK WORLDラジオ短波フランス語放送
- 2012年11月 オランでの日本留学説明会 (Le Quotidien)
- 2012年12月 NHK WORLDラジオ短波アラビア語放送
- 2012年12月 留学説明会; 向学新聞12月1日号
- 2013年9月 NHK WORLD中東向けアラビア語ラジオ放送
- 2013年10月 第3回日本・北アフリカ学長会議モロッコ現地TVニュース

©2010 University of Tsukuba

国費奨学金の合格者数

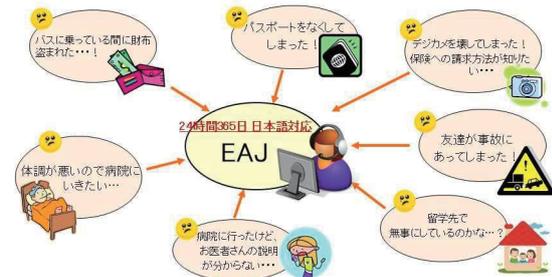
	チュニジア	モロッコ	アルジェリア
	合格者	合格者	合格者
2009	9	5	4
2010	5	4	4
2011	5	3	3
2012	6	3	3

➡ 課題; 奨学金の充実

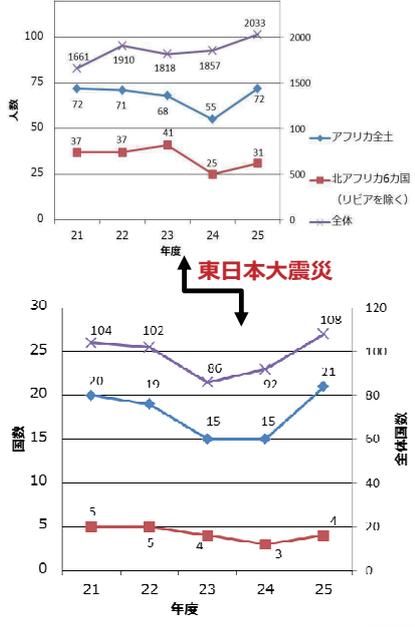
大学独自の危機管理システム

- 大学の支援
- 渡航者の支援

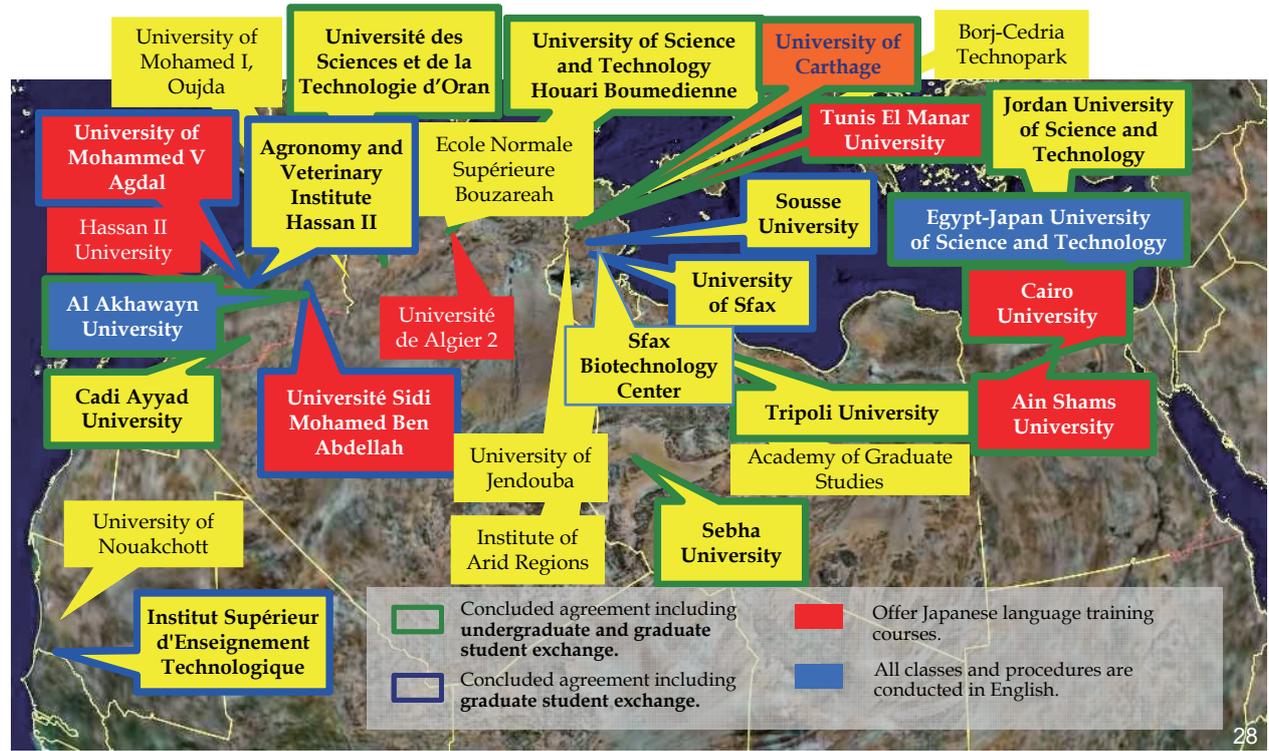
OSSMA



アフリカからの留学生(留学ビザ) 2009年-2013年



IMAGINE THE FUTURE. 海外大学共同利用チュニス事務所による国際交流 -エジプトからモーリタニアまで- University of Tsukuba





4 Dec. 2012: JAAN Preparatory Meeting (Tokyo)



関係大学・機関：筑波大学、北海道大学、横浜国立大学、九州大学、長崎大学、国際基督教大学、明治大学（以上、協力校）、群馬大学、千葉大学、東京外国語大学、新潟大学、富山大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、上智大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、琉球大学、京都大学、同志社大学、岐阜大学、神戸情報大学院大学、文部科学省、外務省、経済産業省、日本学生支援機構、科学技術振興機構、国際協力機構、日本国際協力センター、日本学術振興会、アフリカ開発銀行

31 May and 1-3 June 2013: TICAD V (Yokohama)



©2010 University of Tsukuba

4 Oct. 2012: Visit of African Diplomatic Delegation (Tsukuba)

Ambassadors and representatives of Senegal, Ethiopia, Angola, Nigeria and Rwanda
Discussion of the opportunity of academic cooperation with African countries

4 Dec. 2012: JAAN Preparatory Meeting (Tokyo)

- 1) Expansion of academic network to whole African continent
- 2) Academic cooperation for sustainable development of Africa

30 May 2013: 1st JAAN Working-level Meeting (Yokohama)

- 1) Sharing information of academic activities in Africa of participant universities
- 2) Involvement of more key universities and stakeholders
- 3) Tentative organization of the network

31 May and 1-3 June 2013: Booth exhibition at TICAD V (Yokohama)

24 January 2014: 2nd JAAN Working-level Meeting (Tokyo)

29

a. 大学の国際化

- グローバル30事業を通して本学は国際社会でのリーダーを目指す一方、学生と教職員が世界の一人であることを日常的に実感する「国際性の日常化」環境を構築してきた。
- 留学生数は計画時の1,337人から2013年度末に3,000人(見込み)に増加した。
- 本学は、グローバル30事業を機関車役として大学のグローバル化を推進し、「留学生の受け入れ機能の強化」について成果を上げた

b. 大学間連携ネットワークの形成

- 学術連携ネットワーク:学長クラスの意見交換の場として日本-北アフリカ学長会議の開催、全アフリカを対象として日本-アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)の構築を行っている。
- 関東甲信越大学間コンソーシアム:関東甲信越地域の大学との国際関連教育及び業務における連携・協力の場として、15大学からなる関東甲信越大学間コンソーシアムを結成している。
- パイロットネットワーク:筑波大学、東北大学、名古屋大学は、国際関連教育及び業務における連携・協力の場としてパイロットネットワークを結成している。

c. 産業界との連携

- 筑波研究学園都市に根差した産官学連携ネットワーク:経団連、JAPIC(日本プロジェクト産業協議会)、インテル社、筑波研究学園都市にある研究所などの産業界、及びつくば市などの官界と連携し、産官学が一体となってグローバル人材の育成に取り組んでいる。

©2010 University of Tsukuba

30

d. 事務体制の国際化

- 本部にグローバル30担当チームを配置した。部局と本部との連携強化のため、部局に国際マター担当事務職員を配置し、全学の国際事務連絡会委員を兼ねさせた。
- 職員の語学力の維持・向上のために、国際性の日常化における基本方針を制定し、全ての事務職員が外国語によって留学生や外国人教員とのコミュニケーションが図られるよう求めた。

e. 評価の実施と改善

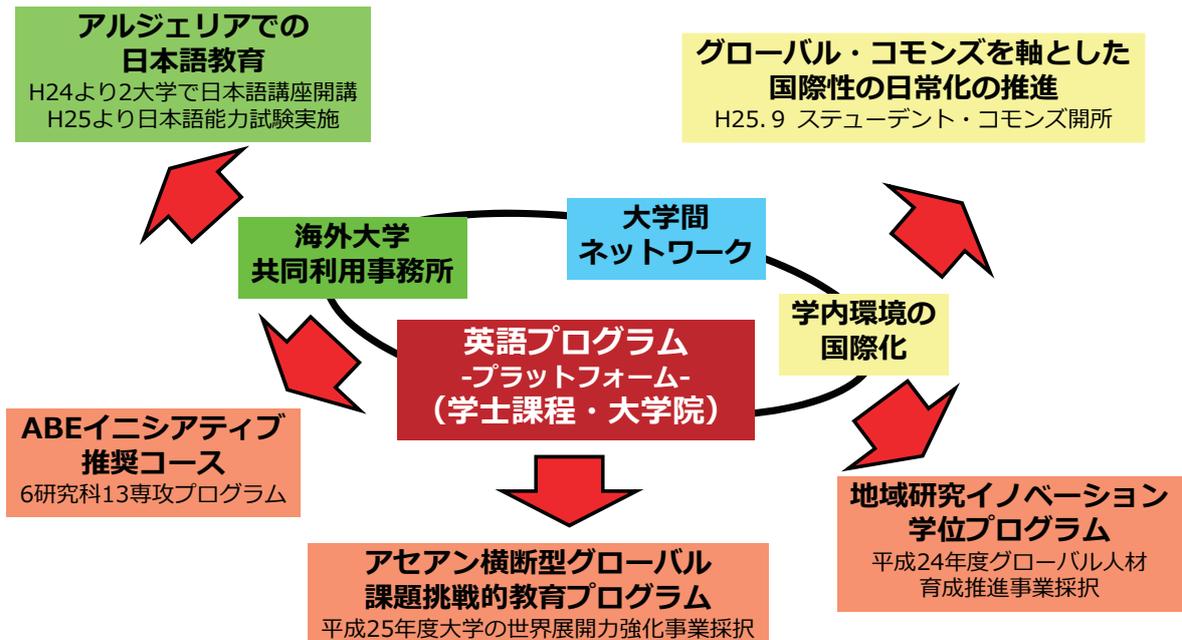
□ 中間評価結果における指摘事業等への対応状況

- 「これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」との中間評価結果を得た。
- 指摘された日本人学生の履修の促進については、履修指導を行うとともに、日本人学生のG30プログラムへの編入、受験を認めるなどの策を進めた。

□ 外部有識者等による評価の実施と改善

- 学外有識者5名からなる外部評価委員会を設置し、2010年7月、2011年2月、同10月、2012年10月に外部評価を行った。これまでのところ、本学のグローバル30プロジェクトは計画通り進捗しているとの評価結果を得た。特に、北アフリカ、中央アジアやベトナムのように今後の発展を予感させ、これまで日本国との関係が希薄でありながら、日本に親しみを感じている国からの留学生の受け入れを、本学が積極的に進めている点が評価された。
- 一方、建学以来の理念である世界に開かれた大学に一步近づいた感じがするので、筑波大学の良いところや特徴をもっと上手にアピールすることが肝要であるとの指摘があった。
- 2014年1月に第5回委員会を予定している。

31



32

① 予算額の推移と使用実績

- 毎年度の活動規模を維持するため、毎年度学内経費（大学負担額）を計上している。
- 2009年度は英語プログラムの立ち上げ準備及び海外共同利用チュニジア事務所の開設経費に配慮して配分した。
- 人件費については、主に英語授業のための外国人教員や非常勤講師に宛てている。
- 人件費以外は、『国際性の日常化』政策の下、できるだけ特別扱いしないで通常業務として処理した。

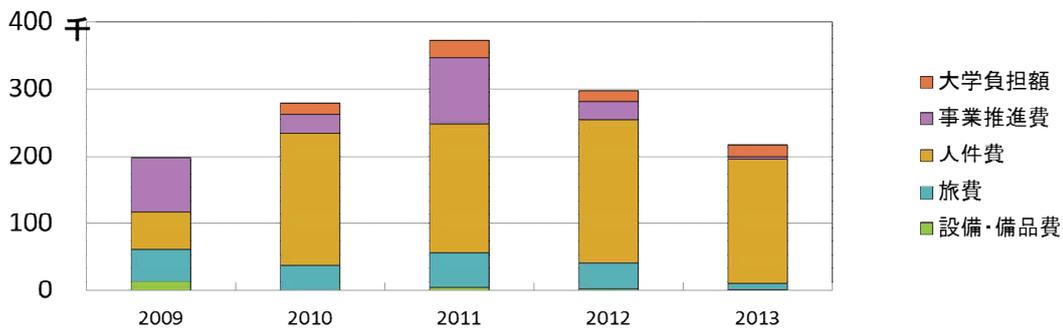
② 内部監査等の実施

- 毎年度、補助金の適正な執行を図るため、決算額を確定させるまえに監査を実施している。

数値目標達成状況

指標	2008年度 計画時	2013年度 見込	計画時との 比較	2013年度 達成目標
英語コース数	8	30	3.8倍	20
留学生数	1,337*	3,000	2.0倍	3,000
留学生比率	8.1%	18.5%	+8.3%	17.4%
外国人教員数	86	180	2.1倍	160
外国人教員比率	5.4%	10.3%	+4.9%	10.4%
海外派遣学生数	221	530	2.4倍	500
派遣学生比率	1.3%	3.3%	+2.0%	2.9%

*計画時の数値は、留学ビザのみ。



©2010 University of Tsukuba

33

① 今後の課題と展望

- グローバル30補助金終了後の自走するポストG30の運営
- 受け入れ外国人留学生と海外派遣日本人学生の充実によるグローバル人材の育成

② 事業終了後（2014～）の見通し

□ 英語コースの拡充

- 当初計画を上回るペースで英語コースを開設している。
- 日本人学生との協働学修環境の充実を図る。

□ 留学生の受入促進

- サマースクールなど、短期留学を含めた総合的な留学生受け入れ策を推進し、当初計画した留学生数を達成する。

□ 補助金の終了に伴う代替財源の確保

- 主要経費は学内通常経費に繰り入れる。
- 一部は外部資金に応募。



©2010 University of Tsukuba

34

グローバル30 総括シンポジウム

大学の国際化のためのネットワーク形成事業 2013年度

東京大学



1

取組年表

年月	主な出来事
平成21年	グローバル30事業に採択される。
平成21年10月	英語による授業のみで学位を取得できる3コースを新設。
平成22年4月	組織改組により、本郷、駒場、柏の3キャンパスに国際センターを設置し、留学生向けのワンストップサービスを提供。 英語による授業のみで学位を取得できる1コースを新設。
平成22年10月	英語による授業のみで学位を取得できる9コースを新設。
平成23年4月	英語による授業のみで学位を取得できる2コースを新設。
平成24年1月	インド・バンガロールに海外大学共同利用事務所を設立。
平成24年2月	上記事務所の開所式を開催。
平成24年4月	英語による授業のみで学位を取得できる1コースを新設。
平成24年9月	インド・バンガロールで第1回日本留学説明会を開催。
平成24年10月	学内初の学部英語コースであるPEAK(Programs in English at Komaba)が開講。 PEAKのほか、5つの大学院の英語コース新設。
平成25年2月	インド国内の有力高校および教育機関から校長を招聘。
平成25年4月	英語による授業のみで学位を取得できる1コースを新設。
平成25年9月	インド・バンガロールで第2回日本留学説明会を開催。



2

目次

1. 取組状況

- ① 英語コースの開講状況
- ② 教育の質向上に向けた取組み
- ③ 海外からの学生確保に向けた取組み
- ④ 留学生受入のための環境整備
- ⑤ 海外拠点事務所における活動
- ⑥ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

2. 本事業の成果

- ① 特筆すべき成果と波及効果
- ② 留学生の受入／派遣
- ③ 海外大学との連携／大学間交流協定
- ④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果／学生の意見)

3. 経費の使用状況

4. 今後の展開

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(G30)

- 2013年10月現在、G30英語コースとして19コースが開講しており、在籍者数は381人まで増加。
- 2012年10月、学内初の学部英語コース(PEAK)が2コース開講、これまで2年間で50人の学生が入学。

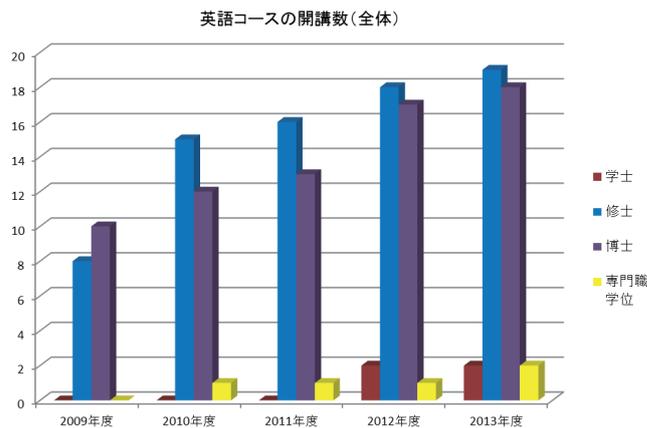
研究科	英語コースの名称	学位	2013年10月	
			入学者数	在籍学生数
教養学部	国際日本研究コース(2012年10月開講)	学士	13	27
	国際環境学コース(2012年10月開講)	学士	10	23
経済学研究科	経済学高度インターナショナルプログラム	博士	0	2
総合文化研究科	国際人材養成プログラム(2012年10月開講)	修士	7	13
		博士	2	7
	国際環境学プログラム(2012年10月開講)	修士	3	3
		博士	1	2
理学系研究科	理学系国際コース	修士	4	14
		博士	2	21
工学系研究科	国際都市建築デザイン英語コース	修士	8	15
	国際バイオエンジニアリング英語コース	修士	2	3
	国際技術経営学英語コース	修士	8	17
農学生命科学研究科	国際農業開発学コース	修士	7	13
医学系研究科	国際保健学コース	修士	0	42
		博士	3	57
新領域創成科学研究科	サステイナビリティ学グローバル養成大学院プログラム ^{注1)}	博士	3	16
情報理工学系研究科	情報理工学英語プログラム	修士	1	12
		博士	0	17
公共政策学教育部	公共政策学教育部国際プログラムコース	専門職	41	77
合計			115	381

注1: 2012年10月「サステイナビリティ学教育プログラム」から移行

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(全体)

- 英語コース全体では、2013年10月現在で開講数は41コースまで増加。
- G30プログラム以外でも公共政策学教育部キャンパスアジアコース、国際農業開発学コース博士課程など英語コースを独自に開講。



1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(一覧)

開講部局	コース名	学士	修士	博士	専門職学位	コース設置年
1 教養学部	国際日本研究コース	○				2012年10月
2 教養学部	国際環境学コース	○				2012年10月
3 経済学研究科	経済学高度インターナショナルプログラム		○			2010年4月
4 経済学研究科	経済学高度インターナショナルプログラム			○		2012年4月
5 総合文化研究科	国際人材養成プログラム		○			2012年10月
6 総合文化研究科	国際人材養成プログラム			○		2012年10月
7 総合文化研究科	国際環境学プログラム		○			2012年10月
8 総合文化研究科	国際環境学プログラム			○		2012年10月
9 理学系研究科	最先端理学研究拠点における学位取得プログラム		○			2013年10月
10 理学系研究科	最先端理学研究拠点における学位取得プログラム			○		2013年10月
11 理学系研究科	理学系国際コース		○			2010年10月
12 理学系研究科	理学系国際コース			○		2010年10月
13 工学系研究科	英語による社会基盤学留学生教育特別プログラム		○			1982年10月



1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(一覧)

	開講部局	コース名	学士	修士	博士	専門職 学位	コース設置年
14	工学系研究科	英語による社会基盤留学学生教育特別プログラム			○		1982年10月
15	工学系研究科	英語による学際デザイン留学学生教育特別プログラム		○			1999年10月
16	工学系研究科	英語による学際デザイン留学学生教育特別プログラム			○		1999年10月
17	工学系研究科	英語によるシステム創成留学学生教育特別プログラム		○			1989年10月
18	工学系研究科	英語によるシステム創成留学学生教育特別プログラム			○		1989年10月
19	工学系研究科	英語による都市工学留学学生教育特別プログラム		○			1982年10月
20	工学系研究科	英語による都市工学留学学生教育特別プログラム			○		1982年10月
21	工学系研究科	日中韓を中核とするアジア工学環形成のための特別推進プログラム			○		2008年10月
22	工学系研究科	国際バイオエンジニアリング英語コース		○			2010年10月
23	工学系研究科	国際都市建築デザイン英語コース		○			2010年10月
24	工学系研究科	国際技術経営学英語コース		○			2010年10月
25	工学系研究科	原子力国際専攻		○			2009年10月
26	工学系研究科	原子力国際専攻			○		2009年10月

1. 取組状況

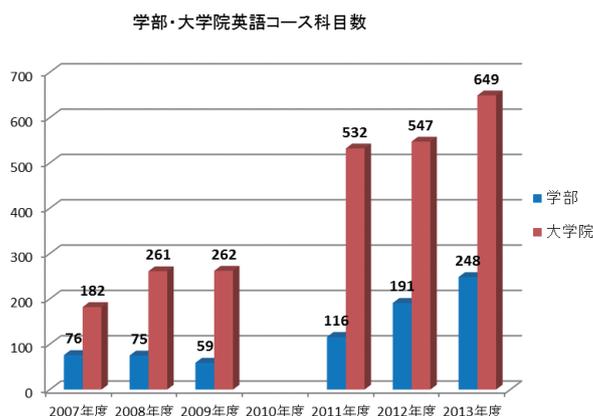
① 英語コースの開講状況(一覧)

	開講部局	コース名	学士	修士	博士	専門職 学位	コース設置年
27	農学生命科学研究科	農学生命科学研究高度化特別コース			○		1991年10月
28	農学生命科学研究科	国際農業開発学コース		○			2010年10月
29	農学生命科学研究科	国際農業開発学コース			○		2012年10月
30	医学系研究科	国際保健学コース		○			2011年4月
31	医学系研究科	国際保健学コース			○		2011年4月
32	新領域創成科学研究科	環境学研究系特別プログラム(アジア開発銀行関係)		○			2000年4月
33	新領域創成科学研究科	環境学研究系特別プログラム(アジア開発銀行関係)			○		2000年4月
34	新領域創成科学研究科	サステイナビリティ学グローバル養成大学院プログラム		○			2007年10月
35	新領域創成科学研究科	サステイナビリティ学グローバル養成大学院プログラム			○		2009年10月
36	情報理工学系研究科	情報理工学英語プログラム		○			2010年10月
37	情報理工学系研究科	情報理工学英語プログラム			○		2010年10月
38	学際情報学府	アジア情報社会コース(ITASIA)		○			2008年10月
39	学際情報学府	アジア情報社会コース(ITASIA)			○		2008年10月
40	公共政策学教育部	公共政策学教育部国際プログラムコース				○	2010年10月
41	公共政策学教育部	公共政策学教育部キャンパスアジアコース				○	2013年4月

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(英語による授業科目数)

- 英語による授業科目数は飛躍的に増加。
- 2013年10月現在、大学院における科目数は649科目、学部でも248科目となっており、合計897科目が英語で行われている。



1. 取組状況

② 教育の質向上に向けた取組み

- コース内容の拡充
 - ✓ カリキュラム編成の工夫・見直しと英語による授業科目の拡大。
 - ✓ 工学系研究科がソウル国立大学校工科大学、情報理工学系研究科は京都大学情報学研究科と、テレビ会議システムを用いた遠隔交換講義を実施。
 - ✓ 医学系研究科では、国内外の研究者を招聘したセミナーや集中講義を実施。
- 教員向けの取組み
 - ✓ PEAKでは英語コースの授業担当教員を対象にディスカッション形式のイベントを開催。また、PEAK担当教員向けに国内外の国際教育専門家による講演会を開催。
 - ✓ 2013年から大学院生を対象に、授業力向上を目指す「フューチャーファカルティープログラム」を実施。講義、ワークショップ、ポストワークショップから成る短期間のプログラムで、所定の活動を修了した者には、履修証を交付する。

1. 取組状況

③ 海外からの学生確保に向けた取組み

- 英語コースの広報
 - ✓ PEAK広報活動として31ヶ国を訪問し、海外の進学校でプログラム紹介や模擬授業を行ったほか、FacebookやTwitterにより情報を広く提供。
- 入学試験の多様化
 - ✓ 渡日を必要としない書類審査や海外での英語面接を積極的に実施。
 - ✓ テレビ会議システムやSkypeを利用した入試面接を導入。
- 留学生受け入れシステム(T-cens)
 - ✓ 工学系研究科では、出願から審査、通知、来日に至る手続きを電子化した留学生受け入れシステム(T-cens)を構築。2011年度の利用者数は約550名。
 - ✓ 他大学・部局での利便性を高めるため、汎用版を構築。推薦状のWeb上提出システムや検定料徴収機能システムなどの機能を搭載。
- サマープログラムの実施
 - ✓ 優秀な学生を確保するため、理学系研究科、新領域創成科学研究科では、海外の学部生を対象にした約6週間のサマーインターンシッププログラムを実施。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

a. 生活支援

- PEAKの取組み
 - ✓ キャンパスから徒歩5分の距離に寮を確保し、新入生がほぼ全員入寮。宿舎内には生活面のサポート等を行う大学院生がResident Assistant(男女2名ずつ計4名)として同居。
 - ✓ 日本人学部生が登録してPEAK学生の生活をサポートするPEAK Friends制度を開始。200名を超える学生が応募。
- 国際センターの設置
 - ✓ 出入国支援、宿舎紹介、経済支援、日本語教育、就職支援、カウンセリング等の統合的サービスを提供。
 - ✓ 多文化メンタル支援として、異文化間カウンセラーを配置して留学生が直面する問題に英語で対応。
- 宿舎の計画的整備
 - ✓ 全学ハウジングオフィスを立ち上げ、世界水準の宿舎を提供する体制を整備。
 - ✓ 部局により、宿舎確保のための代理申請、留学生用の借上げ宿舎を設置して、家賃を一部負担する等の対応。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

b. 経済的支援

・ 奨学金制度

- ✓ PEAK開講に伴い、優秀な学部生に対して4年間にわたり入学料と授業料相当額を支給する東京大学スカラーシップを新たに創設。
- ✓ 企業奨学金の獲得を進める等、留学生の経済的支援を拡充。

c. 学業面のサポート

・ チューター制度

- ✓ 日本人学生や留学生によるチューター制度を導入。また、当該科目を履修済みの学生が授業の補習を行うなど、学生による支援体制を構築。
- ✓ オンライン・チューターガイダンスを開始して、担当チューターが渡日前から留学生と情報交換し、問題を共有。また、専門性の高い外国人教員あるいはそれに準じた日本人教員が学業・研究をサポート。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

d. 日本語・日本文化学習機会の提供

- ✓ 国際本部の下に日本語教育センターを設置して、定期開催の夏学期・冬学期コースに加えて短期コースも設けて、留学生の多様なニーズに対応。
- ✓ 2012年度には、日本語コース全体の設計を見直し、上級者向け日本語クラスを改訂するとともに、目的別の超短期コース(スポット講座)を開設。
- ✓ 入学前に早期に渡日する学生を対象に、定例コース前のプレコースも開設。
- ✓ 工学系研究科では、入学予定者の日本語能力を事前にWeb上で確認し、適正なクラス分けをする等のきめ細やかなサポートを提供。
- ✓ スタディツアーや社会見学を企画する等、留学生が日本社会や日本文化を体験できるイベントも実施。

e. 日本人との交流の推進

- ✓ 留学生と日本語話者(学内の学生並びに一般市民)との一対一の組み合わせを行うプログラム(FACEプログラム)で異文化交流を推進。
- ✓ 留学生と日本人学生の交流の場「インターナショナルフライデーラウンジ」提供。
- ✓ 学生サポートスタッフを起用して、オリエンテーション時の言語サポートや留学生向け情報誌作成等のピアサポートを実施。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

f. 卒業後の就業機会

• 就職情報の提供

- ✓ 国際センターから企業・団体からの就職情報をメールマガジンで発信。
- ✓ 就職活動セミナー(年8回)や会社説明会(年4回)を開催する等、留学生の就職活動を支援。
- ✓ 毎年、日本企業の参加による外国人留学生向けジョブ・フェアを開催。また、特に留学生の多い博士課程(ポスドクを含む)を対象とした就職説明会も、別途開催している。
- ✓ 工学系研究科および理学系研究科では、「キャリア支援オフィス」を設置して、経験豊富なキャリア相談員を配置。就職活動の流れやエントリーシート・面接対策など、就職活動に必要なノウハウを指導している。
- ✓ 情報理工学系研究科では、グローバルクリエイティブリーダー育成をめざして、企業で活躍する研究者から現場の話を聞く進路ガイダンスを開催。

1. 取組状況

⑤ 海外拠点事務所における活動

a. 東京大学インド事務所の設立

- 2012年1月、バンガロールに海外共同利用事務所を設立
- 2月に開所式を行い、日印ネットワーキングシンポジウムも開催。200名を超える来場者があった。
- 卒業生ネットワーク構築のため、校友会を立ち上げた。
- インド人留学生の受入促進とインドにおけるネットワーク構築を通じた日印学術交流、産学連携の推進に向け、有力高校や有力大学、現地企業の訪問等の活動を行っている。
- 日本留学に関する情報発信を積極的に行うほか、日本への留学希望者に対するワンストップサービスを提供。



b. 日本留学説明会の開催

- 2012年9月、2013年9月、日本留学説明会を開催し、2012年は約300名、2013年は約600名の高校生・大学生が来場。
- 2013年は会場であるBishop Cotton Boys Schoolや、Delhi Public School等当地の名門高校からも教員引率により多数の生徒が参加。

1. 取組状況

⑥ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化

- 東京大学の行動シナリオにおける「グローバル・キャンパス形成」という目標に基づき、大学の国際化を最優先課題として進めている。
- 英語で学位を取得できるコースを開講して、留学生の受入を促進。特に、2012年10月に学内初の学部英語コース(PEAK)を開講。
- 大学間交流を拡大し、学生の海外留学を促進。
- サマープログラム等の短期留学制度を活用して、短期留学生の派遣・受入を促進

b. 拠点大学とのネットワーク形成

- これまで独自に取り組んできた大学の国際化に向けた他大学との連携やネットワーク形成を促進。学事歴をはじめ、教育改革にも取り組んだ。

c. 産業界との連携

- 大学院プログラムとして産業界の協力を得てフィールドワークを実施したり、産業界とのパートナーシップによるインターンシッププログラムを拡充。
- 日本企業の参加を得て、外国人留学生向けジョブ・フェアを開催する等、産業界との連携による就職支援の枠組みを構築。

1. 取組状況

⑥ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

d. 戦略的パートナーシップの形成

- 研究・教育諸分野において、海外の大学との協力・提携関係の一層の発展を目指して、より重点的に協力・提携関係を推進する戦略的パートナーシップ関係の構築を進めている。

e. 事務体制の国際化

- 国際対応力の高い職員の配置・採用や、事務職員の語学・国際業務研修や海外研修派遣等を実施している。
- 「事務組織の国際化対応WG検討結果報告書」(平成24年1月)を踏まえ、「人材育成国際環境整備検討WG」を設置し、学内の国際化について検討。

f. 評価の実施と改善

- 部局では内部・外部による英語コース評価制度を導入。有識者による評価委員会やアドバイザリー・ボードを設置して、コース運営の改善に努めている。特に、PEAKではコース開始後5年を目処に評価を実施する予定。
- 未実施の部局においても、有識者による評価検討システムの導入を検討中。

2. 本事業の成果

① 特筆すべき成果と波及効果

1. 学部英語コース (Programs in English at Komaba: PEAK) が開講
2. 英語コース開講数および英語による授業科目数の増加
3. 事務体制や学内文書英文化等の学内環境国際化への取組みの強化
4. 産業界との連携による留学生の就職支援取組みの強化

2. 本事業の成果

② 留学生の受入／派遣 — 受入 —

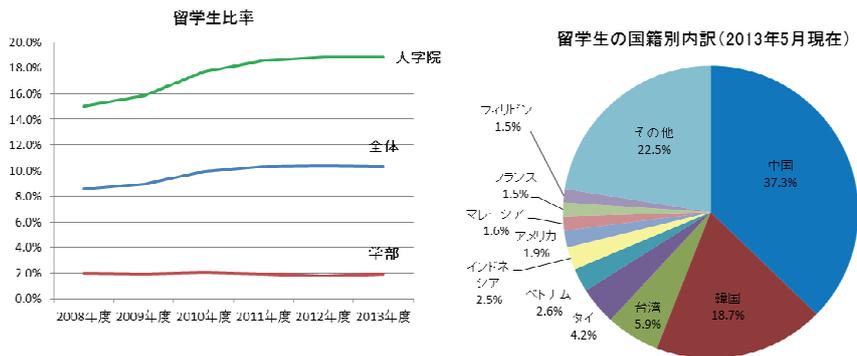
- 留学生の受入は2013年5月現在、2,912人まで増加。
- 2012年10月に学部英語コース (PEAK) を開設しており、今後も留学生の受入は拡大する見通し。



2. 本事業の成果

② 留学生の受入／派遣 —受入—

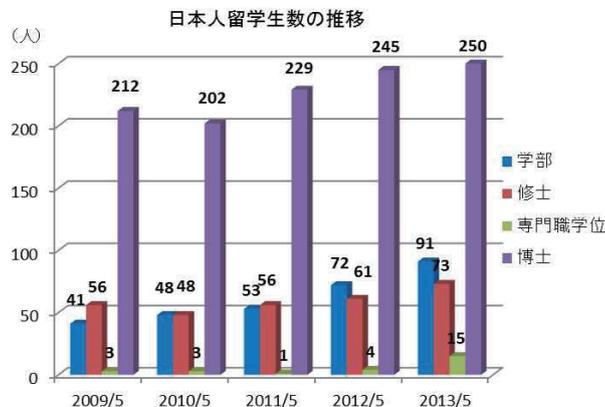
- 2013年度の全学生数に対する留学生比率は10%を超えており、特に、大学院レベルでは18.86%まで高まっている。
- 留学生は105の国、地域から受入れている。中国と韓国が半数以上を占め、台湾、タイ、ベトナム、インドネシアと続いている。



2. 本事業の成果

② 留学生の受入／派遣 —派遣—

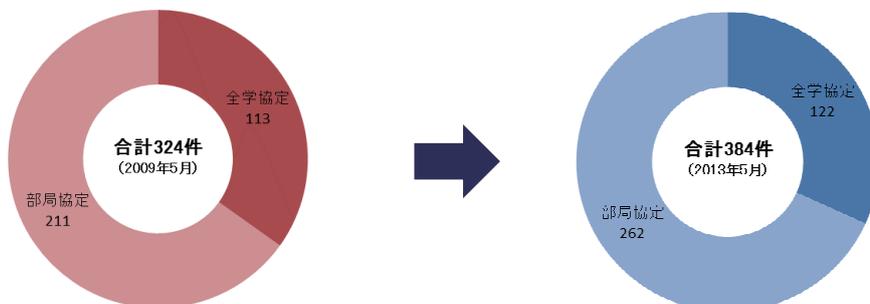
- 学生の海外留学促進に向けて、全学レベルまたは部局・研究科レベルでの学生交流を推進。
- 2013年5月現在、学則等に基づく留学者数は429人に増加。大学院生が多数を占めるなか、学部生留学者数も91人まで増えている。



2. 本事業の成果

③ 海外大学との連携／大学間交流協定

- 2009年5月には324件であった協定数は、2013年5月現在、延べ55ヶ国・地域、合計384件まで増加。

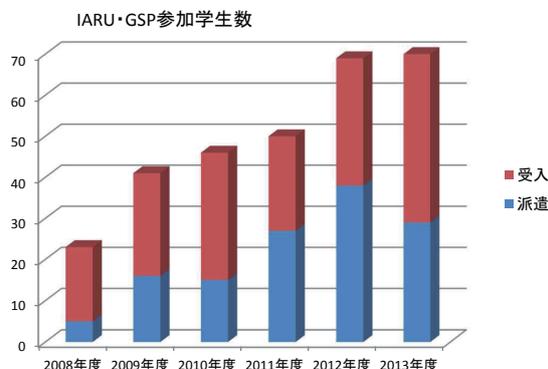


- 特に、全学レベルの学生交流協定校はイエール大学、プリティッシュ・コロンビア大学、トロント大学、ケルン大学、エコール・ポリテクニク、ストックホルム王立工科大学、上海交通大学、浦項工科大学校、国立台湾大学、シンガポール国立大学など34大学であり、今後も増加する見込。

2. 本事業の成果

③ 海外大学との連携／大学間交流協定

- 国際研究型大学連合(IARU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)、環太平洋大学協会(APRU)等の国際大学連合が実施する学生サマープログラムやイエール大学等海外の有力大学が実施する短期留学プログラムにより学生交流を促進。
- 特に、IARU加盟10大学が各校においてサマープログラムを実施し、2週間～5週間程度学生の派遣・受入を行うIARU学生サマープログラム(IARU Global Summer Program)による学生交流数が拡大。

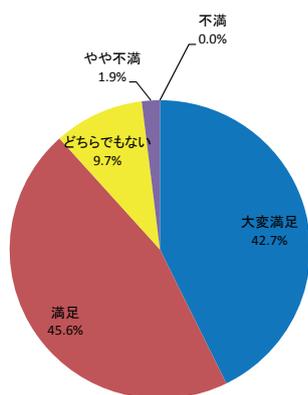


2. 本事業の成果

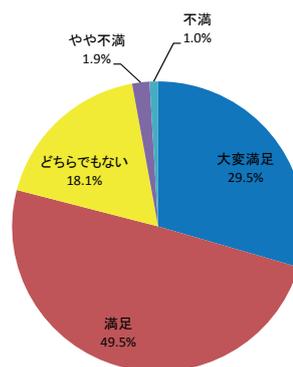
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数:103

Q1. 東京大学に留学した全般的な印象を聞かせて下さい。



Q2. 留学中に受講した講義や研究の質・内容に満足していますか。

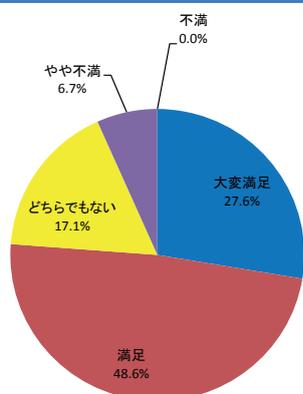


2. 本事業の成果

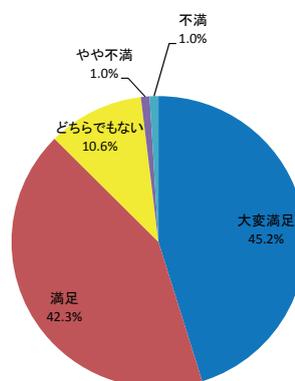
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数:103

Q3. 教員の英語力は十分でしたか。



Q4-1. 留学前の手続き、説明、案内は十分でしたか。

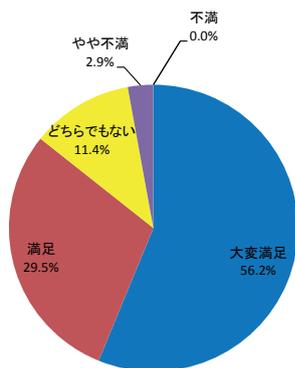


2. 本事業の成果

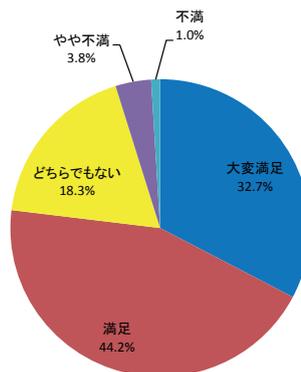
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数:103

Q4-2. 大学の施設、設備に満足していますか。



Q4-3. 授業・研究におけるサポートに満足していますか。

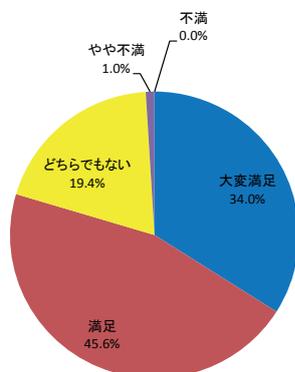


2. 本事業の成果

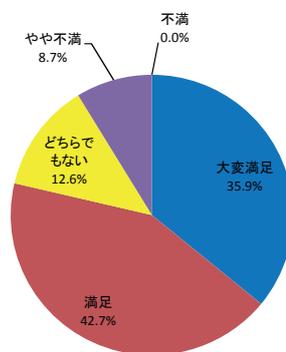
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数:103

Q4-4. 生活面のサポートに満足していますか。



Q4-5. 奨学金、資金面のサポートに満足していますか。

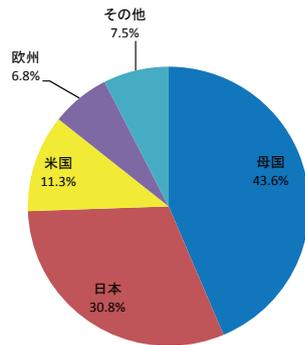


2. 本事業の成果

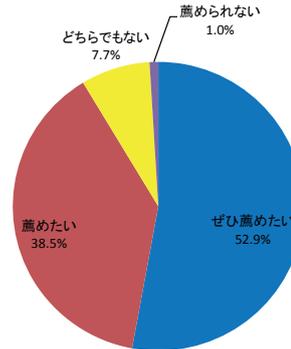
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数:103

Q5. 卒業後、どの国に就職しますか。
(どの国に就職したいですか。)



Q6. 母国の学生に東京大学への留学を
薦めたいですか。



2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)



中国出身
情報理工学系研究科 博士課程

G30プログラムは、コース内容や教育面だけでなく、留学生の生活支援という意味でも、素晴らしいプログラムでした。

日本語能力に関係なく、著名な研究者や企業トップによるスピーチ・講義を英語で受講することができました。また、図書館には図書やデジタル教材が豊富でした。

一番楽しかったのは、情報理工学系研究科がスタディツアーを企画してくれて、日本の文化や生活を体験できたことです。今後、より多くの外国人が英語コースに入学して、日本で勉強と生活を楽しむことができることを願っています。



タイ出身
工学系研究科 修士課程

東京大学で勉強できたことは素晴らしい経験でした。たくさんの興味深い人々と出会い、彼らから多くを学び、大いに刺激を受けました。

大学では、常に、高いモチベーションを維持しなければなりませんでした。それが日本で勉強することの特色であり、魅力だと思います。

日本で就職活動をしてみると、日本語を流暢に話せないことが不利であることを痛感しましたが、工学系研究科が留学生向けに開講していた日本語コースがとても役に立ちました。

2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)



ベトナム出身
公共政策学教育部
修士課程

受講科目が多岐に渡っていて、プログラム構成がよかったです。学生は、バックグラウンドや関心分野がそれぞれ異なっていました。好きなコースを選ぶことができました。

大学での手続きが複雑なこともありましたが、事務スタッフがとても親切に対応してくれました。東京大学での2年間の修士課程を終えて、とても満足しています。



ウクライナ出身
工学系研究科 修士課程

東大で楽しく勉強できました。自国で行っていた勉強と違って、東大では、デジタルシミュレーションを採用することが多く、それが私にとっては新鮮でした。結果的に、パラメータ設計に関心をもつようになり、研究を続けることにしました。

また、個人よりもチームで研究することが多いこともよいです。チームで協力することで、プロジェクトをさらに進展させることができ、また、お互い学ぶことが多かったです。



タイ出身
新領域創成科学研究科
修士課程

サステナビリティ学教育プログラムは学際的な研究を行っています。毎週行われるセミナーを通じて、教授や先生と一緒に勉強している仲間からシステムの考え方を学びました。

サステナビリティ学教育プログラム(IPoS)やサステナビリティ学国際会議(ICSS)などに参加することができましたので、学外でも学ぶ機会に恵まれて、ネットワーキングにも役立ちました。

2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)

英語コースの良かった点

教育面

- 学術面・研究面で素晴らしい内容だった。世界トップレベルのリサーチャーと競い合っている研究活動はやりがいがあった。(理学系)
- 講義は毎回興味深い内容で、最先端の知識を得ることができた。(情報理工)
- カリキュラム構成が自分の関心に合致しており、質の高い講義・クラスだった。(経済学)
- 世界的に著名なエコノミストによるプログラムは、非常に質の高い内容だった。(経済学)
- 教授の指導は丁寧かつ熱心で、英語力も高く、日本語が話せなくても問題なかった。(経済学)
- 世界各国の学生と交流・議論することで、自分自身の視野を広げることができた。(情報理工)
- 国際的・分野横断的な勉強をしたので、自国の医療問題に取り組むのに役立つ。(医学系)

生活面

- 奨学金情報、寮の空き状況、学外活動等の様々なサポートが得られて、留学生にとって居心地のよい環境を提供してくれた。(情報理工)
- アパートの紹介、賃貸契約、保証に至るまで、入居サポートが素晴らしかった。(情報理工)
- 同じプログラムの学生は奨学金を得ている人が多く、研究・学業に専念しつつ、日本文化・社会にも触れることができた。(公共政策)
- 研究室の設備が充実していた。G30プログラムからPCを貸与されてとても助かった(情報理工)

2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)

英語コースの改善点

教育面

- 学内の研究者との交流や、海外の研究者にもっとG30プログラムに関わってほしい。
- プログラムを構成するクラス(授業)を多様化してほしい。
- リサーチペーパーのチェックやライティングスキル向上のサポートがあるとありがたい。

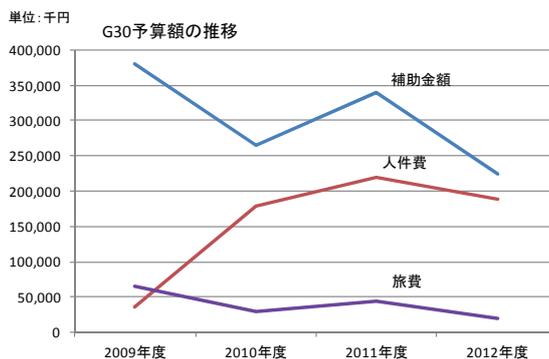
各種支援

- 東京大学による奨学金など、経済面の支援を充実してほしい。
- キャリアプランや就職活動、インターンシップに関するサポートがほしい。
- 教員の英語は流暢だったが、事務、書類、情報発信は日本語がほとんどだった。
- 入学直後、留学生向けのオリエンテーションや開講前の事前セッションがあるとよい。
- 学生の出身国をもっと多様化してほしい。
- 図書館に所蔵する英語の図書・教材を増やしてほしい。
- 日本人学生との交流機会を増やしてほしい。

3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績

- 使用実績は下図の通りである。不足分については、大学経費を充当することにより、活動規模を維持している。



② 内部監査等の実施

- 毎年度、会計監査人による内部監査を実施し、適切な補助金執行を確認。また、四半期毎に部局に執行状況確認表、執行及び計画に係る経費の明細を提出させており、計画的な執行を確認している。

4. 今後の展開

学部教育の総合的改革に関する実施方針

－ワールドクラスの大学教育の実施に向けて－

2015年度末までに以下の諸事項を実施

I 学びの質の向上・量の確保

- ・学生をしっかりと学ばせる仕組みの確立(学習総量の確保、成績評価の厳格化、GPA活用による学習支援、キャップ制の導入、週複数回授業の普及など)
- ・教育方法の改善に対応するFD活動の推進
- ・学びの質を向上し、量を確保する観点からの学事暦の見直し(4ターム化に伴う授業形態の変更など)

II 主体的な学びの促進

- ・点数至上の価値観のリセットを目指した全学的な導入教育の強化
- ・「教え授ける」(ティーチング)から「自ら学ばせる」(ラーニング)への転換を目指した授業の改善(少人数チュートリアル授業の導入、アクティブラーニングの普及など)
- ・学生の主体的な履修を支えるカリキュラムの柔軟化
- ・習熟度別授業など能力・適性に応じた教育の普及・展開(科目ナンバリング制を含む)
- ・eラーニングの積極的な活用による教育方法の改善

4. 今後の展開

III 流動性の向上と学習機会の多様化

- ・多様性に富む学習環境をつくる「グローバル・キャンパス」の実現(英語による授業、外国人教員、PEAK・AIKOM等の国際プログラムや全学交換留学制度の拡充など)
- ・高度なトライリンガル人材を育成する「グローバルリーダー育成プログラム(GLP)」の構築と展開
- ・サービスマーケティングの導入、ならびに「初年次長期自主活動プログラム(FLY Program)」の定着とその成果の普及
- ・サマープログラムの開発等による多様な学習体験の機会の飛躍的な拡充
- ・海外大学等との互換性、学生・教員の国際流動性を高める観点からの学事暦の見直し(タームの分割、夏季休業の拡大など)

PEAK: Programs in English at Komaba

教養学部開設された英語による授業科目のみからなる学位プログラム。平成24年10月から開始。学部段階で初の秋季入学を実施している。

AIKOM: Abroad in Komaba

本学の教養学部と19カ国29大学との間で行われている1年間の交換留学制度。学部学生を海外に送り出すだけでなく、受け入れた海外留学生向けの英語で行われる授業に日本人学生を参加させることで、海外と日本で二重の国際化を図る特色ある取組。

GLP:

国際社会で指導的役割を果たす人材(グローバルリーダー)の育成を目指し、学部学生に高度な語学教育、文理融合した分野横断型教育、海外サマープログラムなどの国際体験の提供を行うプログラムを構築中。

FLY Program:

入学した直後の学生が、自ら申請して1年間の特別休学を取得したうえで、自らの選択に基づき、本学以外の場において、ボランティア活動や就業体験活動、国際交流活動など、長期間にわたる社会体験活動を行い、そのことを通じて自らを成長させる、自己教育のための仕組み。

4. 今後の展開

IV 学士課程としての一体性の強化

- ・大学での学びを俯瞰する全学的な導入教育の強化
- ・学士課程の一貫性の観点に立ったカリキュラムの順次性・体系性の見直し
- ・評価尺度の多元化の観点に立った後期課程進学制度の構築
- ・全学に開放された共通授業科目制度、部局横断型教育プログラムの普及と展開

V 教育制度の大枠の改善

- ・大学での学びを俯瞰する全学的な導入教育の強化
- ・多様な学生構成の実現と学部教育の活性化を目指した推薦入試の導入
- ・社会の変化を踏まえた入学定員の適正な規模・構成の提示
- ・PEAKの充実を図りつつ、秋季入学の環境整備に向けた社会への働きかけ、他大学との連携協力の強化
- ・学部・大学院の一貫的な教育プログラムの研究開発、ならびに優秀な学部学生が大学院レベルの学習にアクセスする機会の拡大

Global30 総括シンポジウム

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

名古屋大学 Nagoya University

取組年表(1)

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
①国際プログラムコースの開設	<ul style="list-style-type: none"> ・開設準備(カリキュラム・コースツリー) ・外国人教員の国際公募 ・Web出願システムの構築&テストラン ・アドミッションオフィスの設置、スタッフの採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム等の確定 ・外国人教員の採用 ・Web出願システムの稼働 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生受入(授業開始) 国際プログラム 学部5コース、 大学院9コース ・Web出願システムの利便性を図るため改良 ・在留資格認定証明書申請システム運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 19名のG30外国人教員採用 ・在留資格認定証明書申請システムの利便性向上のため改修 	<ul style="list-style-type: none"> 文学部・文学研究科国際プログラム(学部・大学院)参画 在留資格認定証明書申請システム本格運用開始(留学生への拡大)
	②リクルート活動	<ul style="list-style-type: none"> ・リクルート活動・留学フェア参加 ・国内外への高校訪問 ・パンフレット類の作成 ・ウズベキスタン海外大学共同利用事務所の開設(22.3.11) ・G30HP開設準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット類の作成、充実 ・ウズベキスタン事務所からの情報発信開始 ・ウズベキスタン留学フェアの開催 ・G30HPIによる情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 優秀な留学生受入れのための、戦略的な活動を実施 優秀な留学生受入れのための、戦略的な活動を実施 留学フェア参加大学の増加、ウズベキスタン事務所スタッフによる周辺国へのリクルート活動を拡大 ・G30HPIによる情報発信、HP内容の充実 	

取組年表(2)

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
③学生受入のための環境整備	・独自奨学金の創設検討	・独自奨学金の創設	・独自奨学金の支給開始			
	・G30プログラム用宿舎の要求	・留学生用宿舎(インターナショナル山手)の運用開始				
	・専門講義に必要な日本語教材の開発(法律・経済・教育・数学など)	・留学生向けカウンセラー等の配置	・留学生向けキャリアアドバイザー・ロケットオフィスの配置	・留学生の企業インターシップを開始	企業担当者によるセミナー、ワークショップの開催	
	・英語参考図書を選定	・英語参考図書の購入	・英語参考図書の購入		英語参考図書の充実	
④キャンパスの国際化など	・規則・規定の英文化を促進	英文化のための「学内情報翻訳データベース(NUTRIAD)」の構築、他大学へ公開				
	・学内サインポールなどの英語化推進		・英語授業のパイロットプログラムの実施(全学生向け)	・英語授業のパイロットプログラムの実施(全学生向け)	・英語授業のパイロットプログラムの充実(担当コマ+担当教員増)	
	・留学生と在校生とのミックスゾーンの設置準備	・事務職員の海外研修の実施	協定校等への職員派遣、部局教務担当者の海外留学フェアへの参加			
		・G30担当教員を米国へ短期派遣しFD研修を実施 ・授業法について海外専門家を招聘しFD研修を実施	・国際アドミッションに関する「国際ワークショップ(SD)」を実施	・東北大学及び筑波大学との連携により教員FD研修を実施		

目次



1. 本事業の成果

- ①特筆すべき成果と波及効果 5
- ②留学生の受入 6
- ③海外大学との連携プログラムの新たな実施 8
- ④大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大 9
- ⑤教育体制の充実 11

2. 取組状況

- ①英語による授業のみで学位が取得できるプログラム 13
- ②国際プログラム群学生の声 14
- ③留学生受入のための環境整備 17
- ④拠点大学の国際化とネットワーク形成 21

3. 経費の使用状況

23

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

24

1. 本事業の成果

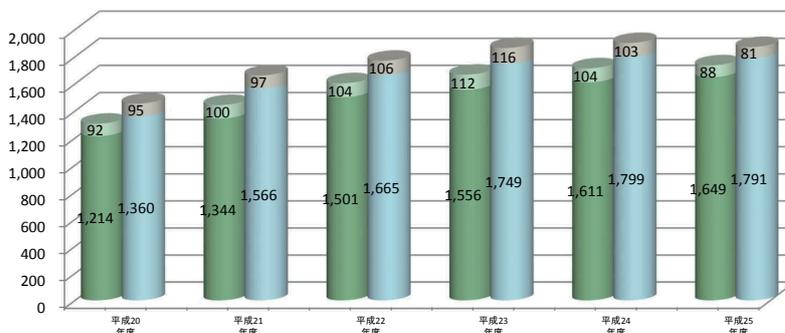
①特筆すべき成果と波及効果

- ・ 受入留学生数、外国人教員の採用数は目標値を上回る実績。
- ・ 英語による授業のみで学位が取得できるプログラム(国際プログラム群)を学部5プログラム・大学院6プログラム開設。今後、さらに英語による学位取得プログラムを拡充予定。
- ・ 英語による授業を担当する優秀な外国人教員(19名)を採用。FDを実施するなど教員の国際化を推進。
- ・ 日本人学生と留学生の啓発交流など、教育面での国際化を進展。
- ・ 海外での学生リクルート活動を積極的に展開し、優秀な留学生を確保。
- ・ Webによる出願システム、英文化のための学内情報翻訳データベース(NUTRIAD)を構築し、他大学に公開。
- ・ ウズベキスタン海外拠点事務所では、ウズベキスタン政府より準外交機関として認定。日本の他大学の情報提供や「日本留学フェア」を開催するなど、積極的な情報発信を行っている。

②留学生の受入

- ・ 留学フェアへの参加、海外リクルート活動を積極的に実施し、留学生の受入を促進。
- ・ G30国際プログラム群の学生リクルートのために、延べ21カ国の高校を訪問。また、ホームページなどによるプログラムの広報活動により、2011年度は、157名(30カ国)の、2012年度は185名(31カ国)の応募があった。
- ・ 留学生数の増加は、本学学生の外国文化理解などの多様性に貢献。

○留学生受入数調べ



平成20年度受入数(5月1日) 1,306人
↓
平成25年度受入数(11月1日) 1,872人
(566人増)

- 在留資格「留学」以外(11月1日現在)
- 在留資格「留学」(11月1日現在)
- 在留資格「留学」以外(5月1日現在)
- 在留資格「留学」(5月1日現在)

○留学生受入数（国別TOP10）

	Country/Region	Number 2011	Country/Region	Number 2012
1	China	936	China	929
2	Korea	163	Korea	172
3	Indonesia	59	Indonesia	64
4	Vietnam	55	Malaysia	52
5	Malaysia	53	Taiwan	49
6	Taiwan	49	Vietnam	47
7	Cambodia	46	Cambodia	45
8	Uzbekistan	36	Uzbekistan	35
9	Bangladesh	26	Bangladesh	32
10	Thailand	23	Philippines	28
-	Others	303	Others	346
Total International Student Enrolment		1,749		1,799

○G30国際プログラム志願者数(国別)

	Country/Region	Number 2011	Country/Region	Number 2012	Country/Region	Number 2013
1	Japan	37	Japan	50	Japan	70
2	Korea	25	Indonesia	25	Korea	24
3	Malaysia	14	USA	15	Indonesia	17
4	Thailand	9	Korea	15	Malaysia	17
5	China	9	China	13	India	15
6	USA	8	Uzbekistan	11	USA	15
7	Uzbekistan	7	India	7	China	10
8	Singapore	5	Taiwan	6	Taiwan	10
9	Mongolia	5	Malaysia	6	Uzbekistan	10
10	Mexico	5	Singapore	5	Vietnam	9
11	Pakistan	4	Thailand	4	Thailand	7
12	India	4	Nepal	3	Singapore	5
13	Taiwan	3	Vietnam	3	Pakistan	4
14	Vietnam	3	Canada	3	Sri Lanka, Nepal, Philippines, Turkey, New Zealand	3
15	Canada	3	Hong Kong	2	Mongolia, Nigeria	2
16	Hong Kong	2	Australia	2	Hong Kong, Bangladesh, Myanmar, Russia, Kyrgyzstan, Canada, Colombia, Argentina, Italy, Czech, Hungary, Latvia, Lithuania, Cameroon, Zambia, Mozambique, Kenya, Egypt	1
17	Australia, Ghana, Indonesia, Iran, UK, Sweden, Spain, Nepal, Kyrgyz, Poland, Nigeria, Zambia, Bangladesh	1	New Zealand, Pakistan, Bangladesh, Mongolia, Israel, Turkey, Uganda, Poland, France, Spain, Poland, Nigeria, etc.	1		

名古屋大学 7/24

③海外大学との連携プログラムの新たな実施



- ・専門性の高いプログラムとして、CAMPAS Asiaプログラムなど「大学の世界展開力強化事業」による単位互換制度の実施。

（ソウル国立大学、浦項工科大学、成均館大学、北京大学、清華大学、南京大学、上海交通大学、ULCA、ミシガン大学など）

- ・ASEAN諸国等との大学間交流として、「ASEAN地域発展のための次世代国際協力リーダー養成プログラム」により、単位互換制度を開始。

（シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、フィリピン大学ロスバニョス校、ガジャ・マダ大学、ホーチミン市法科大学、ハノイ法科大学、王立法経大学）

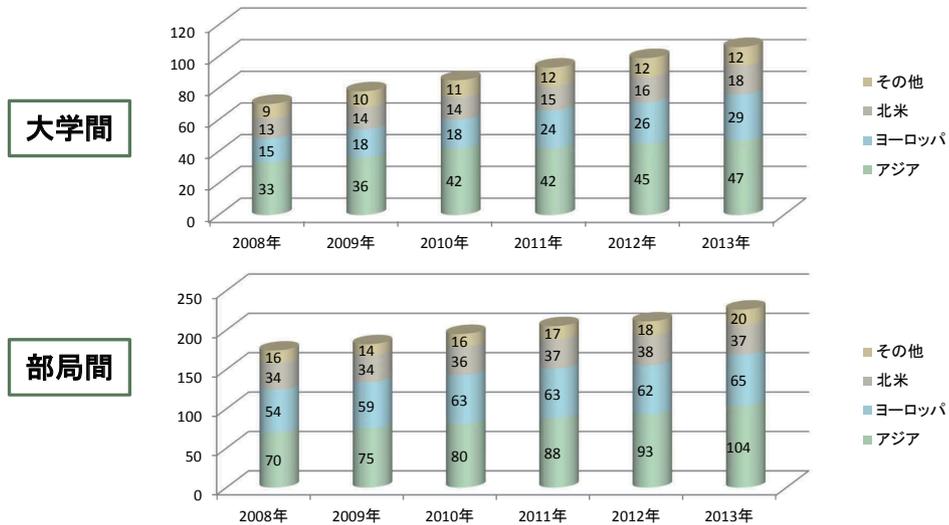


名古屋大学 8/24

④大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

A. 協定の締結数

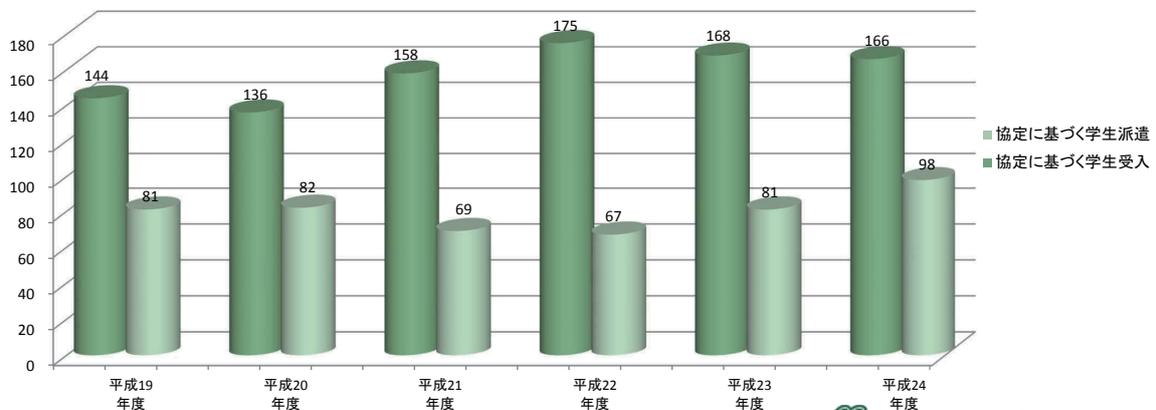
大学間交流協定・部局間交流協定 協定締結数調べ



B. 協定等に基づく学生の受入・派遣

- ・大学間及び部局間交流協定の増加に伴い、協定等に基づく学生の交流数は、毎年100名以上の留学生受入れ、50人以上の学生派遣を行っている。(平成23年9月末時点での累計受入数1000名超)
- ・大学間交流協定校への交換留学生の募集と奨学金との応募を同時に行う制度により、海外留学を促進している。奨学金については、本学独自の留学支援制度もある。

協定による学生受入・派遣数調べ



⑤教育体制の充実

a.外国人教員の雇用

- ・G30では、英語圏を中心に国際公募により教員19名を採用。
- ・2か月にわたる夏季休暇の取得など様々な勤務形態を可能とする規程を整備するなど、外国人教員を採用しやすくする学内体制を整備。
- ・教員ポジションが国際的に魅力あるものであるため、任期は最大10年まで延長可能。特任教員から専任教員への身分異動を可能とするため、各教員が専門分野での研究活動を行うことができる環境を提供。

・外国人教員数 平成16年度 57名 → 平成25年度 97名

(法人化後 40名の増(1.70倍))

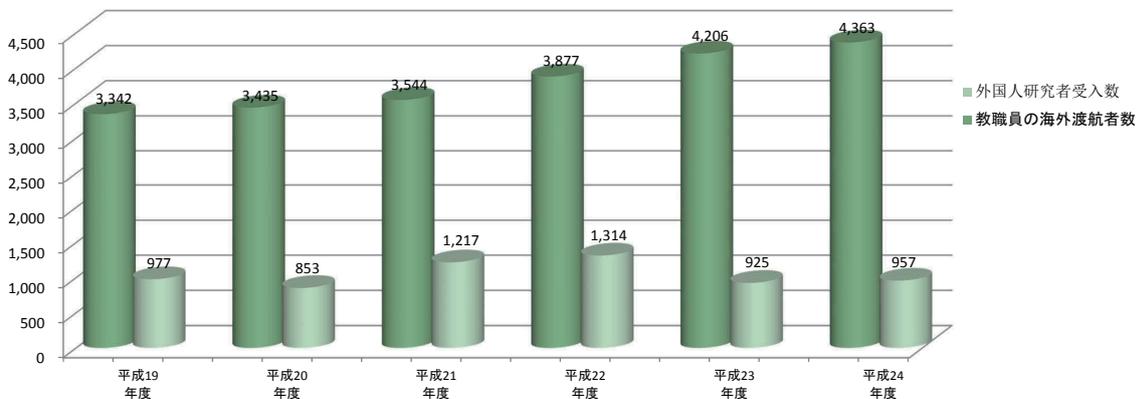


名古屋大学 11/24

b.日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

- ・Campus Asia、G-GOE、日独共同大学院などのプログラムでは、本学の若手教員が、海外の有力大学で集中講義を担当。
- ・本学で学位取得した若手研究者を5年の任期で助教として採用し、期間内に海外で2年程度の研究を行うプログラム(YLC)を実施。

協定による研究者受入・派遣数調べ



名古屋大学 12/24

2. 取組状況

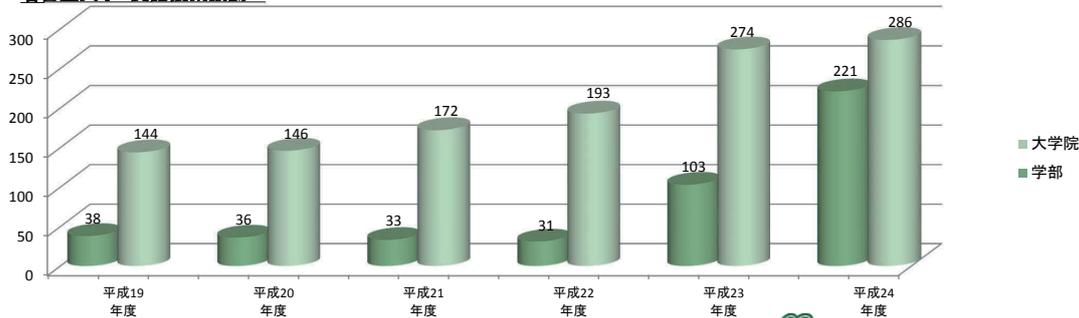


①英語による授業のみで学位が取得できるプログラム

a. 英語プログラムの開設

- ・2011年10月から新たに、学士課程で5プログラム、博士前期課程で5プログラム、博士後期課程で4プログラムを開設し、本事業で計画した学部・大学院すべてで英語による学位取得が可能なプログラムが開講。
- ・G30国際プログラムでは、今後さらに英語による学位取得プログラムを拡充予定。
- ・国際開発研究科は、3専攻のうち2専攻で、ほぼ全ての講義を英語で実施。
- ・学位取得プログラムとして「国際環境人材育成プログラム、ヤング・リーダーズ・プログラム等、国際化に関連する事業で、英語の講義を実施。

名古屋大学 英語授業数調べ



名古屋大学 13/24

②国際プログラム群学生の声



Dilafruz Yakubova (ウズベキスタン)
国際社会科学プログラム
法学部

現在私は、外国人学生が日本での新生活の中で困難に直面した際に手助けや支援をおこなう「ピア・サポート」という活動に参加していますが、その中で、様々な状況への対処法や人々への支援方法における非常に重要な経験をさせてもらっています。私は名古屋大学に来ることができて非常に喜んでいますが、というのも、名大では多くの人との出会いが用意されており、異なる生活や文化、伝統についても、さらに知見を深めることができるからです。まわりは皆、個性あふれる性格と能力を備えた人ばかりで、そのような仲間との交流はとても刺激に満ちており、寛容や相互作用といったものを培う一方、私の世界観を広げてくれています。



Khoo Youn Jian (シンガポール)
自動車工学プログラム
工学部(機械・航空工学科)

自動車といえば、自動車産業の大立者としてトヨタの名を無視することはできないでしょう。名古屋大学G30プログラムに自動車工学分野の学部プログラムがあると知った時、これこそ自分の進む道だとわかりました。実際の日本での生活は僕の期待を軽々と超えるものでした。まだ大学一年の前期だというのに、エンジンを分解し、また組直すなどということを自分でやってみることができるとは！これは名古屋大学だからこそ、そしてトヨタの工場のプロ達の協力があってこそ、実現できることです。日々は挑戦、という中で、この先一日たりとも退屈な日があるとは到底想像できません。もちろん、名大で課される勉強や課題の量は膨大で、決して楽ではありません。しかしそれらをやり遂げて、卒業・就職する時には、自分は十分社会に通用する人間になれるはずだと信じています。

名古屋大学 14/24

b. 学生確保の状況

プログラム名	学部(研究科)名	開設時期	学位	募集人員	入学者数			入学者数 累計
					H23.10	H24.10	H25.10	
自動車工学プログラム	工(機)	2011.10	B	若干名	6	4	3	13
	工(電)	2011.10	B	若干名		5	4	9
物理系プログラム	理	2011.10	B	若干名	2	5	7	14
	工	2011.10	B	若干名	3	3	2	8
化学系プログラム	理	2011.10	B	若干名	5	2	5	12
	工	2011.10	B	若干名	1	6	6	13
生物系プログラム	理	2011.10	B	若干名	6	4	7	17
	農	2011.10	B	若干名	2	7	3	12
国際社会科学プログラム	法	2011.10	B	若干名	6	7	7	20
	経	2011.10	B	若干名	6	7	5	18
物理数理系プログラム	理	2011.10	M	若干名			1	1
		2011.10	D	若干名	1	1	2	4
	多元	2011.10	M	若干名				
化学系プログラム	理	2011.10	D	若干名	1	1		2
		2011.10	M	若干名	1		1	2
	工	2011.10	D	若干名	1	2	2	5
		2011.10	M	若干名			1	1
生物系プログラム	理	2011.10	D	若干名			1	1
		2011.10	M	若干名	2	1	3	6
	生農	2011.10	D	若干名	1	1	1	3
		2011.10	M	若干名				
医学系プログラム	医	2011.10	M	若干名		1	3	4
経済・ビジネス国際プログラム	経	2011.10	D	若干名	4	6	9	19
比較言語文化プログラム	国言	2011.10	M	若干名	4	5	5	14
		2011.10	M	若干名	4	5	3	12

c. 質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

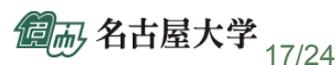
- これまでの成績評価方法の「優・良・可・不可」の4段階評価を改め、平成23年学部入学生から、新たな成績評価基準を定め、「S・A・B・C・F」の5段階評価とし、成績評価方法としてGPA制度を導入。
- 教員のためのワークショップ「英語で教える」など、平成21年から開催し、英語による授業を実施するための研修等を行った。
- 国際プログラム群の効果的な運営及び英語の授業の質的向上を目的として、アメリカで専門的に授業改善プログラムを行っている大学の研修に教員を派遣した(平成21年度オレゴン大学2名、UCLA10名、平成22年度オレゴン大学12名)。
- 日本人学生の英語能力を向上させるため、入学した学部生全員に英語プレイスメント試験としてTOEFL-ITP試験(団体向けTOEFLテストプログラム)及び「英作文力」を見るためのCriterion試験を受験させ、その結果を用いた習熟度別英語クラス編成と対面授業に加え、e-learningを用いた自主学習を必須とするなど、英語能力を確実に向上させるAcademic English教育を実施。
- G30パイロットプログラム「英語による授業を体験してみよう」の実施:日本人学生を対象として、英語を聞く能力と、授業における発言能力を高めること等授業で使う英語能力を鍛えることを目的として、英語による講義の実施。

③留学生受入のための環境整備



a. 留学生に対する支援(就学、生活、経済、就職等)

- ・留学生相談体制:各学部・研究科に留学生担当教員を配置(平成22年4月現在、12部局17名)。全学対応の留学生相談室のメンタルヘルス担当教員の増員。
- ・キャリアディベロップメントオフィスを整備し、留学生センターとともに「留学生就職相談コーナー」を設け、留学生の就職をサポート。
- ・交流支援活動として、ファシリテーター研修(多文化交流の会)、ピア・サポーター研修プログラムを実施。
- ・学内文書の英文化:規程類及び学内文書を英語に翻訳し、本学で開発したデータベース、「名古屋大学学内情報翻訳データベース(NUTRIAD: Nagoya University Translated Information Archiving Database)」に掲載。国際プログラム群学生の受入れ業務担当者をはじめとする本学職員が必要とする文書英文化情報を提供するとともに、各職員が自ら日本語文書を英訳する際の参考として利用可能となる文脈検索機能を提供。
- ・学生用PC(約600台)を日本語及び英語で使用できるようにOSの整備を実施。



- ・名古屋大学基金を財源として、国際プログラム群の学部学生に対する奨学金制度として、G30名古屋大学国際プログラム群学部奨学金を設立。
- ・図書館の「留学生コーナー」を英語参考図書・教材等を充実させることにより、学習環境を向上。
- ・自己資金により、留学生宿舎を平成22年4月に新築(106室)、また平成23年9月に新築(93室)。宿舎には生活アドバイザーを配置して、留学生の生活支援を実施。

b. 日本語・日本文化の学習機会の提供

- ・日本語教員を中心に日本語科目のカリキュラムを充実させ、将来日本での就職を希望する学生に対して教育を提供。
- ・本学で開発・作成してきた日本語教材(DVD版)を、オンライン化しホームページで広く公開したことにより、他大学からのアクセスも可能となった。
- ・日本語、日本文化に関する質の高い学習機会の提供:国際プログラム群学部学生を対象に、必須日本語科目として12単位、週5コマを月曜日から金曜日までの1限に行うように制度設計を行った。



c. 海外拠点の設置と留学生の受入れ促進



海外大学共同利用事務所であるウズベキスタン事務所の他、上海事務所（中国・上海）及びヨーロッパセンター（ドイツ・フライブルク）を設置。

- ・上海事務所（中国・上海）
JSPS北京研究連絡センター主催の留学説明会に積極的に参加するとともに、中国政府国家建設高水平大学公派研究生受け入れに際する本学窓口業務を実施。
- ・ヨーロッパセンター（ドイツ・フライブルク）
G30国際プログラム群の欧州域内における学生リクルート活動をサポート。

☆海外大学共同利用事務所

ウズベキスタン（タシケント）事務所 平成22年3月開設

a. 現地における国内大学に関する広報活動

- ・G30採択校を紹介するパネルを展示し、各大学から提供のあった資料等を閲覧するスペースを設け、情報発信を積極的に実施。
- ・2011.11に現地での留学フェアを、本学を含め6大学により開催し、約1000名の来場があった。
- ・2012.11は、本学を含め9大学により開催し、約1200名の来場があった。
- ・2013.11は、タシケント市・サマルカント市の2都市で留学フェアを開催し、合わせて2,200名を超える来場があった。

 名古屋大学 19/24

- ・事務所副所長が、ウズベキスタン国内12都市でG30説明会を開催し、2870人の参加を得て、ウズベキスタン全国に情報提供。

b. ワンストップサービス

- ・現地常勤職員（副所長）1名、非常勤スタッフ1名の体制により、訪問者への日本留学相談、情報発信を実施。

c. 共同利用の状況

- ・平成23年度は、現地の学生等1600名以上が訪問。（前年度は約900名）
- ・事務所のスペースを利用して、本学及び他大学の入試面接等を実施。



 名古屋大学 20/24

④拠点大学の国際化とネットワーク形成



a.大学の国際化

- ・積極的な海外リクルートを実施。その結果、多様な文化を持つ留学生の入学により、異文化理解も進み、さらに日本人学生の海外留学も後押し。

b.大学間ネットワークの形成(国内大学との連携)

- ・3拠点大学パイロットネットワークによるFD・SD研修の共同実施
(東北大学、筑波大学、名古屋大学)
- ・米国から専門家を招聘し、国際アドミッションに関する各国の各種証明書等の真贋を確認するための「国際ワークショップ」をSD研修として開催。
国・私立大学26校及びJAFSAより76名参加。
- ・東北大学、筑波大学と連携し、国内外から専門家を招聘しG30に関わる教員のFD研修を今年度実施。

c.産業界との連携

- ・自動車工学プログラム・サマープログラムの講師としてトヨタ自動車をはじめ、企業から専門家を講師として招聘し、自動車工学にかかる授業内容に実践的効果を与えることができた。
(講師招聘企業等:トヨタ自動車(株)、(株)豊田中央研究所、日産自動車(株)、三菱自動車工業(株)、三菱電機(株)、(株)デンソー、トヨタ名古屋自動車大学校、中日本自動車短期大学、獨協医科大学 以上9法人)
- ・企業向けG30国際プログラム群を紹介する交流イベントを企画し、11社の参加があり、本学との連携を強化。
(参加企業等:花王(株)、川崎重工(株)、コクヨ(株)、日本電気(株)、パナソニック(株)、東レ(株)、(株)ポッカコーポレーション、楽天(株)、スズキ(株)、タカタ(株)、トヨタ自動車(株) 以上11法人)

 名古屋大学 21/24

d.事務体制の国際化



- ・「事務職員の国際化アクション・プラン2010」の策定
①適応力の向上、②事務組織の整備、③人材育成・人材活用、④ソフト面の充実を柱。
- ・年齢35歳以下の職員にはTOEIC受験を義務付け、英語能力向上の取り組みを推奨。希望者には、語学研修や教材による自己研鑽研修を実施。
- ・事務職員の海外派遣研修を充実。中国・ウズベキスタン・ドイツにある海外拠点を活用した短期研修に年間10名以上を派遣。

e.評価の実施と改善

- ・中間評価結果における指摘事項等への対応状況
日本人学生の参加及び海外への留学の指摘に対して、G30で開講授業への参加や現在進めているキャンパス・アジアなど事業を通して、更に日本人学生の海外留学を促進していく。
- ・外部有識者等による評価の実施と改善
G30のこれまでの取り組みについて、外部有識者を交えた評価を行い、今後の課題及び目標を設定し、適切かつ効果的な事業の実施を図る。

 名古屋大学 22/24

3. 経費の使用状況

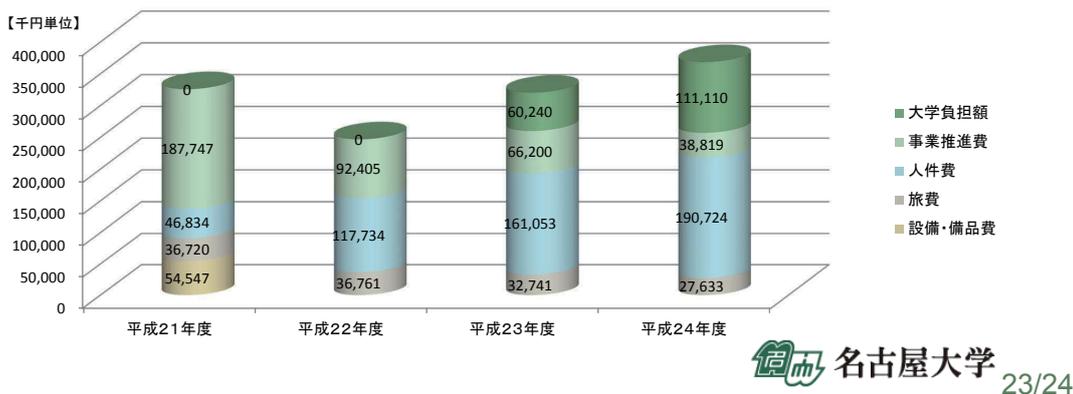


a. 予算額の推移と使用実績

- ・毎年度、G30事業計画を達成できるよう執行計画を策定。平成23年度以降においては、各年度に応じた学内経費(大学負担額)を計上し、事業を実施。

b. 決算額確定の方法

- ・毎年度、補助金の適正な執行を図るため、執行した内容、書類について会計担当部署と確認を行い、決算額を確定し実績報告書を作成している。



4. 今後の課題と事業終了後の見通し



① 今後の課題と展望

- ・ G30の英語科目と一般学生の日本語科目との相互履修の展開。
- ・ 英語科目を日本人学生も受講できる教育体制を整え、一般学生の英語能力の強化に資する。

② 事業終了後(2014～)の見通し

□ 英語プログラムの拡充

- ・ 文学部・文学研究科が新たにG30プログラムへ参画(2014.10受入開始)。
- ・ 自動車工学プログラムを、博士課程前期課程で開設予定(2015.10受入開始予定)。

□ 留学生の受入促進(留学生受入目標→2020年迄に3,000人)

- ・ 事業終了後においても、海外事務所を拠点として積極的なリクルート活動を行い優秀な学生確保に努め、国際プログラムの活性化を図る。

□ 補助金の終了に伴う代替財源の確保

- ・ 事業の継続に必要な人件費、旅費等の学内経費を確保し、G30事業の継続を行う。



グローバル30 総括シンポジウム

京都大学



取り組み年表

★の項目は複数年による取り組み

H21年度(2009)	H22年度(2010)	H23年度(2011)	H24年度(2012)	H25年度(2013)
英語コースの開講				
<ul style="list-style-type: none"> 教員国際公募/職員採用★ 新設カリキュラム策定・準備、教材作成★ 日本人教員の海外研修や招聘外国人教員による講義指導などのFD活動★ 	 <p>▲FD活動の実施</p>	新規コース開講 修士過程:5、 博士課程:4コース	新規コース開講 学士:1、修士:4、博士:6 専門職:1コース	新規コース開講 博士課程:1コース
国際高等教育の設置による学部英語講義増加への取組				
海外大学共同利用事務所 京都大学—ベトナム国家大学ハノイ共同事務所 (VKCO)				
<ul style="list-style-type: none"> 開設に係る現地調査 現地入学試験に向けた調査および広報活動、入試実施、留学フェア開催・参加 	<ul style="list-style-type: none"> 海外事務所の開設 留学説明会の実施 現地入学試験実施 	 <p>▲事務所開所式(2010年9月17日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本留学に関するセミナー、留学説明会等開催★ 日越学長会議で、ベトナムの教育事情について情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 2012年11月 ベトナム(中部地区)での留学説明会・高校訪問 2013年9月 各地留学説明会・高校訪問
広報活動				
<ul style="list-style-type: none"> 国外への情報発信機能及びコンテンツの検討、冊子・HPの作製 	<ul style="list-style-type: none"> 留学フェア開催・参加★ 	<ul style="list-style-type: none"> HPリニューアル 	関西経済連合会、関西経済同友会をはじめとする関西の財界との連携構築	
国内外の大学等との連携強化				
<ul style="list-style-type: none"> 京都大学在外研究教育アドバイザー会議開催 職員国際研修UAWワークショップ開催 	海外派遣プログラム		<ul style="list-style-type: none"> 2011年10月27日「留学生支援に関する産業界との意見交換会」を開催 国際交流に関する危機管理情報の共有化 - G30国際教育指導研究シンポジウム開催 グローバル30関西地区連絡会創設、会議の開催★ 産業界・周辺大学との連携による留学生の就職支援 	<ul style="list-style-type: none"> 京都大学の新たな「国際戦略 2×2020」を策定 全学事務英文化ワーキンググループを立ち上げ 短期交流学生の派遣・受け入れにかかるオンラインシステムの導入 ASEAN諸国の大学とのダブルディグリー制度の整備の拡充
学内体制と環境の整備				
<ul style="list-style-type: none"> 学内文書と集中英文化 G30実施本部整備 規定の整備(通則、関係規程整備) 諮問委員会の発足 学内での遠隔講義機器設置 学生寮の拡充(宿舎の購入) 	<ul style="list-style-type: none"> 入学検定料のクレジットカード決済導入 アドミッション支援オフィス(AAO)の設立 	<ul style="list-style-type: none"> 英訳集CDを制作、国内大学に配布 渡日前入試制度導入へ向けた海外の教育制度調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 吉田国際交流会館の新設 	
自己評価実施				
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価実施★ 	K.U.PROFILE中間評価実施		国際交流推進機構幹事会による継続的レビューと改善★	

京
都
大
学



目次

1. 本事業の成果	
① 特筆すべき成果と波及効果	3
② 英語コースの学生からの評価	5
③ 留学生の受入	9
④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施	10
⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大	12
⑥ 教育体制の充実	14
2. 取組状況	
① 英語による授業のみで学位が取得できるコース	16
② 質の高い教育の提供と教育の質向上への取組	18
③ 留学生受入のための環境整備	19
④ 拠点大学の国際化とネットワーク形成	20
⑤ 海外・産業界への情報発信やネットワークの形成	23
3. 経費の使用状況	
① 予算額の推移と使用実績	24
4. 今後の課題と事業終了後の見通し	
① 今後の課題と展望、②事業終了後(2014～)の見通し	25



1. 本事業の成果

① 特筆すべき成果と波及効果1

成果

■留学生と日本人学生の共学

- ・留学生と日本人学生が共学することによる切磋琢磨の実現

■留学生の着実な増加

- ・グローバル30事業による活動の効果により、アジア以外の地域でも留学希望者が増加し、留学生数が着実に増加
 - ✓ 受験や履修に必要な情報の英文化が促進された。
 - ✓ より広い範囲で広報活動を行う機会が増えた。
 - ✓ あらかじめ日本語を習得しなくても、入学できるコースができた。

■教員の国際性の向上

- ・英語による授業を担当することで、若手教員の国際性が向上
- ・様々なFD活動やワークショップを行ったことにより、学内でのFD活動のモデルケースに。

■大学の教育国際化への貴重なステップ

- ・グローバル30をベースにダブルディグリーコースや学部の英語での講義増加が可能に





1. 本事業の成果

① 特筆すべき成果と波及効果

波及効果

■日本人学生への波及効果

英語による授業の増加

- 全学の英語による授業の開講数が増加
- 2013年からは学部での英語講義を増やす試みが国際高等教育院設置により開始
- 外国人教員が英語指導を行った結果、英語でのプレゼン能力が格段に向上

留学生との交流によるコミュニケーション能力の向上

- 学部は共学クラスとしたことにより、留学生と日本人学生が、クラスメイトとして日常的に交流
- 英語での研究発表や討論に積極的に
- 英語のディベートを取り入れるなど、授業の進め方に変化
- 日本人学生と留学生が参加するワークショップの定期開催で英語ディベート力が向上
- 学生自身によるシンポジウムの開催

日本人学生への刺激

- 留学生の真剣に勉強する姿が日本人学生への良い刺激に



▲ 量長類研究所：学生主導でのワークショップ



5



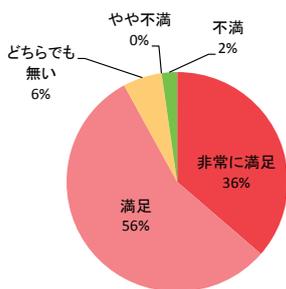
1. 本事業の成果

② 英語コースの学生からの評価

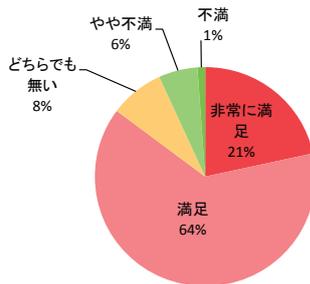
外国人留学生からの評価

グローバル30の留学生に聞きました。

1. 日本留学への全体的な印象は？



2. 教育の内容・質に満足していますか？



Q. 日本に来た理由は？

- 京都大学の教育のレベルが高いから。
- 奨学金がもらえた事と、日本の教育の質が良いから。
- 日本や、日本の文化が好きだから。
- 研究の自由があるから。
- 日本で研究環境やネットワーク広げたいと思ったから。



6

Lee Engming さん
(マレーシア)平成23年度
工学研究科
環境基盤マネジメント
国際コース入学

世界でトップクラスの大学で才能のある、素晴らしい人たちに囲まれながら学ぶ事ができて、本当に嬉しいです。

毎日、学業の面でも刺激的な環境なので、皆が研究に打ち込む事が出来ます。

ラボでの研究はとても忙しいですが、学生たちは勉強ばかりではなく、キャンパス内でバスケをしたりして楽しむなど、リラックスすることも忘れていません。

キャンパス内では様々な国や異なるバックグラウンドをもった学生たちに出会う事が出来るので、それも京都大学の魅力の一つだと思います。

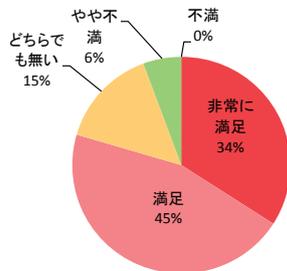


1. 本事業の成果

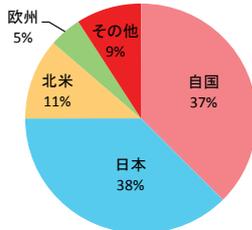
② 英語コースの学生からの評価 外国人留学生からの評価

グローバル30の留学生に聞きました。

3. 教員の英語力は十分ですか？



4. 卒業後はどこで仕事をしたいですか？



Derek LIN さん
(台湾)

平成23年度

経営管理大学院
国際プロジェクトマネージメント
コース入学

この国際プロジェクトマネージメントコースに入るまで、6年間ソフトウェア産業界で働いたのですが、今までの知識では足りないと思い、京都大学の国際プロジェクトマネージメントコースで学びたいと思いました。このコースで学んで、知識を高めることができると確信しています。

京都大学を卒業後は、日本で管理職を探そうと思っています。今までの経験を活かして自分の価値や、可能性を見いだせるような仕事をしたいと思っています。

これからも京都での生活や、勉強を通して得られる経験を楽しみたいと思っています。

Q. 卒業後の希望を教えてください。

- ・奨学金がもらえたら、このまま博士課程へ進学したい。
- ・できれば日本で就職して、その後、母国へ戻りたい。
- ・日本で就職して、経験を積みたい。将来は日本と母国の交流の懸け橋になりたいと考えている。
- ・卒業後は帰国する予定だが、京都大学と繋がりを持っていたい。
- ・ポスドクとして日本に、できれば京都大学に残りたい。

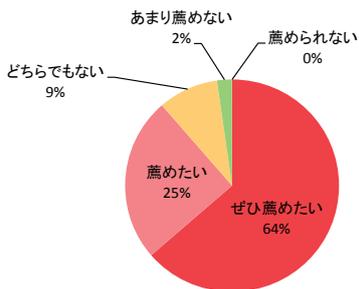


1. 本事業の成果

② 英語コースの学生からの評価 外国人留学生からの評価

グローバル30の留学生に聞きました。

5. 自国の学生に京都大学を薦めたいですか？



何か生活面でのサポートは必要ですか？

- ・特に問題はありませぬ。大学のサポートはかなり得られていて、ありがたい。
- ・学内の情報発信を充実・工夫してほしい。
- ・寮が近いと嬉しい。
- ・奨学金が得られているので、特にサポートは必要ではない。

Q. 研究環境で改善点はありますか

- ・研究環境は素晴らしいと思います。先生もとても熱心に指導して下さい。
- ・京都大学の研究環境は概ね良いと思います。日本人の学生も英語でもっとコミュニケーションが取ればより良いと思う。
- ・生徒と先生、また他のラボとの交流がもっと増えるとより良いと思う。

その他学生の声

- ・私は日本語は上手くないので、G30のコースが無かったら京都大学で勉強する事が出来なかつたらと思う。
- ・日本人の学生や研究者ともっと積極的に交流を持ちたい。
- ・研修者の中でも余り英語が得意でない研究者がおり、コミュニケーションが取りにくい。
- ・英語だけでなく、他言語のセミナーやクラスが開かれるようにすると、より、京都大学の国際化に役立つと思う。





1. 本事業の成果

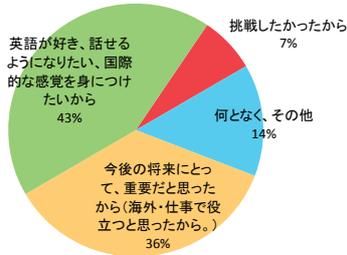
② 英語コースの学生からの評価

(工学部:「国際コース」日本人学生からの評価)

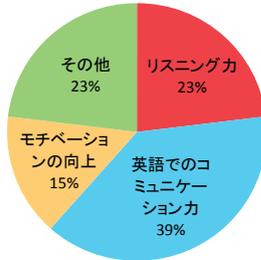
工学部「国際コース」に在籍する日本人学生に聞きました。

学生インタビュー

Q1. 「国際コース」を選んだ理由は？



Q2. 入学時と比べて、最も向上したと思われる点は？



清水裕真さん
(日本)



平成23年度入学
工学部
地球工学科国際コース

この国際コースに入学して、語学力の向上はもちろん、新しい価値観や考え方を得ることができ、明確な目標をもって勉学に励むことができました。

コースの授業は全てが英語。元々英語は苦手だったということもあり、初めのうちは授業についていけず何一つ理解できないまま授業が終わってしまった、などということも多々ありました。しかし先生方はどんな雑拙な質問にも丁寧に対応して下さいました。今では英語講義にもだいぶ慣れ、授業だけでもなんとかついていけるようになりました。

そして何より素晴らしいのはクラス全体の雰囲気だと思います。留学生たちと共に学ぶことに加え、日本人学生も海外に興味を持つ積極的な人たちが入学してきます。彼らと共に学ぶことは、自分の世界を広げ未来へのきっかけを掴むことに大いに役立ちました。

入学時まで夢も持たず、ただ何となく過ごしてきた私に変わるきっかけくれたのは間違いなくこの国際コースです。これから先、私はここで学んだ知識と経験を基に、結果的に世界に有益になる研究をする研究者になりたいと思います。

Q. 国際コースを選んだ理由は？

- 英語で授業を受けられるから。挑戦してみたかったから
- 英語能力を高め、国際人の考え方を身につけるため
- 英語で専門を学んでおけば海外で働く時に役立つと思ったから
- これからの時代を見据えて

Q2. 入学時と比べて、最も向上したと思われる点は？

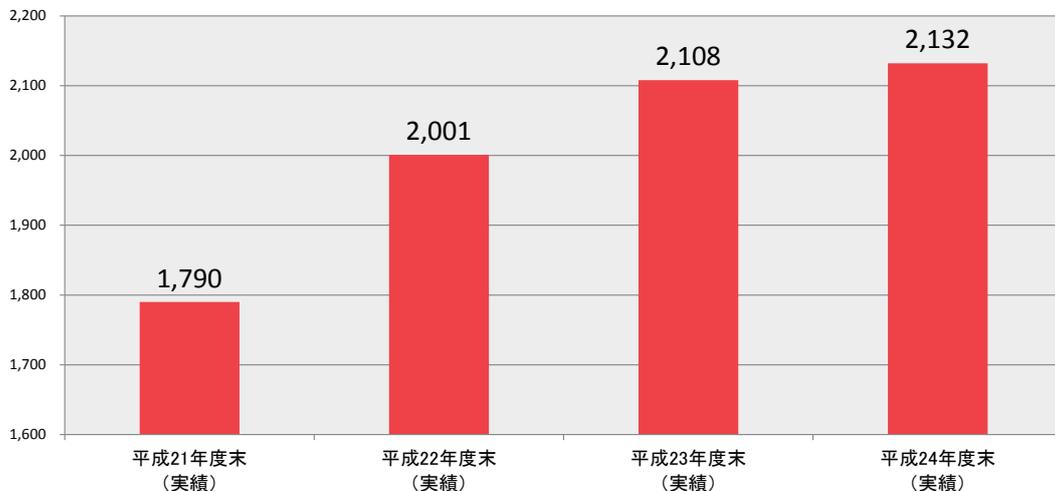
- 自己成長に関する意欲の向上
- 英語で授業を受ける際の現実的な壁を感じた。
- 人生における問題力解決能力の向上
- 英語でのコミュニケーション及び主張
- 英語を使ってどうにかコミュニケーションをしようとする姿勢が身に付いた。



1. 本事業の成果

③ 留学生の受入

- G30英語コースが開設された平成22年度(2010)、平成23年度(2011年)における留学生数は、例年に比べ大きく上昇している。
- 2012年もさらに留学生は増加した。





1. 本事業の成果

④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施1

海外大学等との連携プログラムの新たな実施

■ ジョンワプログラムによる取組

- ・オックスフォード大学特別サマースクールプログラム(2013.8)：学部生および大学院生計33名を派遣。
- ・ケンブリッジ大学学位取得型 博士課程学生1名を派遣(2013.9-2014.8)
- ・ケンブリッジ大学短期研究型(2013.8-9) 修士課程学生3名派遣
- ・オックスフォード大学/ケンブリッジ大学 短期研究型(2014.1-3) 博士課程学生6名派遣



▲ ジョンワプログラムの様子

■ 世界展開力事業による学生交流プログラムやダブルディグリー プログラムの開発

- ・ サマープログラム(修士課程)を実施(2012.9)。学生15名を受け入れ/学生15名、教員1名を派遣。

■ 日独6大学間コンソーシアムHeKKSaGOnIによる取組

- ・ サマープログラム(博士課程)を実施(2012.9)。学生5名と教員3名(講師)が参加。
- ・ The Baden-Württemberg-STIPENDIUM plus' program: 博士学生短期派遣プログラム(9ヶ月以内)。2012年度1名を5ヶ月派遣。

■ RENKEIプログラム

日英 加盟大学11大学から、博士後期課程学生とポスドクが2名ずつ参加するプログラム。

前半は7月の中旬頃、英国のプリストル大学で二週間開催し、本学より2名を派遣。後半は12月2日～13日の2週間ウインタースクールを本学国際交流推進機構が主催、リーディング大学院プログラム共催という形で開催。(参加者22名で、引率者3名)

■ 北京大学サマースクール

国際交流推進機構主催、京都府の「留学生きょう都来(トライ)事業」及び本学の「東アジア圏学生交流推進プログラム」、アジア研究教育ユニットが連携の下、行われた短期留学プログラム。交流協定校である北京大学が選抜した14名の学生を国際交流推進機構の短期交流学生として受入れ(平成25年8月19日(月)～8月27日(金))



11



1. 本事業の成果

④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施2

■ Kyoto-DC Global Leadership Program

本学卒業生(工77年卒、工学博士)S&R Technology Holdings, LLC社長、Sucampo Pharmaceuticals, Inc.共同創設者・CEOとSucampo Pharmaceuticals, Inc.共同創設者・CEOのご支援により、将来国際的な活躍を目指す本学大学院生または学部生(3回生以上)を対象とする国際機関での研修プログラム。H25年度の参加者は10名、引率先生1名。

■ 日米研究インスティテュート(USJI)によるプログラム

1. "Building the TOMODACHI Generation"(略称BTG)
2. The Center for the Study of the Presidency and Congress2013-2014 Presidential Fellows Program(略称CSPC)

■ 超短期プログラム

- ・ カリフォルニア大学 デービス校での実習型・夏季短期留学プログラム(参加学生数 2011年度 22名、2012年度 34名)
- ・ オーストラリア英語研修プログラムを開催(参加学生2011年度 62名、2012年度 59名)
- ・ シドニー大学:「文系・異文化英語研修プログラム」
- ・ ニューサウスウェールズ大学:「理系・サイエンス英語研修プログラム」

■ 大学間学生交流協定による本学学生向けの学費免除型「東アジア超短期留学プログラム」の実施

香港中文大学(英語)サマースクール、香港中文大学(中国語)サマースクール、韓国・慶北大学サマースクール、中国・西安交通大学サマースクール、台湾・国立清華大学スプリングスクール、中国・浙江大学スプリングスクールのプログラムを実施。



▲ 国立台湾大学サマースクールの様子



12



1. 本事業の成果

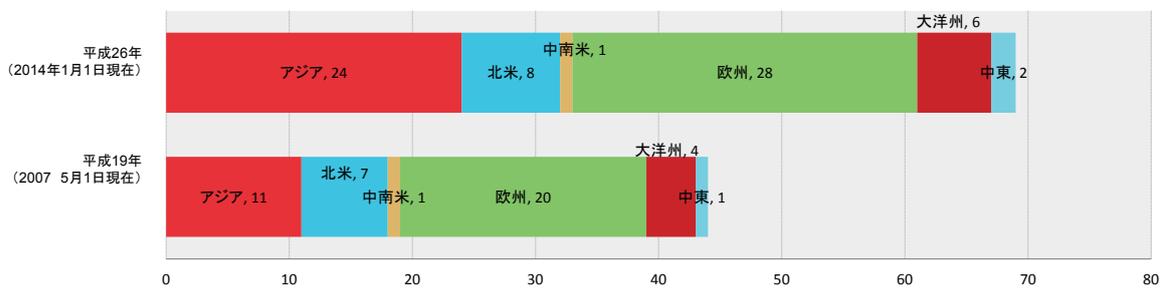
⑤ 大学間交流協定に基づく 交換留学の拡大1

大学間交流協定に基づく交換留学の拡大

協定の締結数

大学間学生交流協定は、平成19年(5月1日現在)で41大学・3大学群であったものが、平成26年(1月1日現在)には67大学・2大学群と大幅に増加した。これに伴い、交換留学の受入・派遣実績は着実に伸びている。

大学間 学生交流協定の締結数

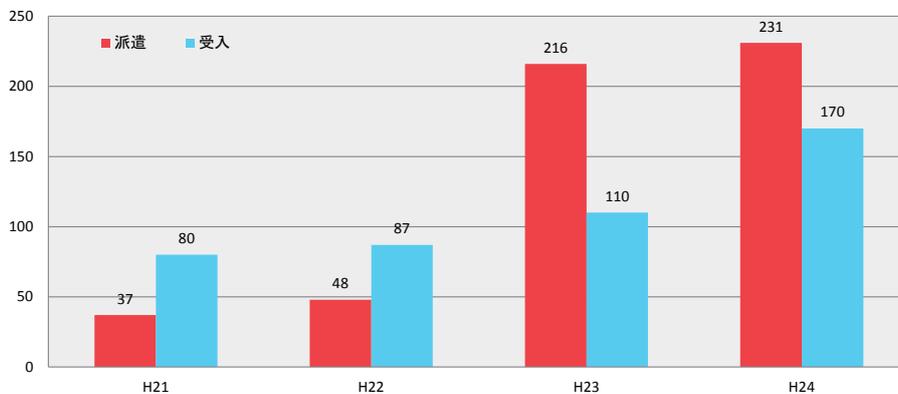


1. 本事業の成果

⑤ 大学間交流協定に基づく 交換留学の拡大2

大学間交流協定に基づく交換留学における派遣／受入人数

- ・ 2011年度は、東日本大震災の影響により、交換留学の受入実績が一時的に減少。派遣実績は、これに関係なく着実に伸びている。
- ・ 学生の多様なニーズに応えるよう、世界の有力大学との学生交流協定の締結を進めている。





1. 本事業の成果

⑥ 教育体制の充実

教育体制の充実

■ 外国人教員の雇用

- ・ 英語コースの授業を開講するため、外国人教員の雇用を推進し、平成23年度の実績では構想時の目標を上回っている。
- ・ 補助金で雇用した者の事業終了後の措置については、必要な人員の確保について、学内で対応の検討を行っている。

事項	計画時	平成21年度末 (実績)	平成22年度末 (実績)	平成23年度末 (実績)	平成24年度末 (実績)	平成25年度末 (実績)	平成32年度末 (実績)
外国人教員数(C)	160	167	234	242	259		-
全教員数(D)	3,186	3,117	3,384	3,458	3,476	-	-
外国人教員比率 (C/D)	5.0%	5.4%	6.9%	7.0%	7.5%	-	-

事項	計画時	平成21年度 [構想時の目標]	平成22年度 [構想時の目標]	平成23年度 [構想時の目標]	平成24年度 [構想時の目標]	平成25年度 [構想時の目標]	平成32年度 [構想時の目標]
外国人教員数(C)	160	-	170	-	-	220	320
全教員数(D)	3,186	-	3,200	-	-	3,200	3,200
外国人教員比率 (C/D)	5.0%	-	5.3%	-	-	-	10%



京
都
大
学



1. 本事業の成果

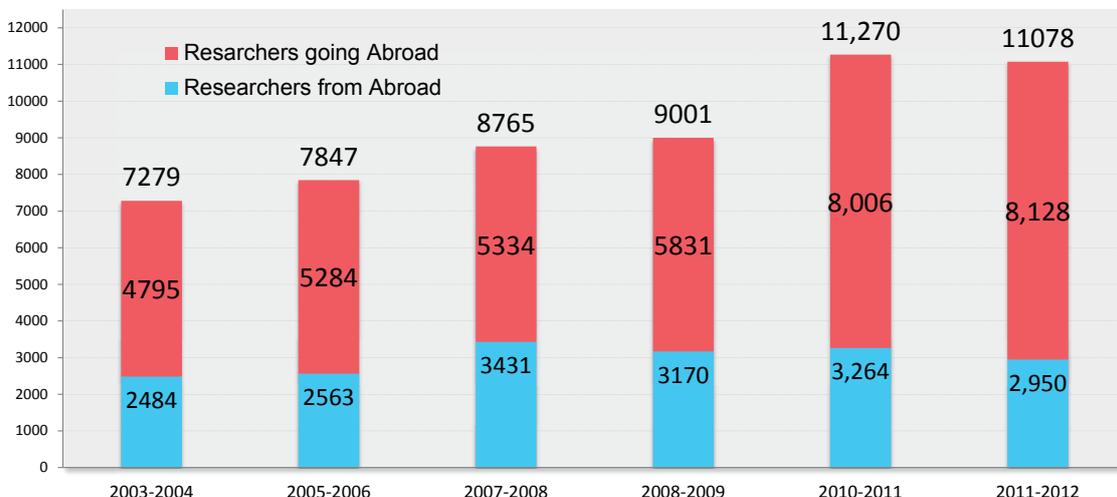
⑥ 教育体制の充実

日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

研究者交流の状況

海外へ派遣する研究者は年々伸びを見せているが、海外からの研究者受入が僅かに減少に転じている。

研究者交流の組織的な促進を目標に、海外提携大学と全学レベルの大規模シンポジウム(「京都大学の日:ブリストル大学」など)を順次開催している



(英文概要 Facts and Figures)

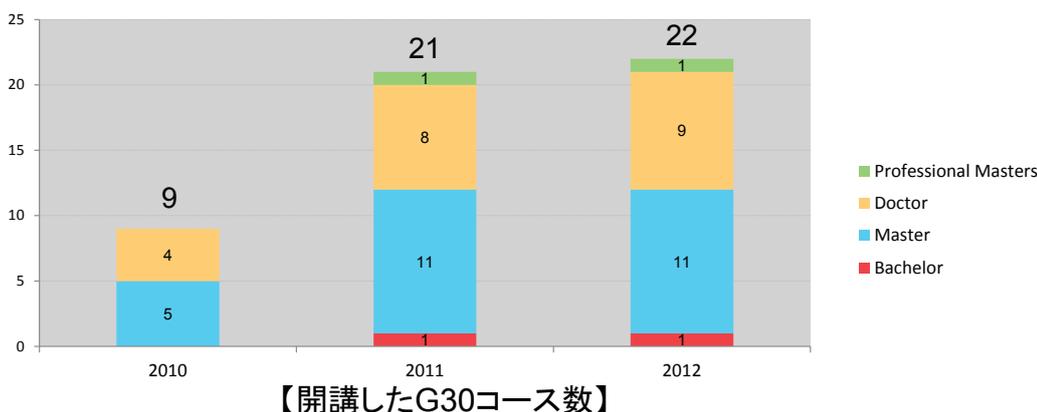


2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース1

英語コースの開設

- 2010年4月の農学研究科の修士・博士課程コース開講を皮切りに、この年に9コースが開講された。
- 2012年10月、エネルギー科学研究科の博士課程コースが開講し、本事業で計画した英語による学位コースが全て予定通り開講された。



2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース2

学生確保の状況

単位:人 B:学士、M:修士、D:博士

英語コースの名称	研究科等の名称	開設予定年月日	学位	平成22年10月1日現在		平成23年4月1日現在		平成23年10月1日現在		平成24年4月1日現在		平成24年10月1日現在		平成25年4月1日現在		平成25年10月1日現在							
				在籍学生数(人)		在籍学生数(人)		在籍学生数(人)		在籍学生数(人)		在籍学生数(人)		在籍学生数(人)		在籍学生数(人)							
				うち日本人	うち留学生	うち日本人	うち留学生	うち日本人	うち留学生	うち日本人	うち留学生	うち日本人	うち留学生	うち日本人	うち留学生	うち日本人	うち留学生						
地球工学科国際コース	工学部	H 23年4月1日	B	-	-	14	10	4	14	10	4	27	16	11	27	16	11	47	22	25	47	22	25
環境基盤マネジメント国際コース	工学研究科	H 23年4月1日	M	-	-	3	0	3	3	0	3	7	0	7	7	0	7	5	0	5	5	0	5
都市地域開発国際コース		H 23年4月1日	M	-	-	2	0	2	2	0	2	8	0	8	8	0	8	10	0	10	10	0	10
農学特別コース	農学研究科	H 22年4月1日	M	8	0	8	15	0	15	21	0	21	22	0	22	19	0	19	16	0	16	16	0
		H 22年4月1日	D	15	0	15	19	0	19	22	0	22	26	0	26	30	0	30	30	0	30	0	30
国際エネルギー科学コース	エネルギー科学研究科	H 22年10月1日	M	4	0	4	6	0	6	9	0	9	8	0	8	10	0	10	9	0	9	10	0
		H 24年10月1日	D	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3	0	3	6	0	6
社会情報学国際コース	情報学研究科	H 22年10月1日	M	2	0	2	9	2	7	10	2	8	15	3	12	16	3	13	15	2	13	15	2
		H 22年10月1日	D	0	0	0	2	0	2	3	0	3	4	0	4	5	0	5	5	0	5	7	0
知能情報学国際コース	情報学研究科	H 22年10月1日	M	2	0	2	13	2	11	14	2	12	30	7	23	27	6	21	24	10	14	24	10
通信情報システム国際コース		H 22年10月1日	D	0	0	0	4	0	4	4	0	4	6	0	6	8	0	8	8	0	8	8	0
	H 22年10月1日	M	1	0	1	7	4	3	10	4	6	13	4	9	14	4	10	16	4	12	18	8	
H 22年10月1日	D	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	0	2	2	0	2	2	0	2	3	0	3	0
Global frontier in life science	医学研究科	H 23年4月1日	M	-	-	-	1	0	1	1	0	1	4	0	4	4	0	4	6	0	6	6	0
	生命科学研究所	H 23年10月1日	M	-	-	-	-	-	-	3	0	3	5	0	5	9	0	9	9	1	8	12	1
国際環境マネジメントコース	地球環境学舎	H 23年4月1日	D	-	-	-	25	0	25	30	0	30	47	0	47	47	0	47	63	0	63	65	0
		H 23年4月1日	M	-	-	-	11	0	11	11	0	11	14	0	14	14	0	14	14	0	14	14	0
H 22年10月1日	D	4	0	4	8	0	8	8	0	8	11	0	11	12	0	12	13	0	13	12	0		
国際霊長類学・野生動物コース	理学研究科(霊長類研究所)	H 23年4月1日	M	-	-	-	3	0	3	4	0	4	4	0	4	5	0	5	2	0	2	1	0
		H 23年4月1日	D	-	-	-	0	0	0	1	0	1	1	0	1	3	0	3	6	0	6	8	0
国際プロジェクトマネジメントコース	経営管理大学院	H 23年4月1日	P	-	-	-	7	0	7	7	0	7	18	1	17	18	1	17	24	4	20	24	4



2. 取組状況

② 教育の質向上への取組

教育の質向上への取組

■ 国際高等教育院を核とするFD活動

- ・ 質の高い授業を提供するため、世界各地の大学から国際化を担当している教員を招聘し、留学生の受入れや多様な国籍の学生に対する授業法などについて、情報収集・意見交換を行っている。
- ・ OCWによる英語講義の公開
- ・ 外国人教員による模範授業の開催
- ・ 外国人教員による英語講義の授業評価を実施

■ カリキュラム編成

- ・ 通常の科目とほぼ同一のカリキュラム構成としているのに加え、その専門分野における国際的な視点を養う科目を、新規に開講している。
- ・ 基礎科目、専門科目、実務科目、発展科目を段階的に履修することで、高度な専門性が養われるよう配慮している。

■ 教育の質の確保・向上

- ・ 新たに雇用した外国人教員だけでなく、通常科目を担当する専任教員も英語による授業を担当する体制を構築している。
- ・ 学期ごとに、学生による授業アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしている。



19



2. 取組状況

③ 留学生受入のための環境整備

留学生受入のための環境整備

■ 留学生に対する支援(就学、生活、経済、就職等)

- ・ 海外で入試を受ける志願者の利便性を向上させるため、検定料の納入がクレジットカードで行える仕組みを導入。
- ・ 学部のG30英語コース入学者に対して、入学料と同額の奨学金(282千円)を給付
- ・ 私費留学生として入学したG30英語コース入学者に対して、学部生では初年次と2年次、大学院生では初年次の授業料免除を実施。
- ・ 新たな国際交流宿舎として、国際交流会館みささぎ分館をJASSOより購入、76室を確保。
- ・ 吉田国際交流会館を新たに吉田キャンパス内に建設、留学生用に47室を確保。
- ・ URなどの地方公共団地と提携し、宿舎を確保
- ・ 就職支援として、近隣の大学と共同で留学生の工場見学やジョブフェアを実施

■ 日本語・日本文化の学習機会の提供

- ・ 国際交流センターが、初級から上級まで、レベル別の日本語授業を90コマ/週以上提供しているほか、ビジネス日本語の授業も開講。
- ・ 遠隔システムを利用したキャンパス間の授業の提供にも対応し、日本語教育の幅を広げた。

■ アドミッション支援オフィス

- ・ 東アジア圏からの優秀な学生獲得のためにアドミッション支援オフィスを立ち上げ、円滑な学生選考の支援として学歴検証を実施。
- ・ 海外大学入試試験制度に関わる調査、資料収集を行い、報告書をまとめた。



▲ みささぎ国際交流会館の購入



▲ 吉田国際交流会館の建設



▲ 工場見学の様子



20



2. 取組状況

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

④ 拠点大学の国際化とネットワーク形成1

海外大学共同利用事務所の取組1

■ ベトナム人学生に対する日本留学情報の提供、留学説明会の開催

- 日本留学に興味のある学生に対する留学説明会開催・参加
- 留学関連の本や資料などをベトナム語翻訳・編集・出版、ウェブページ公開

▼ 留学説明会の開催



▼ 日本の大学についての資料・情報検索環境を提供

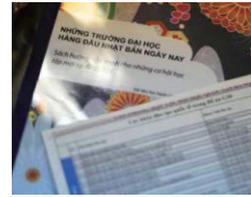


▼ ワンストップサービス: 留学相談

▼ 日本の大学の情報をベトナム語に翻訳

■ 日本の大学の留学生募集活動支援

- 日本の大学のベトナム人留学生募集活動支援(インタビュー実施など)
- 現地高校・大学訪問による広報活動、ベトナムの高校、大学へ訪問広報活動支援



▼ ベトナム語・ベトナム文化についての講義

■ SEND事業による現地大学との交流

- 「短期SENDプログラム」の一環として、ベトナム国家大学ハノイでサマースクールを実施



21



2. 取組状況

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

④ 拠点大学の国際化とネットワーク形成2

海外大学共同利用事務所の取組2

■ ベトナムの教育機関との関係強化を図る取り組み

• G30日本セミナーの開催

ベトナム中央および地方教育行政機関・高校・大学関係者との連携強化



▲ G30日本教育セミナー 2012

• 各地方の教育訓練局を訪問

日本留学に関する広報活動への協力依頼・理解促進



▲ 大学や職業訓練学校などとの意見交換

• VKCO運営委員会の開催

ベトナム国家大学ハノイと京都大学の関係者によるVKCO運営委員会をテレビ会議で年に2回程度開催



▲ VKCO運営委員会遠隔会議



22



2. 取組状況

④ 拠点大学の国際化とネットワーク形成3

■ 事務体制の国際化

学内文書英文化の共有

留学生及び外国人教員のために学内文書及び有用な生活関連情報の英文化を実施、成果物をファイル3冊にまとめ、全学に配布。

- ・ 成果物をCDで作成し、G30採択大学及び関西地区周辺の153大学に配布、成果を共有。
- ・ 学内文書等英文化検討ワーキングを立ち上げ、更なる学内英文化の推進。
- ・ 学内学習システムの英文化実施



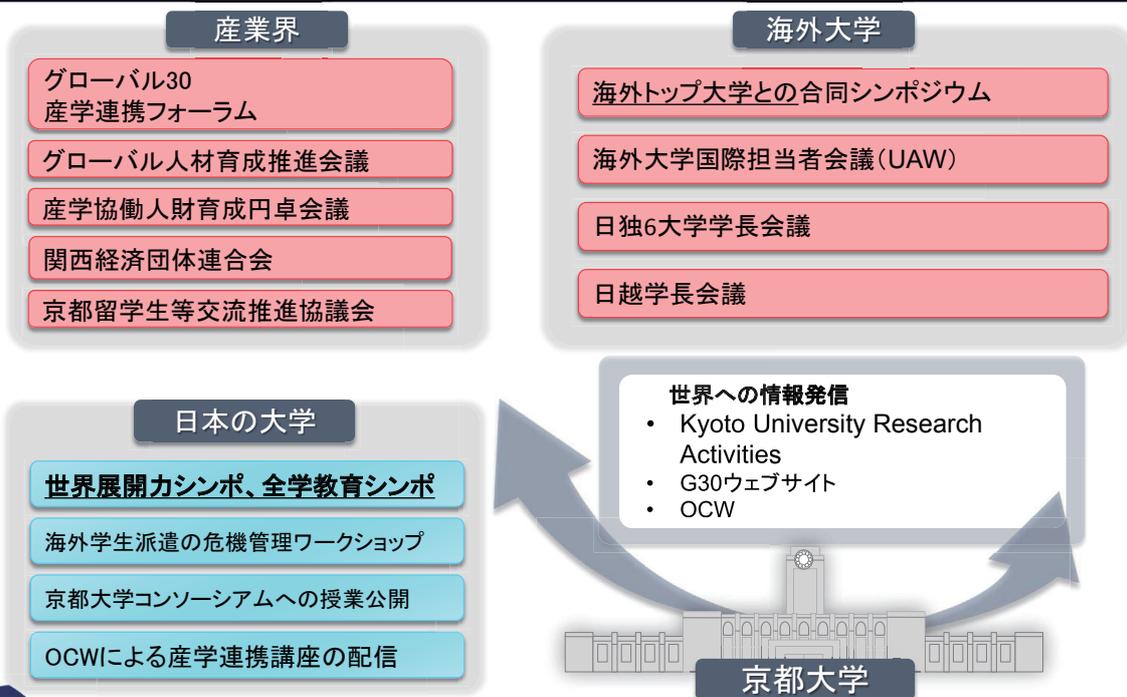
ユニバーシティアドミニストレータ・ワークショップの開催(職員の国際化)

- ・ 日本国内の主要大学とアジアの主要大学間の実務担当者が意見交換し、交流を活発にし、国際活動の質を高めることを目的とするワークショップを毎年互りに開催



2. 取組状況

⑤ 海外・産業界への情報発信やネットワークの形成



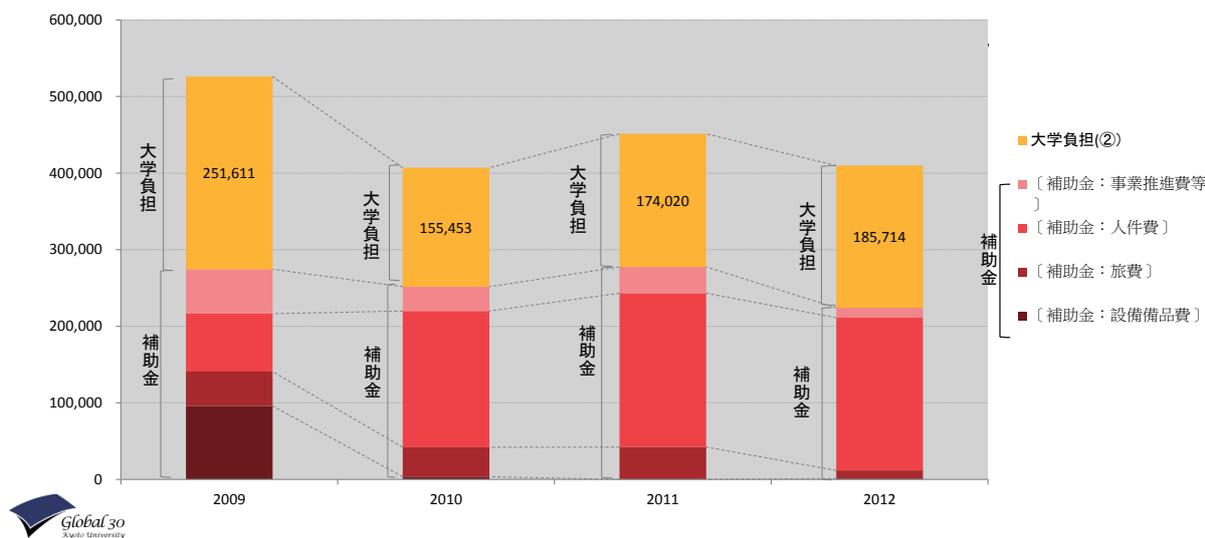


3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績

予算額の推移と使用実績

・毎年度の業務維持のため、学内経費(大学負担額)に、英語コース担当教職員の雇用費、英語コースにかかるTA経費、学部入学者の修学支援金等を計上している。また英語コースの学生のための授業料免除枠を、通常の授業料減免とは別に措置している。



25



今後の課題と事業終了後の見通し

国際関係指標の倍増へ: “Double by 2020”を策定

京都大学の新たな国際戦略: Double by 2020

✓ 学生の海外留学者数の増加

「ジョン万プログラム」をはじめとする多様な留学プログラム(短期留学を含む)を実施。中長期留学で600人、短期留学で1,000人を目指す。

✓ 国際社会に通用する英語能力の強化

学部卒業時までTOEFL iBTで80点以上(IELTSの場合は6.0点以上)を達成する学生の比率50%を目指す。

✓ 国際インターンシップを通じたグローバルなキャリアパスの形成

国内外の研究機関や企業と連携しながら、中長期にわたる国際的なインターンシップを一層進める。

✓ より多くの国・地域からの留学生受け入れ

学位取得・コース認定型の留学生数 4,000人、受け入れ交換留学生数300人を目指す。

✓ 全学共通科目・専門科目の英語による講義の充実

教育の国際化を一層加速し、留学生と日本人学生がともに学べる機会を増やすため、全学共通科目・専門科目について英語による講義の実施率30%を目指す。

✓ 教育現場におけるICTの積極的な活用

学術交流協定校との遠隔講義システムによる講義等、ICTを活用した教育を推進。

✓ 系統講義「京都で学ぶ日本学・アジア学」の開設

2

by 2020



26



今後の課題と事業終了後の見通し

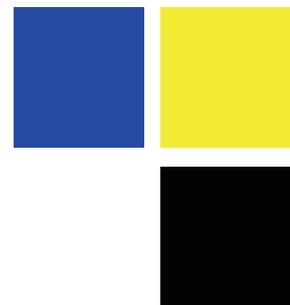
国際化への将来構想：京都大学グローバルアカデミー（仮称）構想

1. 学部段階からグローバルに活躍できる人材を育てるとともに、質の高い国際共同研究を拡充する。
2. 日本の中長期にわたる成長をけん引する分野を中心に、**研究と教育両面における海外大学との連携・強力関係を図る。**





グローバル30 総括シンポジウム



大阪大学

取組年表

- | | |
|---|--|
| <p>2009年 7月 国際化拠点整備事業(グローバル30)採択
 8月 学部英語コース、大学院英語コース設置準備
 10月 学内にG30企画調整委員会・G30推進協議会設置
 10月 サポートオフィスの整備・充実</p> | <p>・ワンストップサービスとしてのビザ取得支援や宿舍等住居斡旋支援の充実
 ・受入教員の事務負担の軽減</p> |
| <p>2010年 8月 インターナショナルカレッジ設置
 10月 化学・生物学複合メジャーコース(学部)開講
 10月 国際物理特別コース(大学院)開講
 10月 統合理学特別コース(大学院)開講</p> | <p>学部英語コースの教務関係事務支援他
 G30採択大学中、最も早い時期での開講</p> |
| <p>2011年 4月 国際化拠点整備事業組立て直し
 (グローバル30→大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)
 7月 大阪大学、神戸大学、関西大学、関西学院大学による「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」(以下、「阪神ネット」)調印式・結成
 7月 「阪神ネット」主催 バンコク留学フェア
 8月 「阪神ネット」主催 教職員ワークショップ
 10月 人間科学コース(学部)開講</p> | <p>G30採択大学の取り組み実績を他大学と共有
 阪神ネット4大学主催による初の留学フェア</p> |

2011年12月 「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」主催
学生グローバルコンピテンスワークショップ

学生が自主的に運営委員会を開き実施

2012年 2月 「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」主催
スタッフ・デベロップメント(SD)開催

11月 JASSOベトナム留学フェアに
「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」共同ブース出展

2月 「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」主催
「留学生の採用を考える企業との交流会」

留学生のキャリア支援への
取り組みと近畿経済産業局、
関経連との連携

2013年 2月 阪神地区4大学連携『日韓学生会議』(日本)開催

3月 大阪大学G30シンポジウム
ーグローバル時代の大学ガバナンスと学部教育ー開催

10月 JASSOインドネシア留学フェアに
「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」共同ブース出展

11月 「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」シンポジウム

阪神ネット4大学の副学長が
一同に会し、大学の国際化を
巡って企業・行政関係者と
パネルディスカッション

1. 本事業の成果
2. 取組状況
3. 目標の達成状況
4. 経費（補助金）の使用状況
5. 今後の課題と事業終了後の見通し

- 本事業の構想に示した重点事項の一層の充実・強化
 - 英語で学位が取得できるコース（学部・大学院）の運営とその支援体制
 - サポートオフィスの整備によるワンストップサービスの充実
 - 国内他大学とのネットワーク形成に基づく多様な連携・協働
 - 関西地域の産業界との連携・協働

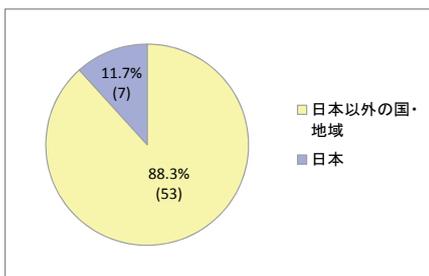


合同説明会（インド）にて大阪大学の取組を発表



大阪大学・神戸大学・関西大学・関西学院大学による国際化推進に向けたネットワーク形成に関する協定書調印式（大阪大学）

出身国



内訳(国名の記載があったもの:44名)

中国:13, ベトナム:4, インドネシア:4
韓国:3, マカオ:3, アメリカ:3
カナダ:2, イギリス:2, トルコ:2
東南アジアの国:2, バングラデシュ:1
エストニア:1, 香港:1
インド:1, スーダン:1, ブラジル:1

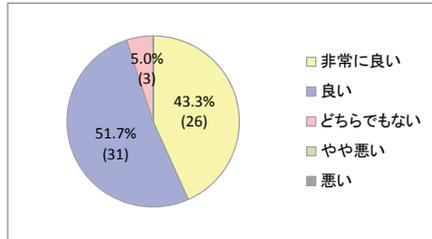
Aさん（学部コース）

このコースは選択の幅が広く、自分が興味のある分野の知識をいろいろ吸収できるのが面白いです。

また英語と日本語が同時に勉強できるのも魅力です。日本にしながら国際的な人間関係を築けるのがとてもいいです。



Q1 大阪大学留学の印象はどうか？



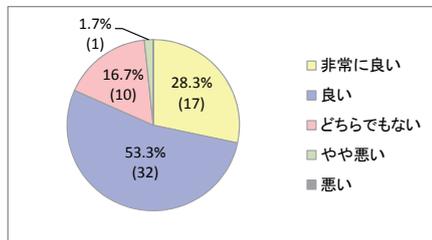
Bさん（学部コース）

このコースには、様々な国の方が在籍しているので世界の縮図のようです。

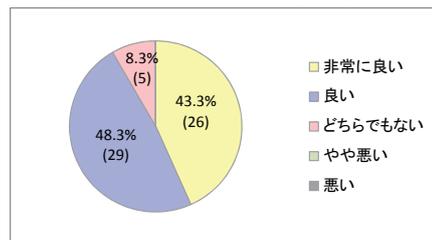
1つのクラスの中に、それぞれの国の文化が存在しているのですが、文化から見えるステレオタイプの間像と実際の人間は違うので、それを学べるのがこのコースの利点の1つだと思います。



Q2 教員の英語力は十分か？



Q3 各種サポートは十分か？



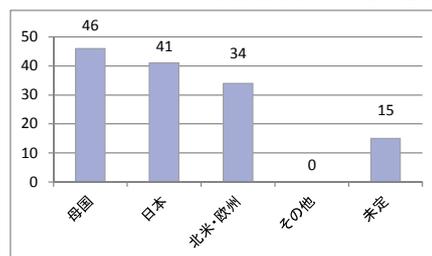
Cさん（大学院コース）

大学の学生へのサポートはとても手厚く、他のことを心配することなく、学業に専念できています。

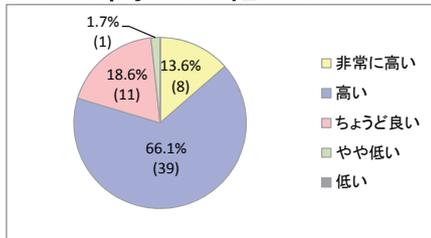
一つお願いするならば、入学時のオリエンテーションをもっと詳しくしてもらえると、より実りある学生生活が送れると思います。



Q4 将来、どこの国・地域に就職したいか？（複数回答可）



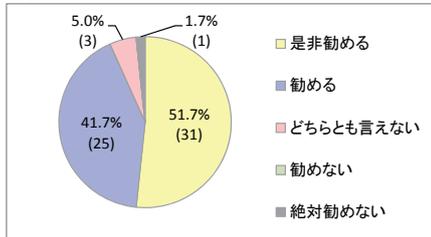
Q5 教育内容のレベルはあなたにとって高いか低いかな？



学生からの意見（今後の改善点）

- 日本での就職支援を充実してほしいです。
- 選択科目の種類をもっと増やしてほしいです。
- 日本人学生との交流の機会を増やしてほしいです。

Q6 母国の人に大阪大学を勧めたいか？



■大学全体としての国際化戦略

- 「大阪大学未来戦略(2012-2015)-22世紀に輝く-」 2012年5月公表
- 100年後の22世紀においてひとときわ輝く世界屈指の総合大学
→海外の大学や研究者が注目するGLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」の実現へ
- 未来のための戦略シナリオ→未来戦略8箇条—調和ある多様性の創造を実現するグローバルキャンパス



「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」に基づく諸事業は、本学国際化推進上、中心をなす重要施策のひとつ

■事務体制の国際化

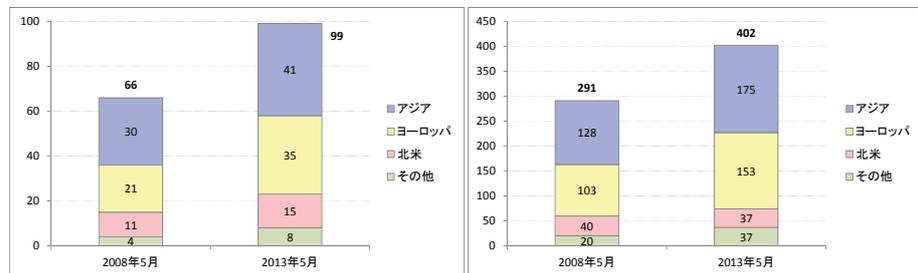
- 本学は長年事務系職員の国際化に注力、毎年継続的に職員を海外に派遣（累計60名以上）
* 長期（1年間）海外研修（1997年～2004年 計22名）
短期（3か月）海外語学研修（2003年～2012年 計13名）
海外拠点派遣業務研修（2003年～2012年 計13名）他
- 2011年度から本学独自の職員採用試験を実施し多様な人材確保を促進、うち数名は国際業務担当部署に配置

■評価の実施と改善

- 外部有識者による外部評価委員会（2013年3月）
委員長：立命館アジア太平洋大学長 是永駿先生
産業界、インターナショナルスクール、教育関係団体から4名の委員で構成
- 外部評価報告書作成
- 事業進捗への評価と更なる改善事項

■海外の大学との教育連携の充実

- 100件に及ぶ大学間学術交流協定と402件の部局間学術交流協定を締結
- 過去の交流実績と比較して欧州の大学との締結件数が飛躍的に上昇



- 数多くの大学間又は部局間学術交流協定の学生交流覚書等に基づく海外の大学との学生交流を活かしたSS（ショートステイ）やSV（ショートビジット）事業を展開
→新たな受入れ・派遣プログラムの開発や学生の海外留学涵養に注力

* JASSOのショートステイ・ショートビジット事業：

2011年度 25プログラム・598人分採択（全国3位・国立大学1位）

2012年度 27プログラム・623人分採択（全国2位・国立大学1位）

* 本学独自の海外研修学生派遣補助制度：

2011年度 13プログラム・117人

2012年度 15プログラム・148人に対して補助、派遣者数拡大を支援

* 学生交流に係る学内規程の整備：

「留学生受入れ超短期プログラムガイドライン」←短期の学生受入れに係る規程

「海外研修プログラム単位化ガイドライン」←海外研修の単位化に係る規程

* オリエンテーション等の積極的实施：

入学式資料配布、新入学生用オリエンテーション、HPコンテンツの多言語化、

■大学間ネットワーク形成

- 2011年7月、大阪大学、神戸大学、関西大学、関西学院大学は「阪神地区大学国際化推進ネットワーク（略称：阪神ネット）」を結成 — 計19回の実務者会議開催
- 阪神ネットをベースとした協働の取組実績
 - * 合同留学フェア（2011年7月 タイ、2012年11月 ベトナム、2013年10月 インドネシア）
 - * 第1回教職員ワークショップ（2011年8月） 合同留学フェア（インドネシア）
 - * 学生グローバルコンピテンスワークショップ（2011年12月）
 - * 国際業務担当職員による学術交流協定に関するSD（2012年2月）
 - * 英語プレゼンテーション能力養成研修（2012年8月、2013年9月）
 - * 阪神ネット日韓学生会議（2013年2月、2014年2月予定）
 - * 留学生の採用を考える企業との交流会（2013年2月）
 - * 大学の国際化に向けての取り組みに関するSD（2013年3月）
 - * 阪神ネットシンポジウム（2013年11月）



■産業界との連携

- 「グローバル30産学連携フォーラム」（事業採択13大学と日本経済団体連合会共催）
 - 本学卒業留学生をパネリスト派遣、分科会事前勉強会参加
- 一般財団法人アジア太平洋研究所（APIR）との連携
 - 関西に高度外国人人材を呼び込む施策に係る課題検討、実情アンケート実施協力
- 学内で、就職内定OB・OGによる就職体験セミナーや企業セミナーを実施
- 産官学の共同組織である「グローバル人材活用運営協議会」（2013年6月発足）と協力し、留学生のキャリア支援事業実施
 - 就職フェアやインターンシップ実施の企画

■英語コースの開設状況と学生確保の状況（外国人学生及び日本人学生）

国際化拠点整備事業（グローバル30）の採択を機に、新たに学部2コース、大学院2コースを設置

● 学部コース

1. 「化学・生物学複合メジャーコース」（2010年10月開講：2014年1月時点61名在籍）

* 目標：化学と生物の融合分野で国際的に活躍できる人材養成

* 教育方針：化学・生物分野に必要な専門基礎知識を全て取得できるカリキュラム提供、
分野横断型研究・開発の第一線に立つ能力開発 ※2014年3月に5名の早期修了生

2. 「人間科学コース」（2011年10月開講：2014年1月時点25名在籍）

* 目標：激変する現代社会及び世界に貢献できる人材養成

* 教育方針：人間と社会に関する諸科学の幅広い知識を習得できるカリキュラム提供、
実践的な問題解決力を備えた高度教養人の養成

● 大学院コース

1. 「国際物理特別コース」（2010年10月開講：2014年1月時点21名在籍）

* 目標：国際的な共同研究を積極的に行い、新しい研究課題に挑戦。広い知識を持った
柔軟性のある頭脳を持った研究者や社会人を育成

* 教育方針：大学院の研究室での独創的な研究を推進する能力を持ち、卒業後は過去の
専門分野にこだわることなく基礎から応用まで挑戦的な課題に研究力を発揮できる人材を育成

2. 「統合理学特別コース」（2010年10月開講：10月・4月入学実施、2014年1月時点40名在籍）

* 目標：化学と生物の融合分野において国際的にトップレベルで活躍できる人材養成

* 教育方針：高度基礎教育から先端的トピックスまでの充実した授業科目を提供

コース名	実施部局名	設置年月	学位	募集者数	入学者数	在籍者数
人間科学コース	人間科学部	2011/10/1	B	若干名	8	25
化学・生物学複合メジャーコース	理学部・工学部・基礎工学部	2010/10/1	B	若干名	19	61
国際物理特別コース	理学研究科	2010/10/1	M	5	5	9
国際物理特別コース	理学研究科	2010/10/1	D	5	5	12
統合理学特別コース	理学研究科	2010/10/1	M	4	1	7
統合理学特別コース	理学研究科	2010/10/1	D	6	8	33

(2014年1月1日現在)

■国際的な教育研究活動実績を有する教員の雇用等や教育体制の充実

- 新たな教員の雇用
 - * 採用にあたって：国際公募実施、海外の大学・研究所での研究実績や専任講師経験者、教育法・評価法訓練受講者、高い授業評価を受けた非常勤講師経験者などを重視
 - * 外国人教員の国籍：アジア、オセアニア、ヨーロッパの10か国
- 教育体制の充実
 - * 学部英語コース開講・運営支援のため、2010年8月「インターナショナルカレッジ」を設置
運営体制では、教育担当理事をカレッジ長とし、副カレッジ長に学部英語コース主査2名および専任教員1名を配置
 - * インターナショナルカレッジによる入学志願者、入試面接の対応はじめ教務面や、学部コース在籍者の日常面での積極的なサポート
 - * 「全学教育推進機構」と協力して、G30科目を本学の共通教育体制に組み込む

■学部、大学院の各コースにおいて、有為の人材を育成していくため独自の取組を実施

- (化学・生物学複合メジャーコース)
 - 化学、生物分野について必要な専門知識を全て取得できるように編成されたカリキュラム設計
 - 卒業は4年間の修学期間が標準であるが、優秀な学生は3.5年に短縮した早期卒業が可能
- (人間科学コース)
 - イギリスの高等教育機関推奨のカリキュラムに準じたカリキュラム構成
 - アカデミックな文書の書き方及び発表の仕方、高度な研究手法概論、アカデミックな議論手法等の科目の導入
- (統合理学特別コース)
 - 生物、高分子、化学の学生が専攻の垣根を越えて授業を受講し、卒業要件単位に算入可能
- (国際物理特別コース)
 - IPC minimumとして世界的に高い評価のある教科書を用いて、8教科の物理学を初年度で履修
高度な基礎知識を身につけ研究に臨ませる。同時に、卒業まで研究室の研究テーマ以外の物理学の最新的话题をSpecial Seminarで学び広い視野を養う

(化学・生物学複合メジャーコース)

- 質の高い教育の柱として、(1) 少人数制の授業、(2) 化学と生物両方の分野融合教育、(3) 国際標準の授業、(4) 世界トップレベルの研究教育、(5) 高度な日本語教育の実施、(6) 柔軟性のある語学教育
- ノーベル物理学賞受賞者 南部 陽一郎特別荣誉教授を招いて第1回オーナーセミナー (honor seminar) を開催

(人間科学コース)

- 学生が理解し選択しやすいシラバス作成に向けた標準的テンプレートを作成し、全教員にテンプレートを使用したシラバス作成を義務付け
- 専任教員による定期的会議 (core-meeting) を持ち、学生の習熟度や評価状況等について意見交換。毎週のホームルームで学生から意見を聴き、授業改善や学生生活の指導
- 「教育の質保証ハンドブック Teaching Quality Handbook」を作成し、教員FD他に活用
- 非常勤講師にもシラバス作成や成績評価について詳細説明し、人間科学コースの基準に準拠するよう依頼



(統合理学特別コース)

- 特徴的な科目として、インタラクティブセミナーでは、学生は副研究室に配属して、分野の異なる研究者からアドバイスを得ることが可能
- 化学アドバンスト実験では、実験用各種分析機器の講習実施

(国際物理特別コース)

- IPC Topical Seminar : 日本人の著名な方による、様々な物理の話題の講演
 - 「Computational studies on high temperature superconductivity : Kazuhiko KUROKI, Professor, University of Electro-Communication (UEC), Tokyo」
 - 「The Physics of Complexity : Zhenzho YOSHIDA, University of Tokyo」
- 物理学の体系をなす8教科の講義を修士1年で必修化
- 世界的に定評のある教科書 (Classical Electrodynamics等) を選定して講義を実施

(化学・生物学複合メジャーコース)

- 成績管理について、インターナショナルカレッジ所属教員全員で「認定会議」を開催
- 授業評価について、各セメスターの中間時及び終了時アンケートを実施

(人間科学コース)

- 専任教員による定例会議に加えて、成績管理に関する検討会を別途開催

(統合理学特別コース)

- 学際性を重視した成績管理を実施

(国際物理特別コース)

- 専門分野にこだわらず、身につけた研究能力を他分野でも発揮できるか否かの観点による成績管理を実施

(化学・生物学複合メジャーコース)

- 本学が英語での授業を担当する教員向けに実施している本学主催のFDに、授業担当教員の受講を義務化
- コース関係教員による教務委員会を開催し、教育改善に注力

(人間科学コース)

- Core-meetingを中心に教育内容について適宜見直し
- コース学生だけでなく一般学生にもアンケートを実施、学生からの多様な意見をコース運営に反映

(統合理学特別コース)

- コース学生の教育背景や水準が多様であることを考慮し、授業担当教員は、必ず低学年を意識した基礎レベルから開始することを申し合わせ
- 拡大ITP (International training Program) 関連で、教員が2週間の英語でのプレゼンテーション(グローニンゲン大学教員の指導)の授業を受け、英語授業の質が向上

(国際物理特別コース)

- 少人数教育を生かし、一人ずつの理解を確認しながら講義を実施
- コースの外国人教員を中心に、本学及び他大学等のFD関連会合に積極的に参加

- 本学は、独自に海外拠点を4か所設置・運営
2004年5月 サンフランシスコ教育研究センター（米国）
2005年4月 グローニンゲン教育研究センター（オランダ）
2006年4月 バンコク教育研究センター（タイ）
2010年2月 上海教育研究センター（中国）
- 常駐もしくは学内派遣の形でセンター長を置き、海外での留学フェア及び
高校リクルート活動の支援、広報活動の展開
- G30コースの海外面接会場としても活用
- 短期留学プログラムの実施支援
- 域内の有力大学・研究機関等との日常的交流の継続により、本学のプレゼンス高揚に
貢献→世界大学ランキング における“reputation” に向け隠れた効果・好影響

- インターナショナルカレッジを中心に以下の留学生受入れ取組促進
- 国内外での広報及び学生リクルートを重点的に担当する専任教員の配置
- 本学の受入重点国として、中国・タイ・ベトナム・米国・オランダの5か国を設定
- リクルート活動を通じて関係が深まった地域（マカオ等）も加え広報・学生リクルート活動の
年間計画を策定
- 中国・タイ・ベトナム等では、JASSOはじめ各種団体主催の留学フェアに参加し、本学の教育・
研究内容を紹介
- 積極的に海外の現地有力高校やインターナショナルスクールを訪問
- 国内IB認定校の全16校を訪問し、模擬講義及び説明会を開催
- 交流協定締結大学・有力大学を訪問しての広報並びに当該大学の教職員を受け入れての
広報実施（実施例：香港中文大学、ベトナム国立大学等）
- JICEのJENESYS Programme及びキズナ強化プロジェクトに協力しインドネシア及び
シンガポールの高校生訪問団を受入れ
- 米国の大学入試制度を調査のため、ハーバード大学に職員を派遣。成果波及のため
他大学職員も対象として「G30入試実務担当者のためのワークショップ」を開催
- 留学フェア等での説明内容を共有するため、フェア参加経験豊富な教職員を交えて勉強会を開催
- G30シンポジウム-グローバル時代の大学ガバナンスと学部教育-を開催（2013年3月）

■具体的な支援例

- G30コース学生向けに本学国際交流会館内に30室を優先確保
- 企業関係者を外部講師として元留学生体験談セミナーを開催
- 外部講師を招いて「インターンシップ講座」を開催
- 「留学生キャリア支援」の本格的実施：
サポートオフィスと国際教育交流センターの
留学生交流情報室（IRIS）がキャリア支援のために協働



サポートオフィス

■G30コース学生と日本人学生との交流、本事業の学内での認知度向上についての指摘について、以下の取組を実施または実施予定

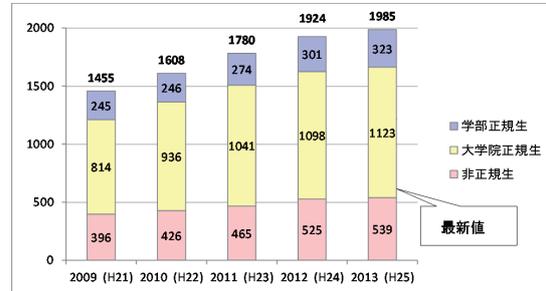
- 化学・生物学複合メジャーコース：「基礎生物学実験」で日本人学生との共通クラスを開講、2年次後半から理学部・工学部・基礎工学部において複数の研究室を訪問、日本人学生との交流を企画
- 人間科学コース：2012年度にはコース開講科目を中心に15科目を全学教育推進機構の授業科目に提供、日本人学生の受講も可能とする。2013年度には他大学への成果波及のため「大学コンソーシアム大阪」に対し単位互換協定に基づく科目提供を開始する
- 統合理学特別コース：「サイエンスコア」という科目、および集中講義は、G30コース学生と日本人学生と一緒に受講することができる
- 国際物理特別コース：「IPC English Tea Time」という時間を設定し、コース学生と日本人学生との討論会の場を提供
- 学内広報誌に加え、学生向け学内情報誌「阪大Walker」にインターナショナルカレッジの記事を掲載、G30コースとインターナショナルカレッジの広報を強化
- 伝統ある英字新聞のJapan Timesの「グローバル30大学特集」に、大阪大学のG30の取組事例を掲載

①留学生受入れ（各年度5月1日時点）

* 2009年度の事業開始以後、留学生数は
堅調に増加

* 正規学生のなかでは、大学院生の割合が高い
（約8割）のが特徴

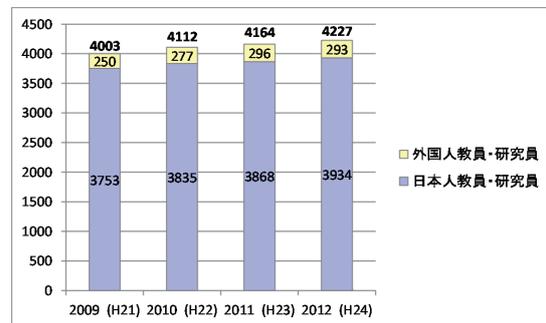
今後は学部生の更なる増加に注力



②外国人教員・研究員（各年度末時点）

* 出身地域別ではアジアが過半数を占め、
次いでヨーロッパ、北米と続く

* 外国人教員・研究員の在籍者数が全体の約7%に
（2012年度末現在）



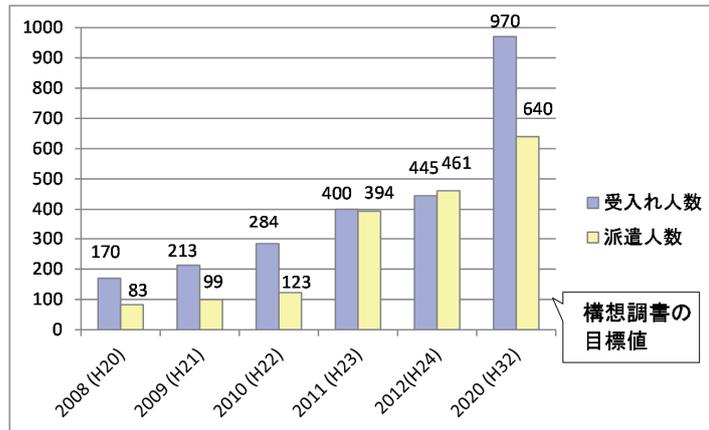
③海外有力大学との連携プログラムの新たな実施

- 国際教育交流センターの短期プログラム開発研究チーム及び日本語教育研究チームが緊密に連携し、2011年にJapanese Short-stay In-Session Program (J-Ship)を開発
- 初年度はスウェーデン王立工科大学から6名、オーストラリア国立大学10名、モナシュ大学から12名が参加
- 同プログラムは、カリフォルニア大学の EAP (Education Abroad Program)による認定を受ける
- 短期プログラム開発研究チームでは、夏季休暇期間中にはエセックス大学（英）、春季休暇期間中にはモナシュ大学（豪）の協力を得て、語学力と異文化適応能力を实地で養成するプログラムを運用している

④大学間学術交流協定等に基づく留学の拡大

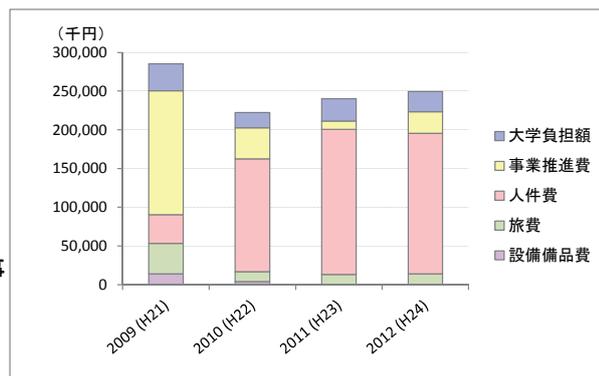
- 受入れ人数：2008年から2012年で275人増
- 派遣人数：2008年から2012年で378人増

→2011年開始のSS（ショートステイ）、SV（ショートビジット）の効果大



・これまでの使用実績

本事業採択時には、海外での本事業
広報活動並びにコースのリクルート
活動、事業実施の基盤整備等に補助金を
支出。事業進展に伴って、順次教職員の
雇用を進めた
なお、大学負担額については、本事業に従事
する教職員の人件費は含めず、事業推進に
向け必要な補填予算という位置付けにした



・内部監査の実施状況

- 事業補助金の執行にあたっては、各G30コース等に予算照会を行い、配分については企画室会議ならびに企画調整委員会で審議、了承を経て配分した
- 監査については学内監査室の定期監査の対象となっており、毎年度定期的にも実施される

(1) 今後の課題と展望

教育の国際化推進に向け、G30事業で得られた成果の積極的活用を図る

- ①学部及び大学院英語特別コースの継続実施
- ②優秀な留学生獲得と卒業・修了後のキャリア支援充実
- ③学部コース授業科目の学内開放、日本人学生の英語力向上と海外派遣推進、留学生との交流促進
- ④他大学等とのネットワークの更なる充実と教職員交流の深化

(2) 事業終了後の見通し

本学の国際化推進に向けた全学体制の更なる充実とグローバルキャンパスの実現

- ①新たな学部私費外国人留学生の受入制度
 - ・2015年10月から（半年間の日本語研修期間、身分は非正規生）
 - ・2016年4月から（各学部に入学）
- ②2013年度実践英語力強化講座を春季休業中（2014年2月・3月）に実施予定
- ③G30事業で雇用する外国人教員・研究者の継続雇用
- ④国際化推進事業実施のための新たな外部資金獲得



本学のG30事業は、大学とこれにたずさわる
教職員たちの熱意に支えられています。

グローバル30総括シンポジウム



九州大学



KYUSHU UNIVERSITY

取組年表

G30の軌跡(1)

	学内における取組	大学連携等の取組	国内外その他の動き
2009 (H21)	7月: G30採択; G30プロジェクトオフィス設置 8月: G30実施調整会議設置 10月: 情報の国際化部会、学生リクルート部会設置 11月: 国際教育センター設置; ハノイオフィス、バンコクオフィス開設; 学士課程国際コース奨学金制度新設 12月: 外国人教員・留学生支援部会設置; 海外プロモーション活動開始; 外国人教員採用開始		9月: 民主党政権の誕生
2010 (H22)	1月: 台北オフィス開設; 学士課程国際コースH22年度第1期一次試験公募開始; 全学教育部会設置 3月: 学士課程国際コースH22年度第1期第二次試験(面接)実施; 入試関係部会設置 4月: 人間環境学府等3学府で4コース開設; 学士課程国際コースH22年度第2期一次試験公募開始; 学士課程国際コースH22年度第1期第二次試験合格発表 5月: 新規外国人教員オリエンテーション 6月: 学士課程国際コースH22年度第2期二次試験(面接)実施 7月: 国際化100人委員会発足 8月: 学士課程国際コースH22年度第2期二次試験合格発表 9月: 留学生ハンドブック完成 10月: 学士課程国際コース1期生入学; 理学府等6学府で11コース開設	2月: カイロオフィス開所式 3月: グローバル30ワークショップ in 同志社大学 8月: 名古屋大学高等教育研究センターFD「専門を英語で教える」 11月: 第1回日越学長会議@ハノイ	10月: 事業仕分け

2



G30の軌跡(2)

	学内における取組	大学連携等の取組	国内外その他の動き
2011 (H23)	3月:震災対応タスクフォース 4月:震災対応セミナー開催:医学系学府等3学府で4コース開設:第1回教育国際化のためのFD開催 6月:第1回学士課程国際コース委員会開催 10月:システム情報科学府等5学府で26コース開設 11月:国際交流総合企画会議による自己評価	1月:大学教育改革プログラム合同フォーラム@東京 6月:福岡地域留学生交流推進協議会 8月:第2回産学連携フォーラム 9月:第1回英語教授能力向上ワークショップ開催	2月:「アラブの春」中東で拡大 3月:東日本大震災 4月:事業変更「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」 11月:中間評価団による九大ヒアリング実施:エジプト人民議会選挙
2012 (H24)	1月:国際化学生委員会(SCIKyu)による提案書作成 4月:薬学府で1コース開設 7月:日本留学フェアinエジプト事前協議 10月:学士課程国際コース第一期生が専門課程進学:統合新領域学府で1コース開設 12月:プロジェクト終了タスクフォースワーキンググループ立ち上げ	3月:第1回英語教授能力向上プログラム@アテネオ・デ・マニラ大:日本・エジプトセミナー開催@東京/福岡:第1回九州・山口地域大学国際化ワークショップ開催 8月:第2回地域ワークショップ 11月:日本留学フェア開催@エジプト 12月:第3回地域ワークショップ	11月:エジプト反政府デモ激化 12月:自民党政権の誕生
2013 (H25)	3月:「G30終了後の学士課程国際コース運営に係る提案書」提出 5月:事業終了後の九大奨学金制度について策定 7月:事業終了後の外国人教員の雇用について協議 10月:医学系学府で1コース開設:学内国際化シンポジウム「プロジェクトを超えて」 12月:国際化学生委員会と理事との座談会開催	1月:SCIKyuトーク・フォーラム@早稲田大学 3月:第4回地域ワークショップ:懇談会with上智大学訪問団 5月:第5回地域ワークショップ	6月:行政事業レビュー

3



1. 九州大学のG30

2. 取組状況

- ① 英語による授業のみで学位が取得できるコース
- ② 留学生受入のための環境整備
- ③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

3. 本事業の成果

- ① 特筆すべき成果と波及効果
- ② 学士課程国際コースの学生からの評価
- ③ 留学生の受入れ
- ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施
- ⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大
- ⑥ 教育体制の充実

4. 経費の使用状況

- ① 予算額の推移と使用実績
- ② 内部監査等の実施

5. 今後の課題と事業終了後の見通し

- ① 留学生拡大のシミュレーション
- ② G30の展開:国際化の波及・普及
- ③ G30の教訓と課題

4



□ 広域な分野をカバー

- ・すべての部局（大学院）で英語による国際コースを開設

□ 工学部・農学部による学士課程国際コースの新設

- ・早い段階（2010年度から）に開設
- ・全学出動態勢の全学教育の整備

□ 全学的な教育国際化の体制

- ・サポートセンターによるワンストップサービス
- ・全学選出委員によるG30実施調整会議をはじめとする各種委員会組織
- ・外国人教員の各部局での展開（国際教育センターに所属）
- ・プロジェクト全般の運営を所轄するプロジェクトオフィス

5



a. 九州大学の現状：教職員・学生 (2013年5月現在)

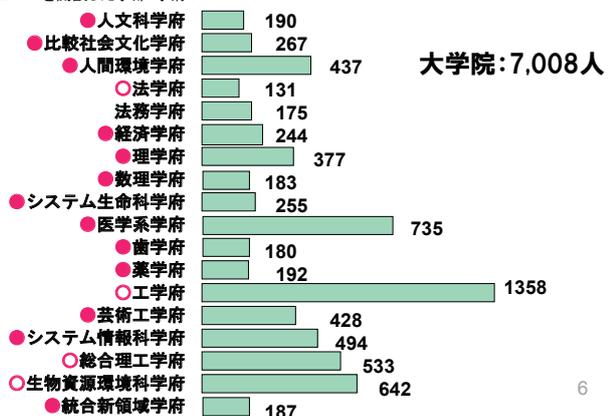
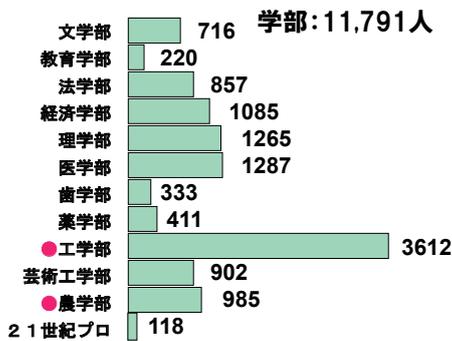
教職員（7,784人）

教員: 2,068人

職員: 2,010人



学生（18,799人）



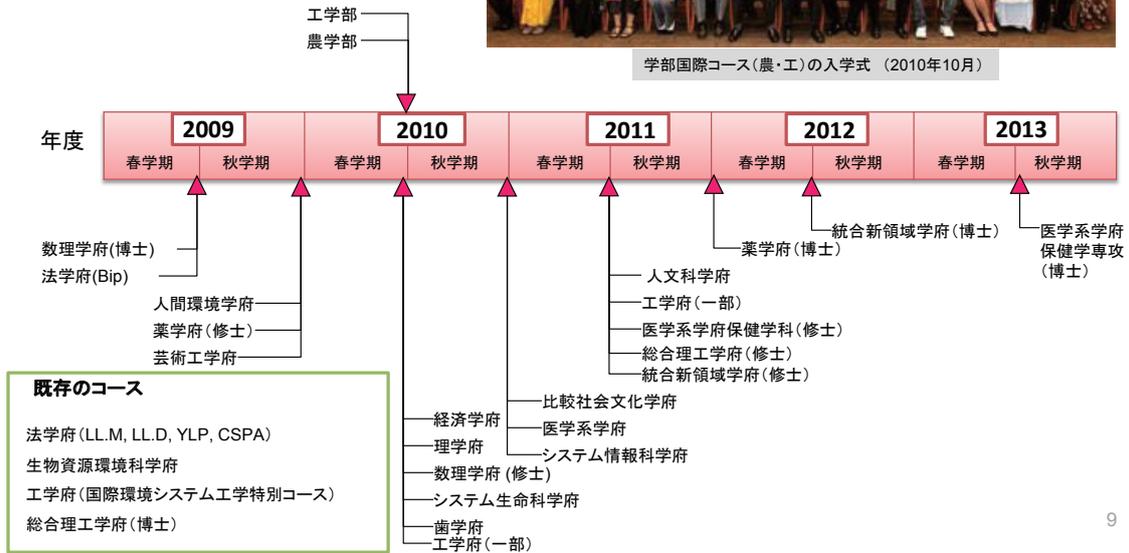
6

①英語による授業のみで学位が取得できるコース

a. 英語コースの開設



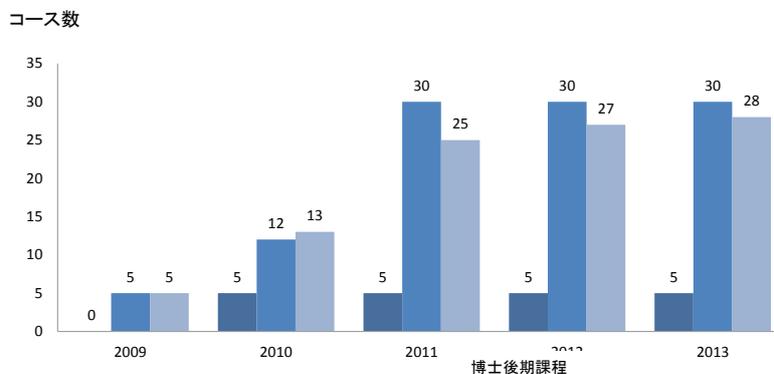
学部国際コース(農・工)の入学式 (2010年10月)



b. 英語コース開設数の推移

◆2009年度から徐々に英語コースを開設し、2010年10月には、本学初となる学士課程国際コースを2学部(工学部・農学部)に開設した。

◆2013年10月までに、学士課程5コース、修士課程30コース、博士後期課程28コースを開講し、本事業で計画したすべての英語コース(全63コース)が開講した。



c. 学生リクルート

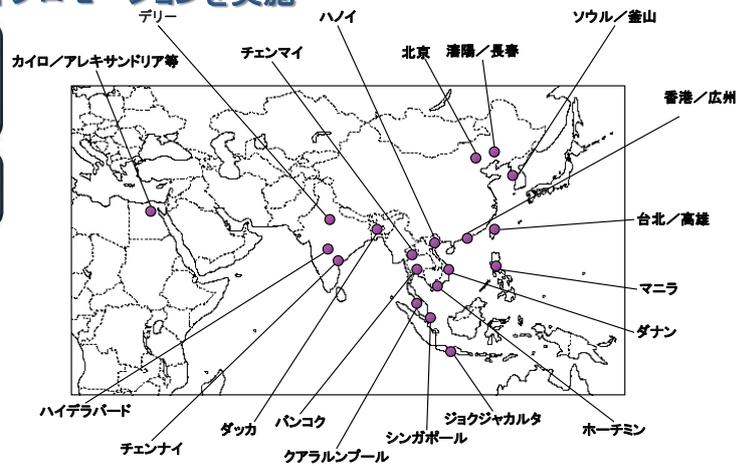
受入重点国を中心に海外プロモーションを実施

毎年、10カ国・地域以上に約50名を派遣、40～50校の高校等を対象に学部レベルの国際コースを中心としたプロモーション

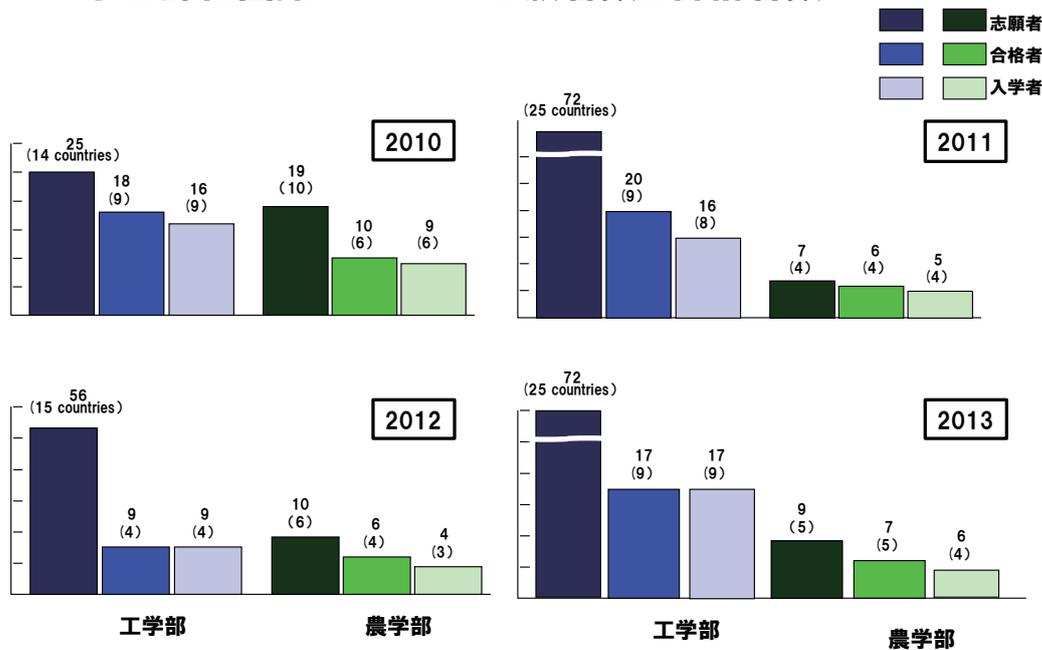
説明会への参加者
約6,300名(平成24年度実績)

海外約10か国で現地入試
学士課程国際コース(工・農)

- ・第I期生(2010年10月入学)
入学者 25名(応募 44名)
- ・第II期生(2011年10月入学)
入学者 21名(応募 79名)
- ・第III期生(2012年10月入学)
入学者 13名(応募 66名)
- ・第IV期生(2013年10月入学)
入学者 23名(応募 83名)



d-1. 学士課程国際コースへの志願者数と合格者数





d-2. 学士課程国際コースへの志願者と合格者(国別)

志願者(○)と合格者(●)の国籍

国籍	2010		2011		2012		2013		国籍	2010		2011		2012		2013	
	工	農	工	農	工	農	工	農		工	農	工	農	工	農	工	農
01. 中国	●	●	●	●	●	●	●	●	33. フランス	○	-	-	-	-	-	-	-
02. 韓国	○	-	●	-	○	●	●	●	34. スイス	●	-	-	-	-	-	-	-
03. 台湾	●	●	-	-	○	●	-	-	35. ドイツ	-	-	○	-	○	-	-	-
04. タイ	-	●	●	●	●	-	-	●	36. イタリア	-	-	-	-	-	-	○	-
05. ベトナム	-	●	●	●	●	●	●	●	37. リヒテンシュタイン	-	-	○	-	-	-	-	-
06. インドネシア	●	-	●	●	●	○	●	●	38. ノルウェー	-	-	●	-	-	-	-	-
07. シンガポール	●	-	-	-	-	-	○	●	39. チェコ	-	-	○	-	-	-	-	-
08. マレーシア	●	-	○	-	○	-	●	-	40. ハンガリー	-	-	●	-	-	-	-	-
09. フィリピン	-	-	-	-	-	-	○	-	41. ルーマニア	-	-	-	-	-	-	○	-
10. モンゴル	-	●	-	-	-	-	-	-	42. ポルトガル	-	-	-	-	-	-	○	-
11. ウズベキスタン	-	-	●	-	-	-	●	-	43. スペイン	-	-	○	-	-	-	-	-
12. キルギスタン	-	-	○	-	-	-	-	-	44. 米国	-	●	●	-	○	-	●	-
13. ネパール	○	○	○	-	○	-	-	-	45. コロンビア	-	-	-	-	○	-	-	-
14. バングラデシュ	-	○	○	-	○	-	○	-	46. ブラジル	-	-	-	-	-	-	○	-
15. インド	●	-	●	-	○	-	●	-	志願者出身国合計数	20	25	15	26				
16. スリランカ	-	-	○	-	-	-	○	-									
17. パキスタン	-	-	○	-	-	-	○	-									
18. アフガニスタン	-	-	-	-	-	-	○	-									
19. イラン	-	-	○	-	○	-	○	-									
20. サウジアラビア	-	-	○	-	-	-	○	-									
21. パレスチナ	-	-	○	-	-	-	-	-									
22. エジプト	●	-	-	-	○	○	●	-									
23. マラウイ	-	○	-	-	-	-	-	-									
24. モロッコ	●	-	-	-	-	-	-	-									
25. チュニジア	-	-	-	-	-	-	○	-									
26. カメルーン	○	-	-	-	-	-	-	-									
27. ナイジェリア	○	○	-	-	-	-	-	-									
28. ケニア	-	-	○	-	-	-	-	-									
29. コンゴ	-	-	-	-	-	-	○	-									
30. ザンビア	-	-	-	-	-	-	○	-									
31. ジンバブエ	-	-	-	-	-	-	○	-									
32. タンザニア	-	-	○	-	-	-	-	-									

13



e. 大学院国際コース在籍者数(各年10月)

本プロジェクトで国際コースを新設したことを受け、国際コース全体の在籍者数は年々増加している。

大学院		2009	2010	2011	2012	2013	備考
新設国際コース	人文学院[M]			4	11	12	
	比較社会文化学院[M・D]			3	4	11	
	人間環境学院[M・D]		16	26	25	14	
	法学院[M]	3	4	3	1	4	
	経済学院[M・D]		10	19	24	24	
	理学院[M・D]		2	3	4	5	
	数理学府[M・D]	0	1	4	7	8	
	システム生命学院[D]		1	4	7	9	
	医学院[M・D]			10	20	27	3専攻
	歯学院[D]		2	4	10	14	
	薬学院[M・D]		3	6	15	17	
	工学院[M・D]		19	50	87	107	11専攻
	芸術工学院[D]		1	4	5	5	
	システム情報工学院[D]			0	0	0	
総合理工学院[M]			3	3	18	5専攻	
統合新領域学院[M・D]			0	2	5		
在籍者数合計		3	59	143	225	280	
既設	法学院[M・D]	56	59	53	49	49	
	工学院[D]	51	60	64	59	55	
	総合理工学院[D]	31	34	48	32	20	
	生物資源環境科学府[M・D]	67	71	88	84	90	専攻融合
在籍者数合計		205	224	253	224	214	
国際コース合計		208	283	396	449	494	

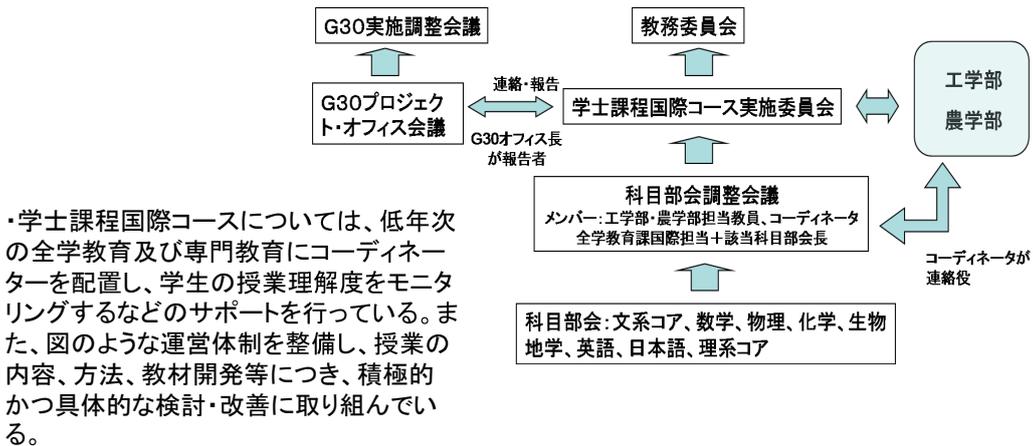
14



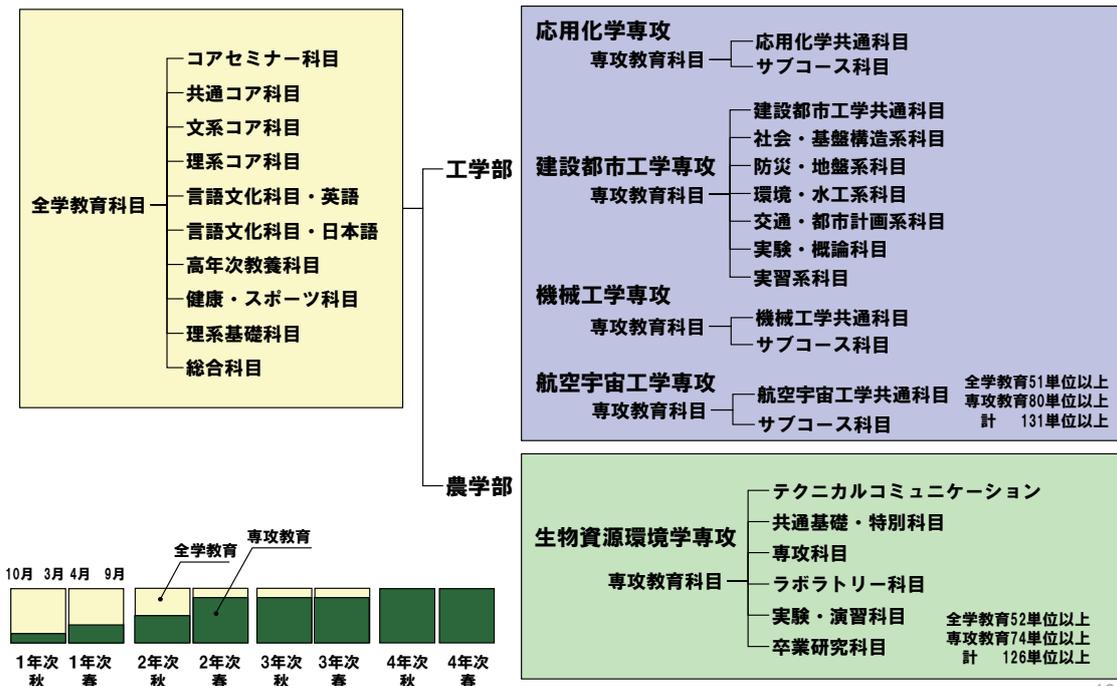
f. 質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

- 教育の質を保証するため、GPAの導入など厳格な成績管理を実施している。
- 一部の入試において、申請資格にSATを導入し、英語による受講能力を適確に測り、入学段階から質の高い高等教育を提供できるよう取り組んでいる。

学士課程国際コース運営体制案



g. 学士課程国際コースでの教育



九州大学



②留学生受入のための環境整備

a. 留学生に対する支援

外国人留学生・研究者サポートセンター（2009年7月設置）

各キャンパスに窓口を設置し、総勢16名のスタッフが、留学生や外国人研究者に対して、様々な支援を行っている。

このようなサポートは、従来、受入教員や部局学生係が行っていたが、サポートセンターの設置により、受入に関する担当教職員の負担が軽減され、留学生受入数の増加へとつながっている。

【サポート内容】

入国前) ①在留資格認定証明書・代理申請手続き
②宿舎申請の受付
③航空券手配支援/フライト情報の入手

入国直後) ①シャトルバスサービス(空港～寮)
②区役所・銀行口座・携帯電話手続き等
③新入留学生オリエンテーションの実施

入国後) ①日常相談業務
②住居探しサポート
③窓口での通訳・翻訳

【サポート実績】

秋季 約550名
春季 約250名



17



b. 学士課程国際コース生に対する支援

【経済的支援】

- ◆ 同コースの留学生18名に月額7万円を支給する本学独自の奨学金制度を創設
- ◆ 入学から卒業までの授業料を半額免除
- ◆ 入学のための渡日旅費(上限10万円)の支援
- ◆ 入学後の1年半は大学寮を優先的に提供

【就学・生活面に対する支援】

2010年度まで

新入留学生に1名のチューターを割り当て、生活面の支援とともに、履修登録・授業対応等の修学支援も行った。



2011年度から

サポーター制度を導入し、複数の日本人学生と留学生がチームとして新入留学生をサポートする体制とし、学生の交流を促進すると同時に、交流を通じた必要なサービスが受けられるようになった。

18



c. 日本語・日本文化の学習機会の提供

① 留学生センターによる日本語の授業

学生のレベル別・技能別に応じたきめ細やかな授業を主なキャンパスにて無料で提供している。



② フィールドトリップ

日本への理解を深めることを目的とした、多種多様なフィールドトリップ(田植え・稲刈り、小学校訪問、禅寺訪問など)を実施し、地域の人々と交流する、日本文化の魅力に触れる、などの場を提供している。

③ アジア人財プログラム

日本企業で働くためのビジネス日本語クラスや、日本企業へのインターンシップなど、卒業後の日本の社会文化を学ぶ機会を提供している。



d. 海外拠点の設置と留学生の受入促進(G30対応のため4カ所を新設)



(中国) 中国からの留学生は本学の留学生全体の56%をしめる1,075人が在籍しており、今後さらなる増加が見込まれる。これらの理由から受入重点国のひとつとして位置付けている。北京事務所の協力の下、中国国内では、4年間で高校18校を訪問し、延べ632人の学生に学士課程国際コースの紹介を行った。また、現地面接の際は、北京事務所を会場として活用した。学士課程国際コースとしては、多様な国・地域からの学生を受け入れることが望ましいが、中国籍の学生のしめる割合は32%で、バランスがとれる形となっている。

(韓国) ソウルオフィスの協力の下、4年間で高校17校において説明会を開催し、延べ270名が参加した。2011年度入試から、願書受付期間を韓国の学年歴を考慮して大幅に前倒しした結果、同年度から出願数を増やすこととなった(2010年度1名→2011年度8名)。

(台湾) 台北オフィスの協力の下、4年間で高校21校において説明会を開催し、延べ473名が参加した。また、現地の保護者用に、学士課程国際コース紹介パンフレットを繁体字で作成した。

(タイ、インドネシア、ベトナム) 各海外オフィスの協力を得て、教育情報を収集し、高校訪問を行い説明会を開催した。(タイ: 20校訪問760名が参加、インドネシア: 33校訪問2,585名が参加、ベトナム: 22校訪問735名が参加) その結果、例えば、タイでは、バンコクなどの大都市では、農学に関心を示す学生は少数であるが、チェンマイなどの地方都市では、依然として農学への関心が高く、インドネシアやベトナムでも同様の傾向が見られた。また、学士課程国際コースに係る現地面接の際は、ベトナムのハノイオフィスを会場として活用した。



e. 海外共同利用事務所（カイロオフィス）

□ 現地における日本の大学に関する広報活動

カイロオフィスでは、ホームページ、リーフレットを作成するとともに、現地教育関係諸機関に広報活動を行い、その存在を周知するとともに、在エジプト日本大使館広報文化センターと共同で、日本への関心を高めることを目的の一つとし、日本文化などを紹介するセミナー「JENオープンサロン」を定期的に企画・実施するなど、その広報機能を高めている。

□ ワンストップサービス等の提供

学生からの日本留学に関する問い合わせ、研究者からの共同研究等に関する問い合わせ等に対応している。オフィスには、共用PC、日本の大学紹介パンフレット等を設置し、訪問者の便に供している。その他、説明会、現地入試・面接会場としての使用、TV会議システムの利用等が可能である。

□ 共同利用の状況

日本の大学全体の魅力を情報発信するとともに、現地における大学説明会の開催や入試・面接の実施など、日本の大学全体に対する支援業務を行っている。



21



e. 海外共同利用事務所(カイロオフィス)

海外共同利用事務所の果たすべき機能として、平成22年度、23年度、25年度に実施を予定していた「日本留学フェア」は、エジプト国内の情勢悪化のため、中止せざるを得なかった。

そのため、平成23年度には、日本の大学で留学生受入れに携わる教職員を対象に、エジプトの大学・高校事情や海外留学事情等について理解を深めるための「日本エジプトセミナー」を、エジプトの政府機関・大学等の参加を得て、東京で実施した。

□ 日本エジプトセミナー

（平成24年3月5日：東京にて開催）

- 日本側参加者 20大学、10機関から、58名
- エジプト側参加者 政府機関、大学、高校から、16名
- 「エジプトから日本への留学の傾向」「留学生受入れ促進施策」について発表・討論



□ 日本留学フェア ※平成22年度、23年度、25年度はエジプト国内の政情不安定により中止

（平成24年11月1日：カイロ、3日：アレキサンドリアにて開催）

- 参加機関：九州大学、筑波大学、京都大学、立命館大学（その他資料参加10大学）、

文部科学省、日本学生支援機構、在エジプト日本国大使館、国際交流基金、日本学術振興会、国際協力機構

- 来場者数：カイロ1,403名、アレキサンドリア482名



22



f. 国際化学生委員会

□ 委員会の目的

- 学生自らのイニシアチブにより、日本人学生と留学生との組織的交流の促進を図る
- 大学の国際化について、学生の視点から大学に提言を行っている。

□ メンバー

- 留学生11名、日本人学生10名から成る学生21名
- 教員4名

□ 活動

■ 2011年度

大学の国際化に関する提言書の作成など

【提言内容】

- ・キャンパス内標示等の二言語化
- ・HPや掲示物、メール等による学生向け情報の充実
- ・留学生と日本人学生の交流、異文化理解の機会の増加
- ・日本人学生が英語を話す機会の増加
- ・学生の活動のためのスペースの増加



■ 2012年度

大学の国際化に関する提言の実現に向けた活動など

【活動内容】

- ・大学の国際化促進のためのトークフォーラムを開催
- ・留学生と日本人の交流促進のためのインターナショナルキャンプを実施
- ・国際化の現状を学ぶため他大学を訪問

■ 2013年度

大学の国際化に関する提言の実現に向けた活動など

【活動内容】

- ・留学生と日本人が共同で大学祭に出展
- ・国際化への取組を学ぶため他大学を訪問
- ・留学生と日本人が英語やその他の言語で交流できるランゲージパートナープログラムを定期的に開催

23



③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化とネットワーク形成

「九州・山口地域の大学国際化ワークショップ」

趣旨：地域の大学の国際化に関する成功例の共有や連携協力のためのネットワーク形成の推進。

対象：九州・山口地域に所在する大学等において、国際交流、留学生教育業務等に携わる教職員

【開催実績】

第1回「学生の国際流動の促進」(2012年3月16日)

教育の国際化やグローバル人材育成に関する基調講演の後、「ワンストップサービス」と「日本人学生の留学支援」について分科会を設け、活発な意見交換を行った。(参加者：32大学5機関から67名)

・参加者のコメント抜粋(アンケートより)

- ・他大学の留学生サポートの現状を知ることができた。
- ・全国会議とは異なる雰囲気でも有意義であった。

第2回「成功する海外プロモーションと地域ブランディングの可能性」(2012年8月7日)

ブランディングの専門家による講演の後、7グループに分かれて、「成功する海外プロモーション」や「留学生に伝えたい九州・山口の魅力」など複数のテーマについてグループワークを行った。

(参加者：21大学から36名)

・参加者のコメント抜粋(アンケートより)

- ・外国向けではなく、日本国内に向けてのプロモーションのためにも参考になった。
- ・規模は異なるが、問題の共有化ができて有意義でした。



24



第3回「異文化交流支援のあり方：日本人学生と地域コミュニティを巻きこむには」 (2012年12月17日)

異文化交流について具体的な事例や交流促進のための取組に関してご講演の後、小グループに分かれ、グループワークを行った。その後、各グループの代表からその結果について発表いただき、成果の共有を行った（参加者：22機関から48名）

・参加者のコメント抜粋(アンケートより)

- ・各大学で、大学の規模や体制に大きな差があり、事例があてはまらないことが多い。
- ・他大学の事例について詳細に学ぶことができた。

第4回「大学と危機管理：学生をまもるためにすべきこと」(2013年3月6日)

研究者、現場担当者、危機管理業者の3つの異なる立場から「学生をまもるために」大学がすべきことなどを事例を交えながら紹介の後、会場からの質問にパネリストが答える形でパネルディスカッションを行った。（参加者：25機関から48名）

・参加者のコメント抜粋(アンケートより)

- ・様々な方面から学生の危機管理の在り方を知ることができ、今後本学の学生派遣にも生かしていきたい。

第5回「海外拠点：その現状・課題・展望」(2013年7月9日)

海外拠点の役割、運営する上での課題についての講演後、会場からの質問にパネリストがコメントする形でパネルディスカッションを行った。（参加者：25機関から37名）

・参加者のコメント抜粋(アンケートより)

- ・公表されている情報では得られないことばかりで、勉強になった。

25



b. 産業界との連携

□ 留学生の就職支援

九州大学留学生のためのJOB FAIR（2010年度開始）

2013年度は出展23社、約126名の留学生が参加。ガイダンス、個別相談会も同時開催。

九州グローバル産業人材協議会・夏季インターンシップ

九州経済産業局、九州経済連合会、麻生塾主催。約70社が協力

期間：1週間～2か月

本学から11名の留学生が参加(2013年度)

その他、個別企業説明会や企業経営者による出前講座を実施

□ アジア人財プログラム（2008年度開始：アジア人財資金構想から）

対象：工学系5大学院の修士及び博士課程学生

目的：エネルギー・環境技術人財の育成

教育内容：①エネルギー・環境工学や日本産業などに関する専門教育

②ビジネスマナーを含む日本語教育

③協力企業におけるインターンシップ

就職支援：キャリア講座やセミナー、企業見学会や個別相談会などを実施

40社を超える協力企業と連携し実施(講義、インターンシップ、採用)している。

これまでの就職実績は100%

26



c. 事務体制の国際化

□ G30プロジェクトオフィスの設置

- ・2009年11月に、本プロジェクトの実施に係る企画立案を行う「G30プロジェクトオフィス」を設置した。
- ・国際部留学生課職員2名、特任准教授1名、有期職員6名、パート職員1名を配置している。
- ・主に、2010年10月に開講した本学初の英語による学士課程国際コース(工学部及び農学部)に係る諸業務を遂行するための事務体制を確立した。
- ・英文による広報資料の作成、海外プロモーション活動、海外入試の実施、外国人教員の採用手続き、学内の国際化推進に係る諸業務を行っている。
- ・学士課程国際コースを実施している全学教育担当、工学部及び農学部には、G30プロジェクトオフィスで実務経験を積んだ有期職員をそれぞれ1名ずつ配置している。

□ 事務職員のための海外研修・語学研修

2009年度～2013年度の受講実績

業務英語能力向上研修(英語実務研修含む)	93名
英語ビジネスライティング研修	114名
グローバルキャリアスキル向上研修	17名
中国語研修(実務・中級・初中級・初級)	24名
韓国語研修(実務・初中級・初級)	27名
海外における英語研修及び自主課題研究(アメリカ、フィリピンなど)	22名

※マヒドン大学(タイ)とは、2012年度から事務職員の相互インターンシップ(2週間程度)を開始し、本学からは1名、マヒドン大学からは2名の事務職員が相手校を訪問した。



27



d. G30プロジェクトオフィスの役割(1)

□ 海外プロモーション活動・海外入試の実施

- アジアを主とした受入重点国を中心に、累計48カ国・地域約180の高校を訪問した。(2013年9月現在)
- JASSO主催、グローバル30採択他大学主催の日本留学フェアに参加し、本学国際コースのプロモーション活動を実施している。
- 学士課程国際コースに係る現地入学試験の補助業務(志願者への連絡、入試日程・会場調整、現地での対応等)を行っている。

□ 国際教育センター所属外国人教員関連業務

- 国際教育センターには、26名の外国人教員が所属し、各担当部局で即戦力となり国際コースの運営に携わっている。これらの教員に関し、以下の業務を行っている。
 - 選考関連業務
 - 赴任旅費手続き関連業務
 - 「教育国際化のためのFD」の開催等

□ 各種会議・委員会の開催

- G30プロジェクトの円滑な実施を図るため、下記委員会を開設し、それらを定期的に行っている。
 - G30実施調整会議
 - G30プロジェクトオフィス会議
 - 学士課程国際コース委員会
 - 国際教育センター教員会議
 - 国際化学生委員会
 - 国際化100人委員会

28



d. G30プロジェクトオフィスの役割(2)

□ 英文による広報資料の作成

- 学士課程国際コース用
 - 大学紹介パンフレット
 - 保護者用大学紹介パンフレット
(インドネシア語、タイ語、ベトナム語、中国語、韓国語)
 - 工学部・農学部プログラム紹介リーフレット
 - 工学部・農学部プログラム紹介DVD
- 大学院国際コース用
 - 国際コース紹介パンフレット
- 九州・山口地域大学紹介用
 - 九州・山口地域のための共用パンフレット(英語、日本語)



□ 学内文書・規則の英文化

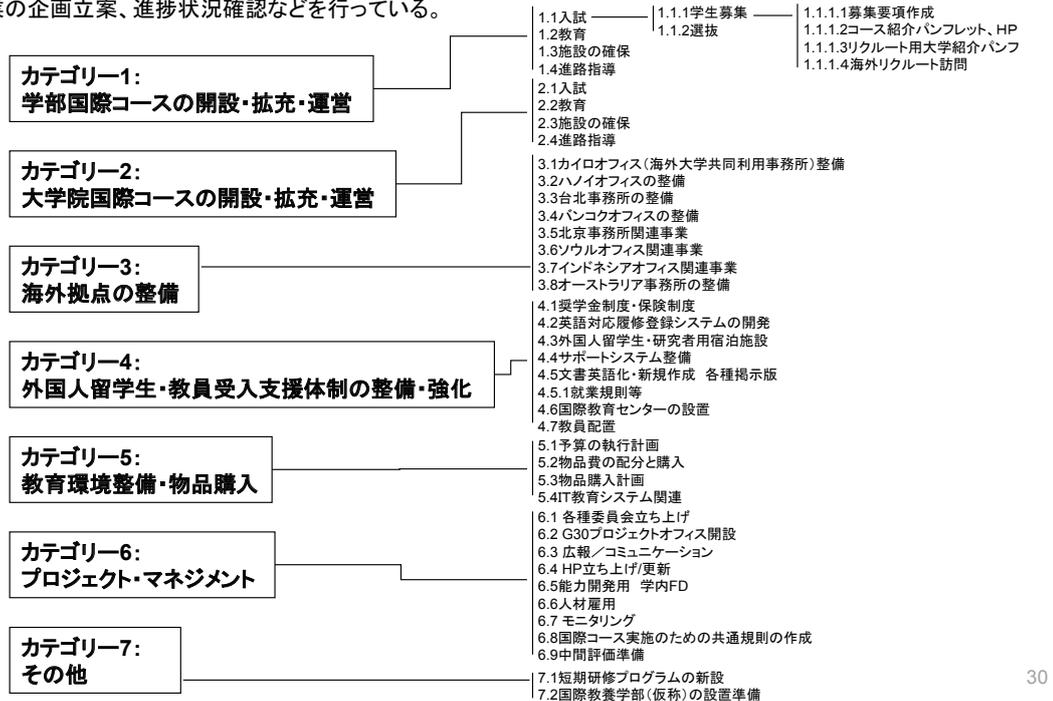
- 主要な学務系文書や学務系システム、「教員ハンドブック」などを英訳
- 英文化が必要と判断される規則約160本を選定し、英訳
- 学内情報翻訳データベースシステム(KUTRIAD)を導入。学内規則や学生・教員向け英訳文書を蓄積し、部局間での活用に向け準備中。

29



e. G30の活動:タスクの構造化(作業分割構成:WBS)

本プロジェクト実行に関する様々な要素を抽出した作業分割構成(WBS:Work Breakdown Structure)を作成し、事業の企画立案、進捗状況確認などを行っている。



30



f. 評価の実施と改善

□ 中間評価結果における指摘事業等への対応状況

事業により雇用した外国人教員の事業後の対応については、現在国際コースを開設している全部局に対し個別ヒアリングを行いながら、検討を行っている。

□ 内部評価による評価の実施と改善

G30プロジェクトオフィスにおいて本事業の取組実績や進捗状況を一元的に集約し、四半期レポート、年次レポートとしてまとめるなど、各取組に関する検討・改善等を機能的・効率的に行っている。

また、国際的に活躍している本学教員からなる「国際化100人委員会」における助言や、「国際コース実施連絡会議」における情報交換・意見交換等を行うことにより、先行して国際コースを開設している部局の経験やグッド・プラクティスを他部局にも波及させるよう努めている。

さらに、様々な学内調査を行い、各部局、教職員、学生のニーズ等を把握することにより、本事業の効果的・効率的な推進に努めている。

□ 外部有識者等による評価の実施と改善

学内委員のほか、留学生支援機関等関係者が学外委員として参画する「国際交流総合企画会議」を毎年開催している。

また、2011年度に新たに立ち上げた「国際化学生会」では、留学生、日本人学生が主となり、学生の視点から本学の国際化やその問題点等についての議論を活発に行っている。2012年度からは国際化に向けたキャンパス整備、留学生・日本人学生間の交流について具体的な活動に着手している。³¹



① 特筆すべき成果と波及効果

- 受入重点国等での現地入試(筆記及び面接)の実施、現地面接でのTV会議システムの活用、申請段階におけるSAT(大学進学適性試験)の導入など、従来の入試制度を改革したことにより、海外の優秀な学生を獲得するシステムを構築した。
- 新規海外オフィス(カイロ、ベトナム、台湾、バンコク)を整備し、海外オフィスの役割として、従来のプロモーションに加え、現地入試に活用した。
- 本事業で開設した学部(工学部・農学部)における国際コースの運営を取り扱う学士課程国際コース委員会を設置し、そのもとに、コース生へのアンケート調査による修学状況や様々なニーズのモニタリング実施、また、本学経費による奨学金制度を確立するなどの改革を行った。
- 全ての大学院と2学部において国際コースを開設(計62コース)し、コース運営を担当する外国人教員26名の採用を契機として、外国人雇用の際の契約制度の確立、英語による教員ハンドブックの整備を成し遂げた。また、外国人教員が主宰する教育の国際化FDでは、各部局における国際化の現状や問題点を共有することで、全学的な国際化の促進につなげている。

32



② 学士課程国際コースの学生からの評価(1)

【サポート体制について】

1. 役に立ったサポートは？

- ・サポートチーム、コーディネーターによる支援が充実している。
- ・奨学金のおかげで生活費が助かる。
- ・共用スペース(common room)があるので、いろんな場に利用できて便利だ。
- ・フィールドトリップに参加し、多くの学生と交流が深まった。

2. 今後必要とされるサポートは？

- ・専攻を選択するにあたっての相談窓口を設けてほしい。
- ・大学院進学のための情報を提供してほしい。
- ・日本での就職に関する情報を提供してほしい。
- ・日本語習得に関するサポートをより充実させてほしい。
- ・もっと日本人学生と交流する機会がほしい。

Kさん(中国出身)

農学部国際コース在籍

九州大学に入学して最初の1.5年は一般教養を学ぶことができ、日本文化や国際関係、経済学といった広い分野について関心のある科目を学ぶことができます。また、専攻課程のカリキュラムは専門知識の範囲を広げると同時に深めることができるようになっていきます。課外授業で実際に食品加工場を訪れたり、多くのフィールドを実際に見ることで問題点を考えることにつながり、またその解決策をクラスや実験室で考えることにつながります。動物学を学ぼうと思って入学しましたが、今は多くの選択肢の中から自分の関心のある分野を学ぶ可能性が広がりました。

33



② 学士課程国際コースの学生からの評価(2)

学生からの意見(良い点)

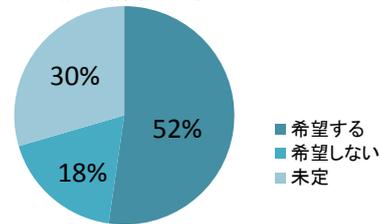
- 住居(寮生活)について**
 - ・日本人学生との交流も生まれて楽しく過ごせる。
 - ・学内なので授業への移動が容易である。
- 各種サポートについて**
 - ・こちらの人々はとても頼りになる。多くのサポートを得ていると感じている。
- その他**
 - ・クラブ活動に参加し、日本人の友人が多くできた。
 - ・ほとんど毎日、日本人学生と交流している。
 - ・日本語の練習になり、とてもよい。

学生からの意見(改善してほしい点)

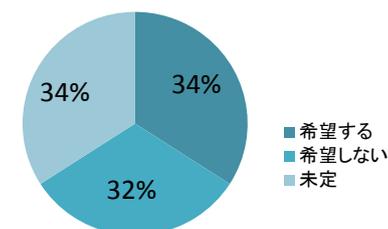
- 住居(寮生活)について**
 - ・寮が市街地から遠く、毎日の食材の買出しが困難である。
- 各種サポートについて**
 - ・日本語のみで表記されている情報が多い。
- その他**
 - ・授業とクラブ活動の時間帯が重なり、希望するクラブ参加が難しい。

【進路調査】(対象1・2年生)

日本での修士課程進学について



日本での博士課程進学について

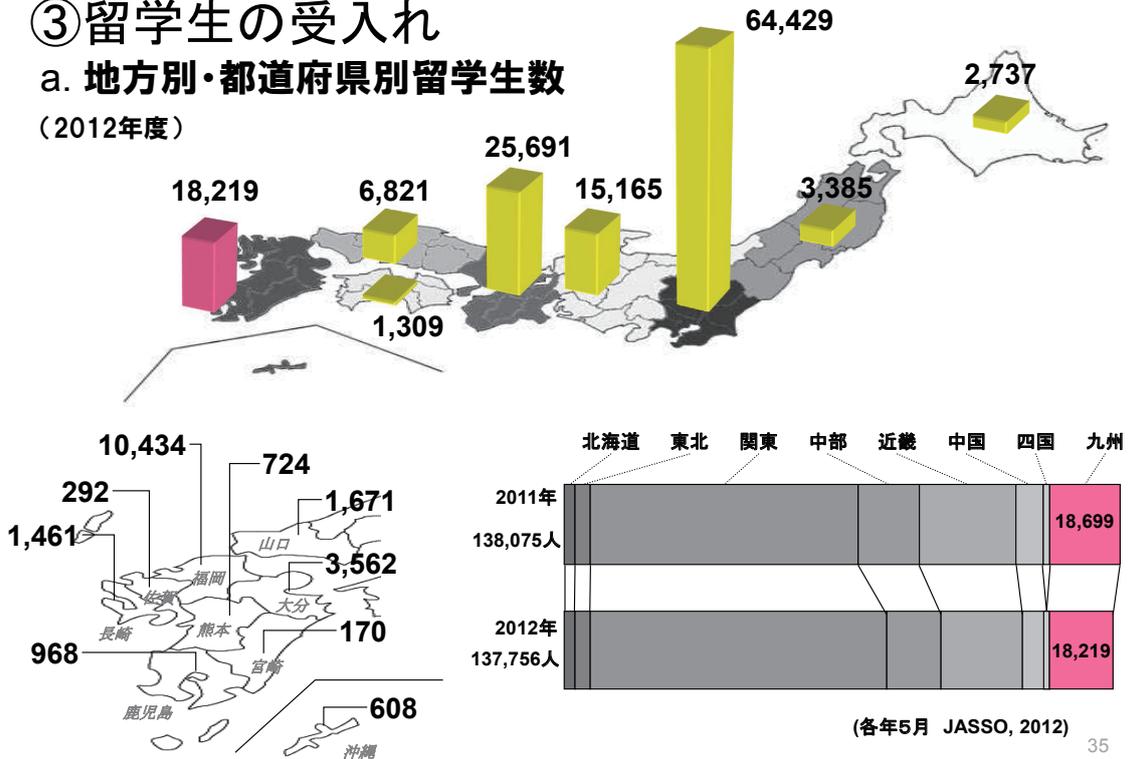


34

③ 留学生の受入れ

a. 地方別・都道府県別留学生数

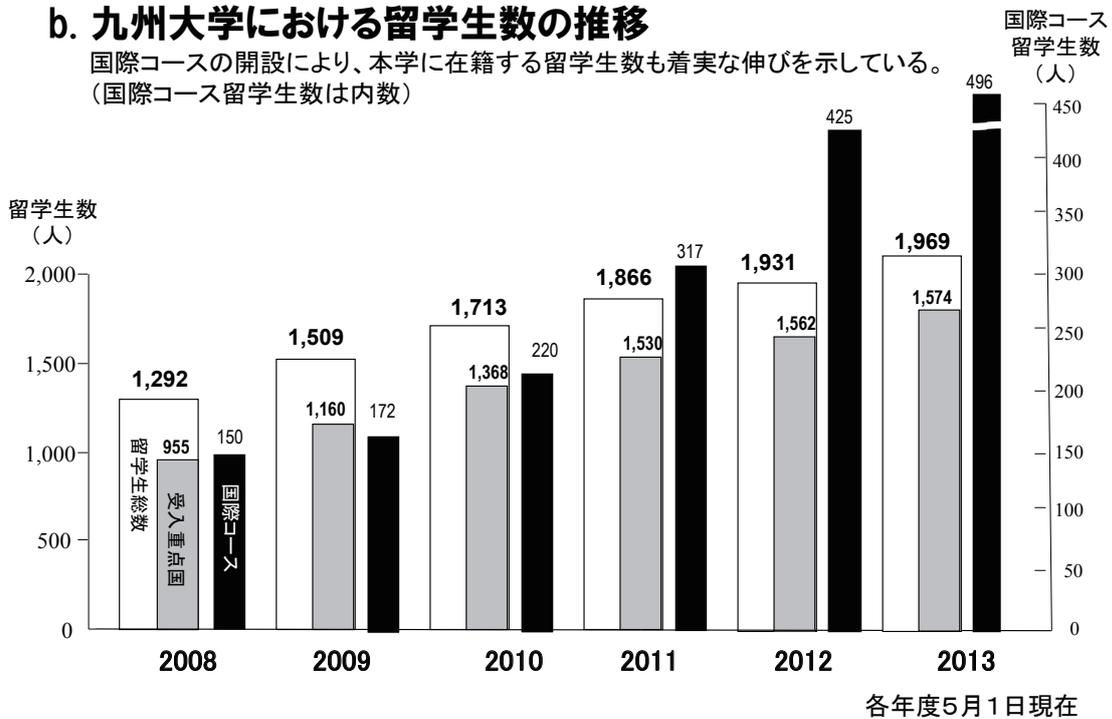
(2012年度)



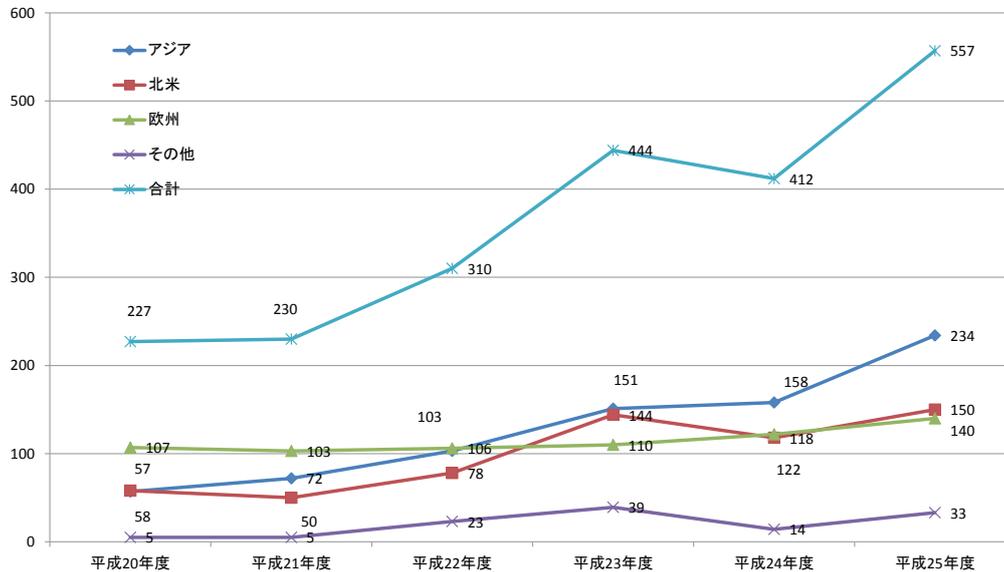
35

b. 九州大学における留学生数の推移

国際コースの開設により、本学に在籍する留学生数も着実な伸びを示している。
(国際コース留学生数は内数)



36

**(参考)九州大学における日本人学生の海外留学者数**

37

**④海外大学との連携プログラムの新たな実施(1)**

● ASEAN in Today's World(AsTW) 2009年度開始

九州大学とASEAN加盟国の有力大学が共同で開催する、英語によるASEANと東アジア及びアジア言語・文化を学ぶ短期留学プログラム。アテネオ・デ・マニラ大学、マヒドン大学(タイ)など。
(実績)参加者数:2011年度50人、2012年度42人、2013年度37人(予定)

●日韓海峡圏カレッジ 2011年度開始

韓国釜山大学校と本学にて両校の学生がともに学ぶ東アジアにおけるリーダーとなる人材育成を目指すプログラム (実績)受入数:2011年度10人 2012年度50人 2013年度50人

●国際的視野をもったアグリバイオリダー育成プログラム(ALEP) 2011年度開始

サンノゼ州立大学と連携し、農学部学生を4週間派遣
(実績)参加者数:2011年度16人、2012年度42人、2013年度46人

●グローバル人材育成推進事業(農学部) 2012年度開始

カリフォルニア大学デービス校・サンノゼ州立大学・ジョージア大学コスタリカ・ハノイ農業大学・キングモンクトン工科大学・ニューサウスウェールズ大学などと連携し、農学部学生等を派遣
(実績)参加者数:2013年度89人

●マヒドン大学日本語集中プログラム 2012年度開始

マヒドン大学(タイ)から3週間学生を受入れ
(実績)参加者数:2012年度10人、2013年度6人

●スパイラル型協働教育モデル:リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して

2012年度開始
シンガポール国立大学(シンガポール)、マラヤ大学(マレーシア)、チュラロンコン大学(タイ)、アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)との連携事業。

(実績)2012年度3月ショートターム交流としてシンガポール及びタイへ学生をのべ20名を派遣

38



④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施(2)

●エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム 2011年度開始
上海交通大学及び釜山大学校との連携事業。

(実績) 2011年度3月スプリングセミナーにて、上海交通大学から10名、釜山大学校から10名を受入れ。2012年度8月サマースクール(第1回)を釜山大学校にて開催。九州大学から21名、釜山大学校から11名、上海交通大学から9名の学生が参加。9月から本事業初の交換留学を実施(各校へ3名ずつ派遣、各校より3名ずつ受入)。2月にはダブルディグリー協定を3大学にて締結。また、2月に学生交流事業として国際シンポジウム(CSS EESTセミナー)を九州大学で開催。九州大学から55名、釜山大学校から38名、上海交通大学から22名の学生が参加。

●地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム 2012年度開始

早稲田大学、チュラロンコン大学(タイ)、バンドン工科大学(インドネシア)、ガジヤマダ大学(インドネシア)、フィリピン大学(フィリピン)、マレーシア科学大学(マレーシア)、ホーチミン市工科大学(ベトナム)、カンボジア工科大学(カンボジア)との連携事業。

(実績) 2012年度 1月チュラロンコン大学にてキックオフセミナーを開催。(参加学生数67名)

●ダブルディグリープログラム(工学府)

ルンド大学(スウェーデン) 2011年度開始 (実績)派遣2人、受入れ1人

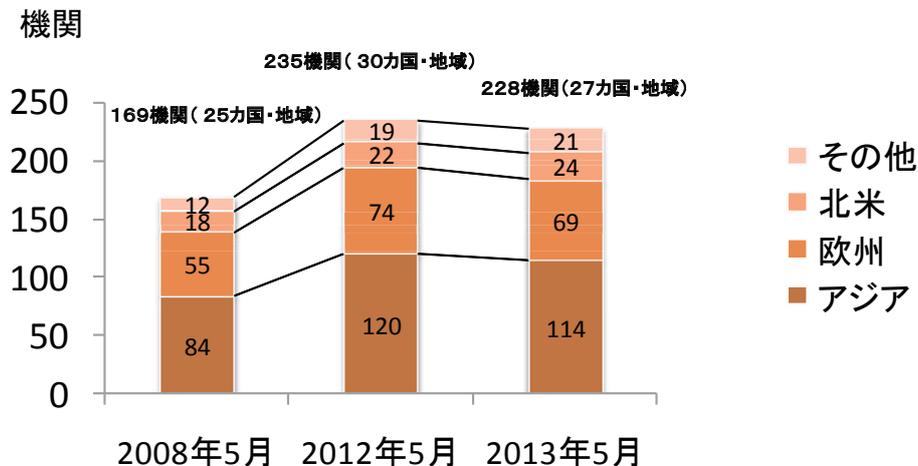
●ダブルディグリープログラム(法学府)

ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー) 2012年度締結



⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

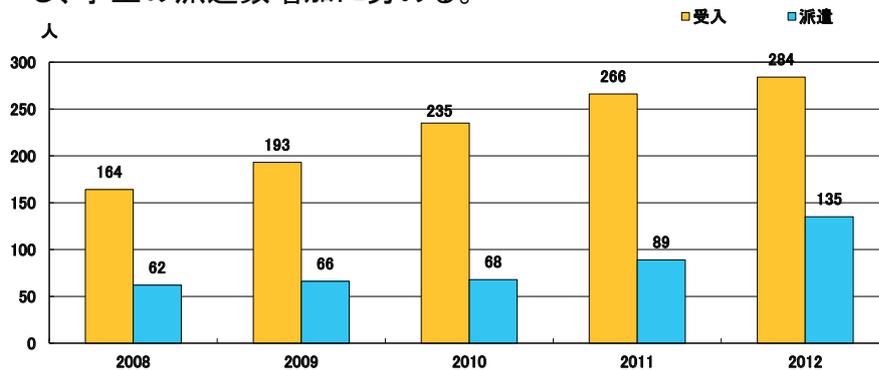
a. 協定の締結数





b. 協定等に基づく学生の受入れ・派遣

- 大学間及び、部局間交流協定の増加に伴い、協定等に基づく学生の交流数は、年々増加傾向にある。
- 協定等により受け入れた留学生は、幅広く、留学生向けの短期留学プログラムや、各学部・大学院に所属し、本学学習環境のダイバーシティに大きく寄与している。
- 受入れに比して派遣学生数の伸び幅が小さいため、今後は、留学生によってもたらされた、このグローバルなキャンパス環境を生かし、学生の派遣数増加に努める。



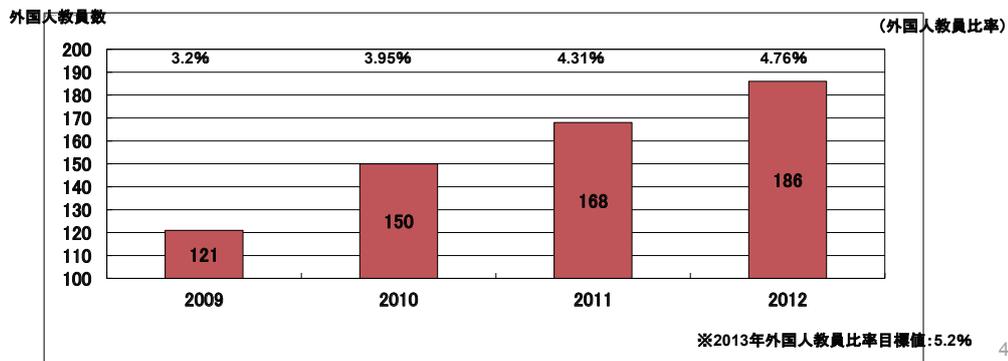
41



⑥ 教育体制の充実

a. 外国人教員の雇用

- 本事業で開設した国際コースにおける授業の担当やカリキュラム・教材の開発等を担当する外国人教員枠の設置や、本学独自の「主幹教授」制度のもとに推進した外国人教員の新規雇用などにより、外国人教員比率は年々増加している。
- 2011年度から、本事業で雇用している外国人教員によるFDを定期的に開催し本学の国際化について検討している。



42

b. 国際教育センター所属外国人教員の配置

本プロジェクトで開設する各部局国際コースにおける授業担当やカリキュラム・教材の開発等を行うため、26名の外国人教員採用枠を新たに設けた。これらの外国人教員を集約し、本学の教員と有機的な連携を図り、将来的に国際教養学部(仮称)構想に繋げるため、国際教育センターを設置した。

国際教育センターの設置(2009年11月)

<p>構成</p> <p>1) センター長：総長特別補佐（国際担当）</p> <p>2) G30経費等による外国人教員 26名</p> <p>3) コーディネーター教員 3名</p>
<p>業務</p> <p>1) 各学府・学部（全学教育を含む）での国際コースの授業担当</p> <p>2) 国際コースのカリキュラム・教材等の開発支援</p> <p>3) 英語教育に関するFDの企画・実施支援、留学生募集活動、その他学内の国際化支援</p>
<p>教員会議</p> <p>構成：センターの教員（全員）</p>



国際コースを開設する当該部局を兼任

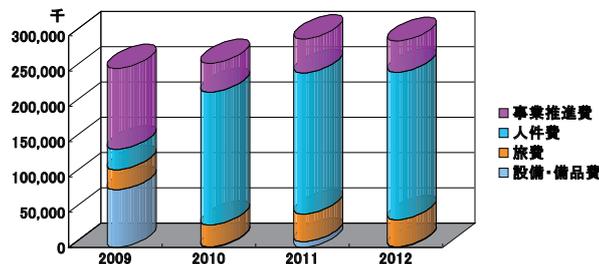
部局(学部・学府)	人数	職位*	国籍
工学部/工学府	5	P, AP	UK, ドイツ, ロシア, バングラデシュ, アルジェリア
農学部/生物資源環境科学府	3	AP, L	合衆国, バングラデシュ, ハレスチナ
人間環境学府	1	AP	スリランカ
法学府	3	AP, AtP	ベルギー, オーストリア, フィリピン
経済学府	3	AP, L	インド
数理学府	1	AP	カナダ
システム生命学府	1	P	ベルギー
医学系学府	1	L	合衆国
歯学府	1	L	UK
芸術工学府	1	AP	オランダ
統合新領域学府	1	L	メキシコ
人文科学府	2	AP, L	合衆国
比較社会文化学府	1	AP	合衆国
言語文化研究院	2	P	アイルランド, フランス
(14部局)	26		16カ国

* P: 教授; AP: 准教授; L: 講師; AtP: 助教

43

① 予算額の推移と使用実績

- 事業経費の大部分を占める人件費は、国際コース運営を担当する外国人教員等の雇用に充当されており、これらの教員は同時に、国際化に対応し得る日本人教職員の育成を促し、事業終了後は、多くの日本人教職員が教育の国際化を継続的に担う。
- 事業の推進には、補助金の他に学内共通経費等を資金として、主に人件費、リクルート旅費等を捻出している。



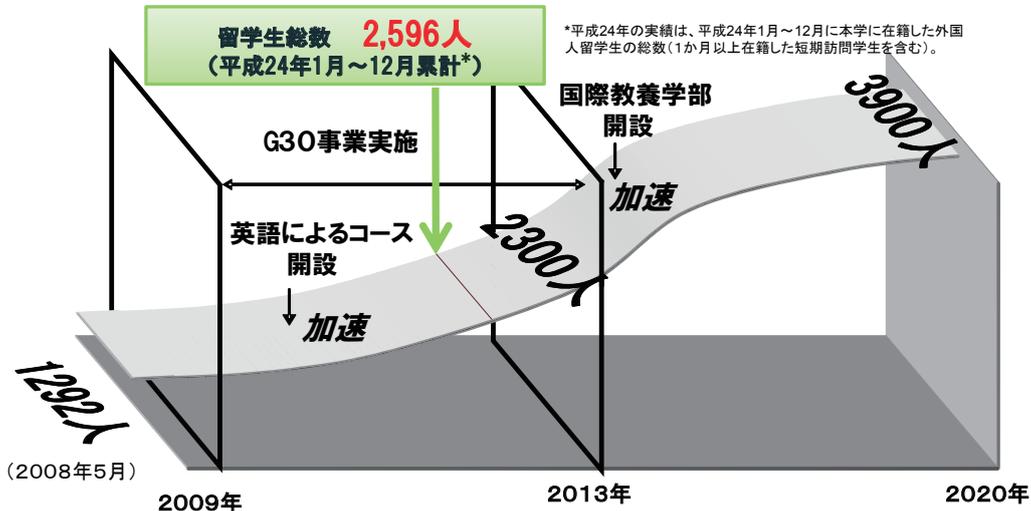
② 内部監査等の実施

- 補助金の執行に際しては、年度当初に年間の執行計画を立て、毎月の執行状況を確認しながら、計画的に執行している。物品等の購入や旅費の手続きにあたっては、本補助金取扱要項等に十分留意し、本事業担当者と会計経理担当者が緊密に連携をとりながら、本事業の実施に真に必要なかを判断して手続き・執行管理を行っている。2009年度には内部監査を実施した。

44



①九州大学のG30計画：留学生拡大のシミュレーション

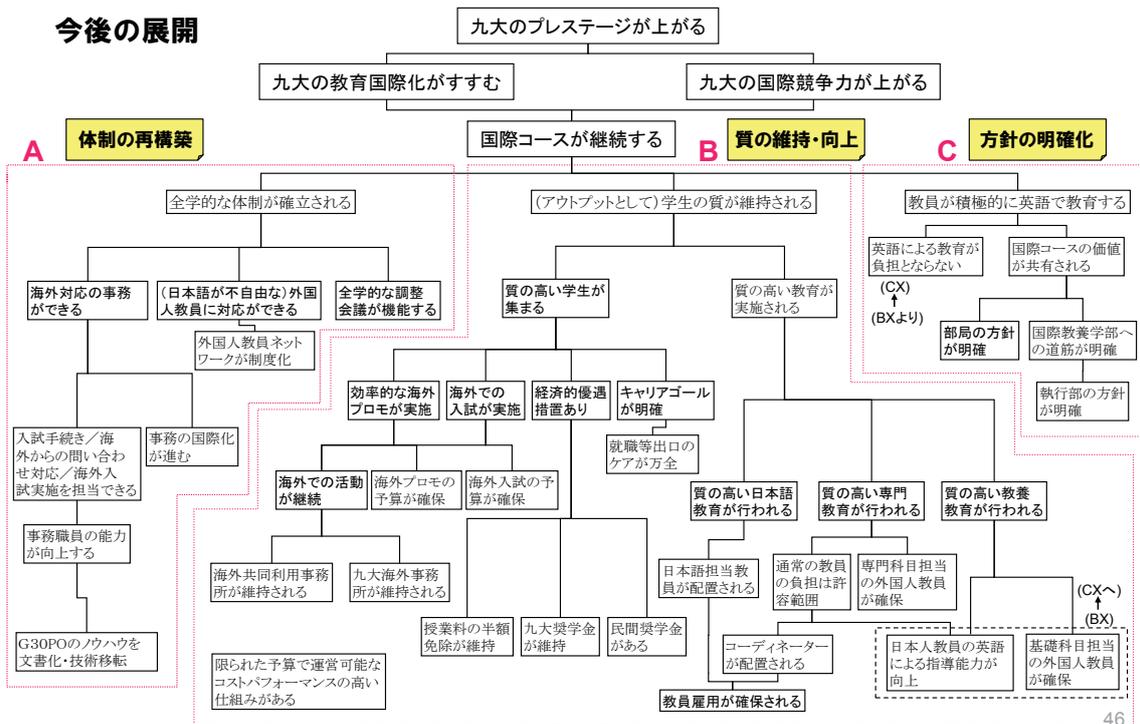


本プロジェクト開始後、全分野の大学院における国際コースの開設、受入重点国を中心とした海外プロモーション活動の成果として、順調に留学生数を伸ばしている。財政支援期間終了後においても、大学院国際コースの充実、国際教養部の開設、短期留学プログラムの増加等により、2020年の留学生受入目標値を目指す。



②事業終了後の教育国際化のあり方

今後の展開





② 事業終了後の教育国際化のあり方

教育システム等の国際化改革工程表イメージ

ステージⅠ：
2014 ~ 2015
(H26) ~ (H27)

- ① 基幹教育院の体制整備(平成23~25年度)、**基幹教育カリキュラムの開始(平成26年度)**
- ② **21世紀プログラムの国際化**(平成26~27年度各種コースの設置)
- ③ 若手・外国人教員(年俸制教員)の積極的採用及び**新任教員の英語での授業必須化**
- ④ 学生 & 教員の流動化の加速
- ⑤ ユニット別国際共同研究の推進
- ⑥ **若手教員の戦略的長期海外研修**
- ⑦ 海外オフィスの新規開拓(イリノイ大学等)
- ⑧ 国際対応インフラ(国際村等)整備
- ⑨ URA組織・IR機能の充実

ステージⅡ：
2016 ~ 2021
(H28) ~ (H23)

- ⑩ **国際教養学部**の設置(平成28年度)
- ⑪ **海外オフィスのキャンパス化**(カリフォルニアオフィス)
- ⑫ **四学期制の導入** & 英語による授業科目1/4
- ⑬ 海外大学ユニットごと招致の推進
- ⑭ キャンパス移転完了(平成31年度)=未来型キャンパス

ステージⅢ：
2022 ~ 2023
(H34) ~ (H35)

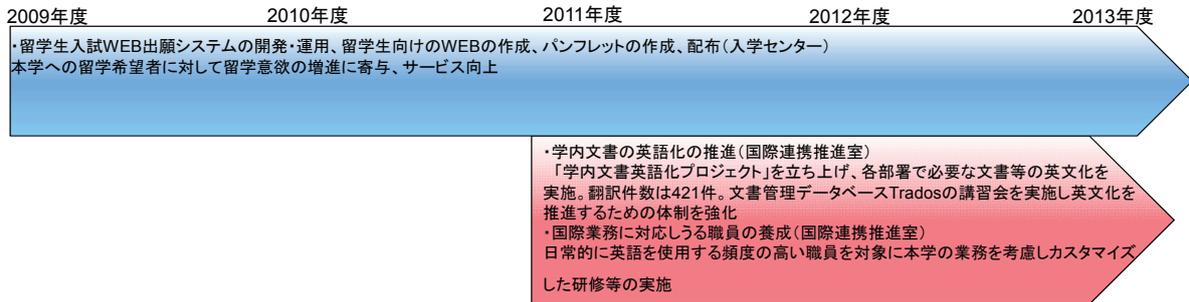
- ⑮ 本格的な国際教育 & 多様な学位取得方法の実現
- ⑯ 世界水準の研究・研究交流
- ⑰ 世界大学ランキングトップ100入り

(2012年の九州大学)
THE (引用件数・研究力重視): 336位
QS (大学イメージ・ブランド力重視): 128位

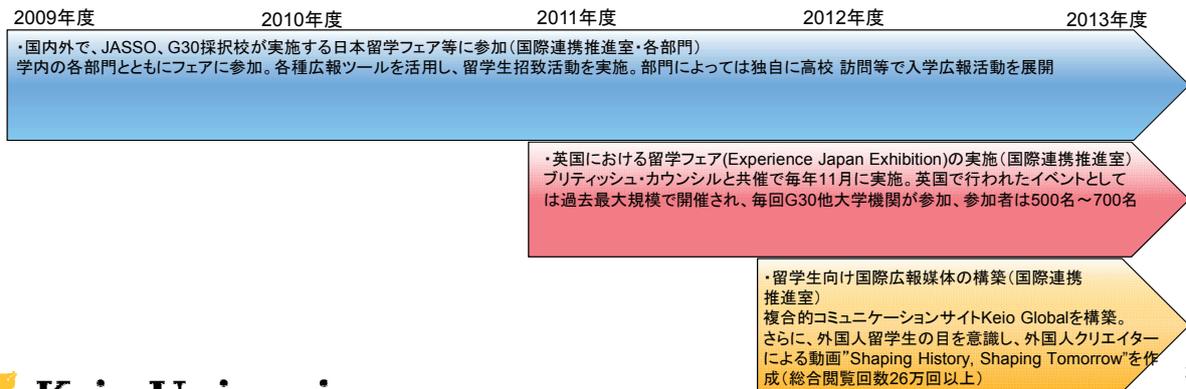


【取組年表】

②学内の国際化基盤整備



③優秀な留学生獲得のための国際広報



グローバル30総括シンポジウム

3

【目次】



1. 事業の概要と成果
 - ① 英語で学位取得可能な学部・研究科のコース、ダブル・ディグリーなどの国際的教育プログラムの新設・拡充
 - ② 学内の国際化基盤整備
 - ③ 優秀な留学生獲得のための国際広報の強化
2. G30以外の国際的な取組み
3. 経費の使用状況
4. データ編: 慶應義塾の国際化の状況
5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し



グローバル30総括シンポジウム

4

1. 事業の概要と成果



① 英語で学位取得可能な学部・研究科のコースや、ダブル・ディグリーなどの国際的教育プログラムの新設・拡充

- 2009年度 Sciences Po-Keio ダブル・ディグリー・プログラム(経済学研究科・経済学部)
- 2010年度 System Design and Management Course(システムデザイン・マネジメント研究科)
- 2011年度 GIGA(Global Information and Communication Technology and Governance Academic)プログラム(環境情報学部)

② 学内の国際化基盤整備

- 学内文書、システム等の英語化の推進
- 国際業務に対応し得る職員の養成

③ 優秀な留学生獲得のための国際広報

- 留学フェアを主催(英国におけるExperience Japan Expo)
- JASSO、G30大学主催の留学フェアに参加
- グローバルに活躍する本学の卒業生や留学生、留学希望者のためのプラットフォームとして、ウェブサイト、データベース、Facebookによる複合的コミュニケーションサイト、「Keio Global」を開設



5

グローバル30総括シンポジウム

英語で学位取得可能な学部・研究科のコース

環境情報学部	Global Information and Communication Technology and Governance Academic (GIGA) Program	B
経済学研究科	Sciences Po-Keio Double Masters Degree in Economics Program	M
商学研究科	Joint Japan/World Bank Graduate Scholarship Program in Taxation Policy and Management	M
理工学研究科	International Graduate Programs on Advanced Science & Technology	M/D
政策・メディア研究科	International Advanced Degrees Program	M
システムデザイン・マネジメント研究科	System Design and Management Course	M/D
メディアデザイン研究科	Media Design	M/D

※青い文字がG30事業により新たに設置した英語のコース



6

グローバル30総括シンポジウム

環境情報学部 GIGAプログラム



- ICT (Information and Communication Technology) 分野の創造的能力とガバナンス能力の修得を目指す学部プログラム。GIGAはGlobal Information and Communication Technology and Governance Academicの略
- 社会が直面しているグローバルな問題に対して、課題発見を行ない、その解決策を地球規模で探求、実践できる、知的コミュニケーションおよびコラボレーション能力に優れた人材を育成
- 授業は、講義形式に加え、グループワークや発表を重視し、また各教員が主催する「研究会」を中心に、学生が能動的に参加する様々なプロジェクトを通じて実社会の現実問題に取り組み、高度な専門性に裏付けられた「実践知」を体得
- 卒業時には4年間の学習の成果として、卒業プロジェクトを必修
- 海外フィールドワークやインターンシップなどの機会も充実
- 日本語学習は初級～上級までを提供し、レベルに合わせた履修が可能。また留学生が自由に日本語学習について相談できる相談室や、授業時間外に「漢字ワークショップ」や追加講義等を希望者に無料で提供。



GIGAプログラム三期生

7

グローバル30総括シンポジウム



GIGAサティフィケート要件科目履修者数



■ GIGAサティフィケート要件科目数

2011年春学期	N/A	2011年秋学期	17
2012年春学期	21	2012年秋学期	34
2013年春学期	27	2013年秋学期	43

■ 一学期中の履修者数が多い順に一部を紹介 (2013年春学期および秋学期データから)

世界の中の日本としてのIT政策と技術	205名	(GIGA生とSFC生の合計数)
芸術と科学	111名	
総合政策学の創造	72名	
インターネット	56名	
語彙意味論	54名	
環境情報学の創造	51名	
ライティング技法ワークショップ	43名	
地域と社会(アジア・大洋州)	42名	
電子おもちゃ設計ワークショップ	37名	
プレゼンテーション技法	36名	



8

グローバル30総括シンポジウム

GIGAプログラム生の声



“The GIGA program offers a diverse range of classes. We can make use of that advantage and try different kinds of classes and then find the courses we really have interest in. You surely can find out what your passion is and what you like to study here.” (二期生・インドネシア出身)

“The GIGA program has allowed me to find and pursue my field of study in an environment unlike anywhere else and I wouldn't have wanted to experience it any other way. There is literally a new world to discover here, one that can offer nearly every opportunity as long as you are willing to look for it.” (二期生・アメリカ出身)



GIGA Program映像
<http://ic.sfc.keio.ac.jp/about-sfc/why-sfc/>



“Campus life at SFC”



“GIGA Program Summer Camp 2013”



9

グローバル30総括シンポジウム

GIGA プログラム Summer Camp 2012



入学広報および、世界の優秀な高校との連携強化のために、GIGAプログラムSummer Camp2012 (2012年7月31日～8月4日)を開催

高校生用プログラムと、高校教員用プログラムを並行して開催

【高校生用プログラム】

- 計21名参加(イギリス、シンガポール、香港、インドネシア、台湾、ロシア、日本等の在住又は国籍者)
- プログラム内容:IT Workshop、大学紹介、研究室見学、インキュベーション施設見学、在学生との交流、横浜・鎌倉訪問

【高校教員用プログラム】

- 計6名参加(米国・ハワイ、シンガポール、インドネシア・ジャカルタ、台湾・台北、インド・ニューデリー)
- プログラム内容:大学紹介、研究室見学、インキュベーション施設見学、在学生との交流、鎌倉・横浜訪問



10

グローバル30総括シンポジウム

GIGA プログラム Summer Camp 2013



第2回となるGIGAプログラムSummer Camp2013 (2013年7月6日～7月9日)を開催

前回と同じく、高校生用プログラムと高校教員用プログラムを並行して開催

【高校生用プログラム】

- 計24名参加(アメリカ、イギリス、ドイツ、インドネシア、香港、台湾、中国、韓国、シンガポール、フィリピン、日本の在住又は国籍者)
- プログラム内容:IT Workshop、大学紹介、SFC七夕祭参加、授業見学、在学生との交流、横浜・鎌倉訪問

【高校教員用プログラム】

- 計6名参加(米国・ハワイ(2名)・ロサンゼルス、インドネシア・ジャカルタ近郊、台湾・台北、香港)
- プログラム内容:大学紹介、SFC七夕祭参加、研究室見学、授業見学、インキュベーション施設見学、在学生との交流、IT Workshop見学、鎌倉・横浜訪問



11

グローバル30総括シンポジウム

GIGAプログラム留学生受入のための環境整備



- 入学前に、新入生向け交流会と英語による銀行口座開設説明会を実施(希望者はその場で手続き可能)
- 入学時に、GIGAプログラム学生向けの英語のガイダンスを実施
- 入学直後にGIGA Program Freshman Orientation Campを開催し、円滑なキャンパスライフのスタートを支援
- GIGAプログラム学生担当のメンター教員を任命し、学業を中心にキャンパスライフに関して指導、助言
- メンター三田会国際奨学金(120万円/年x最長4年間)プラス優秀学生には学習奨励費(120万円/年x最長4年)、小林正忠国際奨学金(100万円/年x最長4年間)、あきら基金慶應義塾大学SFC国際奨学金(500千円/年x1年)など、GIGAプログラムへの留学生用奨学金を用意。毎年度各1名に対し、奨学金を給付。

GIGA Program Icebreaking Session September 13, 2013

Thu., Sept 13	
10:30 - 11:30	Bank Session, explanation on system and opening accounts
11:30 - 14:00	Ice-breaking among participants Lunch and handing of the bank books
14:00 - 15:00	Self-introduction
15:00 - 16:00	BBQ Party
16:00 - 17:00	Cleaning up

GIGA Program Orientation Camp 2013 Schedule September 21, 2013

Sat, Sept 21	
9:30 - 10:30	Kenkyukai and Lab Introduction
10:30 - 11:00	Vice President's Session
11:00 - 12:00	Health check-up(female), ice breaker (male)
12:00 - 13:00	Lunch
13:00 - 14:00	Campus life (Senpai students and faculty members)
14:00 - 15:00	Health check-up(male), Ice breaker (female)
15:00 - 15:30	History of Keio and Fukuzawa's spirit
15:30 - 16:30	Presentations by faculty members of their research projects Q & A
16:30 - 17:30	Academic integrity, Open Research Forum, 4-year plan



12

グローバル30総括シンポジウム

経済学研究科

Sciences Po-Keio ダブル・ディグリー・プログラム



- パリ政治学院(Institut d'Etudes Politiques de Paris、通称Sciences Poーシアンスポ)修士課程との英語によるダブル・ディグリー・プログラム
- Sciences Po は、1872年に創設されたフランス屈指のグランゼコールで、数多くの企業家・中央銀行総裁・官僚のほか、世界各国の大統領・首相・閣僚等を輩出、慶應義塾大学とは1987年からの交流実績
- 4月からの半年を慶應で勉強し、その後一年間をSciences Poで、そしてまた慶應で一年間勉強するという、2年半のプログラム
- 経済学の専門知識の獲得のみならず、国際的な視野と経験を兼ね備えていることを内外に証明することができ、大学院修了後のキャリアの選択肢が拡大
- 経済学研究科修士課程に在籍する学生でScience Po派遣生として選抜された学生は、研究科在学期間中の1年間をScience Poで過ごし、特定の科目を履修
- 2014年1月現在 科目数:205



第二期修了生のダブル・ディグリー授与式

13

グローバル30総括シンポジウム



SciencesPo – Keio DDプログラム一期生の声



「科目は一般的な経済学の授業のほかに法律や政治、公共政策に関するものがあります。授業は大教室における授業形式の「カンファレンス」と、「プチクラス」とよばれる、少人数による演習や議論を中心とした形式の二部構成になっております。教員の多くは中央銀行やさまざまな機関で実務に携わっている方で、学校以外からもシンクタンク等からいらしている理論家の方が教えています。私が一番気に入っていたEconomic Policyという授業ではフランス金融庁の先生と経済系シンクタンクの先生が並んで座り、講義をしながらお互いに議論をするというもので、「実務家が理論をどのように用いているか、扱っているか」等面白い発見がたくさんありました。評価は、経済科目は基本的には試験ですが、中にはプレゼンテーション、レポート、もしくはそれらの組み合わせで評価が決まる科目もあります。」

「日本と大きく違うのは、三期制になっていて三期目がインターンになっていることです。これは必須で全員が仕事をみつけ、夏まで仕事をし、それをプロジェクトとしてまとめて指導教員に発表します。クラスメイトは各々政府系のインターンとしてアフリカや諸外国で働いたり、民間会社で自分の学んだことを応用したり、大学で先生のもとで研究したり様々です。私は奨学金の関係でパリにおいて運用会社で数理モデルを開発したり、利用して株やポートフォリオの分析をしたりしています。これにより今まで学んだことを応用したり、また研究題材を発見したりすることもできますし、なにより実務に必要な知識とスキルを身につけることができます。私としては、この経験は実利実学の観点から非常に有益に感じています。」



14

グローバル30総括シンポジウム



学部レベルへの展開

経済学部とSciencesPoとのダブル・ディグリー・プログラム



- 経済学研究科との実績により、2012年度からは経済学部とSciencesPoの間でも、英語によるダブル・ディグリー・プログラムが開始
- 学部におけるダブル・ディグリー・プログラムは、日本国内においても例が少ないが、SciencesPoにとっても、コロンビア大学に続き2校目、アジアの大学では慶應義塾大学が初
- 本学からの参加学生は、入学後の半年もしくは1年半を本学日吉キャンパスで学んだあと渡航し、SciencesPoの学生とともに2年間をル・アーヴルで、その後の1年半を本学三田キャンパスで学ぶ。卒業後はSciencesPoの修士課程に進学可能
- 本学の参加学生は、合計4年間または5年間で、またSciencesPoの参加学生は、欧州の学士課程の標準である3年間より半年長い3年半で卒業
- 豊かな国際感覚と幅広い教養、そして経済分野の専門知識を併せもつ次世代リーダーの養成をめざして設置。異文化に身を置き、意識の高い仲間とともに、複数の言語を用いながらの学生生活
- 応募資格：経済学部への入学予定者（1年生秋学期に渡航、4年間で卒業）および、第1学年在籍者（2年生秋学期に渡航、5年間で卒業）



15

グローバル30総括シンポジウム

システムデザイン・マネジメント研究科 (SDM)



- 国境を越えたグループワーク・交渉・協力のための国際的視野・常識・コミュニケーション能力を養い、安全保障政策や比較政治制度論などの非技術分野の知識素養を身につけ、国際的な事業体の競争の中で実力を発揮できる質の高い創造的なシステムデザイン能力と優れたマネジメント能力を備えた人材を養成
- 特別なコースに所属することなく、英語のみで学位を取得することが可能
- 所属教員の8割以上が海外での教育・研究・業務経験
- システムデザイン・マネジメント学の教授法の開発に関わる国際的な協議会CESUN(Council of Engineering Systems UNiversities)の日本から唯一のメンバーであり、国際標準の策定に参加
- 社会人と新卒学生が50%ずつ、理系と文系の学生が50%ずつ、留学生が15%と、多様な学生の存在



16



グローバル30総括シンポジウム

SDM研究科: 英語による授業 (一部)



INTRODUCTION TO SYSTEM DESIGN AND MANAGEMENT	Prof. Takashi Maeno, Prof. Seiko Shirasaka, et al. (Keio SDM)
SYSTEM ARCHITECTING AND INTEGRATION	Prof. Rashmi Jain (Montclair State University, USA)
SYSTEM VERIFICATION AND VALIDATION	Prof. Rashmi Jain (Montclair State University, USA)
PROJECT MANAGEMENT	Prof. Tetsuya Toma et al. (Keio SDM)
DESIGN PROJECT	Prof. Takashi Maeno, Prof. Seiko Shirasaka, et al. (Keio SDM)
SYSTEMS APPROACH FOR BUSINESS SYSTEMS	Prof. Masaru Nakano, Prof. Nobuaki Minato (Keio SDM)
PRACTICE OF SYSTEM DESIGN AND MANAGEMENT	Prof. Naohiko Kohtake, Prof. Keiko Shimazu, et al. (Keio SDM)
SPACECRAFT SYSTEMS DESIGN	Prof. Seiko Shirasaka et al. (Keio SDM), Prof. Shinichi Nakasuka (University of Tokyo)
SOCIAL SCIENCE RESEARCH DESIGN	Prof. Yoshihide Horiuchi (Shibaura Institute of Technology)
HUMAN FACTORS	Prof. Kenichi Takano et al. (Keio SDM)
CREATIVITY MANAGEMENT	Prof. Masaru Nakano, Prof. Richard Greene, et al. (Keio SDM)
SUPPLY CHAIN MANAGEMENT AND BUSINESS GAME	Prof. Dr. Paul Schoensleben (ETH, Switzerland), Prof. Masaru Nakano, Prof. Nobuaki Minato (Keio SDM)
COMPARATIVE POLITICAL INSTITUTIONS AND SYSTEMS THEORY	Prof. Ken Victor Hijino (Keio SDM)
LEARNING THE ART OF JAPANESE MANAGEMENT	Prof. Masaru Nakano, Prof. Hidemi Yashiro (Shibaura Institute of Technology)
PREDICTABLE PROJECTS	Prof. Tetsuya Toma (Keio SDM), Mr. Niels Malotaux (Project coach, the Netherlands)

17



グローバル30総括シンポジウム

SDM研究科の国際的な取組み



- ① 英語で学位取得可能、教材の英訳、英語教材の日本語化の推進
- ② マサチューセッツ工科大学(MIT)・ケンブリッジ大学・スイス連邦工科大学(ETH)等、海外有力大学との共同プロジェクト・交換留学・ダブルディグリー・プログラムの推進
- ③ 日本人学生のための「海外留学準備プログラム」
 - ・ 留学に対する動機付けと情報提供を行い、海外で通用する英語力を養成するためのプログラム
 - ・ 留学準備コースとして、海外の大学院での英語による講義を想定し、ディスカッションやプレゼンテーションも含めた総合的に英語力を強化
- ④ 英語による広報の充実
 - ・ ホームページやニュースレターを日英両言語で発行

18



グローバル30総括シンポジウム

ダブル・ディグリー・プログラムの拡充



経済学部	パリ政治学院 (Sciences Po) (フランス)	2012年～
文学研究科	マルティン・ルター・ハレ・ヴィテンベルク大学(ドイツ)	2009年～
経済学研究科	パリ政治学院 (Sciences Po) (フランス) CEMS MIM (国際経営学修士)プログラム	2009年～ 2011年～
商学研究科	CEMS MIM (国際経営学修士)プログラム	2011年～
理工学研究科	エコール・サントラル・グループ(フランス) ルンド大学(スウェーデン) ミラノ工科大学(イタリア) スウェーデン王立工科大学(スウェーデン) ミュンヘン工科大学(ドイツ) パリ国立高等師範学校(フランス) Supélec(フランス) アーヘン工科大学(ドイツ) マドリッド工科大学(ドイツ) テレコムブルターニュ電気通信国立大学	2005年～ 2010年～ 2011年～ 2011年～ 2011年～ 2012年～ 2012年～ 2012年～ 2012年～ 2013年～
経営管理研究科	WHU オットー・バイスハイム経営大学(ドイツ) ESSEC(フランス) HEC Paris(フランス)	2009年～ 2010年～ 2012年～
政策・メディア研究科	延世大学(韓国) 復旦大学(中国) インドネシア「リンケージプログラム」(インドネシア) マルティン・ルター・ハレ・ヴィテンベルク大学(ドイツ)	2005年～ 2005年～ 2006年～ 2009年～
メディアデザイン研究科	CEMS MIM (国際経営学修士)プログラム	2011年～

DDによる交流実績

受入実績	231名
派遣実績	132名
修了者実績	136名

※2014年1月までの実績の総数



※青い文字がG30事業により新たに設置したダブル・ディグリー・プログラム 19

グローバル30総括シンポジウム

CEMS (the Global Alliance in Management Education)



- ヨーロッパを中心とする世界トップレベルの29のビジネス系高等教育機関、それを支える多国籍企業約70社および4つの非政府組織(NGO)の連合体
- CEMSに参加できるのは世界各国から1校ずつと限られており、日本からは慶應義塾大学のみが参加(2007年12月に準会員として加盟、2010年12月に正会員として加盟)
- 2011年度より経済学研究科およびメディアデザイン研究科において本学の学位に加え、国際経営学修士の学位(CEMS MIM)を取得できるプログラムを開始
- 2012年度からCEMS加盟校との学生交換を開始

受入	派遣
2012年度 春学期 11人、 秋学期 4人	1人
2013年度 春学期 14人、 秋学期 10人	4人



20



グローバル30総括シンポジウム

CEMS 一期生の声



“The business project, hosted by one of the CEMS corporate partners; it is really interesting to be able to analyze a working business model and what would and wouldn't work outside of Japan. Another very positive aspect of the project is the fact that the CEMS group is a mixture of students of different nationalities and backgrounds, because this naturally generates a variety of ideas and also gives you the chance to educate yourself on how to communicate with all kinds of people.”



“CEMs student groups (of students on the study term abroad) are normally around 40 people, so they often appoint a social secretary who organizes regular social events. As we were the first group and we were relatively small in number, we didn't have such a system, but students do get together to socialize at least once a week. I made the most of the chances we had to meet people outside of the CEMS group, by searching out opportunities such as welcome events and student language exchanges. The CEMS students also share information about such events on their Facebook page.”



21

グローバル30総括シンポジウム

T.I.M.E. (Top Industrial Managers for Europe)



- 欧州域内の2つの文化圏で2つの言語を駆使して活躍できるエンジニアの育成を目的として、修士課程におけるダブルディグリープログラムの運用を行う理工系高等教育ネットワークとして1989年に16の大学によって設立
- 現在で欧州内外の55の機関が参加。これまでに欧州全域で2,500名以上の修了生を輩出
- 慶應義塾大学は2005年に開始したエコールサントラルとのダブルディグリーをきっかけとして、2007年に東北大学と並んで日本の大学として初めて加盟
- 2013年に慶應義塾大学はAdvisory Committeeメンバーに選出され、コンソーシアムの事業計画の策定など、その運営に積極的に関与



The T.I.M.E. Association



22

グローバル30総括シンポジウム

T.I.M.E. と慶應のダブル・ディグリー・プログラム



<p>Australia オーストラリア University of Queensland</p> <p>Austria オーストリア TUWien</p> <p>Belgium ベルギー Faculté Polytechnique de Mons Université Catholique de Louvain★ Université Libre de Bruxelles★ Université de Liège Vrije Universiteit Brussel</p> <p>Brazil ブラジル Universidade de Sao Paulo ☆</p> <p>China 中華人民共和国 Xi'an Jiaotong University ☆</p> <p>Czech Republic チェコ Ceské Vysoké Učení Technické v Praze</p> <p>Denmark デンマーク Danmarks Tekniske Universitet</p> <p>Finland フィンランド Aalto University</p> <p>France フランス EC Marseille★ EC Paris★ ENPC EC Lille★ EC Lyon★ EC Nantes★ ENSTA ENSAE SupElec★</p>	<p>Germany ドイツ RWTH-Aachen★ TU Berlin TU Darmstadt★ TU Dresden ☆ TU München★ U Erlangen-Nürnberg U Stuttgart</p> <p>Greece ギリシャ Aristotle University of Thessaloniki Ethniko Metsovio Polytechnio Athina</p> <p>Hungary ハンガリー Budapest U. Technology and Economics</p> <p>Italy イタリア Politecnico di Milano★ Politecnico di Torino Università degli Studi di Padova Università degli Studi di Trento</p> <p>Japan 日本 Keio University Tohoku University</p>	<p>Norway ノルウェー NTNU</p> <p>Poland ポーランド AGH University of Science and Technology Wroclaw University of Technology</p> <p>Portugal ポルトガル Instituto Superior Técnico</p> <p>Russian Federation ロシア Bauman Moscow State TU Moscow State TU Saint Petersburg State Polytech U. Tomsk Polytechnic University</p> <p>Spain スペイン Universidad Politécnica de Madrid★ Universidad Politécnica de Valencia Universidad Pontificia Comillas Universidad de Sevilla Universitat Politècnica de Catalunya ☆</p> <p>Sweden スウェーデン Kungl. Tekniska Högskolan★ Lunds Tekniska Högskola★</p> <p>Switzerland スイス ETH Zürich ☆ EPFL</p> <p>Turkey トルコ Istanbul Teknik Üniversitesi</p>
--	---	---

※赤い文字が慶應とダブル・ディグリー・プログラムを行っている大学



23

グローバル30総括シンポジウム

ダブル・ディグリー・プログラム導入の効用



- ① グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできる人材の育成
- ② 高等教育の国際的協同事業への積極的な参加
- ③ 学生・教職員に対し経常的にグローバルな感覚を醸成するようなキャンパス環境の整備
- ④ 相手校との質の高い交換留学の実施が可能



24

グローバル30総括シンポジウム

グローバル・キャリア・フォーラム



- 交換留学を活性化し、拡充するためには、学生の留学奨励が必要との問題意識から、2011年度から「留学フェア」と同時開催。学生が留学しようという意思を持っているにも関わらず躊躇する大きな要因である「就職と留学」の両立について、産学関係者で連携して意見交換を行うフォーラム
- 交換留学経験者で、在外公館にて公使の要職を勤めた方や企業経営者となっている卒業生による講演の実施
- 留学を経験のある就職したての卒業生、グローバル人材を求める企業の人事担当者によるパネルディスカッションの実施
- 2011年度～2013年度に、毎年約100名の参加



27

グローバル30総括シンポジウム

慶應義塾大学短期日本学講座

Keio Short-Term Japanese Studies Program (KJSP)



- Japan Now -

趣旨

- 慶應義塾大学短期日本学講座(KJSP)は、留学生と塾生が寝食を共にしながら学び合う交流型短期留学生受入れプログラム
- これまでは、留学生の受入れは半年もしくは1年。海外の協定校から、短期受入れの有無についての問い合わせが多数寄せられている状況であり、そのニーズに対応するべく2012年度に初めて実施
- KJSPは、これまでの受入れではターゲットにはなりえなかった海外の学生、また、将来的に長期留学を志す潜在的留学生の確保につなげ、塾生に海外留学生との交流の機会を新たに提供する点で、本学の国際化の拡充に寄与することを期待



28

グローバル30総括シンポジウム

慶應義塾大学短期日本学講座 KJSP - Japan Now-



2013年度プログラムの実施概要

- 日本のことについて英語で学習
- 留学生の学力等のバランスに配慮し、海外の交換協定校へ学生募集の案内を通知
- 参加予定学生は、外国人留学生20名、本学の日本人学生11名
- 実施期間:2014年1月28日～2月11日
- 2012年度は無料パイロットプログラムで実施したが、2013年度は有料で実施



29

グローバル30総括シンポジウム

慶應義塾大学短期日本学講座 KJSP - Japan Now- (2013年度実施例)



日程	曜日	場所	午前 (930-1130)	午後 (1230-1430)	午後後半(1430-)夕方/夜
1月28日	火	三田	留学生の出迎え (東京シティアターミナル T-CAT)	寮チェックイン	寮オリエン
1月29日	水	三田	(11:00-12:30)オリエンテーション、(12:30-13:15)ウェルカムランチ、(13:15-14:15)キャンパスツアー	(14:30-16:30)「異文化比較を通じての日本理解」 ジョセフ・ショールズ(異文化教育研究所所長/国際センター非常勤講師)	(17:00-) ウェルカムパーティー @南校舎4F ザ・カフェテリア
1月30日	木	三田	「サバイバル日本語」 平 明子/村上純乃(日本語・日本文化教育センター非常勤講師) *日本語既習者は日本語に関するアクティビティ	「日本の経営」 國領 二郎(常任理事/総合政策学部教授)	「日本企業訪問」 アスクル株式会社
1月31日	金	三田	「日本の食文化」 野澤 文二(日仏会館フランス事務所フランス国立日本研究センター事務局学術交流担当)	(11:30-14:30) 鮎川 実演とプレゼンテーション(屋敷:寿司) 松乃 鮎	ファイナルプレゼンテーション準備
2月1日	土	...	エクスカージョン(全日) 鎌倉散策		
2月2日	日	...	フリー		
2月3日	月	三田	「日本の経済」 柏木 茂雄(商学研究科教授)	「日本の経済」 柏木 茂雄(商学研究科教授)	「日本銀行訪問」
2月4日	火	三田	「日本の国際化と福澤諭吉(仮)」 阿川 尚之(総合政策学部教授)	「日本の国際化と福澤諭吉(仮)」 阿川 尚之(総合政策学部教授)	「警視庁訪問(仮)」
2月5日	水	日吉	ファイナルプレゼンテーション準備	「日本のイノベーション戦略(仮)」 石倉 洋子(メディアデザイン研究科教授)	「日本のイノベーション戦略に関するワークショップ(仮)」
2月6日	木	日吉	「日本のサブカルチャー」 中村 伊知哉(メディアデザイン研究科教授)	「日本文学」 ティル・ジョナサン(理工学部専任講師)	「日本文学に関するアクティビティ」
2月7日	金	日吉	「日本美術」(根津美術館) 白原由起子(根津美術館学芸部課長/国際センター非常勤講師)	「日本美術」(東京国立博物館) 白原由起子(根津美術館学芸部課長/国際センター非常勤講師)	
2月8日	土	...	フリー		
2月9日	日	...	フリー		
2月10日	月	日吉	「東日本大震災から学んだこと」 大木 聖子(環境情報学部准教授)	ファイナルプレゼンテーション・修了式	(17:00-) フェアウェルパーティー @ファカルティ・ラウンジ
2月11日	火 (祝日)		寮チェックアウト		



30

グローバル30総括シンポジウム

慶應義塾大学短期日本学講座

KJSP - Japan Now- (2013年度実施例)



- 「日本の食文化」講義と
寿司づくり体験
- 「日本の経済」講義と
日本銀行訪問
- 「日本の国際化の歴史」と
官庁訪問
- 「日本の経営」と
日本企業訪問
- 「日本の美術」講義と
美術館見学
- エクスカーション



31



グローバル30総括シンポジウム

学内の国際化基盤整備



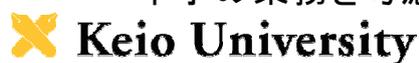
- 学内文書の英語化の推進
 - 2011年に「学内文書英語化プロジェクト」を
立ち上げ、各部署で必要な文書等の英文化
を実施(2014年1月現在 翻訳件数:421件)
 - 翻訳した日英文書を管理するデータベース
Tradosを導入し、実務担当者向けの講習会
を実施する等学内英文化推進体制を強化
- 国際業務に対応し得る職員の養成
 - OJTとして世界各地で実施される留学フェア等
に学内の関係部門から職員を派遣
 - 日常的に英語を使用する頻度の高い職員を対象に
本学の業務を考慮しカスタマイズした、英語の研修等を実施



「英語化プロジェクト」のメンバー



職員に対する英語研修の様子



32

グローバル30総括シンポジウム

国際広報の強化



- 優秀な留学生獲得のための国際広報を強化
- ① Keio Global
- ② 留学フェア
- ③ 留学生向け広報媒体の充実



Japan's first door to higher learning has just opened a little wider.

Keio University opened its doors in Tokyo in 1858—just five years after Japan itself was opened to the world. Today, Keio is one of the world's most prestigious universities, renowned for academic excellence and innovative thinking—and for producing generations of distinguished alumni in the highest tiers of business, government and the sciences.

True to its international vision, Keio now offers select all-English degree programs, in addition to its full range of courses in Japanese.

If you are eyeing a global career, don't just follow the leaders. Join them. At Keio.

- Global ICT and Governance (undergraduate)
- Advanced Science and Technology (postgraduate)
- Media and Governance (postgraduate)
- Media Design (postgraduate)
- Sciences Po-Keio Double Degree in Economics (postgraduate)
- System Design and Management (postgraduate)
- Taxation Policy and Management (postgraduate)

* Admission limited to the Jinn Japan World Bank Scholarship grantees



33

グローバル30総括シンポジウム

Keio Global



- グローバルに活躍する本学の卒業生や留学生、留学希望者のためのプラットフォームとして、ウェブサイト、データベース、Facebook等による複合的コミュニケーションサイト、「Keio Global」を開設

① ウェブサイト

- 2012/3/16アップ以降、約175カ国・地域からのアクセス
- 訪問数約72,000

② Facebook

- 2012/3/16アップ以降、約1,400人の登録

③ データベース

- 2012/3/16アップ以降、約250人の登録
- 慶應が海外での留学フェアに参加する際、このデータベースに協力可としている人たちにコンタクトし、通訳やブース対応の手伝いを依頼している。

④ ニュースレター

- 年4回発行



(2014年1月現在)

34



グローバル30総括シンポジウム

英国ロンドンにおける留学フェア “Experience Japan Exhibition”



- 2011年度に初めて英国・ロンドンにて、本学主催、ブリティッシュ・カウンシル共催でフェアを開催、2012、2013年度も引き続き開催
- 2013年度は11月16日(土)に開催し、英国で行われたこの種のイベントとしては過去最大規模で開催され、約700名の参加者



ロンドンにおける留学フェアの様子



35

グローバル30総括シンポジウム

“Experience Japan Exhibition” 参加大学



2013年度 (16大学)	(G30採択大学) 東京大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、 慶應義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、 同志社大学、立命館大学 (G30以外の大学) 沖縄科学技術大学院大学、金沢大学、神戸大学、 国際基督教大学、日本大学、北海道大学
2012年度 (18大学)	(G30採択大学) 東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、 慶應義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、 同志社大学、立命館大学、筑波大学、大阪大学 (G30以外の大学) 国際基督教大学、立教大学、東京理科大学、金沢大学、北海道大学
2011年度 (18大学)	(G30採択大学) 東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、 慶應義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、 同志社大学、立命館大学、筑波大学、大阪大学 (G30以外の大学) 国際基督教大学、立教大学、東京工業大学、東京理科大学、北海道大学



36

グローバル30総括シンポジウム

留学生向け広報媒体の充実

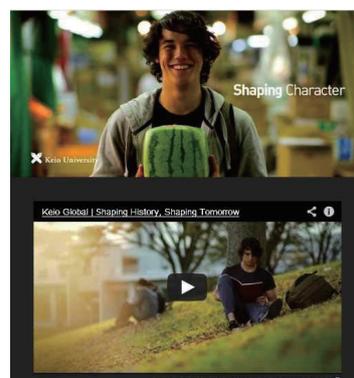


- 動画 “Shaping History, Shaping Tomorrow”

(カンヌ国際広告祭 Young Director Awardノミネート作品)

- ①外国人留学生(その両親を含む)の目を意識した広報
- ②日本向けと海外向けのデザインやトーン、テイストの違いを意識
(日本語のものを英語に翻訳する、という発想からの脱却)
- ③できるだけ外国人のクリエイターを起用
- ④特設ページやYouTube、Vimeo等の動画共有サイトに掲載
総合閲覧数 26万回以上(2014年1月現在)

- パンフレット類
- 広告
- ウェブサイト



37

グローバル30総括シンポジウム

2. G30以外の国際的な取組み



- ① 海外トップクラスの大学における短期研修プログラム
- ② 3キャンパス・プログラム(慶應、延世、香港大学の学生と一緒に3大学を廻る1年間のプログラム)
- ③ リーダーシップ・フォーラム(慶應、立教、延世、復旦大学の学生による合宿形式のフォーラム)
- ④ 経済学部 PCP(Professional Career Program)
- ⑤ Keio SFC Global Campus
- ⑥ 休学中の学費減免



38

グローバル30総括シンポジウム



海外トップクラスの大学における短期研修プログラム



- Downing College, University of Cambridge
- Lincoln College, University of Oxford
- Christ Church, University of Oxford
- Exeter College, University of Oxford
- College of William & Mary
- University of Washington
- Notre Dame University
- Yonsei University
- Sciences Po
- その他、学部・研究科独自の単位取得可能な短期プログラム:約60
- 例年200名程度を派遣



オックスフォード大学
リンカーン・コレッジ夏季講座



オックスフォード大学
クライストチャーチ



ウィリアム・アンド・マリー大学夏季講座

39



グローバル30総括シンポジウム

延世・香港・慶應 3キャンパス合同 東アジア研究プログラム



- 延世大学Underwood International College, 香港大学社会科学部、慶應義塾大学国際センターが協力して実施する交換留学プログラム
- 3大学から選抜された学生が共に1年をかけて日本・韓国・香港の3つの大学を巡り、英語による講義を受講し、また、共に生活をしながら東アジア地域に関する理解を深めることを目的としたプログラム
- 英語でアジアについて学べる(韓国語、中国語授業も履修可能)
- 韓国、香港、日本合わせて約20人の仲間と寝食を共にしながら切磋琢磨し、将来世界で活躍するトップクラスの学生との緊密なネットワーク構築
- 留学期間は春学期半期のみ(秋学期は義塾で学習)
- 2013年度からプログラムが拡充され、上記3大学の学生のほか欧米トップ大学(英国キングスカレッジロンドン、米国プリンストン大学、米国コーネル大学)の学生も参加



3キャンパス・プログラム

40



グローバル30総括シンポジウム

3キャンパスプログラム 参加者の声

2010-11年参加者 Kさん

このプログラムは、交換留学の中で最も先進的なプログラムです。三カ国の優秀な学生が一堂に集い、多面的に自分の学問を深めながら密な時間を過ごす。また中韓の学生にとどまらず、世界の異なるバックグラウンドの学生と夢を語り合う。そして気がついたら世界各国に友人が出来、いまだにその交流が続く。今後、僕らの世代で21世紀を切り拓くんだ。そう思わせるのも、このプログラムだからだと思います。アジアを多面的にみたい方、少しでも多くの経験をしたい方。一緒にアジア人としての扉を拓きませんか？

2009-10年参加者 Yさん

「一般留学の「3倍」濃密な経験が待っています」 3つの異なる文化圏から来た学生達が、互いのホームを回りながら1年間を共に過ごす。この全く新しい留学制度で得たトライアングルな世界観、そして優秀なアジアの仲間たちとの友情を超えた人生観の共有は、これからアジアを中心に動く21世紀を生きる上で大きな強みになっていくはず。留学先に悩んでいるのなら、迷いなくこのプログラムを勧めます。きっと人生が変わります。

2008-09年参加者 Cさん

このプログラムは名前からアジアだけに絞っているように聞こえますが、世界各国からの留学生に囲まれる生活で新たな自己を何度も発見することができました。日本人としての自己、アジア人としての自己、地球に住む一人の人間としての自己。外見は大きく違っても、日常的な悩みは同じだったり、受けた教育から根底から考え方が異なっていたり、(中略)東西文化を360度から見つめ直すことができました。

 Keio University



41

グローバル30総括シンポジウム

リーダーシッププログラム



- 毎年、延世大学、復旦大学、立教大学、慶應義塾大学の4大学持ち回りで開催
- 8月中旬～後半の1週間の合同合宿形式
- 近郊への観光なども織り込みながら、日中韓を中心とする東アジア地域の課題についての講義受講や、ディスカッション等を通じて交流を図り、東アジアについての理解を深める、学生主導型で作り上げるプログラム
- 募集人数 各大学8名



42

 Keio University

グローバル30総括シンポジウム

PCP (Professional Career Program)



- 経済学部で平成17(2005)年度から開始
- 経済学部3、4年生が対象
- 将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を、少人数クラスで英語で提供
- 将来のキャリア・パスに合わせた5つの専攻
 - 環境経済 (Environmental Economics)
 - ファイナンス (Finance)
 - 国際経済 (International Economics)
 - 法と経済 (Law and Economics)
 - 日本経済 (Japanese Economy)
- 講義・授業中の質疑応答・試験の他、コーディネーターとの会話、連絡にいたるまですべて英語で実施



43



グローバル30総括シンポジウム

Keio SFC Global Campus



- グローバル社会の一員として、知識社会の構築に貢献すべく、大学の知を広く社会に公開していくために、SFCでは2002年より大学の授業を一般公開するKeio SFC Global Campus (SFC-GC)を開始
- SFC(総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科)の教員たちによる、多様な分野にわたる、500以上の授業、5,000以上の講義ビデオを無料で全世界に公開



44



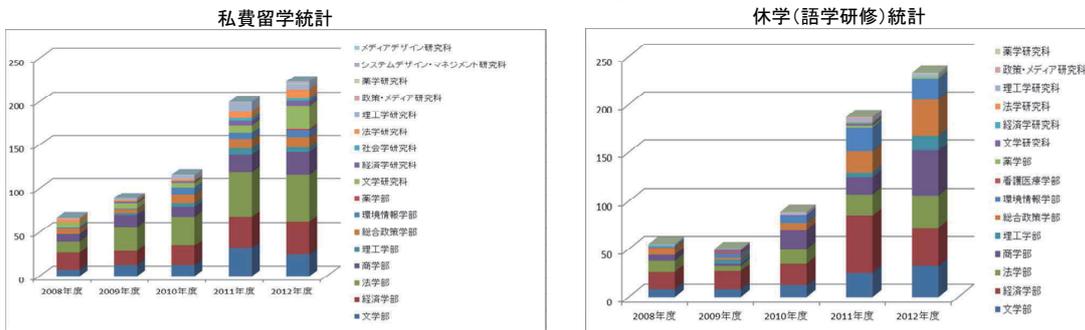
グローバル30総括シンポジウム

慶應義塾大学

休学中の学費減免



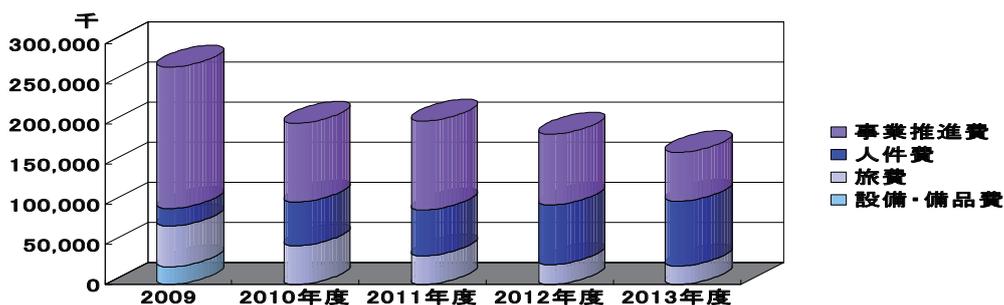
- 2009年度より、学部では「休学」扱いで留学する場合の学費を減免することとした。
 - 「留学」: 全学の学生交換協定に基づく留学、あるいは、所属する学部・大学院で認められた私費留学も一部含む
 - 「休学」扱いでの留学: 語学研修、上記以外の私費留学
- この措置により、私費留学、語学研修共に急増



45

グローバル30総括シンポジウム

3. 経費の使用状況 — 予算額の推移と使用実績



注) 2009~2012年度は実績。2013は計画予算。

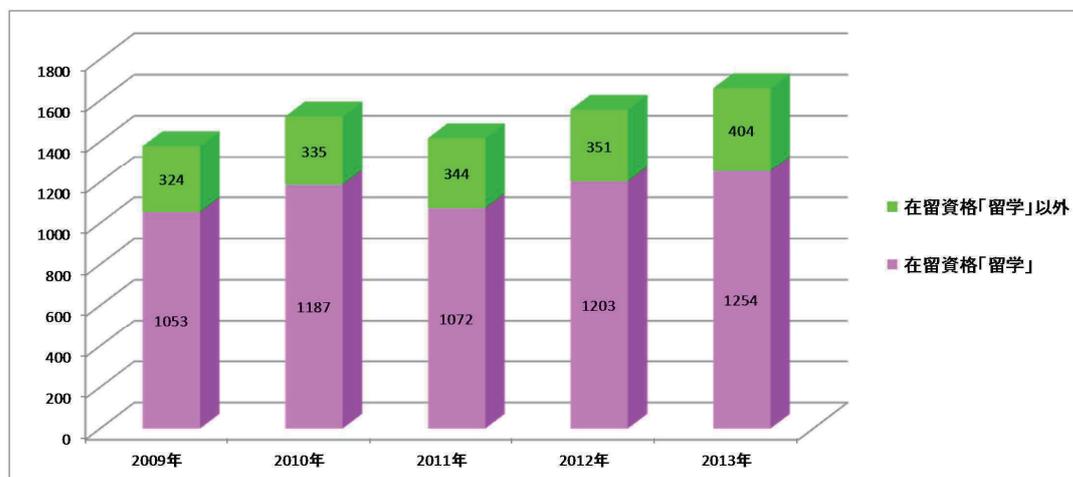
- 毎年度、補助金の適正な執行を図るため、事業実施部門の他、事業全体を統括する国際連携推進室の他、経理・管財・人事などの各部門で何重ものチェックを実施



46

グローバル30総括シンポジウム

4. データ編：慶應義塾の国際化の状況 留学生数（受入）



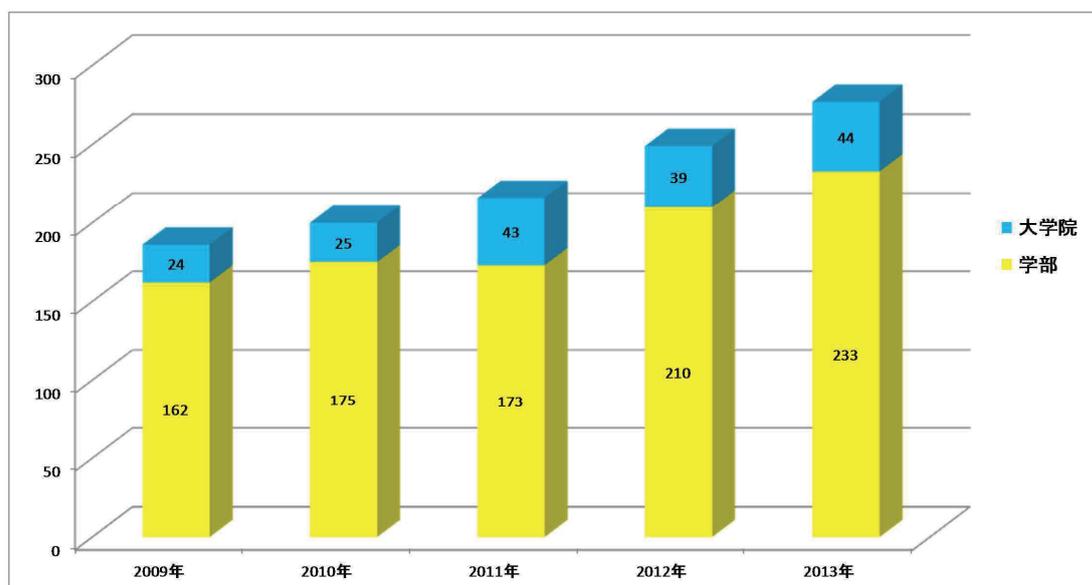
※各年度、5/1在籍者を計上



47

グローバル30総括シンポジウム

留学生数（派遣）



※各年度、5/1在籍者を計上

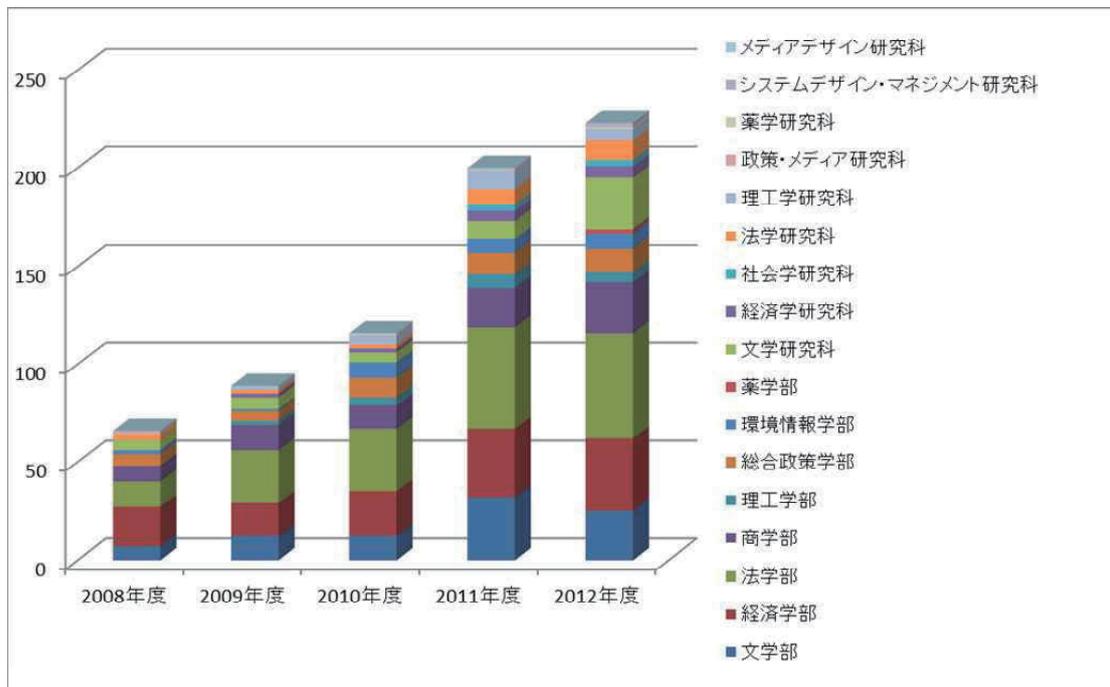
※全学の学生交換協定による留学および私費留学対象



48

グローバル30総括シンポジウム

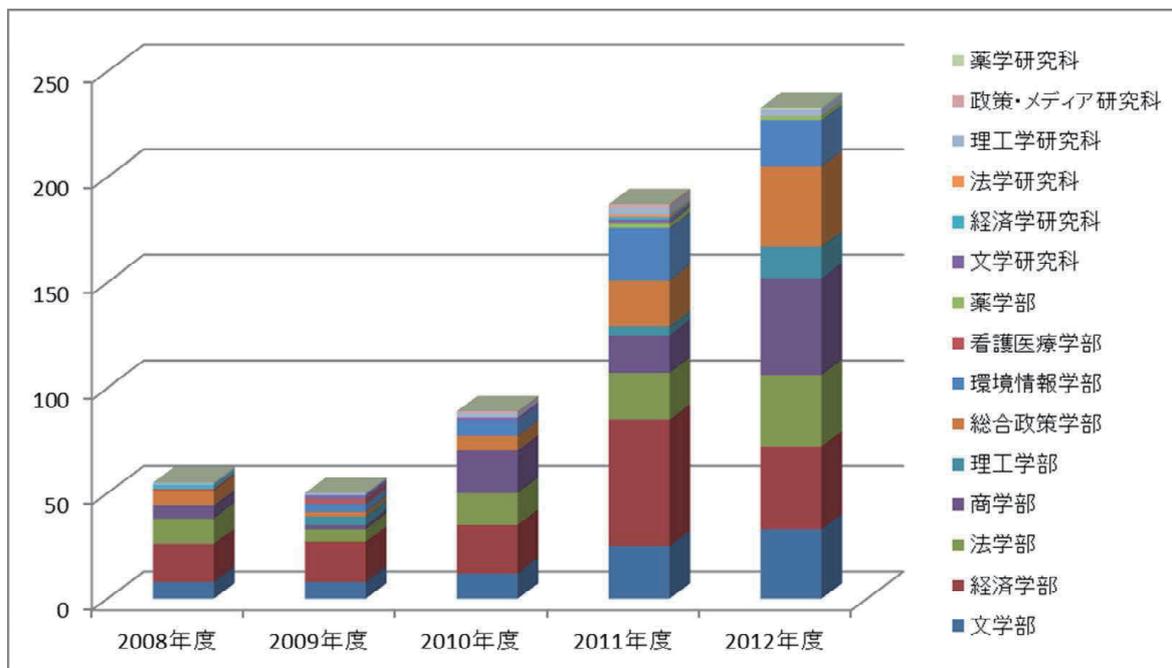
私費留学



49

グローバル30総括シンポジウム

休学(語学研修)

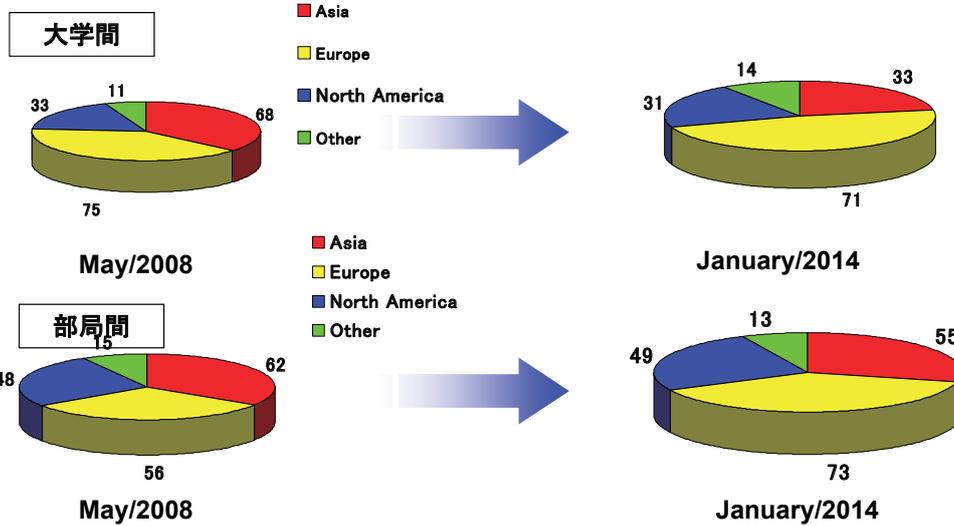


50

グローバル30総括シンポジウム

慶應義塾大学

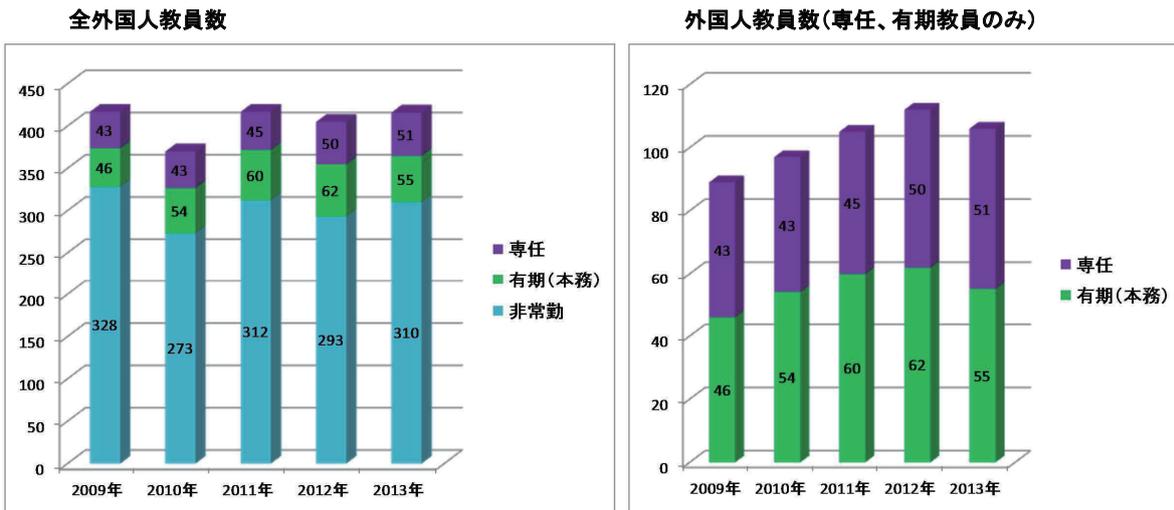
大学間交流協定数



※2001年度に87だった協定がこの10年ほどで急増。ここ数年で、それらを精査し、実質的な交流へ(交流の質の向上)



外国人教員数



※各年度、5/1在籍者を計上



G30による英語コースの学生確保の状況



2013/12 現在、単位：人

コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	入学者数	在籍者数
Global Information and Communication Technology and Governance Academic (GIGA) Program	環境情報学部	2011/09	B	15	2011年9月 入学入試 9 2012年9月 入学入試 9 2013年9月 入学入試 21	39
Keio-Sciences Po Double Master's Degree in Economics Programme	経済学研究科	2009/4	M	10/年 (慶應5、 Sciences Po 5)	15 (累積)	2
System Design and Management Course	システムデザイン・マネジメント研究科	2010/09	M	コースとして定員を定めず(修士課程全募集数77)	2013年9月入学者9(0) 括弧内は日本人内数	19(2) 括弧内は日本人内数



53

グローバル30総括シンポジウム

5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し



①英語で学位取得可能な学部・研究科のコースや、ダブル・ディグリーなどの国際的教育プログラムの新設・拡充

- G30で新規開設した英語コースの他、これまで経常的に行ってきた国際プログラムの維持、拡充
 - ・2014年度は授業実施を継続する一方、現在入学時には日本語能力を課していないところ、日本語学習を奨励し、日本語の授業を拡充する予定(環境情報学部)
 - ・ダブル・ディグリーは来年度以降も個々の協定大学から毎年学生を受け入れ。英語講座については2014年度末までにおよそ10科目経済学部へ新規設置の予定(経済学研究科・経済学部)
 - ・2014年度専任教員を採用し、英語で学位取得可能なコースの充実(システムデザイン・マネジメント研究科)
- 海外協定提携校の拡大・交流の強化
 - ・2014年度に新たに3校との交換留学プログラム開始(経済学研究科・経済学部)
 - ・2014年度を目標に国際メディカルアライアンスの構築(医学研究科・医学部)
 - ・2014年度にダブル・ディグリー・プログラムの拡充(理工学研究科・理工学部)
 - ・提携校の拡大。2014年度は提携のないアフリカ地域等にも拡充(経営管理研究科)



54

グローバル30総括シンポジウム

5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し



・短期受入プログラムの拡充

2014年度夏に新規の受入短期プログラムを設置し、留学生の受入増大を企図(国際センター)

②学内の国際化基盤整備

・4学期制の実施

2014年度から理工学部、総合政策学部、環境情報学部、政策・メディア研究科、法務研究科において、4学期制に対応する科目を開講し、留学生を受入しやすい環境を整備

・グローバル化拠点としての「未来創造塾」の展開

2014年度秋に滞在型教育施設「未来創造塾」が建設されることに伴い、それを活用した多様なプログラム(短期サマープログラム、エグゼクティブプログラム等)の拡充

・IB(国際バカロレア)を活用した入学試験の実施

2014年度、IBを活用した入学試験を実施(法学部)

③優秀な留学生獲得のための国際広報

・本学主催留学フェアの拡充

2014年度には、従来実施していた英国ロンドンのフェアを継続して実施することに加えて他の海外拠点を活用したイベントの実施も検討

グローバル30 総括シンポジウム

2014年2月14日

上智大学 Sophia University



Global30取組年表 (一部抜粋。※印は翌年以降継続実施したのもの。)

平成21年度(2009年度)

- ・ **留学生受入れ体制の充実**
4月 上智大学留学生特別奨学金を新設 ※
- ・ **海外大学との教育連携等の推進**
4月 海外留学奨励費の創設(交換留学以外の派遣学生に奨励費を支給) ※
8月 英国・ケンブリッジ大学への海外短期研修(3週間)を開始 ※
8月 東アジア・イエズス会4大学グローバルリーダーシップ・プログラムの実施 (於: 韓国・西江大学) ※
- ・ **留学生受入れの促進**
8月～3月 留学フェア・説明会参加(韓国、ラオス、カンボジア、ベトナム、タイ、インド、シンガポール、サウジアラビア、フランス、スペイン、中国)
- ・ **英語による授業実施のためのFDの推進**
11月 CLIL(クリル:内容言語統合型学習)活用のための講演会とFDワークショップ「英語による専門教育の原理と方法」
1月 国際教養学部主催によるFDワークショップ「International Education: Changing Profiles and New Challenges」

平成22年度(2010年度)

- ・ **海外大学との教育連携等の推進**
8月、2月 短期研修8件、短期語学講座14件の短期留学プログラムを提供 ※
8月 カンボジアにて本学がホスト校となりサービスマーケティングプログラムを開催 ※
- ・ **留学生受け入れ体制の充実**
9月 留学生支援ネットワークの設置 ※
- ・ **留学生受入れの促進**
6月～3月 留学フェア・説明会参加(ラオス、台湾、カザフスタン、ウズベキスタン、韓国、インドネシア、中国、カンボジア、ベトナム、タイ、マレーシア、インド、香港、シンガポール)
2月 北部タイ日本語スピーチコンテストを開催し、優勝者を1年間奨学生として受入れ(次年度より) ※
- ・ **教職員の国際化研修**
12月 ワークショップ「国際的な大学とはなにか」及びシンポジウム「東アジアにおける高等教育国際化の新展開と相互理解」を開催

平成23年度(2011年度)

- ・ **留学生受入れの促進**
4月～3月 留学フェア・説明会参加(サウジアラビア、インドネシア、中国、スリランカ、韓国、ラオス、カンボジア、インド、ベトナム)
1月 中国人留学生向けウィンターセッションを新規開講 ※
- ・ **英語による学位プログラムの新設**
9月 大学院地球環境学研究科「国際環境コース」を開設 ※
- ・ **海外大学との交流の拡大**
8月 AJCU-AP(アジアパシフィックイエズス会大学連盟総会)、ASEACCU(東アジアおよび東南アジアカトリック大学連盟)総会・学生会議を開催
- ・ **留学生向けサポートの充実**
12月 留学生向け求職・インターンシップデータベースを開設した他、留学生向け就職支援を各種開催 ※

Global30取組年表 (一部抜粋。※印は翌年以降継続実施したもの。)



平成24年度(2012年度)

- ・ **留学生受入れ体制の充実化**
4月 上智大学祖師谷国際交流会館(全362室)の運用開始 ※
- ・ **全学的な言語教育の抜本的改革と充実化**
4月 言語教育研究センターを開設 ※
- ・ **留学生受入れの促進**
4月～3月 留学フェア・説明会参加(中国、台湾、韓国、インドネシア、イギリス、カンボジア、マレーシア、米国)
- ・ **英語による学位プログラムの新設**
9月 理工学部「グリーンサイエンスコース」と「グリーンエンジニアリングコース」を開設 ※
- ・ **海外拠点開設により協定校との連携を強化**
9月 ルクセンブルクオフィスの開設 (ルクセンブルク大学) ※
- ・ **英語による授業実施のためのFDの推進**
9月 大学教育における授業の英語化について議論するシンポジウム『英語で専門教育を教える』—CLIL理論の活用と可能性』を開催
- ・ **国内大学との連携**
10月 グローバル5(国際教養・ICU・早稲田・APU・上智)交流協定を締結し、合同進学相談会やSDプログラム「グローバル化と多様性」を実施 ※
- ・ **国際業務に関わるSDの推進**
11月、2月 EAIE 研修プログラム、カナダ・オーストラリアの協定校での語学講座に職員を派遣。
- ・ **補助事業への取組状況の評価・点検**
2月 「国際化達成度評価協力者会議」を開催 ※

平成25年度(2013年度)

- ・ **留学生受入れの促進**
5月～12月 留学フェア・説明会参加(ベトナム、台湾、韓国、米国、インドネシア、中国、イギリス、フランス、マレーシア)
- 6月 日本語集中プログラムを新規開講
- 1月 January Sessionを新規開講
- ・ **英語による授業実施のためのFDの推進**
11月 『CLILと日本語教育』講演会・ワークショップを開催
- ・ **海外協定校の拡大**
1月 海外協定校数が42カ国200校に達する(前年度比15校増)

(平成25年1月17日現在)

3

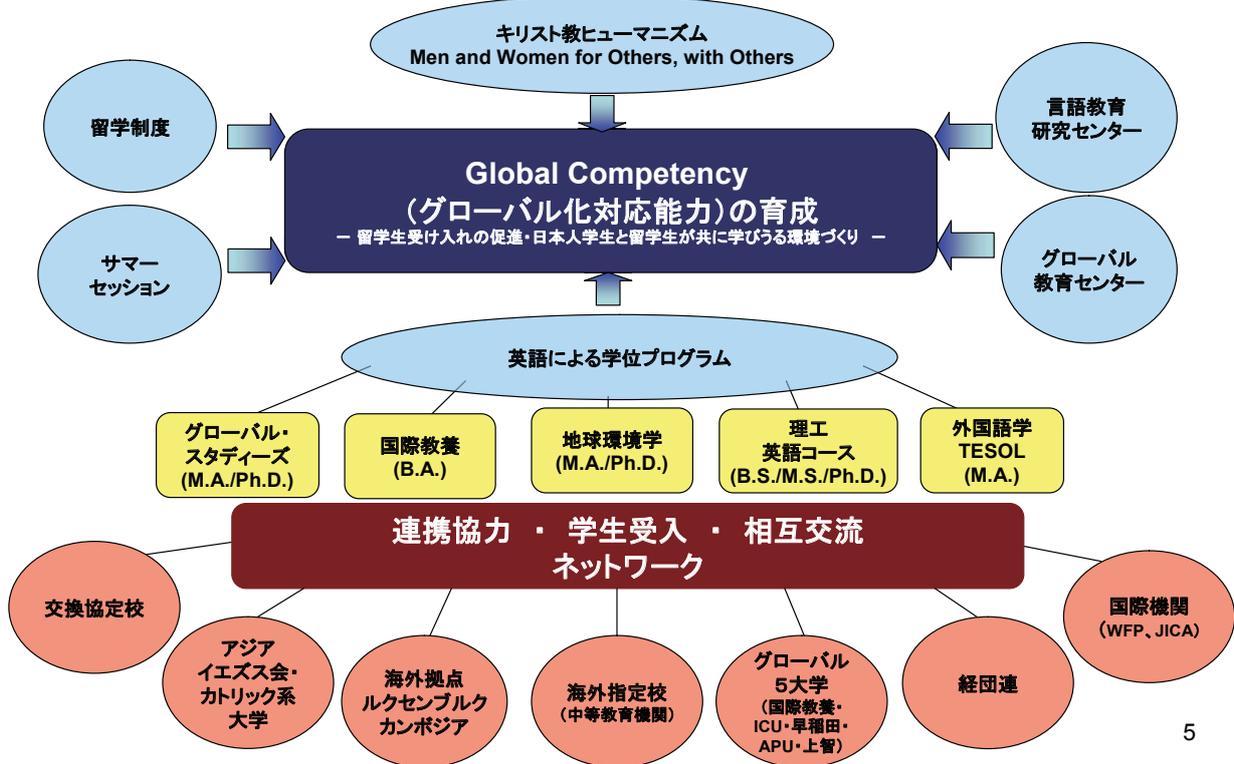


目次

I. 上智大学の国際化戦略とGlobal 30「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」	5
II. 本事業の成果	
① Global 30の成果と波及効果	6
② 英語コース在籍留学生からの評価	8
③ 受入留学生数の推移	11
III. 取組状況	
① 英語で学位が取得できるコースの概要と学生受入れの状況	12
② 教育の質保証への取組	13
③ 海外協定校の拡大	14
④ 受入重点国等における留学生受入促進の取組	16
⑤ 留学生受入のための環境整備	18
⑥ ネットワーク形成	19
IV. 経費の使用状況	22
V. 今後の課題と事業終了後の見通し	23

4

I. 上智大学の国際化戦略とGlobal30「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」



5

II. 本事業の成果

① Global30の成果と波及効果

(1) 英語プログラムの新規開設

- ・ 地球環境学研究科・国際環境コース開設 (2011年9月)
- ・ 理工学部・グリーンサイエンス/グリーンエンジニアリング コース開設 (2012年9月)
- ・ 理工学研究科・グリーンサイエンス・エンジニアリング領域の開設 (2013年9月)

(2) 言語教育研究センターの開設 (2012年4月)

(3) 海外協定校数の増加

- ・ 2013年度現在の協定校数200校 (学生交流178校、学術交流19校、学科間3校) (2008年度比35%増)

(4) 受入重点国における留学生受入の促進

- ・ オンデマンド版短期プログラム実施、日本語集中短期プログラムの新規開講
- ・ ルクセンブルクオフィスの開設 (2012年9月)

(5) 留学生支援体制の充実

- ・ キャリア支援 (求職者データベースプログラム、留学生のためのジョブフェア)
- ・ 祖師谷国際交流会館 (362室) の運用開始 (2012年4月)
- ・ 留学生支援ネットワークにより部署間の連携を強化
- ・ 外国人留学生対象奨学金



受入留学生、派遣留学生の増加
学内での国際交流の促進

6

(6) 大学間・産業界・国際機関とのネットワーク構築

【国内大学】

- ・ グローバル5大学交流協定
(国際教養大学、国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学国際教養学部、上智大学)
- ・ 英語によるプログラム実施や日本語教育についての他大学との連携セミナー (CLILシンポジウム)
- ・ 国内カトリック系大学との連携

【海外大学】

- ・ AJCU-AP (アジアパシフィック イエズス会大学連盟)
- ・ ASEACCU (東南アジアおよび東アジアカトリック大学連盟)
- ・ GAJU (Global Asian Jesuit Universities)
ーイエズス会・東アジア5大学グローバルリーダーシップ・プログラム運営大学
(韓国: Sogang、台湾: Fu Jen、フィリピン: Ateneo de Manila、インドネシア: Sanata Dharma、日本: Sophia)
- ・ ACUCA (アジア・キリスト教大学協会) (2013年4月加盟予定)

【産業界】

- ・ 経団連と共同講座「グローバル人材育成モデル・カリキュラム」を開発
- ・ アジア開発銀行と「ラオス高等教育強化プロジェクト」の連携
- ・ 留学生向け英語による合同企業説明会の開催

【国際機関】

- ・ 国連世界食糧計画(WFP)と教育連携に関わる協定を締結
- ・ 国際協力機構(JICA)と「国際協力に関する戦略的協力合意書」を締結



Global Competencyの育成につながるネットワークの拡充により各機関のリソース・ノウハウの普及・共有化を促進

② 英語コース在籍留学生からの評価

(1) 地球環境学研究科 (国際環境コース)

■ 博士前期課程2年
Chan Ryan
(アメリカ国籍)



2年前に他大学の短期プログラムに参加したのがきっかけで日本での大学院進学を考え、学部の先生から「国際的な大学」という理由で、上智を薦められました。

私はニューヨーク出身で東京で生活する中で、都市部の人口問題に興味があり、人口集中や大気汚染などに対する、都市部の環境政策を研究しています。

地球環境学研究科は、教員、学生、研究分野、環境など、あらゆる面で“diverse”(多様)で“multicultural”(多文化)なところが素晴らしい点です。授業ではフィールドワークもあり、日本語コースの学生とも交流することができ、とてもいい経験になりました。将来的には、NGO、NPOで環境政策の提言に携わる仕事に就いて、今の研究を役立てたいと考えています。

■ 博士前期課程1年
Lucy Mulcahy
(オーストラリア国籍)



オーストラリアの大学を卒業をして、日本で仕事をする機会があり、日本の大学院で学びたいと思っていました。インターネットで情報収集をする中で、Global30のwebサイトから上智大学のことを知り、環境について幅広い研究分野から専攻できる地球環境学研究科を志望しました。

現在修士論文に取りかかっていますが、自然保護をテーマに、野生生物が受けている交通事故の被害などの調査・研究をしています。授業は、幅広い専門を有する教員や実務経験を積んだ教員が多く、また少人数のクラスが多いことから、学生の興味にあわせて柔軟にテーマを設定してくれるので、とても充実しています。

将来は政府系の機関で環境政策に関わる分析や研究をしたいと思っていますが、世界を舞台に幅広い可能性を感じさせてくれるプログラムです。

(2) 理工学部

■ グリーンサイエンスコース1年
Matthew Lindley
(アメリカ国籍)



元々物理学に興味があって、将来的に理系の大学院に進み、専門性を活かした仕事がしたいと考えていました。日本語で授業についていくのはまだ難しいので、英語でB.S.が取得できる上智大学理工学部の英語コースをGlobal 30のサイトで見つけました。

少人数なので、先生との関わりが密接で、先生たちはやさしく、よく面倒を見てくれます。入学後、オリエンテーション・キャンプに行きましたが、先生や先輩たちとも交流を深めることができ、楽しかったです。大学全体の雰囲気は、留学生が多い印象を受けました。キャンパスのあちこちで英語をよく耳にします。

入学したばかりですが、理工学部の必修の科目はおもしろいと感じています。今は、物理学とエネルギー問題への関心が高いですが、生物学にも興味があり、今後様々な科目をとる中で、専門分野を決めたいと思います。

■ グリーンサイエンスコース1年
Lipsher Joanna
(アメリカ国籍)



中学校まで中国で暮らし、高校からはイギリスに留学していました。大学は、大好きな日本、特に東京で暮らしたいという気持ちが強く、興味のあるサイエンスを英語で勉強できる上智大学を選びました。上智大学は、他大学に比べて様々な国の学生が在籍している点も志望動機の一つでした。

大学では、学生サークルがたくさんあり、これからは学園祭などのイベントも楽しみなところです。

専門分野は、二酸化炭素の回収と貯蔵に興味があります。1年生の今は教養科目が中心なので、早くサイエンス系の科目をたくさん履修したいと思っています。

他にも、様々な分野の科目を勉強してみたいと思います。それから具体的に専門分野を決めて、卒業後は、大学院に進んで研究を深めたいと思っています。

(3) 国際教養学部

■ 国際教養学科2年
Xi Shi
(中国籍)



国際教養学部の必修科目「Thinking Processes」は、少人数で活発なクラスで興味深いです。多方面の課題を読んで、様々な問題を分析し、先生や他の学生とディスカッションをすることで、ものごとを分析する能力が高くなりました。国際教養学部で勉強するメリットは、多文化な環境とグローバル教育です。学生と先生は、様々な文化背景に異なる価値観と特徴を持っていて、より柔軟な考え方や創造性が身につきます。この経験は、私にとって将来のキャリアの基盤となるでしょう。

また、国際教養学部のグローバル教育は、私の知識に対する理解力も高めています。私の母語は中国語ですが、英語、日本語、フランス語を履修していて、それらは異なる国々の人とのコミュニケーションに役に立ちます。国際金融、国際ビジネス、公共経済などのクラスも、国際的な観点で多くの知識を身につけることができます。

(4) グローバル・スタディーズ研究科

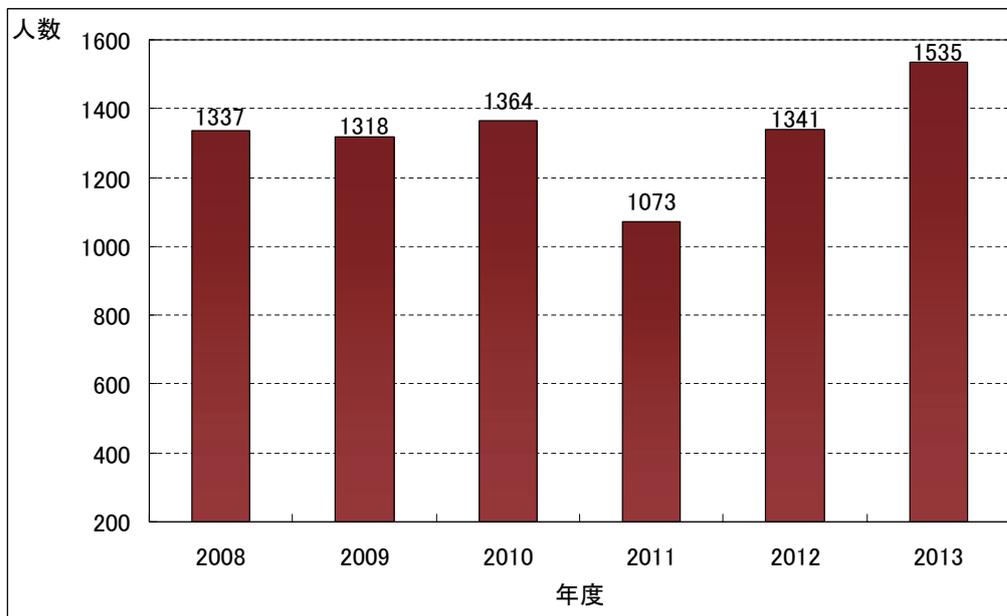
■ グローバル社会専攻
博士前期課程 2年
Al Sa'Di Maha Kamal
(ヨルダン国籍)



私は日本文学・文化に興味があり、グローバル社会専攻で、日本研究をしています。プログラムが英語で行われていることや、同時に日本語を学習することを重視していることも、私のような日本語初級者にとって魅力的で、私の目標とも合致していました。日本語は幅広いレベルの授業が提供されています。

上智大学では、たくさんの貴重な経験をすることができますが、自分の国では得ることができないアカデミックな経験がとても重要であると感じています。このプログラムは、国際的な環境も特徴的です。学生たちは多様な文化的、学問的背景を持っていて、個人的にも学問的なレベルにおいても、クラスでの討論を豊かにしています。

③ 受入留学生数の推移（2008年度～2013年度）



※正規生、交換留学生、非正規生、短期プログラム参加学生のうち外国籍の者

11

Ⅲ. 取組状況

① 英語で学位が取得できるコースの概要と正規生受入れの状況（2013年10月1日現在）

学部／研究科	英語名(学部／専攻名)	開設時期	学位	年間募集人員	在籍者数	外国人学生数
国際教養学部	Faculty of Liberal Arts	1975年 (開設時:外国語学部 日本語・日本文化学科)	B.A.	146	795	131
グローバル・ スタディーズ研究科 グローバル社会専攻	Graduate Program in Global Studies	1979年 (開設時:外国語学 研究科比較文化専攻)	M.A. Ph.D.	30 6	63 6	47 5
外国語学研究科言語学 専攻 (TESOLコース)	Graduate Program in Linguistics (TESOL course)	2006年	M.A.	23	15	5
理工学研究科 グリーンサイエンス・ エンジニアリング領域	Graduate Program in Science & Technology ・Green Science & Engineering Division	2013年	M.S. Ph.D.	20 3	1 3	1 3

▼ Global30事業により開設

地球環境学研究科 国際環境コース	International Graduate Course in Global Environmental Studies	2011年	M.A. Ph.D.	15 10	35 2	34 2
理工学部 ・グリーンサイエンスコース ・グリーンエンジニアリングコース	Faculty of Science & Technology ・Green Science program ・Green Engineering program	2012年	B.S.	30	12	6

合計	992	234
----	-----	-----

12

② 教育の質保証への取組

■ 全学的な語学教育の刷新



言語教育研究センターの設置

留学生の日本語教育の充実と日本人学生・留学生の英語運用能力向上を目指す。

■ 教育の質を保証する制度



GPA (Grade Point Average)とCAP制

・他大学に先駆けて、厳格な成績評価制度であるGPAや、履修登録単位数の上限を設定するCAP制を導入している。

■ FD・SDの取組



FDプログラムの実施

2011年度全6回、2012年度全7回、2013年度全7回

- ・「Teaching Contents in Multilingual Classrooms」ワークショップ
- ・「公開と共有・連携によるFDの取り組み」等

「教育イノベーション・プログラム」の推進

・特色ある教育を創出するための教育方法・内容の改革と改善

「職員グローバル化のための研修」の推進

「教職協働イノベーション」による業務改革能力の養成

■ 国際的に実績のある教員の採用



国際公募

・経済、外国語、国際教養、理工学部、地球環境学研究科等で導入し、優秀な教員を採用。

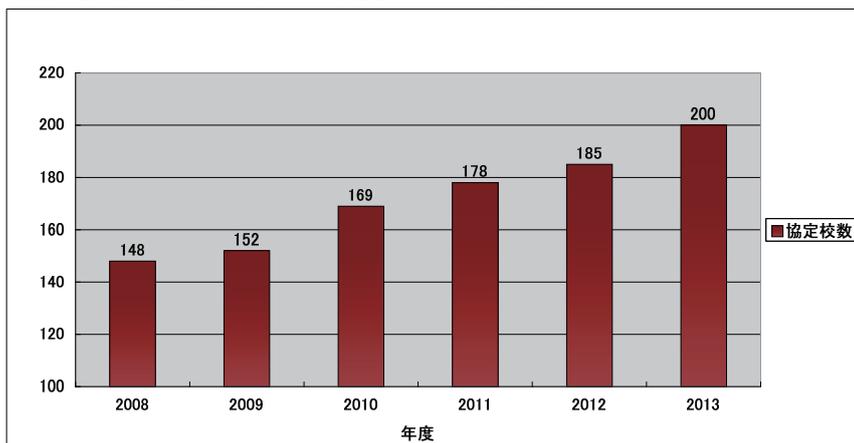
海外招聘客員教員受入制度

・海外から著名な教員を招聘し、教育現場の国際化にも貢献している。
2005年の発足以来、これまで21人(2013年度は3人)の教員を受け入れている。

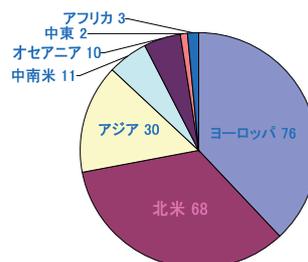
13

③ 海外協定校の拡大

(1) 海外協定校数の推移 (2008年度～2013年度)



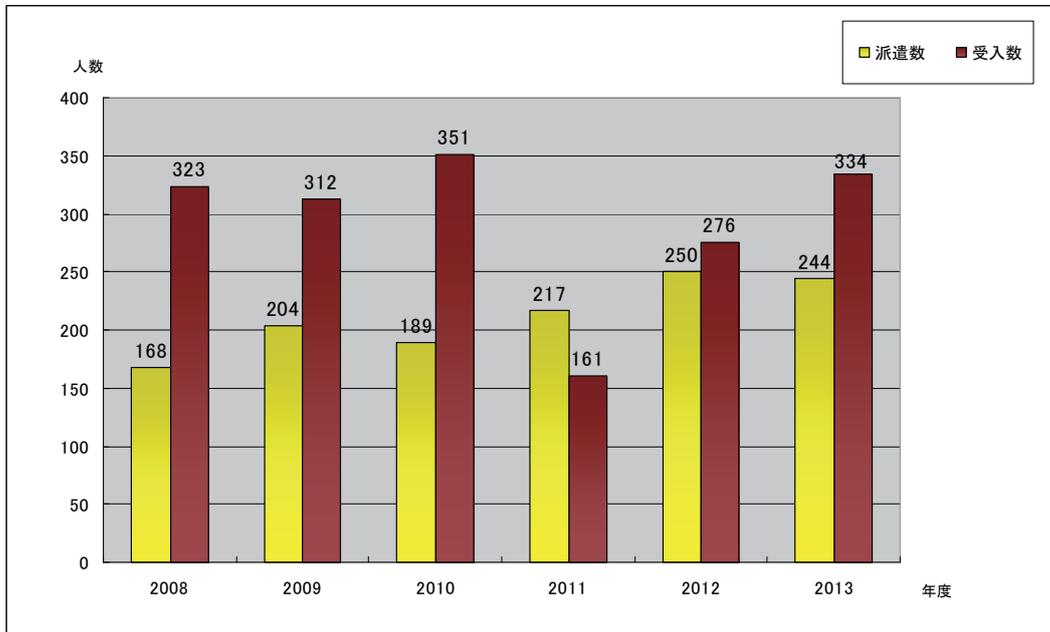
(2) 海外協定校の地域別割合 (2013年度200校)



14

(3) 協定等に基づく学生の派遣・受入数※の推移 (2008年度～2013年度)

※ 短期(3ヶ月未満)プログラムは除く



15

④ 受入重点国等における留学生受入促進の取組

(1) サマーセッション複数回開講

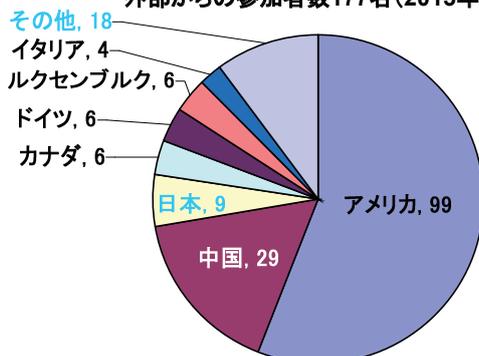
- ・ 中国学生向けにオンデマンド版短期プログラムの開講 (2012年1月、2013年1月、2014年1月)
- ・ 日本語・日本文化の短期プログラムを追加開講 (2013年6月、2014年1月)

■ サマーセッションの概要

1961年に始まり50年以上の歴史を持ち、これまでの総受講者数は11,000名を超えている。夏期休暇中の3週間に、主に日本の社会、政治、経済、文化を中心に東アジア地域の経済・文化などを含めて日本、アジアを学ぶことで、今日の世界的な視野を持つ人材を育成する。今後、日本語教育プログラムやオンデマンド設計のプログラムを拡充していく予定である。

■ サマーセッション参加学生国籍別内訳

・ 外部からの参加者数177名 (2013年8月実施)



■ 参加学生の声(終了後アンケートより)

・ 中国学生向けウィンターセッション(2012年1月)

- ・ 今回のプログラム参加によって、日本留学の価値とおもしろさが分かりました。
- ・ 授業の内容や、先生の授業スタイルがおもしろくてわかりやすかったです。
- ・ 海外留学の思いがさらに固まりました。
- ・ 国際理解に関する意欲が高くなりました。
- ・ 自分のためにも中日交流にも、日本語を勉強しなければならないと思います。
- ・ このプログラムをきっかけに、勉強はグローバルな考えが必要だと深く感じました。

16

Ⅲ. 取組状況

(2) ルクセンブルクオフィスの開設（2012年9月）

- 現地と周辺国の学生への日本留学に関する各種広報・募集活動の展開
- 既存の協定校との関係強化
- 新規協定校開拓等に向けたリサーチ活動

ルクセンブルクは、国民の大半が多言語を使いこなすなど、高い教育水準と国際性を併せ持った環境を有している。地理的にも欧州の中心部に位置し、欧州各国に効率的にアクセスできる環境でもある。このような立地を活かし、交換協定校であるルクセンブルク大学内に拠点を開設することとなった。EUにおけるHubとして活用していく。



オフィスはルクセンブルク大学内に開設

(3) 海外指定校入試制度の拡大

- 聖心女子高等学校 Sacred Heart Girls' High School（韓国）
- 東星高等学校 DongSung High School（韓国）
- 復旦大学附属中学 High School Affiliated to Fudan University（中国）
- 釜一外国語学校 PUIL Foreign Language High School（韓国）
- Gonzaga Higher School（インドネシア）
- SMA Al Izzhar（インドネシア）
- 今後の受入重点国として、インドやASEAN諸国に拡大予定

海外の有力かつ特色ある「海外指定校」から、教育機関の長の推薦に基づき優秀な学生を受け入れる入試制度を設けた。出願書類と面接により選考を行う。

17

Ⅲ. 取組状況

⑤ 留学生受入のための環境整備

(1) キャリア支援

- 留学生向け合同企業説明会開催
- 留学生求職者（インターンシップ希望者）データベースの構築



テンブル大学と共同開催した
合同企業説明会

(2) 祖師谷国際交流会館の獲得と運用開始（2012年4月）

- 全362室あり、海外からの教員・研究者のために家族寮も設置。
- ハウス・アシスタント（居住者の生活サポート、会館運営支援）を配置し、留学生の生活をサポート。



祖師谷国際交流会館

(3) 事務支援体制の国際化

- 従来よりマルチリンガル体制であったが、「留学生支援ネットワーク」を構築し、部署間の連携を強化。



留学生支援ネットワークのロゴ

(4) 外国人留学生対象奨学金

- 地球環境学研究科「国際環境コース」の留学生の授業料を新入生奨学金として全額免除（2013年度7名）
- ドイツ・ケルン大司教区より「フリングス、ヘフナー、マイスナー3枢機卿奨学金」が創設され、ミャンマーを中心としたアジアの発展途上国からの留学生を支援（2013年度2名）
- ブジダストン・インドネシア留学生奨学金を創設し、インドネシア海外指定校出身の私費外国人留学生を支援（2013年度1名）
- 他に、私費留学生を対象とした修学奨励奨学金や篤志家奨学金などを多数提供

18

⑥ ネットワーク形成

(1) 大学間ネットワーク

【国内大学】

■ グローバル5大学交流協定

(国際教養大学、国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学国際教養学部、上智大学)

共同教育(共同インターンシップ事業やオンデマンド教育)、FD/SDプログラム、シンポジウム、進学フェア等の共同開催を計画。

G5合同進学相談会
(2012年8月)



■ 英語・日本語教育に関するセミナーの実施

本学では、母語以外の言語で専門科目を学ぶことで、その言語の能力と専門を同時に習得することを目的とした教育法であるCLIL(クリル:内容言語統合型学習)の研究を積極的に推進しており、学内外の教育関係者を集めて、授業の英語化について議論するシンポジウムや、日本語教育に関する講演会を開催している。

CLILシンポジウム
(2012年9月)



■ 国内カトリック系大学との連携

海外サービ斯拉ーニングや国際会議への学生参加等によるグローバル教育に向けた連携。

19

【海外大学】

■ AJCU-AP(アジアパシフィック イエズス会大学連盟)

東アジアのカトリック大学の学生と共に、教育研究と途上国の地域社会への貢献をリンクさせた活動を実践するサービ斯拉ーニング・プログラムを毎年8月に実施している。

■ ASEACCU(東アジアおよび東南アジアカトリック大学連盟)

年に一度メンバー校による総会・学生会議を開催し、アジアのカトリック教育機関として取り組むべき課題や果たすべき役割について議論する場を提供。2011年度は本学がホスト校を務め、環境問題への取り組みについて討議した。

■ GLP(イエズス会東アジア5大学によるグローバルリーダーシップ・プログラム)

上智大学、Sogang大学(韓国)、Fu Jen大学(台湾)、Ateneo de Manila(フィリピン)、Sanata Dharma(インドネシア)から選抜された学生が一堂に集い、特定のテーマについて討議、フィールドワーク等を重ねながら、国際理解とは何かを学ぶプログラム。輪番で毎年8月に各大学のキャンパスで開催している。

20

(2) 産業界・国際機関との連携

■ 経団連と共同講座「グローバル人材育成モデル・カリキュラム」の開設

2012年度秋学期、本学学部2年次生を対象に、経団連と共催で「グローバルビジネスの現状と課題」(全学共通科目)を開講。国際ビジネスの現場で活躍している現役の企業人を講師として招く輪講形式でグループ討議やプレゼンテーションを行うなど、双方向性を重視した実践的なカリキュラム構成。

■ アジア開発銀行と連携し、「ラオス高等教育強化プロジェクト」を推進

ラオスの国立大学教員および教育省職員を対象に英語で修士号・博士号を取得できる留学を支援し、同国の教育行政を発展させるための人材育成に貢献するためのプロジェクト。アジア開発銀行と連携して留学生の受入れと必要な費用を分担し、2012年度春学期に3名が入学。

■ 国連世界食糧計画(WFP)と教育連携に関わる協定を締結

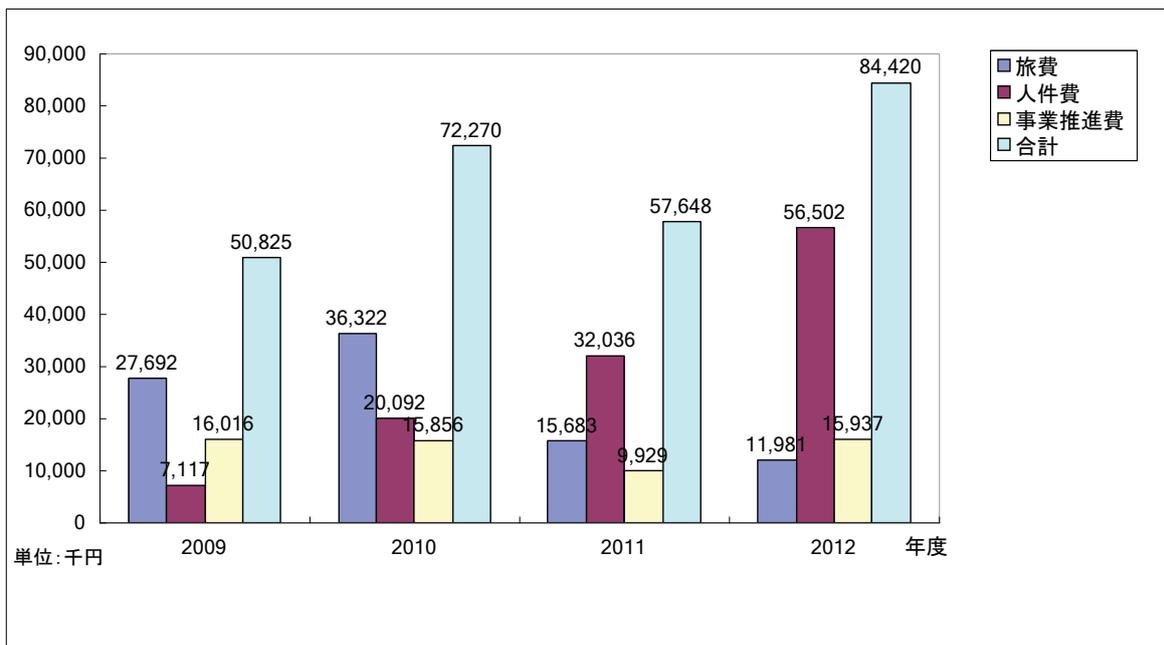
WFP職員による講義「グローバル化と国際貢献」や講演会を通して、WFPと国際貢献についての理解を深める。

■ 国際協力機構(JICA)と「国際協力に関する戦略的協力合意書」を締結

これまでの人材育成支援無償(JDS)における留学生の受入などの実績に加えて、新たに連携協力の協定を締結。JICA職員による講義「国際協力概論」、国際シンポジウムの共催、学生インターンシッププログラムを実施している。

Ⅳ. 経費の使用状況

■ Global30事業経費の使用実績



V. 今後の課題と事業終了後の見通し

(1) 今後の課題と展望

留学生受入目標の達成：2020年度までに年間2,600人を受入れ
国際的に通用する教育の質保証の確保

1. 受入れ体制の強化と弾力化

- ・ 海外指定校推薦入試による留学生受入れ拡充 → アジア、アフリカ等において対象校拡大中
- ・ 留学生のための接続教育プログラムの創設 → 日本語教育は2014年度開設
英語教育プログラムも開設を検討中
- ・ 渡日前入学試験方式の拡大、入学時期の弾力化 → オンライン出願導入済み
スカイプ等による面接の導入を検討中
- ・ 英語によるプログラムの質的充実と多様化
- ・ 総合グローバル学部(2014年度開設)による留学生受入れの拡大
- ・ オンデマンド型の留学生対象短期プログラムの多様化
- ・ AIMSプログラムによるASEANからの留学生受入れ(大学の世界展開力事業)

2. 学修・生活支援体制の充実

- ・ 留学生増に対応する宿舎の拡充 → 新たな提携寮、専用寮の確保を検討中
- ・ 言語教育研究センターによる言語的サポートを含む学修支援の強化

23

V. 今後の課題と事業終了後の見通し

3. 海外高等教育機関・国際機関との連携強化と拡大

- ・ 海外協定校の拡大による海外協定校とのダブルディグリーの構築(2014年度開始予定)
- ・ 交換留学協定校との日中韓3-way交流プログラム構築を検討中
- ・ カトリック・イエズス会・キリスト教のネットワークを活用した交流プログラムによるモビリティの促進

(2) 事業終了後の見通し

「グランド・レイアウト2.0」による2014-2023年度10ヵ年計画により、グローバル化を推進
グローバル30の取組みを継続し、さらなる発展を志向

- ・ クォーター制の導入による世界の教育機関との弾力的な接続の促進
- ・ 外国籍教員の比率の向上、教員採用での海外学位取得・教育歴の重視
- ・ アジア・アフリカ地域からの留学生受入れと人材育成事業での連携を強化

24



Study in English
at Japanese Universities

Global30 Wrap-up Symposium グローバル30総括シンポジウム

明治大学



取組年表

【2009年(平成21年)】

- 7月 国際化整備拠点事業(G30)採択
- 7月 法学部主催 留学生受入プログラム
"Law in Japan Program"実施(以降、毎年実施)
- 10月 国際連携機構発足、国際連携本部、国際教育センター及び日本語教育センターが始動
- 10月 国際教育パートナーズ(ABK、JTB、ベネッセ及び本学)結成、留学促進協働プラットフォーム創設着手

【2010年(平成22年)】

- 1月 職員語学力強化研修プログラム開始(以降、継続実施)
- 2月 教員海外FD研修実施(以降、毎年実施)
- 2月 日加戦略的留学生交流促進プログラム、日加学術連携学生フォーラム開催(以降、毎年実施)
- 4月 英語コース ガバナンス研究科ガバナンス専攻開設
- 4月 英語コース 経営学研究科ダブルディグリープログラム開設
- 7月 国際連携機構主催 留学生受入プログラム
"クールジャパン・プログラム"実施(以降、毎年実施)
- 10月 WEB出願開始(国際日本学部イングリッシュトラック出願)
- 11月 日本・ベトナム大学学長会議開催

【2011年(平成23年)】

- 4月 英語コース 国際日本学部イングリッシュトラック開設
- 4月 北京サテライトオフィス開設・運用開始
- 7月 日本語教育センター主催 日本語夏期研修プログラム実施(次年度以降、毎年夏・冬実施)
- 10月 「グローバル人材育成シンポジウム」を本学にて主催

【2012年(平成24年)】

- 2月 タイ・バンコクにて「グローバル人材育成シンポジウム」開催
- 2月 「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」(G30)中間評価「A」を受ける
- 9月 平成24年度「グローバル人材育成推進事業(タイプB:特色型)採択
- 9月 平成24年度「大学の世界展開力強化事業～ASEAN諸国等との大学間交流形成支援～」採択

【2013年(平成25年)】

- 4月 学校法人明治大学と学校法人国際大学が系列法人化
- 4月 中野キャンパス開設 国際日本学部英語コース和泉キャンパスから中野キャンパスへ移転
- 4月 英語コース 理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコース開設
- 5月 タイ・バンコクに「明治大学アセアンセンター」開設・運用開始
- 8月 NIKKEIアジアの未来 特別セッション シンポジウム「グローバル人材と企業のアジア展開」を共催
- 11月 フランス・パリにて本学主催日本留学フェア開催
- 12月 国際的大学間ネットワーク"World Cities, World Class University Network"(WC2)に正式加盟

【2014年(平成26年)】

- 3月 国際大学協会(IAU)による International Strategies Advisory Services (ISAS)の実施



目次



1. 本事業の成果(目標の達成状況)

①特筆すべき成果と波及効果	p.4
②英語コースの学生からの評価	p.5
③留学生の受入	p.8
④海外大学との連携プログラムの新たな実施	p.9
⑤大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大	p.10
・協定の締結数	
・協定等に基づく学生の受入派遣	
⑥教育体制の充実	p.12
・外国人教員の雇用	
・日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進	

2. 取組状況

①英語による授業のみで学位が取得できるコース	p.14
・英語コースの開設状況	
・質の高い教育の提供と教育の質向上への取組	

②留学生受入のための環境整備	p.16
・留学生に対する支援(就学, 生活, 経済, 就職等)	
・日本語・日本文化の学習機会の提供	
・海外拠点の設置と留学生の受入促進	
③拠点大学の国際化とネットワーク形成	p.19
・大学全体としての国際化戦略	
・大学間ネットワークの形成と産業界との連携	
・事務体制の国際化	
・評価の実施・改善	

3. 経費(補助金)の使用状況

①予算額の推移と使用実績	
②内部監査等の実施	

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

①今後の課題と展望	
②事業終了後(2014～)の見通し	



1. 本事業の成果(目標の達成状況)



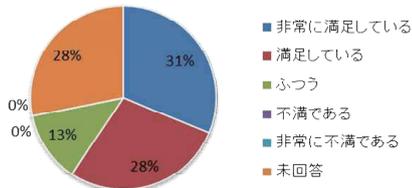
① 特筆すべき成果と波及効果

- 英語コースの質保証(外国人教員比率の増大, 海外公募による任用, “トップスクール・セミナー”などアクティブラーニングの増大)、英語による専門科目の増加(400コマ)
- 留学生に対する日本語教育体制の充実、留学生サポート体制の強化(国費留学生の割当増加, 短期留学生に対する奨学金支援、心理相談、就職活動サポートなど)
- G13大学との連携(情報共有, G13大学独自の海外留学フェア:8大学拠点・インド・シンガポール・韓国等)、経団連との就職フォーラムなどの産学連携の取組
- 世界的な知名度上昇:海外有力大学との連携強化(大学間交流協定校の増大, 大学院・学部での単位互換プログラムの拡充, 送出し学生の増大, 学生モビリティの向上, ダブルディグリーの実施:経営学研究科・政治経済学部, 日本カナダコンソーシアム)
- 大学内での教職員の意識改革、学部・研究科間競争とガバナンス強化
- 産学連携での「留学促進共同プラットフォーム」開発と他大学への普及促進による日本の大学全体のインフラ整備への貢献

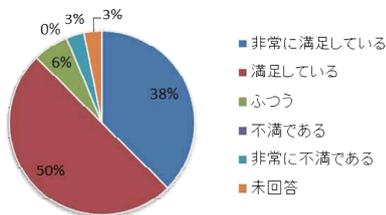


② 英語コースの学生からの評価(その1)

1. 明治大学の全般的な印象は？



2. 明治大学における授業内容・教育の質は？



中国(香港)

Tong Ho Yong, Bernieさん

国際日本学部 国際日本学科

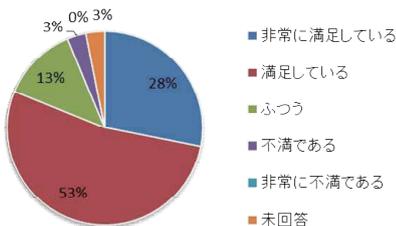
(2011年度4月入学)

香港では、しっかりと日本語を学べる高校が少なく、自分の日本語能力は十分ではなかったが、日本で日本語学校に通うことなく、直接、海外から入試を受けて入学することができたことは幸運だった。僕は小さい時から日本の野球が好きで、日本に住んで勉強することが夢だった。クラスでは、考え方が柔軟でフレンドリーな日本人学生が多く、自由にコミュニケーションを取り合うことができる。そのおかげで日本の文化をますます理解できるようになった。

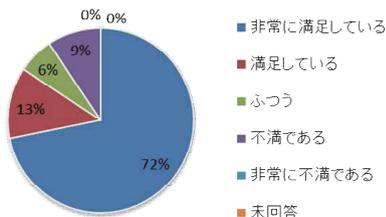
「アウェーをホームにしてくれる友人たちに恵まれました」

② 英語コースの学生からの評価(その2)

3. 授業で使われている英語の質と水準は？



4. 明治大学が提供するサポート体制は？



コンゴ民主共和国

Patrick M. Behuhuma

ガバナンス研究科 ガバナンス専攻

(2012年度4月入学)

私はまったく日本語ができない状態で来日した。大学院在籍中に日本語学習に費やすことのできる時間が限られているので、英語で学べることにより、適応がスムーズであった。

科目選択の幅が広く、またどのクラスも少人数で質が高い。教員や級友と親しくコミュニケーションを取りながら、リラックスした雰囲気の中、楽しく学ぶことができる。

将来はさらに研究を続けるために後期博士課程に進みたい。

② 英語コースの学生からの評価(その3)

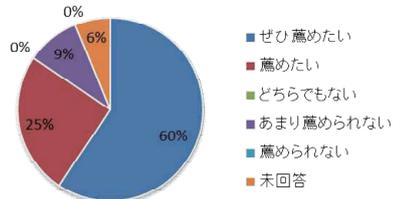
5. 卒業後、どの国・地域に就職したい？



学生からの意見(良い点)

- 教職員が皆親切で適切にサポートしてくれる。
- 教室や図書館など施設がきれいで充実している。
- 専門科目のレベルが高く、充実している。
- さまざまな国から来た学生と出会うことができる。

6. 母国の学生に明治大学を薦めたい？

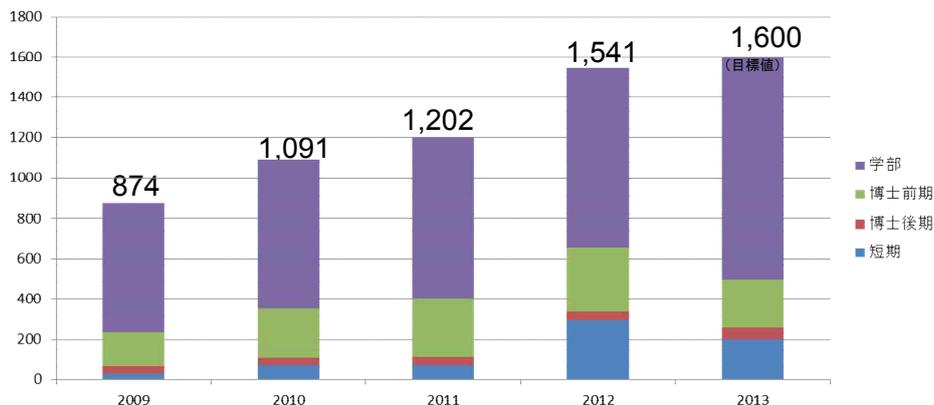


学生からの要望(今後の改善点)

- 授業科目の選択の幅を増やしてほしい。
- 事務局からの配布物の英語化をもっと進めてほしい。
- 日本人学生との交流の機会を増やしてほしい。
- 留学生寮をつくってほしい。

③ 留学生の受入

留学生数は、2009年度以降毎年着実に増加。



注1)2009年度～2012年度は実績、2013年度は目標値

注2)各年度、5/1在籍者を計上

④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施

○留学生受入プログラム

海外の学生が、長期休暇を利用し、日本語、日本の法律、政治経済、ポップカルチャーなどを、体験学習と講義を組み合わせたカリキュラムにより学ぶことができる短期留学生受入プログラムを実施。

- 英語によるプログラム: Cool Japan Summer Program, Law in Japan Program
- 日本語によるプログラム: 夏期短期社会科学プログラム, 夏期・冬期日本語短期研修プログラム

○日本人学生の海外派遣プログラム

各学部・研究科独自のプログラム数の拡大により、派遣学生数は増加傾向。

ケンブリッジ大夏期法学研修、ブレMBAプログラム(カナダ・ヨーク大)、米ノースイースタン大夏期留学プログラム、カリフォルニア大バークレー校サマーセッション、International Business Program (ポートランド州立大及びサンノゼ州立大)、タイ・シーナカリンウィロート大夏期プログラム、国際日本学部セメスター留学(オレゴン大、NY州立大ニューパルツ校、アラバマ大、インディアナ大・パーデュー大インディアナポリス校、フロリダ州立大、ディズニーワールド提携セメスター・インターンシップ留学プログラム)、短期語学研修プログラム(英語、独語、仏語、スペイン語、中国語、韓国語等。平成24年度、SSSVIに20プログラムが採択される。海外派遣学生数809名を予定。

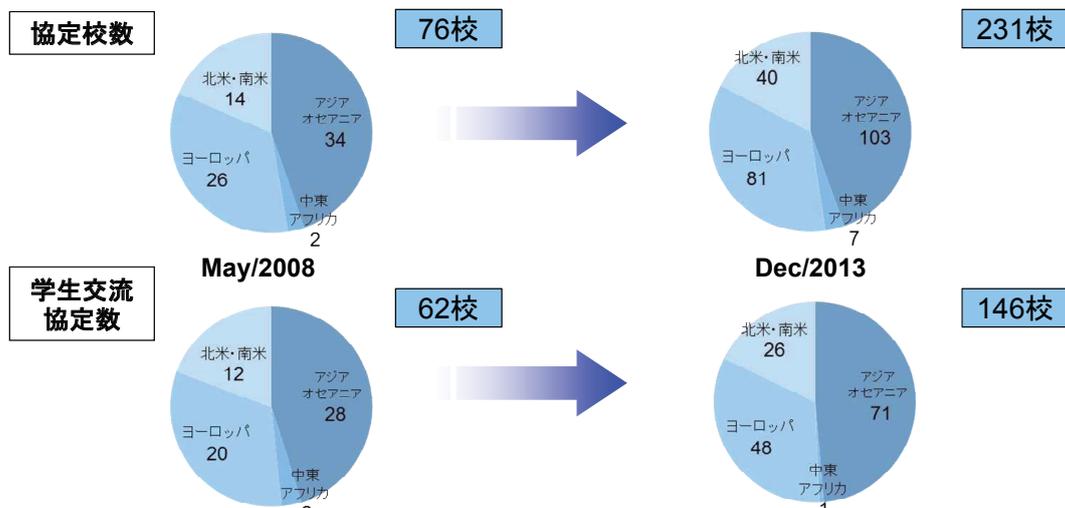
○大学間連携コンソーシアム

日加戦略的留学生交流促進プログラム(日本側11大学、カナダ側8大学)による学生交換プログラムを実施。

平成23年度は、2012年2月に京都にて「日加学術連携フォーラム」を開催し、日本側学生15名、カナダ側学生5名が参加。国際的な都市型大学間ネットワーク“World Cities, World Class University Network”(WC2)に正式加盟。

⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

【協定の締結数】

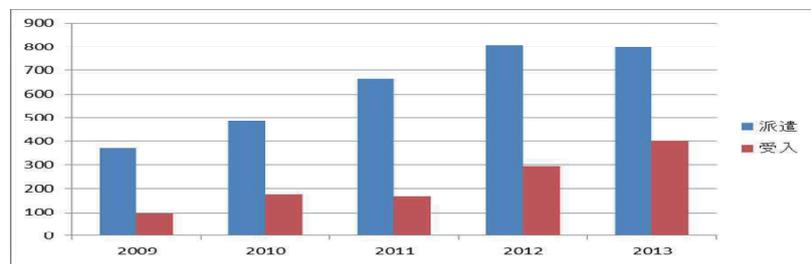


※下段、学生交流協定数は上段の協定校数の内数。

⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

【協定等に基づく学生の受入・派遣】

- ・ 派遣・受入ともに目標値を超えて増加。
- ・ 大学間協定及び部局間協定の増加に伴い、交換学生数が漸増している。
- ・ 短期プログラム(SSSV)数の増加と語学研修の増加により、派遣学生・受入学生数が増加。
- ・ 協定に基づく学生交流のうち、送り出しに特化(一方通行型)プログラムの充実による派遣学生数増加。



※2013年度数値は予定数

⑥ 教育体制の充実

【外国人教員の雇用と教職員スタッフの充実】

- ・外国人教員比率の増加

外国人教員を積極的に任用し、英語による授業科目を充実。

	H21	H22	H23	H24	H25
外国人教員比率	6.3%	6.9%	7.0%	7.4%	7.8%

- ・国際化のための専従による教職員スタッフの充実

	H21	H22	H23	H24	H25
特任・客員教員	-	6	6	6	8
兼任講師	-	-	5	5	9
専任職員	11	19	21	21	22
嘱託・派遣	3	6	6	7	7
合計	14	31	38	39	46

⑥ 教育体制の充実

【日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進と交流】

・海外出張数と海外大学との交流状況

年度	全出張回数	海外大学との交流	例
2008	631	82	・明治大学・西ドニー大学法学夏期プログラム開発のためのワークショップ開催 ・オーストラリア国立大学公共政策大学院で集中授業実施 ・明治大学・UTM(マレーシア工科大学)研究交流会参加
2009	712	104	・大学院共同申請GP「Japan-Taiwan Joint Workshop for Graduate Students in Applied Mathematics」の実施・シェフィールド大学でのワークショップ参加 ・明治大学・ウィーン大学共同シンポジウム開催・参加
2010	873	168	・ケンブリッジ大学での夏期法学研修開催 ・北京大学外国語学院でのクールジャパン講義実施 ・高麗大学との国際学術会議共同開催 ・UTMとのダブルディグリー交換授業実施・公務員セミナー実施
2011	922	159	・ジーンズ大学・同徳女子大学との国際シンポジウム開催・参加 ・イェナ大学における日独修訂150周年記念行事に参加 ・大学院GP文学研究科「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」高麗大学校プログラム実施

・国際学会参加渡航費助成数の推移

年度	2008	2009	2010	2011
国際学会参加渡航費助成数	94名	87名	115名	136名

・国際連携機構独自の招聘プログラム

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
長期招聘教員	1名	2名	0	0	1名
短期招聘教員	9名	6名	11名	11名	5名
アポイントメント・プログラム	2名	1名	4名	3名	2名
スタッフセミナー	9名	10名	7名	4名	5名
招聘研究員制度による受入	2名	5名	9名	6名	6名
国際学会・シンポジウム助成			4件	7件	6件

2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース

【英語コースの開設状況】

- 先端数理科学インスティテュート(MIMS Ph. D. プログラム)
- ガバナンス研究科ガバナンス専攻公共政策プログラム英語コース
- 経営学研究科経営学専攻ダブルディグリープログラム英語コース
- 国際日本学部イングリッシュトラック
- 理工学研究科建築学専攻建築・都市デザイン国際プロフェッショナルコース

コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	在籍者数 カック内留学生数
MIMS Ph.D. Program	先端数理研究科	2009/4	D	5	17名(6)
Graduate School of Governance Studies English Course Public Policy Program	ガバナンス研究科	2010/4	P	20	34名
Graduate School of Business Administration English Course in Double Degree Program	経営学研究科	2010/4	M	5	18名(12)
School of Global Japanese Studies English Course	国際日本学部	2011/4	B	15	28名
Graduate School of Science and Technology, International Professional Course	理工学研究科	2013/4	M	28	16名(2)

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース

【質の高い教育の提供と教育の質向上への取組】

➤ 優秀な外国人教員の招聘，国際的な教育研究活動実績のある日本人教員の採用

- (1) 全学の教員任用方針に基づき，外国人教員の任用の推進，国際的な教育研究活動実績のある日本人教員の採用を制度的に行う。
- (2) 優秀な外国人教員の招聘：トップスクールセミナー
海外の著名な大学から客員教員を採用して政治学，経済学，社会学等に関する集中講義を実施。
- (3) 国際的な研究実績のある教員の雇用，招聘
研究知財機構，先端数理科学インスティテュート(MIMS)における外国人研究者受入，経営学研究科ダブルディグリープログラムにおける兼任教員採用，理工学研究科建築学専攻における国際的なワークショップ開催

➤ FD等の実施による教員の資質向上など教員体制の充実

- (1) 教育開発・支援センターの設立
センターのもと，FD専門部会，国際教育プログラム部会，教員評価検討部会，Semester制度検討部会を設置し，FD活動新任教員研修会の実施，講演会やシンポジウムの実施，FD活動広報など，幅広くかつ組織的にを行い，教育の質向上，成績評価の厳格化，点検評価を通じて，国際標準となりうるFD推進。
- (2) 米国大学での英語による実践的教授法・教材作成ワークショップに参加
2009年度から，英語により講義を行う教員を米国大学における専門プログラムに派遣
政治経済学部とノースイスタン大学，南カリフォルニア大学(USC)と連携プログラムを実施。学生への英語での専門教育の拡充，日本人教員のFDを行う。
- (3) 在外研究制度，国際学会への助成等，制度的な教員海外派遣
- (4) 国際連携機構における招聘プログラム
- (5) i-Tunes Uなどによるスキルの向上

② 留学生受入のための環境整備

【留学生に対する支援(就学，生活，経済，就職等)】

- ・ 専門スタッフによるエントリーサポートの充実(入学願書受付，在留資格管理，宿舍手配及びオリエンテーション)
- ・ 留学生向けの宿舍確保(提携業者との契約及びホームステイプログラム)と交換留学生専用宿舍の借上げによる提供
- ・ 3つのキャンパスにおける国際交流ラウンジ運営とキャンパスメイトによる留学生交流の実践，学習支援室とチューターによる学習指導体制
- ・ 国際連携機構教員による留学生を対象としたカウンセリング体制
- ・ 私費外国人留学生に対する授業料減免措置(30%)の継続実施
- ・ 新興地域からの外国人留学生に対する経済的支援制度創設(「私費外国人留学生特別助成金制度」及び「グローバル選抜奨学金制度」を2014年度から実施)
- ・ 留学生に特化した企業見学会，説明会・セミナーの開催，エントリーシートの添削指導及びビジネスマナー講座の実施。留学生を対象にした日常的な就職相談の実施。
- ・ グローバル人材育成・グローバル採用を実施する企業との懇談・ワークショップ・講演会開催により，留学生の企業・業界に対する認識を深化させるよう取り組む。

② 留学生受入のための環境整備

【日本語・日本文化の学習機会の提供】

- ・ 日本語未習のレベルから日本人学生と同等にディスカッションができるレベルまでを受け入れられる幅広い日本語授業を設置。特に、英語コース在籍者に対する入門レベルの日本語教育ではクラス数を増やすなど、より充実させて提供。
- ・ 日本語未習の学習者に対しては、日本語教育センターで開発した「日本語e-learningシステム」を提供してかな学習を支援。
- ・ 夏期と冬期に実施している日本語短期研修プログラムにおいて、短期受入れ留学生に対して1単位相当の日本語授業とフィールドプログラム(着物着付け体験、茶道体験等)を提供。
- ・ 留学生バス見学旅行、日本文化体験(国際教育センター)、東京フィールドプログラム(日本語教育センター)を実施して、日本文化体験の機会を提供。留学生同士、また日本人学生との交流をはかる。

② 留学生受入のための環境整備

【海外拠点の設置と留学生の受入促進】

・ 北京サテライトオフィス設置

中国・北京においてJTB海外共同利用事務所の利用により本学サテライトオフィスを平成23年4月から運用開始。留学生数拡大に向け、現地高等学校、日本語教育や留学事情の調査を実施。

・ 留学促進共同プラットフォームの整備

留学生の海外からの出願の利便性を考慮したWeb出願システムの稼働を開始。平成23年度国際日本学部イングリッシュトラック出願からインターネット登録、受験料収納決済及び出願処理に利用。留学に関する情報を提供する日本留学ポータルサイトをリニューアル。また、英語版大学ホームページの拡充を図った。

・ 海外における日本留学フェアなどへの参加及び開催

受入重点国を中心に、留学生の獲得のため、海外において開催される日本留学フェア及び国際的な教育関係機関の年次総会等に参加(2カ年半で延52回参加)。2013年11月にフランス・パリにおいて日本留学フェアを本学主催により開催。

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【大学全体が一体となった国際化戦略】

明治大学は、グローバル30と国際連携の推進のため2020年度に留学生4000名の受け入れ、1500名の学生の海外送出しを目標にしている。この目標達成のため、

- 1) 2009年10月の国際連携機構の設置と学長をトップとした推進体制(ガバナンス強化)
 - 2) 「国際教育パートナーズ」による「留学促進共同プラットフォーム」の構築
 - 3) 海外拠点形成などを通じた戦略的な国際連携の推進
 - 4) 日本文化、日本の技術、社会システムなどの情報発信
 - 5) 内外の大学とのネットワーク化による教育と研究の推進
- を柱にし、「グローバルコモンプログラム」を完成させる。

大学院・学部での単位互換を拡充し、大学間交流協定校を250校に増やし、新たな教育連携プログラムや海外大学等のダブルディグリー・プログラムを開発して日本人学生を含む全学生のモビリティを高める。

一方、グローバル人材育成が社会的な課題となるなか、自律性、協調性、価値醸成、英語力など、学生のグローバル人材としての資質を高めるため、学生の送出しも強化する。

これまでの「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」と、本年度文部科学省の採択を受けた「グローバル人材育成推進事業」と「大学の世界展開力強化事業」の3つを合わせた事業推進による相乗効果をもって大学の国際化を進めていく。

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【大学間ネットワークの形成～国内大学との連携】

- ・ガバナンス研究科英語コースと国際大学大学院国際関係学研究科との間での単位互換覚書締結。遠隔授業・滞在校授業の実施。
- ・MIMS博士後期課程英語コース：広島大学、静岡大学、龍谷大学との共同研究プログラム。
- ・短期プログラムの他大留学生への開放(Cool Japan Summer Program, 日本語集中プログラム(夏期・冬期))
- ・大学間連携共同教育推進事業「国際協力人材」育成プログラム実施(明治大学・立教大学・国際大学の3大学共同)

【大学間ネットワークの形成～海外大学との連携】

- ・日加戦略的留学生交流促進プログラム日本コンソーシアム議長校(カナダ側10大学、日本側12大学)としての活動
- ・国際的な都市型大学間ネットワーク“World Cities, World Class University Network”(WC2)加盟

【産業界、NGO、国際機関との連携】

- ・政治経済学部のタイ協定大学を通じた在タイ日本企業との海外短期インターンシップの実施
- ・国際日本学部のフロリダ州立大学との協定によるディズニー社とのディズニー・ワールドインターンシップ実施
- ・経営学研究科ダブルディグリープログラムで来日するマレーシアUTM学生に対する短期インターンシップの実施
- ・短期プログラムでの企業研修(日本語夏期講座ホンダ、ロシア公務員講座イノベーション企業訪問など)。
- ・グローバル人材育成シンポジウムを核とする他大学参加型グローバル人材育成シンポジウムの開催(2011年3月、日本経済新聞社と共催。参加20大学、100社)
- ・学部間共通キャリア科目「国際キャリア特論Ⅱ」における企業数社との連携授業の実施
- ・米国大使館との共催によるシンポジウム開催(2011年2月・参加48大学43機関)。
- ・EU留学フェアの開催(2011年5月EUから40程度の大学参加。G13大学及び他大学学生に開放)
- ・国連ボランティア計画への参画
- ・国際連合食糧農業機関(FAO)と連携した教育プログラムの実施

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【事務体制の国際化】

・各学部・研究科において、留学生支援、英語プログラムコーディネートのための専従スタッフを採用、国際連携部では専任職員を増員。

・SDとして、初任者・OJT研修、職員海外研修を実施すると共に、平成21年度から大学内において「職員語学研修」(英語・中国語)を実施。(9種類の講座を開設。延べ340名参加。)

・専門性向上を目的に、国際連携機構主催により「国際スタッフ研修」「国際化のための教職協働にむけた研修」を実施。

・学生個人ポータルシステムであるWebシステム「Oh-o! Meiji System」及び同システムのシラバス・授業運営システムの検索・入力画面及び利用マニュアルの英語化を留学生及び教員双方について行った。また、同時にWeb履修登録システムについても授業科目検索・登録、シラバス参照、クラスチャット、教材提示、レポート提出成績参照等の同様の改修を行い、利便性を高めた。同時に、入学手続、学籍異動、図書館利用等の書類の英語化を図った。

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【評価の実施・改善】

➤ 中間評価結果における指摘事項等への対応状況

ー 中間評価コメント(抜粋)ー

「学長のリーダーシップのもとに国際化体制を強化・推進している。…平成22年度までの計画については、全体として目標を達成…平成25年度、32年度の目標は、挑戦的な目標を掲げているため、…その達成に向けて、より一層の努力と工夫が必要と思われる。…大学院の英語コースにおいて、特に英語を母語としない学生では英語力に差がある現状が見受けられたため、留学生への英語教育について体制をより一層強化する必要がある。
※1 大学院の英語コースで開設されている科目については日本人の履修者が少ないため、日本人との交流の機会を積極的に設けることが望まれる。※2」

【対応状況】

※1について＝留学生に対する英語能力強化の対応として、大学院及び専門職大学院では、研究科間共通科目を新設し、学術英語コミュニケーション及び英文学術論文研究方法論の授業を開設。これらの科目に加え、研究科独自に、1)英語論文チュートリアル実施、2)修士論文の英文添削、3)Speech, Presentation and Performance科目を設置している。

※2について＝ガバナンス研究科は、昼夜開講による専門職大学院であるため、一般学生の多くが職業人であることから、屋間に開設している英語コースの留学生との交流は難しい状況にあるものの、当研究科を修了している職業人との交流や、修了生が活躍する現場への訪問が行われている。実務家教員や実務家修了生を中心として留学生向けに各種研修機関へのフィールドワークや公共政策に関係する現場を实地視察をし、地域行政の担当者や住民との情報交換を積極的に行っている。

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【評価の実施・改善】

➤ 外部有識者等による評価の実施と改善

グローバル30の計画推進の補強・改善対応を図り、事業の実施状況及び目標の達成状況を専門的・客観的立場から評価を行うため、大学外部の有識者(6名)を招き、国際連携機構外部評価委員会を設置し実施。

改革・改善の必要がある場合、国際連携機構会議のもとで検討され、各部局において実行に移される。更に、実施された改革・改善の適否についても、同会議で検証、PDC Aサイクルを実践している。

国際化を含め本学の各組織における法人活動、教育・研究活動全般を自己点検・評価委員会のもとに毎年、点検・評価を毎年実施することにより、内部質保証に向けた取り組みを行ない、教育研究水準の維持・向上を図っている。

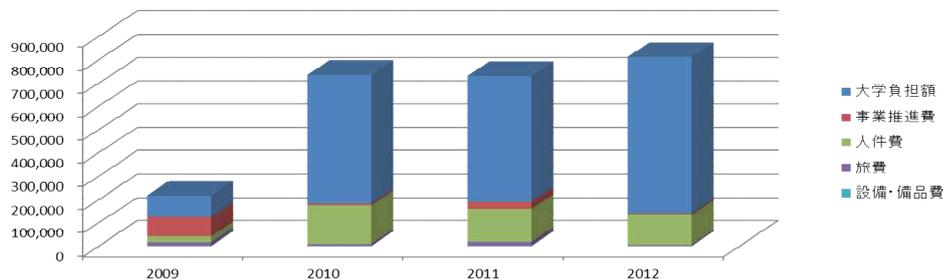
➤ 国際大学協会 (IAU) による International Strategies Advisory Services (ISAS)の実施

国際化戦略の検証と今後展開すべき戦略の明確化並びに質保証

3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績

➤ 大学全体としてグローバル30事業の推進を図るため、事業推進部局である国際連携機構に重点的な予算配分を行うほか、各学部・研究科にも予算計上している。活動経費の7割を自己資金により支出している。



注) 2009~2011年度は実績。2012は計画予算。

② 内部監査等の実施

➤ 補助金並びに補助金事業の適正な執行を図るため、内部監査を実施している。

4. 今後の課題と事業終了後の見通し



① 今後の課題と展望

海外からより多くの優秀な学生を獲得するため、海外のレベルの高い高校や協定校などを通じた指定校推薦制度の充実を図る。また、留学生向けの各種奨学金制度の充実、宿舍の充実は勿論のこと、英語によるカウンセリングなど日本語能力の低い学生へのサービス及び日本語教育をより充実させる。グローバル人材育成の仕組み作りとして、産学連携のもと、企業と大学と外国人留学生の繋がりを強化させ、就職指導やインターンシップの充実等の就職支援を強化する。

② 事業終了後(2014～)の見通し

○英語コースの充実と拡大

国際日本学部イングリッシュトラック(2011年度開設)の拡充:3年次に加え2年次編入の実施。日本人学生受入。

総合数理学部イングリッシュトラックの新設:理系学部の英語コースを新たに開設。

上記の他、大学院における社会科学、理工学の研究科横断的イングリッシュトラックについても設置を検討。

○留学生の受入促進施策(目標達成に向けた継続的取組)

国際大学との連携及び英語による授業の増加とレベルアップ

海外における広報体制・広報活動の充実とWeb出願システムとポータルサイトの運用

協定校ネットワークの強化

エントリーサポートの充実

短期プログラムの開発

海外指定校推薦制度の導入(商学部, 国際日本学部)

○補助金の終了に伴う代替財源の確保

事業終了年度に、計画通り体制を確立させ、評価点検により改めて事業執行・プログラム運営の適正化を図り、

以後経常化による方針を立て、大学の安定的かつ継続的な資金計画の下に事業継続が行えるようにする。





WASEDA UNIVERSITY

グローバル30総括シンポジウム

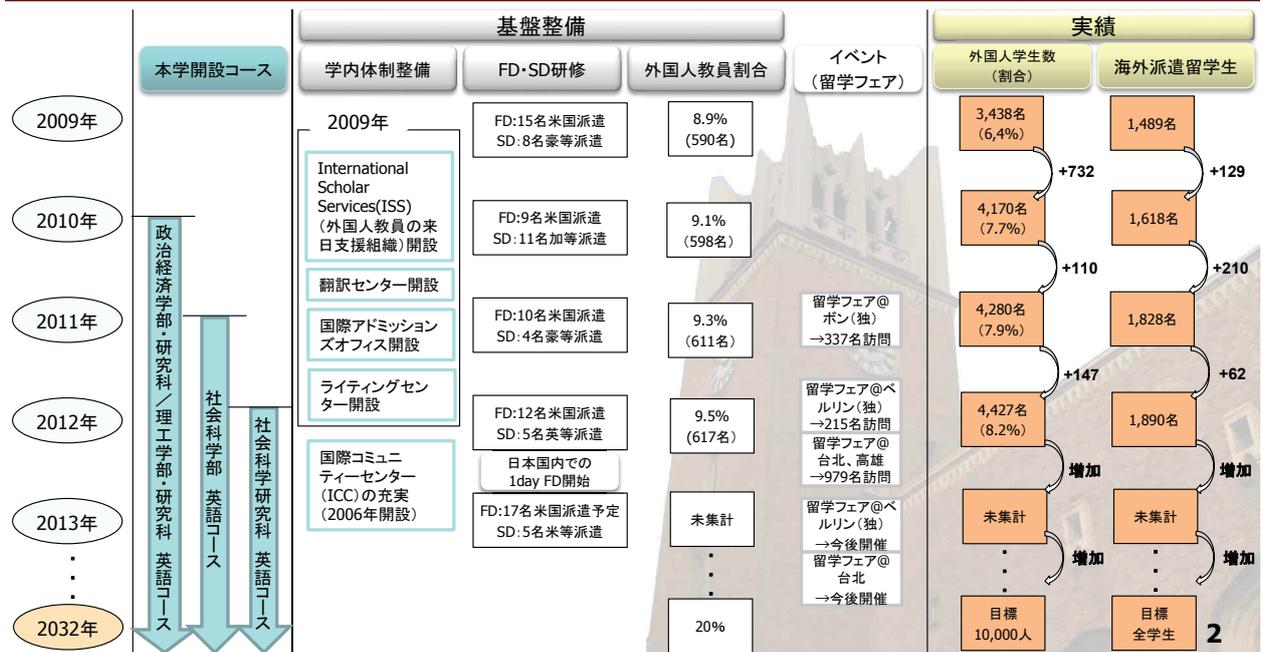
早稲田大学

1



WASEDA UNIVERSITY

取組年表





WASEDA UNIVERSITY

目次

1. 早稲田大学の国際化戦略とG30
2. 本事業の成果
 - ① 特筆すべき成果と波及効果
 - ② 各コースの特徴及び学生の声
 - ③ 外国人学生の受入及び派遣実績
 - ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施
 - ⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大
 - ⑥ 教育体制の充実
3. 取組状況
 - ① 英語による授業のみで学位が取得できるコース
 - ② 留学生受入のための環境整備
 - ③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成
4. 経費の使用状況
5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し
 - ① 今後の重点項目と取組施策

3



WASEDA UNIVERSITY

1. 早稲田大学の国際化戦略とG30

4



WASEDA UNIVERSITY

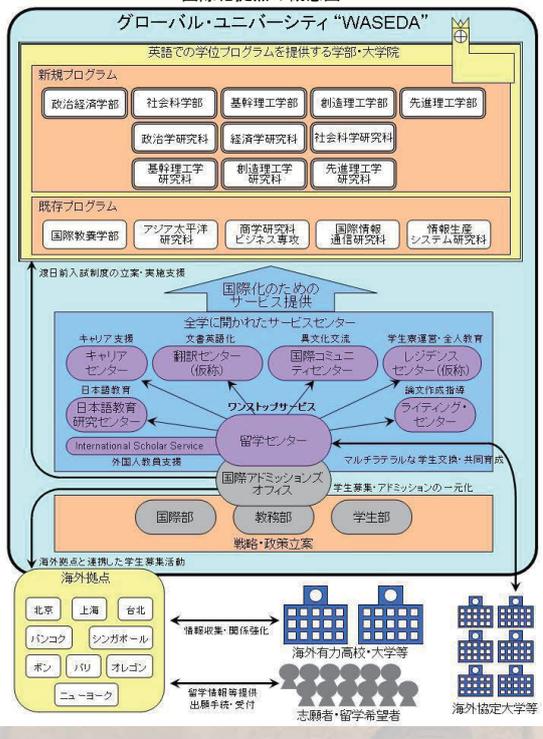
早稲田大学の国際化戦略とG30

「早稲田からWASEDAへ」～国際化への取り組み～

早稲田大学はこの十数年間、大学の国際化に向けて様々な改革を遂行してきました。特に2008年度からの10年間を目標とする大学の将来像を策定した「Waseda Next 125」の中で国際化を最優先事項と位置づけ、「早稲田からWASEDAへ」をスローガンに、日本の大学であることを超える、すなわちグローバルユニバーシティとしての「WASEDA」を構築することを目指してきました。今回、G30の採択を受け、本学の国際化を大きく拡大・深化させることができましたが、引き続き大学の国際化に向け改革を進めて参ります。



国際化拠点の概念図



WASEDA UNIVERSITY

2. 本事業の成果





WASEDA UNIVERSITY

①特筆すべき成果と波及効果

外国人学生数が2008年度比 **50%増加**

⇒日本人学生、教員の意識の変化(海外を意識)

海外への派遣留学生在が2008年度比 **61%増加**

⇒グローバル人材を育成

外国人教員の**採用割合が上昇**

2008年の外国人教員比率8.6%に対し、2009年以降の新規嘱任に占める**外国人教員の割合は12.2%**

⇒教育の活性化、海外との共同研究数の増加

海外共同事務所(独ボン)の有効活用

⇒留学フェアによる日本の大学のプレゼンスの向上、大学間の交流促進・情報共有

7



WASEDA UNIVERSITY

②各コースの特徴及び学生の声

グローバル日本政治経済コース
国際政治経済学コース(政治経済学術院)

プログラムの特長

- ゼミ形式の少人数授業
- インターンシップへの積極的な参画
- 日本の文化を体験するスタディーツアー

現時点での成果

- ✓担任制度による親身なサポートへの高い満足度
- ✓英語・日本語ハイブリット教育による高い教育効果
- ✓実践的授業による高い学習効果
- ✓質の高いインターンシップの実現と日本で働くことへの職業観の醸成



Students' Voices



イ ヘリム
政治経済学部 政治学科

政治学と経済学を同時に学べる点に魅力を感じ、政治経済学部に入學しました。学べば学ぶほど、二つの分野が密接に関連していることが分かり、どちらの分野もさらに興味深くなります。様々な国籍、文化的背景を持ったクラスメートに刺激を受けながら学ぶことができる環境です。

ディルムロドゥ ユスポフ
経済学研究科 経済学コース(修士課程)

経済学研究科の最大の魅力は、その素晴らしい研究環境にあります。経済分野における最先端の知識を習得しようと世界中から志の高い学生が集まり、幅広い分野におけるトップクラスの教授陣・研究者がその指導にあたります。国際色豊かな学生たちが相互に影響し合い、切磋琢磨しながら研究できる刺激的な環境がここにはあります。



大手企業でのインターンシップ・プログラム

実施時期	都市名	参加学生数
2012年3月	東京	2
	東京	7
2012年8月、9月	シンガポール	2
	上海	2
	ソウル	1

8



WASEDA UNIVERSITY

②各コースの特徴及び学生の声 国際コース(理工学術院)

プログラムの特長

- 3学部11学科、3研究科9専攻(修士)、3研究科19専攻(博士)に渡る**多彩な専門分野**を有する。
- 歴史と伝統に裏打ちされた**高度な専門知識・技術**の習得。
- **体験型学習**の重視
- 出身国籍の多様性から生じる**国際感覚**の醸成。

現時点での成果

- ✓ 多様な留学生と交流できる環境への高い満足度
- ✓ 教授による**手厚いフォロー**への高い満足度
- ✓ 実践的な技術を身に付ける徹底した**実験教育**による高い学習効果(教員だけでなく技術系スタッフによる実験サポート、充実した研究設備)

Students' Voices

学部学生

- ✓ 授業は忙しいが、サークルや部活、バイトなどと両立して充実した学生生活が送れている。
- ✓ 忙しさなどの問題はありますが、高度な研究に携わることができ、早稲田大学に留学して良かったと思っている。
- ✓ 同じコースの大学院生と交流する機会があり、刺激を受けることができる。

修士学生

- ✓ 授業の後、英語で個人的に説明の時間を設けてくれるなど、大学のサポートが手厚い。
- ✓ 日本語の授業の後、メールを通して質問をすると、指導教員から丁寧な返事がもらえる。
- ✓ 今の研究室の研究レベル、友人に満足しており、博士課程への進学を考えている。



9



WASEDA UNIVERSITY

②各コースの特徴及び学生の声 現代日本学プログラム(社会科学総合学術院)

プログラムの特長

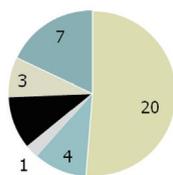
- 人文学、自然科学、社会科学などからなる新しい**学際的アプローチ**による、まったく新しいタイプの「日本学」
- 「世界の中の日本」「文化と歴史」「社会と政治」「技術と環境」: **4つのテーマ領域を横断**する多角的な研究
- グローバル時代の地球的規模の課題を解決し得る**グローバルリーダー**の養成
- 徹底した**少人数教育**による高い教育効果
- グローバル時代に適う**コミュニケーションスキル**の育成

現時点での成果

- ✓ **国際的な教育研究環境**の創出
- ✓ 学生への親身な**アドバイス**への高い満足度
- ✓ 「座学」の枠を越えた「**実地見学**」(フィールドトリップ)による高い学習効果



国籍別学生数(学部生)



- China (20)
- Taiwan (4)
- Hong Kong (1)
- South Korea (4)
- USA (3)
- Japan (7)

Students' Voices

「現代日本学プログラム」で学ぶことはとても刺激的でワクワクします。授業科目の多様性はもちろんのこと、活発なディスカッションやブレインストーミングを行うためのよい機会を与えてくれる「少人数教育」によるところが大きいと思います。

「英語学位プログラム」なので、すべてが授業は英語で行われますが、同じ学部の「日本語学位プログラム」で学ぶ、英語の堪能な日本人の学生と机を並べる機会もあります。このような相互交流も可能な授業スタイルを通じて、現代の日本の姿をより深く知ることができることも大きな魅力です。

「現代日本学プログラム」で学んだことはとても有益だと実感しています。リサーチスキル、研究と実践の融合など、これからの学習に欠かすことのできる重要なスキルを身につけることができよかったです。

「現代日本学プログラム」での学生生活は快適で心地のよいものです。日本語もしっかり習得できるようにきめ細かなレベル分けによる日本語科目も提供してくれますし、オフィスのスタッフもとても優しく親切で、本当にありがたいと思っています。

左 凌ヨウ(サ リンヨウ)さん(中国出身、2011年9月入学者)



2011年度CJSP1年生(工場見学後に、トヨタ会館で)

10



WASEDA UNIVERSITY

③外国人学生の受入及び派遣実績

外国人学生受入

早稲田大学は、外国人学生の受け入れを積極的に進め、特に過去5年間は、50%増加という高い伸びを示しました。2011年度については、東北大地震の影響で伸びが鈍りましたが、2012年度については、大きく増加に転じました。



日本人学生派遣

日本人学生の内向き志向が指摘される中、早稲田の学生を対象にした意識調査では、82%の学生が学生時代に何らかの海外経験を積むことを希望しています。それらの学生の意識と、近年の大学側の留学の環境整備の効果により、留学した学生数は、2008年度比で61%増加しました。今後もコンスタントに増加していくことが予想されます。



11



WASEDA UNIVERSITY

④海外大学との連携プログラムの新たな実施

教育の国際化

「グローバルオナーズカレッジ」プログラム ～国境を越えた課題解決～

早稲田大学は、世界のトップクラス大学7校(ロンビア大学、イエール大学、ハーヴァード大学、ワシントン大学、北京大学、高麗大学、シンガポール国立大学)と、『グローバルオナーズカレッジ』プログラムを実施し、現代社会が抱える地球規模の課題(グローバル・イシュー)について議論するプログラムを開発しました。

「ダブルディグリープログラム」～世界に通用する学位付与システム～

本学のダブルディグリー・プログラムは2005年度から順次、北京大学、復旦大学、ナンヤン理工学大学、国立台湾大学、シンガポール国立大学、ロンビア大学と実現しています。2012年には、本学の大学院環境・エネルギー研究科と北京大学環境理工学大学院との間で修士課程ダブルディグリープログラムによる学生の派遣および受け入れを開始しました。また高麗大学校と政治経済学部とのプログラムも検討中です。

「サマースクール」～日本人学生の国際化～

イエール大学サマープログラム、早稲田・オレゴンSummer Japaneseプログラム、アジア太平洋研究科サマースクールを開設し、短期間の留学のニーズに応えるプログラムを発展させました。

「Global College - Asian Business Studies」～将来のビジネスパーソンを育成～

本学、香港中文大学、復旦大学の各大学より10名ずつ学生を選抜し、その30名が各大学に半年ずつ在学してアジアのビジネスについて学習を進める画期的なプログラムを開発しました。

研究の国際化

共同研究

- ・高雄医学大学(台湾)との医工連携プログラムの試験的な実施
- ・大連理工学大学共同育成プログラム(ソフトウェア分野)

共同大学院の設置

北京大学環境理工学大学院と「環境・持続可能発展学」分野における共同大学院を設置しました。



「グローバルオナーズカレッジ」プログラム



「イエール大学サマープログラム」

12



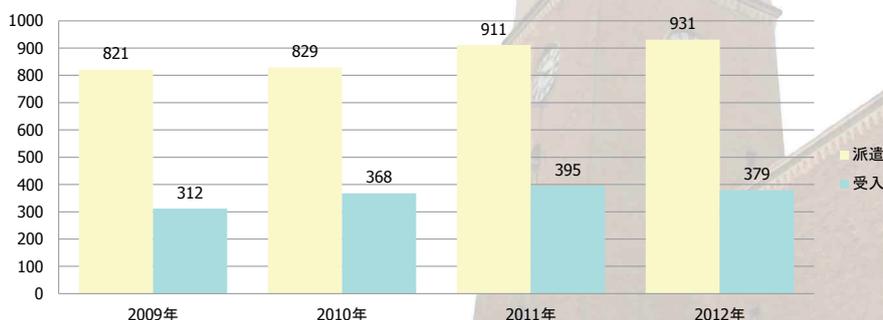
WASEDA UNIVERSITY

⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

大学間協定に基づく学生の受入・派遣

下記の通り、大学間協定に基づく学生の受入・派遣は概ね着実に増加しています。一方、本学では、大学全体で国際化を進めていることから、各学部、大学院が独自に結んだ協定(箇所間協定)で留学する学生も多くなっています。実際、2012年度には、大学間・箇所間を合わせて4000名を越える外国人留学生を受け入れました。また日本人学生の国際化についても力を入れており、学生のニーズに合わせた短期プログラムの開発などにより、毎年着実に派遣学生数が増加しています。

大学間交流協定に基づく交換留学者数の推移



13



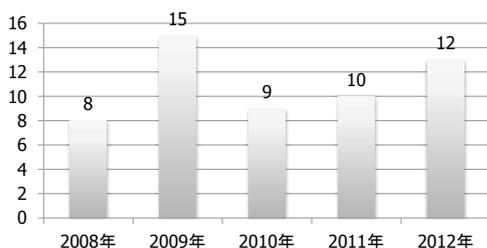
WASEDA UNIVERSITY

⑥ 教育体制の充実

授業の質の向上(ファカルティー・ディベロップメント(FD)の実施)

本学は2008年度より米国内協定校での研修を実施しています。米国協定校に2～3週間派遣し、教授法ワークショップ、英語によるプレゼンテーションスキル講座、授業見学、模擬授業などの研修を実施しています。過去5年間で54名の教員が参加しています。更に、2012年度からは海外から講師を招き、本学の新任教員等を対象に1日FDプログラムを実施しました。

海外の大学へのFD研修 派遣人数



参加教員の声(報告書より)

- ✓分野・教授方法ともにさまざまなクラスを見ることができとても参考になりました。
- ✓模擬授業は大変役に立ちました。実際に行うことは大変大きな経験となります。また、最後に模擬授業があるため、終わりが近づいてもだれもことなく集中することになりました。
- ✓教授法に関する授業は非常に参考になった。これまで教育するための教育を受けたことがなかったため、本FDでの授業では学ぶべきことが多く、自分自身を省みる良い機会であった。
- ✓インタラクティブに授業を運営する方法、ブルームのタクソミーに基づいて、授業の理解度の深さを考えながら授業を運営する方法などは、学部および大学院の授業に取り入れていきたい。
- ✓授業だけでなく、大学が実施している様々なプログラムについて学ぶ機会をつくっていただきました。
- ✓英語を用いた講義を始めているが、来年はさらにオープン教育科目を英語で行う安心感をもった。



14



WASEDA UNIVERSITY

⑥教育体制の充実

外国人教員・国際経験のある日本人教員の雇用

本学では、多様な学問・文化・言語・精神が交流するグローバルな教育研究拠点を形成するため、外国人教員の採用を積極的に行っています。近年、新規採用における外国人教員の割合は12%程度であり、それに伴って全体に対する外国人教員の割合も着実に増えています。同様に、国際経験のある日本人教員(国外の大学での学位取得、通算1年以上国外で教育研究に従事した教員)の割合も増えています。

外国人教員割合



15



WASEDA UNIVERSITY

3. 取組状況

16



WASEDA UNIVERSITY

①英語による授業のみで学位が取得できるコース

a. 開設コース

2010年9月より政治経済学部と大学院、理工3学部と3大学院のコースが順調にスタートしました。翌年、2011年9月からは社会科学部が開設しました。さらに2012年9月には同大学院コースが開設しています。これにより計画された英語学位コース(学部5コース、大学院9コース)が全て開講されることとなりました。

b. 学生の確保に向けた取り組み

AO入試: 多様な学生の確保のため、AO方式の入学試験を導入しています。より良い入試制度の実現のため、実施方法、出願資格、実施時期、統一試験結果、提出物等々について常に見直しを行い改善を行っています。

指定校推薦: 特に優秀な学生の確保を目的として、指定校推薦入試を導入しました。2011年9月入学試験より、中国、韓国、台湾の優秀高校を選定しています。

コース名	学部名	開設時期	学位	在籍者数 (2013年4月現在)
政治経済学部英語学位プログラム(EDESSA)	政治経済学部	2010/9	B	94人
経済学研究科-国際政治経済学コース	経済学研究科	2010/9	M	40人
経済学研究科-経済学コース	経済学研究科	2010/9	M	2人
国際コース(英語コース)	基幹・創造・先進理工学部	2010/9	B	72人
国際コース(英語コース)	基幹・創造・先進理工学研究科	2010/9	M/D	140人
現代日本学プログラム(現代日本学コース)	社会科学部	2011/9	B	39人
現代日本学プログラム	社会科学部研究科	2012/9	M/D	3人

17



WASEDA UNIVERSITY

①英語による授業のみで学位が取得できるコース

c. 質の高い教育の提供への取組

教員: 国際学会の創設メンバー、海外大学での学部長経験者、複数の国で教育研究活動実績を有する者等、国際的に教育・研究活動の実績のある教員を採用することで、より多様な授業や研究指導を留学生に提供する体制が整備されてきました。

新規雇用: 面接時に模擬授業を課したことにより、本学のニーズにあった教員の獲得が可能となりました。

カリキュラム・教材: カリキュラム作成については、海外での教育研究経験の豊富な教員が参画し、策定してきました。また各担当教員が教科書以外にも独自の教材作成を進めています。

体制整備: 当該事業実施箇所では、教員や職員の補充、研修を通して、コース設置のための体制整備を綿密に行ってきました。

全学協体制: 当該事業実施箇所(学部や大学院)と、全学組織である国際部、教務部との会議を毎週開催することで、実施上の諸問題の把握と対応、さらに学生サポートを迅速に行う支援体制が構築されてきました。

d. 教育の質向上への取組

FD(ファカルティ・ディベロップメント): 早稲田大学ではFDを重要施策と位置付け、全学的な組織であるFD推進委員会、FD推進センターを設置し、FD活動の充実化、実質化のための体制を強化しています。また、本学教員を米国指定校に派遣して研修を行うなど、授業力の底上げを図っています。

GPA: GPAの全学的導入を行うと共に、2010年度入学者より、全学統一方式の成績評価指標を導入しています。また、WEBシラバス掲載項目を改善し、学生に提供する授業情報の充実化を図っています。

学生授業アンケート: 全学的な実施と回答方法の改善により、回答率を向上させ実効性・有効性を高めています。

授業支援システム: 全学的な授業支援ITシステムの導入促進により授業での活用を高めました。

学生指導の充実: 出席状況や単位取得状況が芳しくない学生への手厚い指導に取り組んできました。

18



WASEDA UNIVERSITY

②留学生受入のための環境整備

留学生受入れ体制の充実

○入学試験等の一元化

「国際アドミッションズ・オフィス」を設置することで、受験生から見て分かりやすい入試制度を実現するとともに、各学部・大学院が個別に運用していた海外学生募集活動・出願処理についても学内の一元化を図りました。更に、積極的に諸外国でのリクルート活動を実施し、世界中からの優秀な学生の獲得に努めました。

○渡日を要さない入学試験の実施

質の高い留学生を確保するため、渡日を要さない新入学試験制度を立ち上げました。

例：政経学部・理工3学部・社会科学総合学術院におけるAO入試や指定校入試、頂新国際集団康師傳控股有限公司奨学生入学制度、ベトナム教育訓練省国際教育開発局派遣学生受入制度

○奨学金の充実

国際化拠点整備事業奨学金、本学独自奨学金、国外からの奨学金も充実させ、日本に留学しやすい環境を整備してきました。

例：中国国家建設高水準大学公費派遣研究生奨学金、ASEANおよび域内各国政府派遣学生奨学金・アジア特別奨学金、頂新国際集団 康師傳控股有限公司奨学金等

○制度改革

留学を促進するクォーター制の導入、教育の質をより向上させる日本語教育コースの再構築、インストラクター制の導入などを行っています。

○留学生寮の強化

留学生が入居可能な学生寮の拡充のため、既存の学生寮計20棟(計1,313名収容可能)に加えて、2014年度に900名収容可能な大規模学生寮「早稲田大学中野国際コミュニティプラザ」が完成する予定です。この寮は、本学のその他の学生寮と同様に日本人学生と留学生の混住型学生寮となり、国際交流が深まることが期待されます。また地域住民との交流も積極的に行っています。



G30奨学金事業については、2009年度より運用を開始し、大学院修士課程へ海外から新たに入学してくる学生を対象者を決定してきました。これまでに合計35名、12か国の学生に当該奨学金を支給しています。

19



WASEDA UNIVERSITY

②留学生受入のための環境整備

○日本語支援

留学生が日本語の能力を高めることは、日本での生活、及び就職等を含む留学生のキャリアに大きな意味があると考え、日本語教育研究科を設置するなど、留学生の日本語教育に力を入れています。

①日本語学習科目の設置

科目カテゴリーごとの履修単位数(2014年度前期)



②ライティングセンター設置

～留学生の文章指導に対応するための体制づくり～
研究助手2名を雇用し、指導を担当するチューターを育成



○留学生のキャリア支援

本学のキャリアセンターでは、留学生の就職支援を充実させ、グローバル人材の出口支援を強化しています。

- ✓ 英語による個別相談
- ✓ 外国人留学生のための就職活動ガイダンス
- ✓ 各種セミナー(就職活動の基本、日本における業界・企業、エントリーシートの書き方、面接対策、グループディスカッション対策、面接マナー)等を実施
- ✓ 学内企業説明会の実施: 留学生積極採用企業 約200社を紹介
- ✓ 特定活動ビザ取得のための推薦状発行。また特定活動ビザで就職活動中の既卒者に対し、在学生と同様の支援を継続実施。



20



WASEDA UNIVERSITY

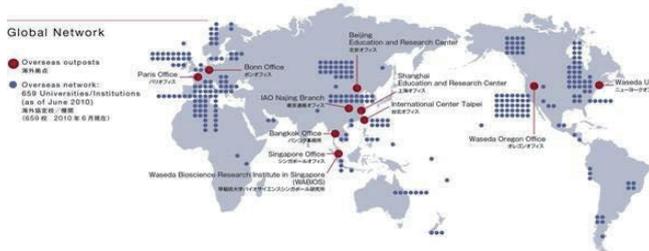
③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化

本学では戦略的かつ多角的に大学の国際化を進めています。国際化を4つの視点:「教育」「研究」「経営基盤・インフラ」「社会貢献」として捉え、国際化のための具体的な施策を進めています。

b. 海外機関とのネットワークの形成

本学はこれまで積極的に海外の大学と協定を結び、学生交流、研究者交流を行ってきました。2011年度時点での協定校は、417大学(77か国)に及びます。今後は、それらのネットワークの質の追及を図っていきます。また、世界的に有名な大学と各種のコンソーシアムを組み、世界の潮流を意識しながら国際化を進めています。



大学間協定数(2013年12月現在)

Type of Agreement	Number of Agreements	Number of Universities/Institutions	Number of Countries
University-wide Agreements 大学協定	363	427	79

【海外コンソーシアム】

- APRU (Association of Pacific Rim Universities)
- U21 (Universitas 21)
- IAU (International Association of Universities)
- Venice International University
- APAIE (Asia-Pacific Association for International Education)



WASEDA UNIVERSITY

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

c. 国際化を支える大学経営:

○海外拠点

海外拠点(本学スタッフが駐在する事務所:アジア5か所、米国3か所、欧州2か所、計10か所)を整備し、研究教育プロジェクト支援、本学からの派遣留学生の学習・生活支援ならびに危機対応、周辺地域における学生募集・選考支援等の活動を地域のニーズに合わせて行っています。

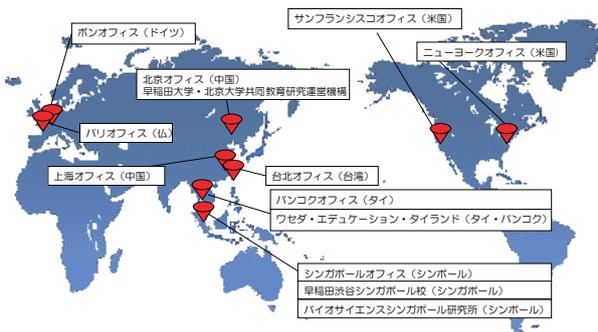
○外国人教員等支援の充実

平成21年11月より外国人教員及びその家族の日本における生活を支援するために、日本での宿舍確保支援、在留手続、医療サービス情報提供等をワンストップで受けられる「International Scholar Services (ISS)」を設置しました。ISSでは手続きのみならず、ソーシャル活動等も企画し、日本で生活に馴染むことができるように配慮しています。

○国際化に対応した事務機能の強化

G30関連箇所や国際系の箇所には、キャリア採用、新卒採用および人事異動を通じて、特に留学経験、海外業務経験、外国籍(実績:中国、韓国、シンガポール)等を考慮した人事配置を行っています。また職員に対して、例えば海外協定校でのスタッフ・ディベロップメント・プログラム(SD)等の多様な研修を実施しています。更に新たに翻訳センターを設置したことで、学内の事務文書の多くの英語化が進みました。

海外拠点



ISSが企画する外国人教員対象の懇親会



WASEDA UNIVERSITY

③拠点大学の国際化とネットワーク形成

d. 海外大学共同利用事務所（ボン ヨーロッパセンター）

本学が担当するドイツ・ボンのヨーロッパセンターは、本学の研究・教育支援施設として1999年に設立されました。設立当初より、常勤職員をおき、本学とドイツ間の教育・研究交流を支援しています。

○現地における国内大学に関する広報活動

ドイツ国内およびその近隣国の大学が開催する留学フェアに5回参加し、日本の大学についての情報を提供してきました。

○ワンストップサービス等の提供

事務所の機能拡充に努め、事務所に外部に提供できる会議スペースを確保したほか、G30プログラムや日本の大学についての情報を収集し、希望者に提供できる体制ができました。またテレビ会議システムを用いての遠隔会議や面接などにも対応できる環境整備を行いました。

【他大学利用実績】

- ✓ドイツ国内の高等教育事情の説明
- ✓海外事務所としての業務経験の照会
- ✓TV会議システムを用いた遠隔面接



海外大学共同利用事務所（ボン）



日本留学フェア（2011年12月：ボン）



日本留学フェア（2013年1月：ベルリン）

23



WASEDA UNIVERSITY

③拠点大学の国際化とネットワーク形成

e. 評価の実施と改善

○中間評価結果における指摘事業等への対応状況

中間評価結果において指摘のあった「**教育内容、成績評価などに関し、全学的な質の管理のためのシステム構築の必要性**」については、現在新たに策定を進めている新中長期計画の中で、**教育の質の保証についての取り組み**を継続させる方針です。その中で、これまで実施してきたTutorial Englishや「学術的文書の作成」「一人の数学」などの**全学基盤教育**をさらに推進させ、Teaching and Learning Center（仮称：教育・学習支援センター）などの設置に向け検討を進めると共に、本学の教育の**質の向上を広く社会全般に周知**できるような方法を検討していく予定です。さらに**成績管理のあり方や学生授業アンケートを通じた教育改善**の活用を進めていきます。学生による授業アンケート以外にも、**分野ごとの学科目委員会**を通じての定期的な内容検討と相互確認の実施により、個別の問題点や課題を改善することで、より質の高い教育機会提供に努めます。

もう一つの指摘事項である「**支援期間終了後の展開について、予算面も含め、より具体的に計画することが望まれる**」については、特に教員人件費について、専任教員の定年退職や既に雇用した任期付教員の補充時に、**英語による授業実施が可能な教員の採用**に努力していきます。一方、新たな教員採用にも限界があることから、これまで実施してきたようなFDプログラムなどの研修を充実させて、**既存の教員の英語運用能力の底上げ**を図ります。職員人件費については、団塊世代職員の退職の際に、国際系業務に対応できる人材の採用を行い、同時に研修を充実させることにより、**国際化に対応する職員の育成**につとめていきます。そのほかの経費については、当該事業継続中にも、可能な限り集中的に配賦することとしてきましたが、当該事業終了後にも引き続き選択と集中を進め、効率的な運営を実現することで、それぞれの費目での執行を徹底していきます。

なお、今後、G30事業を含む国際課拠点整備事業全体の評価について客観性を持たせるため、**外部評価**を行う準備を進めています。

24



4. 経費の使用状況



① 経費使用実績

○実績額の推移と使用実績

当該事業の2年目に補助金額の削減がありました。必要不可欠な項目を中心に予算を配分し効果的な執行に努めました。また初年度はWebページの英語化等の基盤整備のための支出が多くを占めました。2年目以降は実際に執行を推進する人件費に多くを支出しました。

○内部監査等の実施

学内監査部門による公的補助金の監査のほか、各箇所については、当該事業全体の運営を担当する国際部が中心となり、関係箇所の予算執行状況についての検査を実施しました。

(平成21年度)

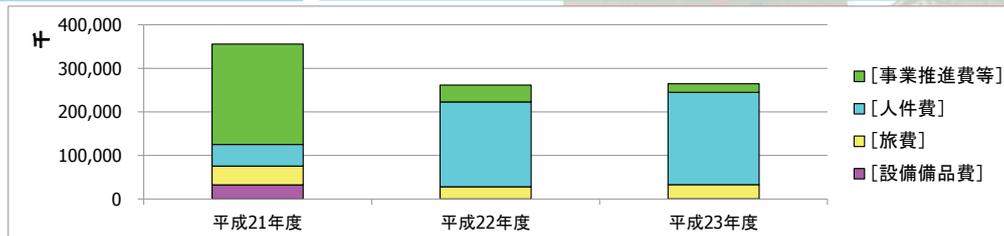
当該事業実施の初年度は、G30事業実施の基盤整備を中心とした予算執行を実施しました。そのため、予算配分の重点を当該事業の海外リクルート活動費、学内事務文書および関連箇所のWEBページの英語化を進めました。また当該事業のための事務組織の強化を図ったことから、必要となる事務職員の雇用を実施したほか、関係職員への研修などの支出を行いました。

(平成22年度)

当該事業の2年目は、当初予定されていた補助金額の支援が受けられなかったため、当該事業実施に不可欠な人件費を中心に補助金を優先的に配分しました。そのほかの予算執行に当たっては、学内関係箇所に必要とされる必要経費の詳細についてヒアリングを行い、そのうえで適切な配分を行い、効果的な補助金執行になるように努めました。

(平成23年度)

当該事業の3年目ということで、学内のG30対象箇所が全て出揃い、それらの対象箇所の基盤整備を中心に予算の執行を行いました。また、本学が担当するポンの海外大学共同利用事務所を中心に、欧州地域での日本の大学の留学フェアを実施するなど、広報活動の強化に努めました。





5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し

27



① 今後の重点項目と取組施策

これまで本学は早い段階から積極的に国際化に取り組み、国際化の観点で日本をリードする存在となりました。しかしながら、グローバルでの大学間の競争は激しさを増しており、一層の国際化への取り組みが必要と認識しています。以下、今後、Global30の取り組みを全学の改革につなげていきます。以下の項目は、本学の改革プランWaseda Vision150の中で重点的に取り組んでいく分野です。

項目	現状と20年後の目標数値	実現のための施策
外国人学生	2012年5月現在、4,427名の外国人学生が本学で学んでいるが、全学整数に対する比率にすると8%に過ぎない。キャンパスの国際化を推進するため、20年後までに20%に比率を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 入試制度の抜本的改革：世界の様々な国、地域から受験が可能な入試の開発。秋学期入試を本格的に導入。 外国人留学生就職活動支援の強化・整備 奨学金制度設計・見直し 学生寮の整備（中野国際コミュニティプラザ）
派遣留学生	2012年度、1,890名の本学学生を海外の大学に送り出しているが、グローバル化する社会に対応できる人材を育成するためには、20年後までに全員の学生を留学させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学部・大学院におけるクォーター制の導入。 留学、海外フィールドワーク、国際ボランティアなど、海外での学習を経験するための体系を整備 学部のカリキュラムに密接に連携した国際教育プログラム（SSA）の開発。中期・短期留学プログラムの開発・留学生経験者出口支援の強化
外国人教員	2011年度、141名の外国人教員が教壇に立っているが、教育の国際化を進めるためには、20年後までに400名（20%）に引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用ポリシーの検討 教員の受入体制の整備 評価制度の見直し
外国語による授業数	2012年度、外国語の授業の割合は学部で6%、大学院で9%となっている。留学生の対応、教育の国際化の実現のためには50%の割合まで引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進 教材作成サポート体制の検討

28

Study in English
at Japanese universities



グローバル30総括シンポジウム

同志社大学



取組年表



2009年	8月	・「生活支援アドバイザー制度」「学習・研究支援チューター制度」導入
	9月	・【英語による学位プログラム】ビジネス研究科 グローバルMBAコース開設
2010年	1月	・ロンドン事務所設立 ・外国人留学生海外指定校推薦制度を開始
	3月	・ハノイ事務所設立
	4月	・【英語による学位プログラム】グローバル・スタディーズ研究科(アメリカ研究クラスター、グローバル社会研究クラスター)開設 ・北京事務所設立 ・キャリアコーディネーターによる英語でのキャリアカウンセリングを開始
	9月	・【英語による学位プログラム】理工学研究科・生命医科学研究科 国際科学技術コース開設
	12月	・全職員対象の英文化ワーキンググループを発足
2011年	1月	・G30関西地区連絡会議を発足 ・外国人留学生入学試験の海外現地試験同日実施を開始
	3月	・上海事務所設立
	4月	・【英語による学位プログラム】国際教育インスティテュート開設 ・【留学生対象学位プログラム】グローバル・コミュニケーション学部 日本語コース開設 ・ソウル事務所設立
	7月	・臨床心理士による英語でのカウンセリング開始
	10月	・外国人留学生入学試験にインターネットを利用した遠隔地面接を導入
2012年	1月	・ワークショップ「Developing English Undergraduate Programs in Japan」開催
	2月	・中間評価において「S」評価を獲得
	7月	・イスタンブール事務所設立
	10月	・ハラル食の提供開始、メディテーションルームを整備
	11月	・SDワークショップ「大学職員のグローバル化」開催
2013年	1月	・国際シンポジウム「国際化時代の日本語研究と日本語教育」開催
	3月	・トルコ(イスタンブール)にて日本留学フェアを初開催
	4月	・グローバル地域文化学部開設
	7月	・G30成果シンポジウム「留学生のキャリアデザイン」開催

目次



1. 本事業の成果

1) 数量的成果: 特筆すべき効果と波及効果

- ① 学術交流協定の拡充
- ② 留学生の受入
- ③ 協定等に基づく学生の派遣
- ④ 海外拠点の拡充

2) 質的成果: 特筆すべき効果と波及効果

- ① 英語プログラムの設置
- ② 海外大学との連携プログラムの新たな実施
- ③ 教育体制の充実
- ④ 全学における国際化推進体制の充実

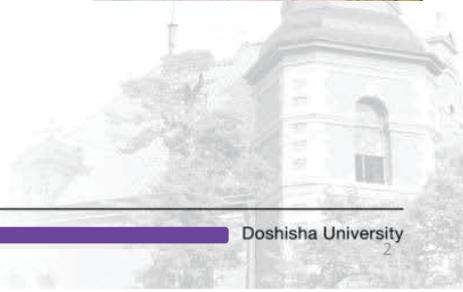
2. 取組状況

- ① 留学生受入のための環境整備
- ② 拠点大学の国際化とネットワークの形成

3. 中間評価と対応状況

4. 経費の使用状況

5. 今後の課題とG30事業終了後の展開



Doshisha University

2

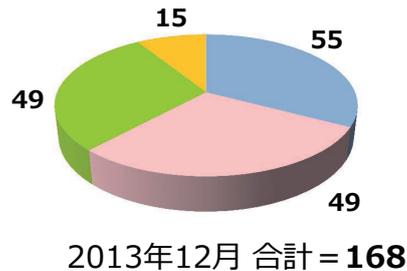
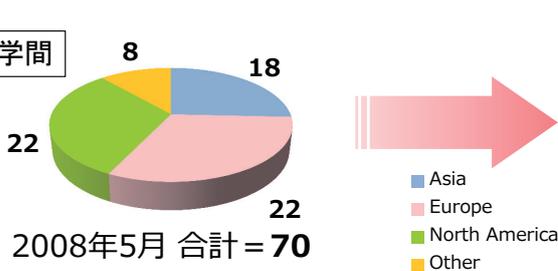
1. 本事業の成果 1) 数量的成果

1 学術交流協定の拡充 I

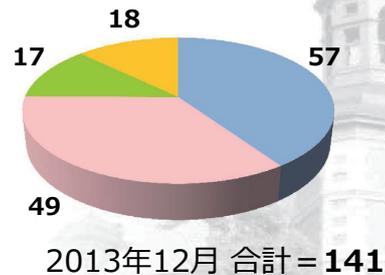
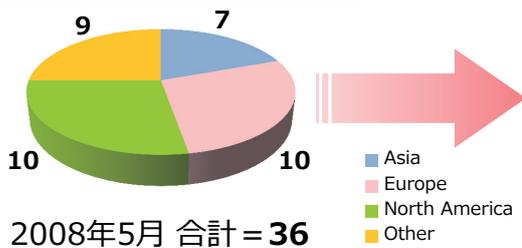


交流学生の増加・研究の国際化推進

大学間



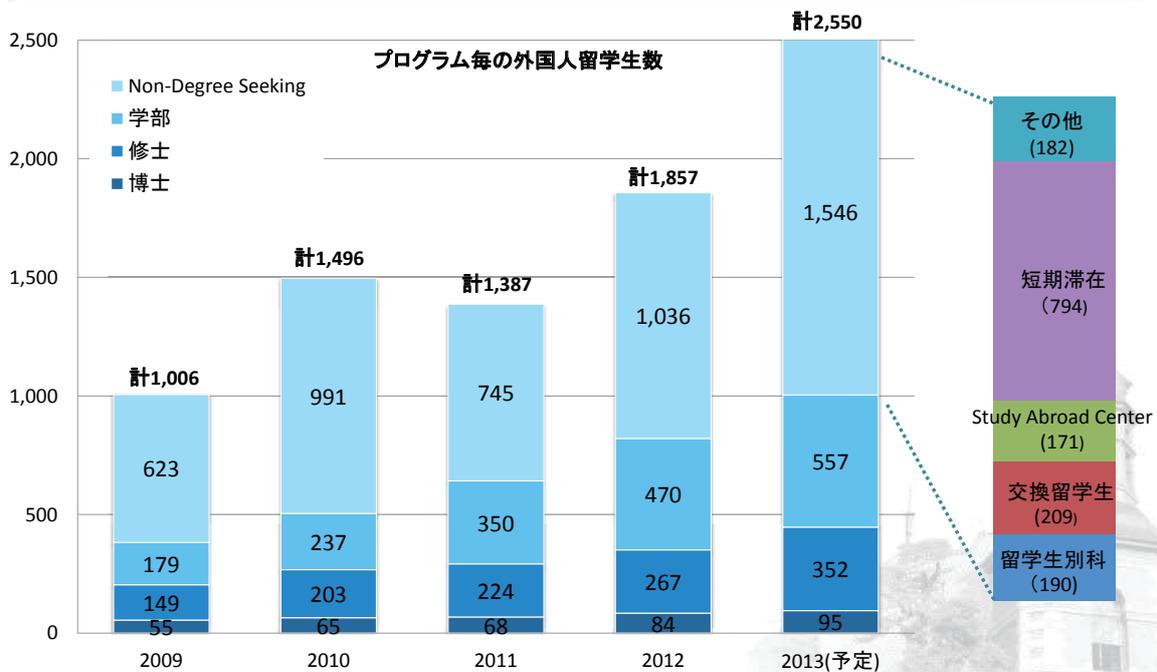
学部・研究科間・研究センター間



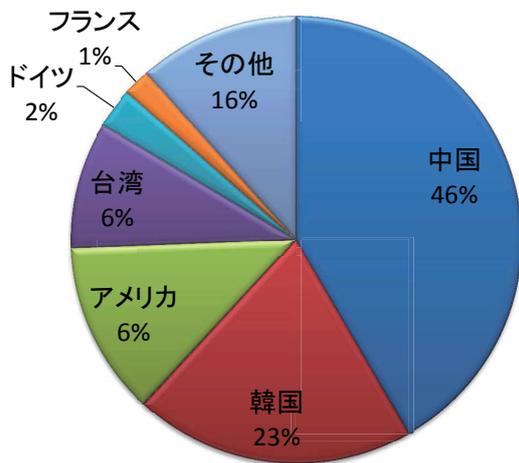
Doshisha University

3

協定に基づく学生の受入・派遣人数の増加



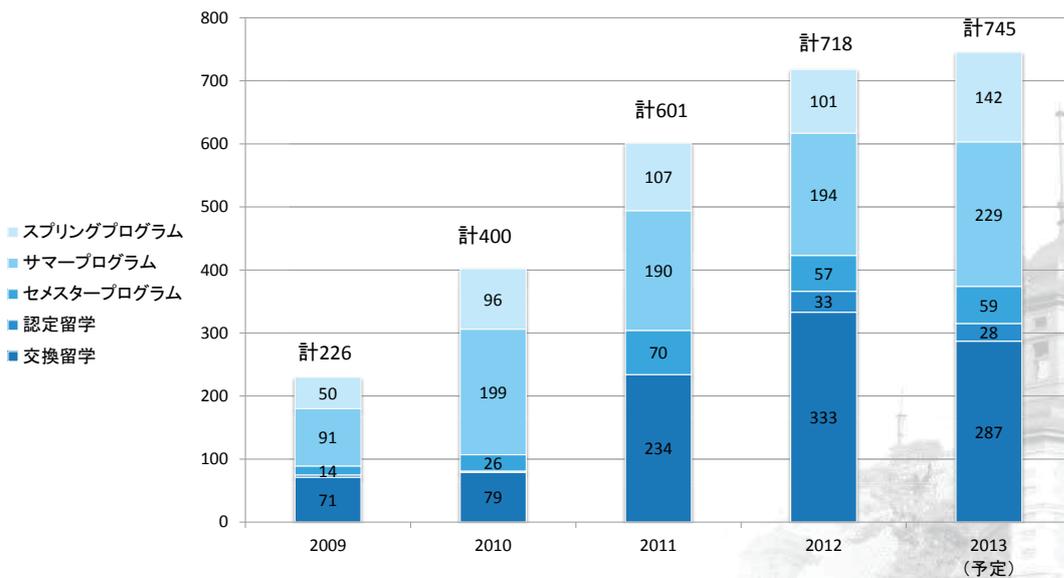
2013年度 留学生の国籍割合
(10月1日時点)



その他 国籍内訳

- ・イタリア
- ・インドネシア
- ・オーストラリア
- ・オランダ
- ・カナダ
- ・シンガポール
- ・タイ
- ・ネパール
- ・イギリス
- ・フィンランド
- ・ベトナム (他48ヶ国)

派遣学生数の増加(派遣学生プログラム別)



留学プログラムに対する財政支援

給付金額: 約5,500万円 (2012年度実績)

海外へ送り出す学生に対する奨学金	
交換留学	¥300,000 / 年 ¥150,000 / セメスター
セメスタープログラム	¥250,000
認定留学	¥250,000
サマープログラム、スプリングプログラム	各¥70,000
大学院生の外国派遣	¥100,000

- * 2009年3月:
1事務所(台湾(台北))
- * 2009年度 :
2事務所(イギリス(ロンドン)、ベトナム(ハノイ))
- * 2010年度 :
3事務所(中国(北京・上海)、韓国(ソウル))
- * 2012年度 :
1事務所(トルコ(イスタンブール))



韓国事務所
(大学コンソーシアム京都加盟大学への利用供与)

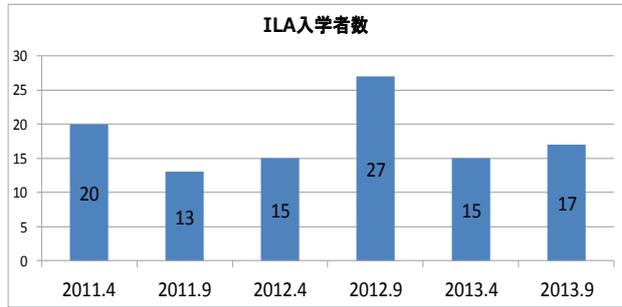
- 現地の高等教育情報の収集
- 留学希望者、在学生父母のサポート
- 入学願書等の受付、サポート
- Visa取得のための書類の受付
- 本学学生・教職員の現地活動ポート、危機管理



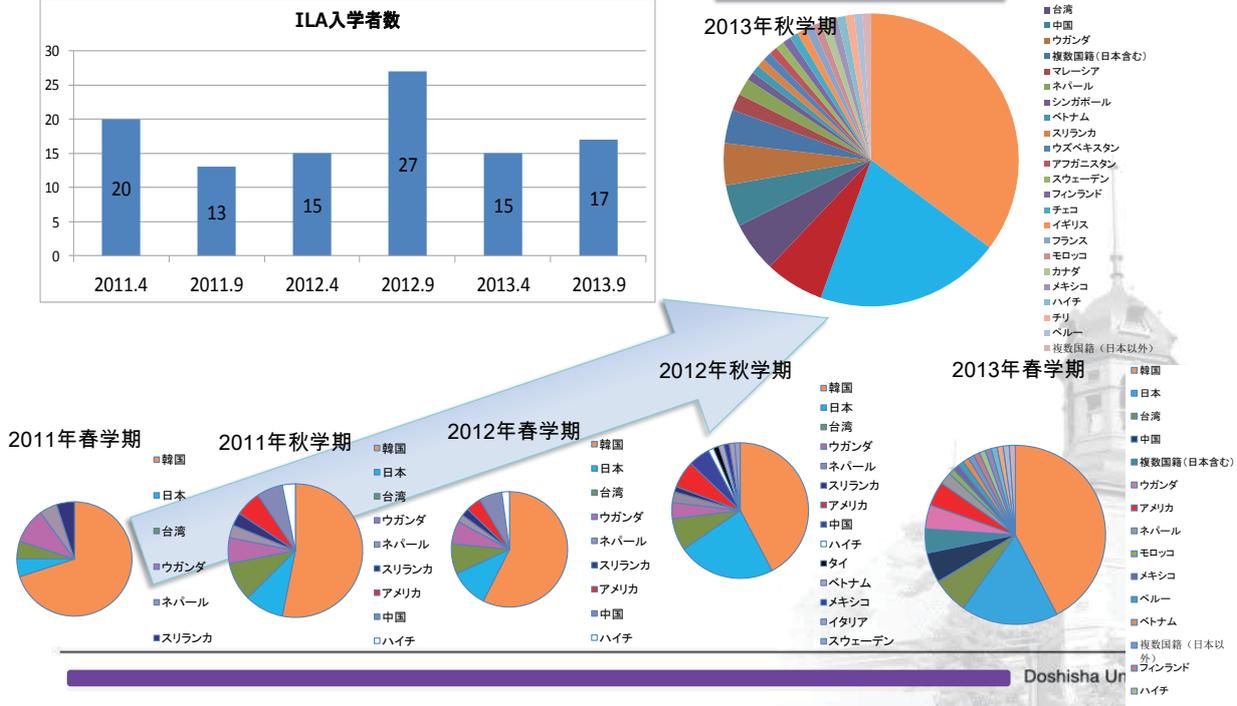
1. 本事業の成果 2) 質的成果
1 英語プログラムの設置 I



ILA (国際教育インスティテュート)



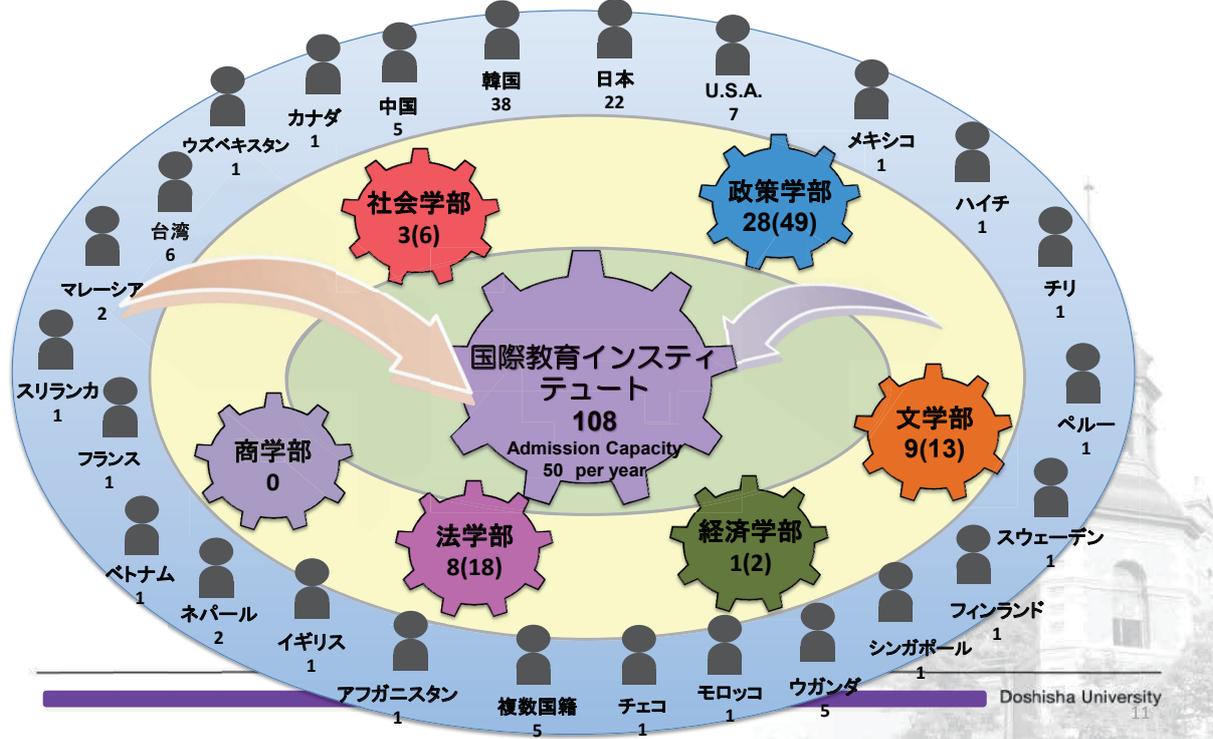
ILA在籍者(国別の推移)



1. 本事業の成果 2) 質的成果
1 英語プログラムの設置 II



国際教育インスティテュート(ILA)国籍別在籍者数(2013年10月現在) 国籍等6学部の数値は、実人数(延べ履修人数)



英語による授業のみで修了できるコース: 博士(前期)(後期), 専門職学位課程

国籍別在籍者数一覧

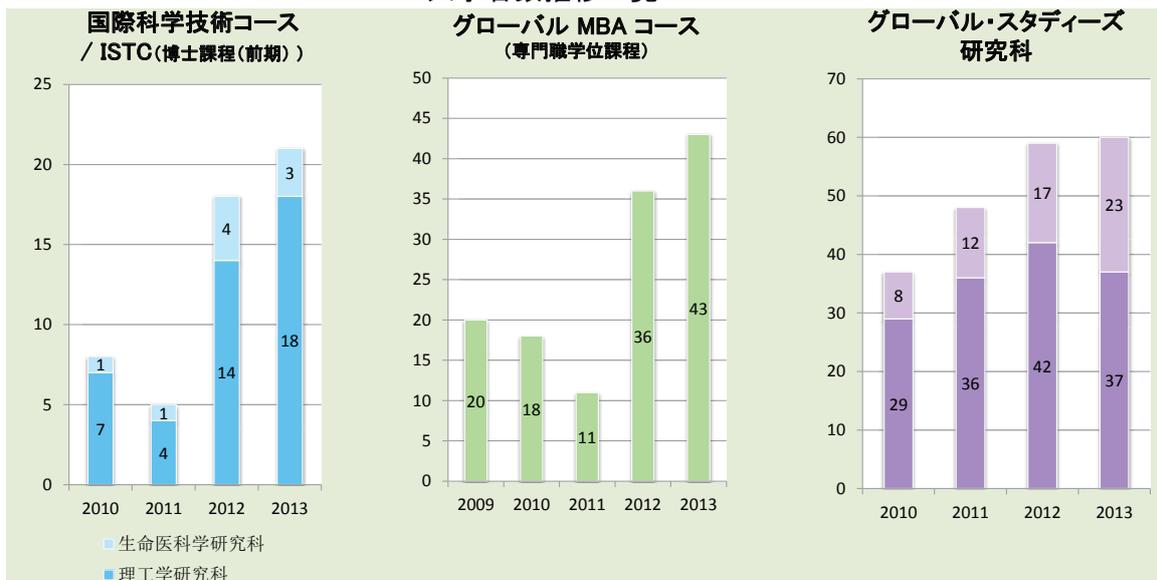
(2013年 10月1日時点)

国際科学技術コース ISTC (29 内、特別学生4)		グローバル MBA コース (81 内、特別学生11)			グローバル・スタディーズ 研究科(57 内、特別学生4)	
博士課程(前期)		専門職学位課程			博士課程(前期)	
中国	7	中国	19	中国	16	
フランス	7	アメリカ	8	アフガニスタン	9	
サウジアラビア	2	タイ	8	キルギスタン	4	
アメリカ	1	スウェーデン	5	アメリカ	3	
イラン	1	カナダ	4	韓国	1	
インド	1	サウジアラビア	3	デンマーク	1	
スペイン	1	フィリピン	3	ネパール	1	
タイ	1	台湾	3	パレスチナ	1	
台湾	1	インドネシア	2	フィンランド	1	
チュニジア	1	バレーン	2	ベトナム	1	
ドイツ	1	ベトナム	2	博士課程(後期)		
トルコ	1	マレーシア	2	中国	5	
ネパール	1	メキシコ	2	アフガニスタン	2	
バングラディシュ	1	ロシア	2	イラン	2	
ベトナム	1	以下、各1名			インドネシア	2
リトアニア	1	インド	ウズベキスタン	エルサルバドル	カザフスタン	2
		カタール	カンボジア	スイス	カナダ	2
		スペイン	ドイツ	ハンガリー	ウガンダ	1
		ブラジル	フランス	ペルー	オランダ	1
		ボツワナ	モンゴル	リビア	トルコ	1
		韓国			フランス	1

英語による授業のみで修了できるコース: 博士(前期)(後期), 専門職学位課程

入学者数推移一覧

(2013年 10月1日時点)



英語コースの学生からの評価等



ILAの多くの授業は、先生が一方向的に講義をされるのではなく、欧米の大学のように学生が自らテーマを見つけて調べたり考えたりすることが求められます。そのため前もって資料を読み、自分の言葉で解釈しておかなければ、発表や討論に参加することができません。準備は大変ですが、このような授業によって生きた知識が身につくことを実感しています。

李ヘヨンさん(韓国出身)
国際教育インスティテュート

各自が興味のあるテーマを選んでプレゼンテーションすることで、日本社会や経済を多面的に学ぶことができ面白いです。1人ひとりがそれぞれ異なる文化、自分の世界を持っていて、様々な考え方があるのはとても興味深いですね

ジャン・ピエール・スティープさん(ハイチ出身)
国際教育インスティテュート



グローバルMBAコースの授業は、私にとって実り多いものでした。加えて授業は世界的な水準を満たしていました。先生は豊富な学術経験と社会での実務経験を持っていて、その経験に裏づけされたスキルや知識を学ぶことは意義深かったです。総じて素晴らしい学びの経験を得られました。

クリスチャン・シュミットさん
2010年度交換留学生(ヨーテポリ大学) グローバルMBAコース

英語コースの学生からの評価等



指導して下さる先生方は、私が履修内容を自分自身の研究にどのように生かせるかについてしばしば興味を示して下さいます。大学も実験に必要な設備のすべてを用意して下さるほか、当該分野の関係企業と直接交流する機会をくださいました。

ラマス・デ・アンダ・ホルヘ・エドゥアルドさん(メキシコ出身)
工学研究科博士課程(前期)機械工学専攻 国際科学技術コース(ISTC)



先生方は国際機関や政府機関での勤務経験など、さまざまなバックグラウンドを持っています。授業はオープンマインドで互いの考えをシェアすることができるので、学生同士が相互に学ぶことができ、先生もサポートもして下さいます。特に先生方は国際情勢に精通されており、授業で最新の国際情勢をテーマにして下さるので、学生は今世界で起きていることを身近に知ることができ、グローバルな視点を養うことができます。

アリヤ・ツハイさん(カザフスタン出身)
グローバルスタディーズ研究科博士課程(後期)

授業訪問

【Art Communication (An Introduction to Chanoyu-The Way of Tea)】

茶道の歴史、哲学を紹介するほか、お茶の飲み方や点て方など、茶道の作法を習得



国際教育インスティテュート (ILA)

【Strategies for Asia Pacific】

アジア・太平洋地域における企業の戦略的アプローチを検証



グローバル MBA コース

Double Degree Programの充実

6大学とダブルディグリープログラムを実施

2013年10月時点

海外大学	同志社大学 学部・研究科	累計実績	学位取得実績
エコール・セントラル国立理工科学院連合 (フランス)	理工学研究科・生命医科学研究科	派遣:17 受入:25	博士前期:27 博士後期:2
パリ市立工業物理化学大学院大学 (フランス)	理工学研究科・生命医科学研究科	派遣:2 受入:3	博士前期:3 博士後期:0
ミラノ工科大学 (イタリア)	理工学研究科・生命医科学研究科	派遣:0 受入:0	
西安電子科技大学 (中国)	理工学研究科・生命医科学研究科	派遣:0 受入:9	博士前期:4 博士後期:0
シェフィールド大学 (イギリス)	法学研究科	派遣:1 受入:0	
成均館大学 (韓国)	法学研究科	2013年度より開始	

1. 本事業の成果 2) 質的成果
2 海外大学との連携プログラムの新たな実施 II



2013年度 短期受入れプログラム

2013年12月時点

プログラム名	期間	受入れ人数	主・使用言語
同志社大学 サマー・セッション	2週間	32	日
同志社大学 スプリング・セッション	2週間	30	日
ニューオーリンズ大学 プログラム	5週間	21	英
ロチェスター工科大学 RIT-同志社夏期短期留学プログラム	6週間	6	日
メリーランド大学 プログラム	2週間	15	日
ハーバード大学 サマースクール	8週間	18	英
ウイネベグ大学 プログラム	4週間	26	英
梨花女子大学 プログラム	2週間	20※	日
KCJS サマープログラム	8週間	23	日
中国短期留学プログラム	2週間	20	日
中国短期研究留学プログラム	4~12週間	46	日

※は予定人数



Doshisha University 18

1. 本事業の成果 2) 質的成果
3 教育体制の充実 I



英語科目の日本人学生履修促進

同志社大学に留学拠点を置く海外の大学の機関

The Associated Kyoto Program (AKP) 1972年設置

- * Amherst, Williams, Middlebury等
 (アメリカのリベラルアーツのトップ15大学で構成)



Tübingen University Center for Japanese Language (TUB)

1993年設置



Stanford Center for Technology and Innovation (SCTI)

2006年設置



Kyoto Consortium for Japanese Studies (KCJS)

2009年設置

- *Harvard, Yale, Princeton, Columbia等
 (アメリカのトップ14大学で構成)



Doshisha University 19

外国人教員の雇用促進



英文化WG

年度	開催回数	参加人数	内容
2010	第1回	82	①開催の目的の説明 ②各組織の状況、問題点の共有 ③MLIについて
	第2回	60	①各組織の状況、問題点の共有(事例紹介)
	第3回	54	①同志社大学英文用語集について、その他②国費留学生制度について
2011	第1回	51	①同志社大学英文用語集について、その他 ②外国人の在留資格について
	第2回	34	①同志社大学英文用語集について、その他②大学間協定・学部(研究科)間協定について
	第3回	35	①同志社大学英文用語集について、文書の英文化について ②外国人留学生の学生生活および在籍管理の留意点について
	第4回	39	①文書の英文化について ②「派遣留学」の概要とその関連手続きについて
	第5回	48	①文書の英文化について ②留学生別科の現状について、「国際教育インスティテュート」について
	第6回	46	①同志社大学のグローバル化の取り組みについて ②留学生統計と留学生身分の種類について
	第7回	30	①文書の英文化について ②学内文書英文化ワーキンググループの総括:「国際化推進の意義」
2012	第1回	42	①文書の多言語化について ②外国人留学生を対象とした入試に利用される語学能力証明書等について
2013	第1回	50	①留学生のアルバイト 資格外活動許可について ②グローバル人材育成推進事業について

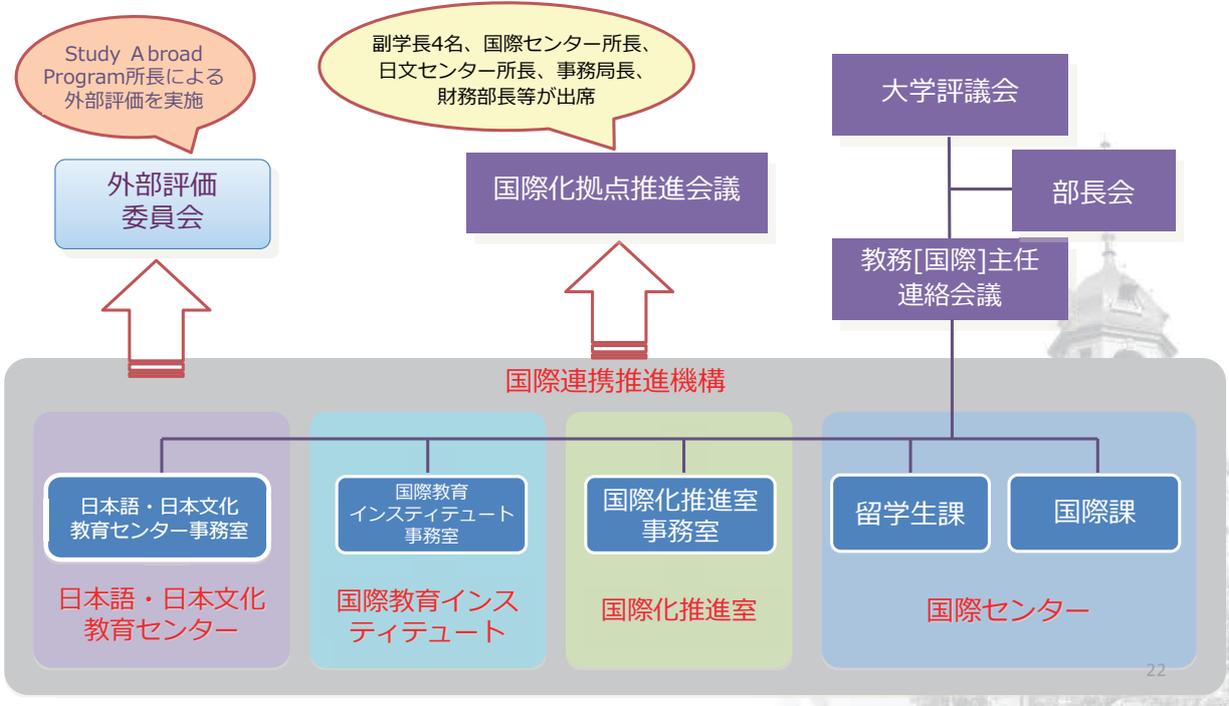
事務組織の
国際化促進

国際業務の情報共有化 Wordingの統一 学内文書の英文化

1. 本事業の成果 2) 質的成果
4 全学における国際化推進体制の充実 II



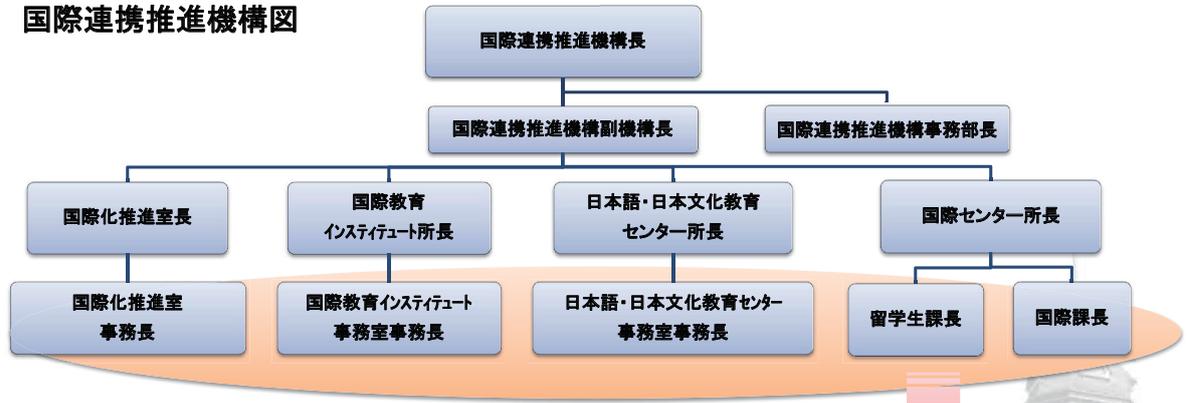
国際化の取組・運営方針の審議・決定



1. 本事業の成果 2) 質的成果
4 全学における国際化推進体制の充実 III

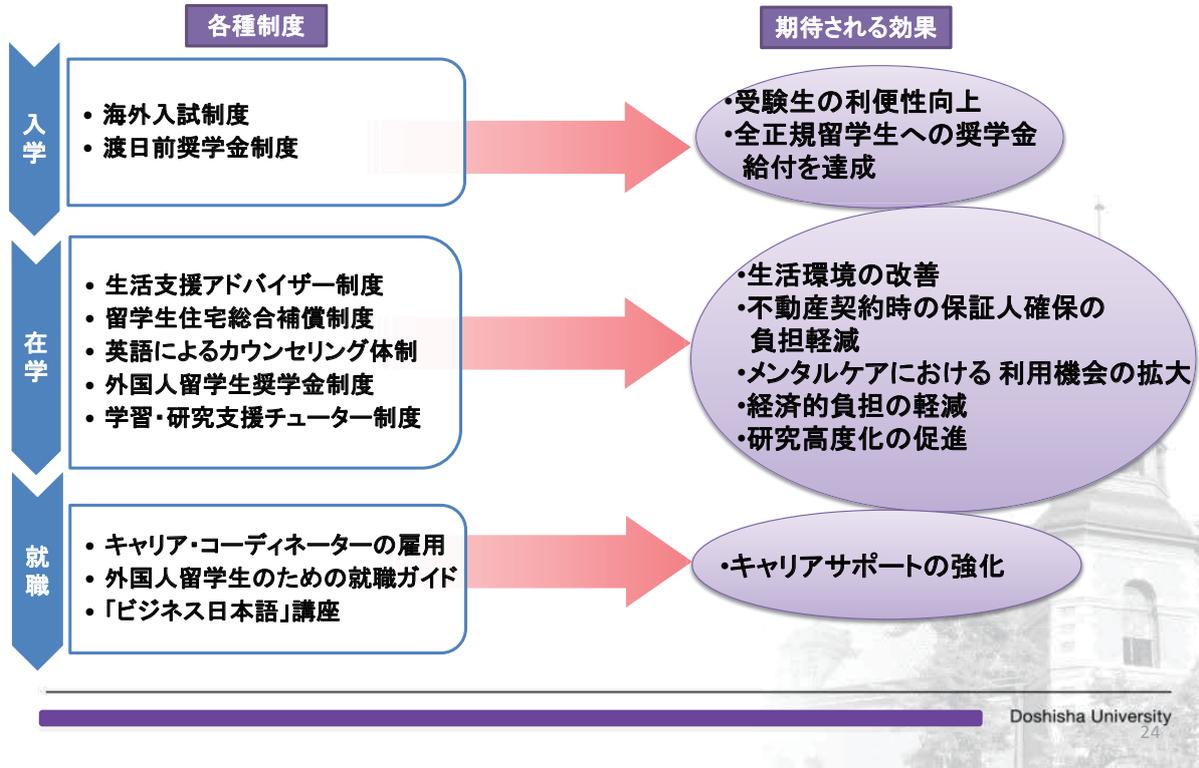


国際連携推進機構図



数字で見る体制の充実 (2009年度 → 2013年12月現在)





入学制度の改革

- 入学試験の複数回実施
- 受験生の経済的負担軽減(従来受験料:35,000円→現在:15,000~10,000円)
- 現地試験の同日実施
(韓国:ソウル/台湾:台北/ベトナム:ハノイ/インドネシア:ジャカルタ)
- 外部語学能力試験の利用(EJU, TOEFL・TOEIC・IELTS等)
- 入学試験要項の多言語化および関連書類のダウンロード化
- オンラインレジストレーション受付の導入
- インターネットを利用したクレジットカードによる検定料納入方法の導入
- 高性能テレビ会議システム等を用いた面接の実施
- 韓国・台湾事務所による出願書類受付

英語コース(国際教育インスティテュート(ILA)・グローバルMBAコース)におけるローリングアドミッションの導入

海外指定校推薦入学制度の新設

- 韓国、中国、台湾、ベトナム、オーストラリア、フィリピンにおける優秀な高等学校との指定校推薦入学にかかる協定を締結。
(2013年12月現在41高校)
- 現地説明会および現地面接試験の実施。



受験生の利便性向上

受験機会の増加

多様な学生
多数の学生
優秀な学生

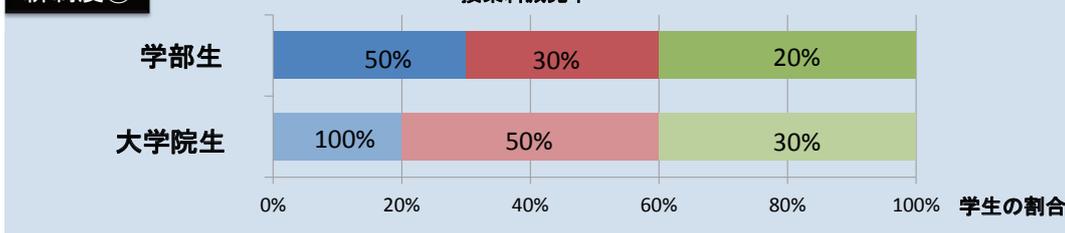
2. 取組状況

1 留学生受入のための環境整備 Ⅲ



新制度①

授業料減免率



新制度②

年間学費(入学金(入学時のみ)、授業料、教育充実費及び実験実習料)相当額 → **免除**

博士課程(後期課程)
研究科の推薦制

2013年度採用人数
231人(含 日本人学生)

その他の奨学金制度

- ・ 留学生コース奨学金
- ・ 特定国からの外国人留学生に対する支援奨学金
最貧国及び低所得国に居住し、その国籍を有する者を対象(年間2名まで) / 受験料・学生納付金(4年間)を免除 / 月額85,000円の支援奨学金を4年間支給

2. 取組状況

2 拠点大学の国際化とネットワークの形成



グローバル30関西地区連絡会

実施時期	主管大学	テーマ	内容
2011年11月	大阪大学 立命館大学	派遣・受入プログラムの事例研究 ワークショップ	京都大学、同志社大学共催のもと、留学生受入および学生海外派遣に関わる事例研究ワークショップを実施し、大阪大学、立命館大学より講師を派遣し事例紹介を行った。
2011年12月	京都大学	留学交流の危機管理およびメンタル ヘルスケアに関するシンポジウム	関西地区のG30採択4大学に加え、龍谷大学、神戸大学、広島大学、パナソニックの協力による留学交流の危機管理とメンタルヘルスケアに関するシンポジウムを実施。
2012年1月	同志社大学	英語による授業に関する ワークショップ	G30関西地区4大学共催で、英語による授業・学生支援関係のワークショップ(英語使用:35大学より110名参加) テーマはDeveloping English Undergraduate Programs in Japan: Pedagogy, Recruitment, and Student Life
2012年11月	同志社大学	同志社大学SDワークショップ 「大学職員のグローバル化」	グローバル化する大学で働く職員に求められる役割、職員自身のグローバル化について検討、意見交換することを目的に、SDワークショップ「大学職員のグローバル化」を開催。
2013年2月	京都大学	工場見学会	立命館大学、同志社大学の共催により、製造業関連企業への就職に関心のある留学生を対象に、工場見学会を開催。

3. 中間評価と対応状況
対応状況

中間評価における留意事項

英語による授業のみによる学位取得が目的であるにしても、日本人学生との交流ができるレベルの日本語の習得について、プログラムに組み込んでほしい。

ムスリムの留学生に対し、ハラール・フードやメディテーションルームの確保を標準化してほしい。

もっと日本人学生との交流の機会を設けてほしい。

解決済み

既に9レベルの日本語授業を設置しているため、履修のメリットを更に周知徹底する。

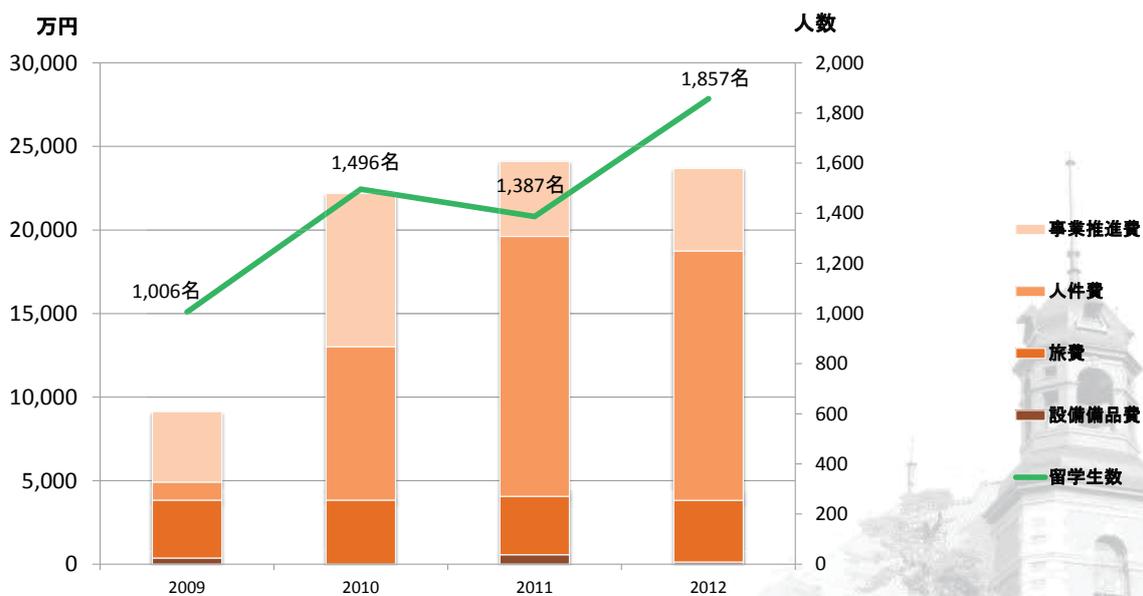
本学食堂にてハラール・フードを提供し、メディテーションルームも整備した。

日本人学生と外国人学生との交流会「インターナショナルデー」を積極的に展開。
また、国際交流を活性化させるため、学生スタッフ制度を導入、留学生と日本人学生の交流を行う「World Cafe」も開催。

4. 経費の使用状況

国際関連事業に係る経費の推移

※経費はG30事業実績報告分(補助金+大学負担)についてのみ記載



<定量目標値と期限>

▼外国語による授業比率の向上及び日本人学生の外国語能力向上

- ・専門教育科目のみならず、日本の文化・社会に関する科目等の英語化を中心として外国語による授業比率の向上 平成28年度には、8%

- ・英語等の外国語による授業は、日本人学生も履修できる環境とし、日本人学生の特に英語力を強化 平成28年度には、TOEFL iBT79相当の学生比率 20%

▼外国人教員比率の向上

- ・外国語による授業比率の向上に加え、大学のグローバル化促進のため外国人教員比率の向上 平成26年度には、11.1%

<定性目標と期限>

▼日本語教育組織である日本語・日本文化教育センター改組計画

- ・より質の高い留学生獲得及び日本語教育の質の向上を目指し、改組案確定 平成25年度中

▼留学生奨学金制度の見直し

- ・より質の高い留学生獲得を目指し、授業料減免率と定着率、学業成績を調査し、奨学金制度を改正 平成27年度中

<その他の課題及び施策>

▼グローバル30事業の実績を踏まえた、留学生リクルーティングの推進

- ・All Japanによるリクルーティング、特にJUMPの活用と並行し、海外指定校推薦等、本学独自のリクルーティングの推進及び必要経費の再考

▼日本人学生と外国人留学生の共修・交流の促進

- ・国際教養科目群の充実 →海外インターンシップ科目、ディベート・ディスカッション
- ・共修によるPBL科目の充実
- ・日本人学生と外国人留学生が、授業以外でも交流できる機会、イベントを充実。特に、学生が主体的に企画・実施する制度の充実

▼海外拠点の利活用の推進

- ・拠点設置目的の再確認及び大学コンソーシアム京都等、他大学の活動の場として提供
- ・リクルーティングのみならず、教育・研究の拠点(ハブ)としての活用を推進

▼教職員の国際化対応力強化

- ・教員対象:英語による授業実施のためのFDの継続実施
- ・職員対象:英文化ワーキングの継続実施による事務文書の英文化及び情報共有 職員在外研修制度の充実

グローバル30総括シンポジウム

立命館大学



G30事業 取組年表 ①

2009年度（グローバル30採択）

- ・学内にG30国別・地域別政策懇談会を設置し活動を開始
- ・留学生キャリア支援システムを開発
- ・キャンパスサインや情報システムの2言語化整備
- ・英語版ホームページのリニューアル
- ・グローバル・ゲートウェイプログラム(GGP)の導入
- ・国際シンポジウム(一留学と学びの質保証)の開催

2010年度

- ・テクノロジー・マネジメント研究科博士課程後期課程に英語コースを開設
- ・第1回G30産学連携フォーラムを開催 プログラムを開設
- ・海外共同利用事務所としてインドオフィスを開設
- ・英語対応可能なカウンセラーを各キャンパスへ配置
- ・関西地域のG30採択大学による副学長クラス会合(G30関西地区連絡会)を設置
- ・正課外のプログラムとして、外国人留学生を主な対象としたキャリア支援
- ・渡日を必要としない入試制度の導入

G30事業 取組年表 ②

2011年度

- ・本学において初めてとなる学士課程の英語コース、国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻を開設
- ・学部レベルにおいて秋入学の受入れを開始
- ・政策科学研究科博士課程後期課程に英語コースを開設
- ・キャリア支援プログラムを国内学生も参加可能なものへと拡充
- ・UAEにおける日本語教育連携プログラムを開始
- ・インド・デリーにて第1回目の日本留学フェアを開催
- ・第2回G30産学連携フォーラムにおいて西日本分科会の幹事校として参画

2012年度

- ・びわこ・くさつキャンパスに国際寮(160室)を建設
- ・大学コンソーシアム京都を通じて、G30の英語による授業科目(3科目)を提供
- ・産学連携のキャリア支援プログラム「グローバル人材養成プログラム」へと拡充
- ・英語コースの入学検定料を国際的な水準へと変更(引き下げ)
- ・第2回日本留学フェアをインド・デリーにて開催
- ・延世大学とのジョイントセミナーを開催

3

G30事業 取組年表 ③

2013年度

- ・政策科学部 Community and Regional Policy Studies専攻を開設
- ・「グローバル人材養成プログラム」の一部を日英二言語で実施
- ・第3回日本留学フェアをインド・デリーにて開催
- ・「留学生と日本人学生の学び合い」をテーマとしたFDセミナーをシリーズ化し、計3回実施



4

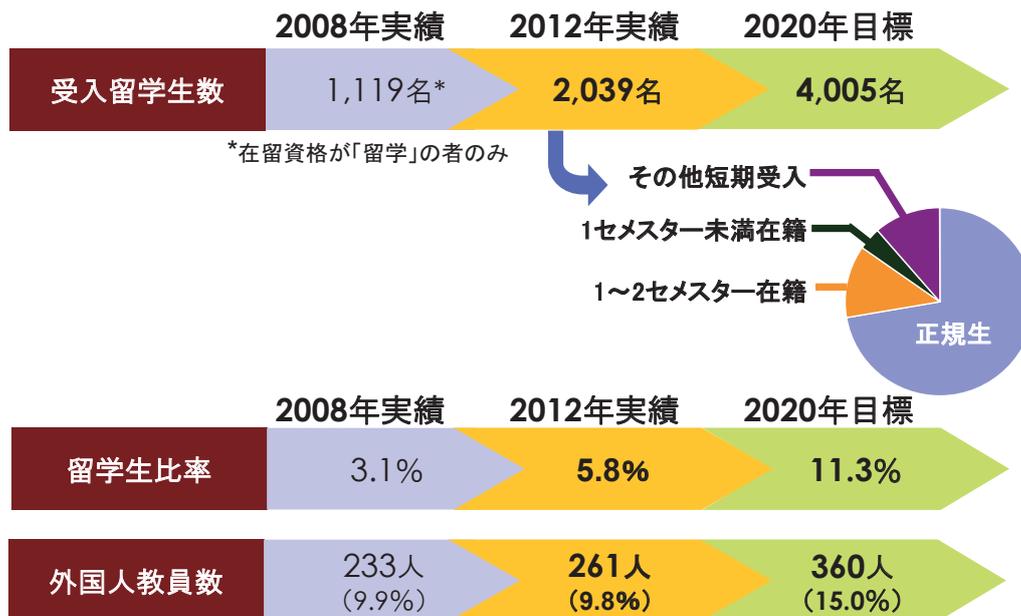
G30事業の成果と波及効果

グローバル
人材の育成

- 多文化環境での学びと成長
 - 英語による学位取得コースの開設
 - 短期プログラム等による多様な留学生の受入れ
 - 海外派遣プログラムの充実と留学促進
- 国内外のネットワーク強化
 - 国内外の大学・機関との連携強化
- G30事業を契機とする全学の国際化
 - カリキュラムに根付いた国際化の展開

5

グローバル30事業における目標と実績



6

英語コースの開設状況

- 2学部2コース、2研究科に3コースの新設構想
- 合計で11コース(2学部2コース、5研究科9コース)

2014年1月末現在

	英語コースの名称	学部・研究科名	開設年月
学部	Global Studies Major	国際関係学部	2011年4月
	Community and Regional Policy Studies Major	政策科学部	2013年9月
大学院	Doctoral Program in Technology Management	テクノロジー・マネジメント研究科	2010年9月
	Doctoral Program in Policy Science	政策科学研究科	2011年9月

7

国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻 ～特色ある学びの仕組み～

- 1学年60名(国内学生30名＋留学生30名)
 - 国内学生と留学生が切磋琢磨して学びを深める
- Course Numbering System
 - 授業科目のレベル・内容を科目コードで体系的に表示し、系統的な履修を可能とする
- 春入学と秋入学を両方実施
 - 各国の学年暦に応じて選択可能

「日本で異文化や国際政治を学びたかった。
秋入学でフランクなく大学生活を始められてうれしい」(2012年秋入学者)



8

多様な留学生の受入れ 国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻の在籍者構成 27か国・地域、外国人留学生数 110名



事業の成果～学生の声から見えること①～

僕にとっての最大の変化は、異文化また他の国の人たちへの接し方です。GS専攻としてここに来るまで、文化の違いは全く重要ではないと思っていました。僕が専攻するクラスでは、自分の意見を述べなければいけないことがあり、意見を強く述べる人、意見を述べたくない人で文化の違いが見られます。

僕はそこでこの文化の違いを受け入れることを学ばなければなりません。例をあげると、自分の意見をはっきり述べる人は、そうなりたいと思っているわけではなく、ただ育てられた環境、教育の中で強い意見を述べるよう学ぶのでないかと思います。

また、意見を積極的に言わない人たちは、ただ無口だというわけではなく多文化を尊重し他人の意見を敬うが故に考えを控えようとするのだと思います。結論として、僕にとっての一番大きな変化は、文化の多様性を受け入れ始めていることだと思います。



- 国際関係学部 グローバル・スタディーズ専攻 2回生
- 梁 敬鎰 (LEUNG KING YAT CHRIS)
- 香港出身

事業の成果～学生の声から見えること②～

GS専攻での学びというのは2つあって、1つは文化的な面で、留学生と交流する上で日本にはない感覚や他の国の文化を学べるということです。もう1つは、常に英語に触れられ、英語を主体的に扱うというのが魅力的な点です。

英語は世界語とよく言われますが、今は何をやるにしても英語を使って世界に発信していかないといけない時代ですので、日本にいながら英語を常に鍛錬できる場にいるというのは僕には魅力的です。

僕は将来国際経済の学者になりたいと思っているので、そういった自分の夢に対しても、英語を使って経済のことを世界に発信できる立場になっていかなければならないので、それを練習できる場であるGS専攻に感謝しています。



- 国際関係学部 グローバル・スタディーズ専攻 2回生
- 鈴木 亮(RYO SUZUKI)
- 日本出身

11

ピア・サポート ～日本人学生と留学生との学び合い～

- 上回生グループ(オリター)が、自発的な取り組みとして、学部英語コースで学ぶ留学生を支援
- オリターに対して『異文化理解・ダイバーシティ理解』、『コミュニケーションと傾聴』等の事前研修を実施。学生部、専門教員、事務組織も協力
- オリターは日本人学生と留学生の混合。意見の違いを乗り越え、相互に学びあいながら運営しており、オリター自身への学習効果も高い

日本人学生だけだった時と違い、交流企画にしても、実のある企画にして、説明をしないと参加してくれない。主旨をきちんと説明することの大切さを学びました。(国際関係学部3回生)



12

留学生の受入れ拡大 ～優秀な留学生の確保～

- 渡日を必要としない入学試験制度
 - 直接面接もしくはスカイプを利用した面接の実施
 - 留学生にとって利便性を高めつつ、厳正な入試を執行
- 優秀な留学生の確保
 - 韓国、中国、インドネシア、モンゴルの著名進学高校との推薦入学協定の締結
 - 留学フェアへの参加、高校・大学訪問の実施
- 日本留学の魅力アピール
 - GoogleやFacebookの活用
 - インドにおける留学フェアの開催

13

留学生の受入れ拡大 ～1セメスター以上の受入れ～

Study in Kyoto Program (SKP)

- 1～2セメスターの受入れ
 - 日本語・日本文化の集中コース
 - 英語での専門履修を中心とするコース
- 交換留学生以外の個人応募も可能
- 京都ならではの質の高い文化体験
- 国内学生とSKP生の共同学習、交流
 - ➡ 双方の満足度、学習効果高い



14

留学生の受入れ拡大 ～1 Semester未満での受入れ～

- Ritsumeikan Summer/Winter Japanese Program (RSJP/RWJP)
 - 2～5週間で、各国の学年暦に応じて複数の時期を設定
 - 日本語学習＋日本文化体験
 - 日本人バディ学生との交流も魅力のひとつ
- 2011年度からは協定大学等の要望に応じたカスタムメイドプログラムも実施
 - 2011年6月にはプリンストン大学から12名を受入れ
 - 2013年度は4プログラムを実施



15

留学生の受入れ拡大 ～多様な形態での受入れ～

- カリキュラムに組み込んだ多様な受入れ(短期滞在型から正規課程への進学まで)
 - 経済・経営学部と中国・大連外語学院との大学院進学を視野に入れた学生交換プログラム
 - 政策科学部とタイ・タマサート大学とのワークショップ
 - 文学部における日韓中連携プログラム
 - その他、各学部・研究科の専門分野にもとづくプログラムを展開
 - 新たなプログラム開発も進行中
- 国際協力事業における人材育成事業
 - 中国・大学管理運営幹部特別研修
 - インドネシア・公共政策立案研修

16

留学生の受入れ拡大 ～受入環境の整備～

- びわこ・くさつキャンパスに国際教育寮完成(2012年9月・160室)。衣笠キャンパスでも計画進行中
- 留学生に対するカウンセリング体制も整備



留学生の受入れ拡大 ～教職員の体制強化～

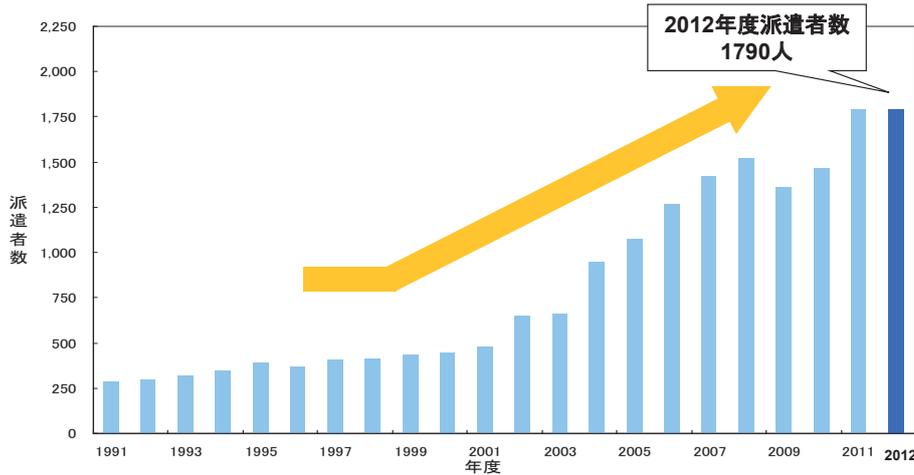
- 英語コース開設に際して、英語で質の高い授業を展開できる能力を重視し、国際的な教育活動実績のある日本人および外国人教員を任用
- 全学の国際化基盤として事務体制も強化
国際部でのスタッフ充実に加え、英語コース設置学部や、新たな海外大学との共同プログラムを開設する学部への専門的力を有した職員を配置
- さらに、事務職員の国際的な視野・スキルの涵養をはかるため、海外研修を含めたSDも実施

留学プログラムの充実と派遣促進 ～派遣人数実績～

入門的レベルから交換留学・学部共同学位プログラム等の高度なレベルまで、**多彩なプログラムを整備**



学びのフィールドが
海外に展開！



19

留学プログラムの充実と派遣促進 ～学生ニーズに応じた多様なプログラム～

レベル	目的	プログラム例
イニシエーション型	語学力増進と異文化理解	異文化理解セミナー(6ヶ国語、13コース) 立命館・ボストン大学「英語とアメリカ文化プログラム」他
モチベーション向上型	語学力を高めながら、外国語による講義を受ける	立命館・マコーリー大学「日豪関係」 国際インスティテュート海外スタディ(9コース) 立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」他
アドヴァンスト型	外国語による専攻分野の学習	交換留学 共同学位プログラム 他

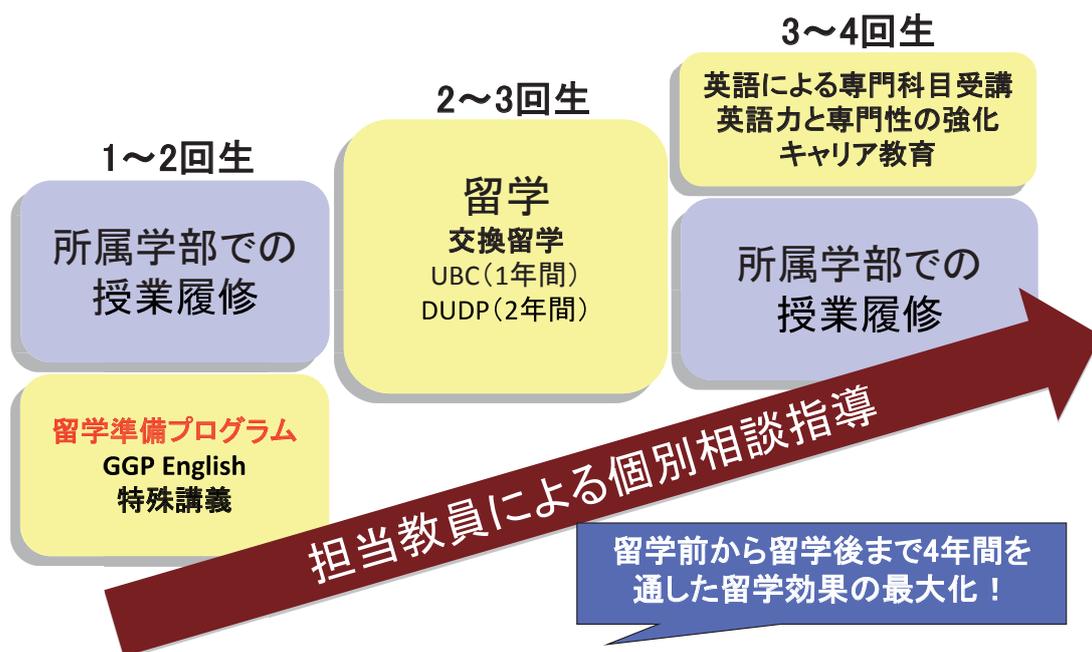
20

留学プログラムの充実と派遣促進 ～学部教学と結びつけた短期派遣プログラム事例～

- 産業社会学部 「スポーツ社会専門特殊講義」
 - サンディエゴ州立大学での講義とアリゾナ州フェニックス近郊でのフィールドトリップを通じて、スポーツとエコツーリズム、スポーツと都市開発、地域社会におけるスポーツ産業の役割等、全専攻に関わる内容を学術的かつ体験的に学ぶプログラム
- 法学部 「法政海外フィールドスタディ」
- 経営学部 「Business Study Abroad I～IV」
- 映像学部 「近代ハリウッド映画におけるCG発展の歴史」
- 教養教育 「国際平和交流セミナー(中国)／(韓国)」 他

21

留学プログラムの充実と派遣促進 ～GGP(グローバル・ゲートウェイプログラム)～



留学プログラムの充実と派遣促進 ～学生の成長、学生から学生へ～

Student's Voice

最初は授業内容が分かりませんでした。なんとか喰らいつきたいと思って、オフィスアワーを毎回利用。本当に必死で質問しましたね。熱心な学生には分かりやすい言葉で説明してくれたので、少しずつ理解できるようになりました。

シェアハウスでは9カ国13人の留学生と生活。海外の学生の生の声を聞くことで視野が広がりました。例えば、海外の政治問題についてその国の学生がどのような考えを持っているかを生で聞く機会が得られたことはとても貴重な体験でした。

文学部4回生 米国・アルフレッド大学交換留学

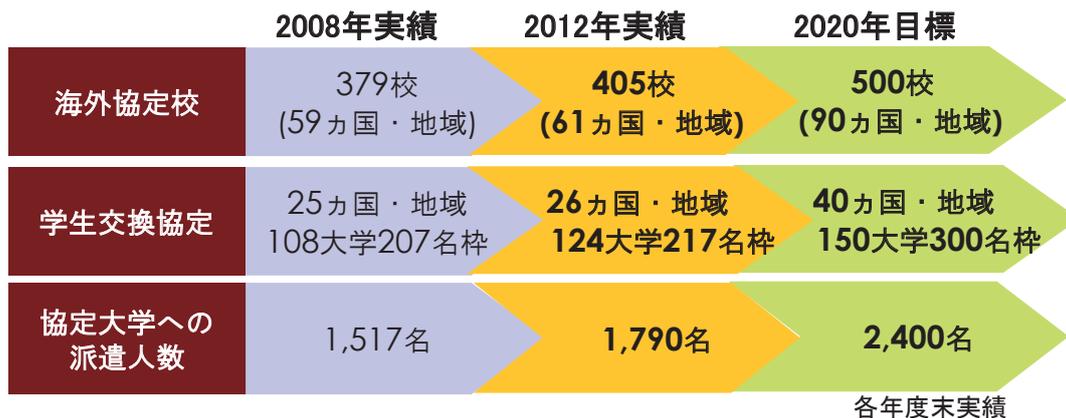


留学アドバイザー制度

留学を経験した学生が、留学を考えている学生に現地情報などをアドバイス。同じ学生だからこそ、ちょっとした悩みや疑問も気軽に相談できる場となっている。留学アドバイザー自身にとっても、後輩学生の支援とともに、自分が留学で学んだものを振り返る機会となっている。

23

海外大学・機関とのネットワーク強化



- 国際的な大学間ネットワークでの活動
 - INU (International Network of Universities)
 - 国際関係専門大学院連合 (APSIA: Association of Professional School of International Affairs)

24

海外大学・機関とのネットワーク強化 ～共同教育プログラムの展開～



- 学部共同学位プログラム (DUDP)
2012年度新規締結 カナダ:アルバータ大学
米国:アメリカン大学(1994年度から実施)
など
- 共同修士学位プログラム (DMDP)
米国:アメリカン大学
英国:ランカスター大学
韓国:高麗大学、中央大学
ロシア:トムスク国立制御システム無線電子大学

アメリカン大学・立命館大学の2つの学位を取得した卒業生数
累計 281名
(2013年11月現在)

25

国内大学・機関とのネットワーク強化①

- 大学間ネットワークの強化と他大学への裨益
 - 京都大学、大阪大学、同志社大学と連絡会を形成
 - 4大学共催のFD、SD活動を展開
- 大学コンソーシアム京都へ英語科目提供
 - 他大学・一般社会人の学習機会として2013年度は以下の3科目を開放
 - Introduction to the United Nations
 - Introduction to Peace Studies
 - Special Lecture (Area Studies Course)

26

国内大学・機関とのネットワーク強化②

- 各種シンポジウムやFD・SD企画を実施
- JAFSAとの共催を含め、他大学関係者・一般へ開放
- 直近の取り組み事例(FD企画)

「Facilitating Active Intercultural Learning in Classrooms (2014年1月10日)」

- 米国・ミネソタ大学Center for Teaching and Learningより2名の講師を招いて実施。
- 授業での異文化間の学びを促進するための考え方やコアとなるスキルなどについて、実践例を紹介。
- 関西のみならず関東や北海道など遠方からの参加者も含め、約50名が参加。
- この他、2013年度は二度にわたって、本学およびAPUでの正課・課外での留学生と日本人学生の学びあいの事例を取り上げ、延べ約130名が参加。

27

海外拠点での活動 ～海外拠点設置状況～



28

海外拠点での活動 ～インドオフィス(ニューデリー)①～

- 2010年11月に海外共同利用事務所として開所
国際交流基金日本文化センターと同一ビルに設置
日本語学習者に対して日本留学情報提供等の
相乗効果を挙げている
- 日本留学のワンストップセンター
としての機能
 - 日本の各大学の資料を設置
 - TV会議システムを利用した
留学説明会や面接の実施等



29

海外拠点での活動 ～インドオフィス(ニューデリー)②～

- 2011年度、2012年度に引き続き、2013年9月に第3回目となる
日本留学説明会をニューデリーにて開催。日本留学の意義に
加え、日本文化を紹介
- G30採択大学など9大学その他、在インド日本国大使館や国際
交流基金等、計15の大学・機関がブース出展。加えて、24の
大学・機関が資料参加
- インドの高校生、大学生等、約1,000名が参加

参加大学の声

「留学を真剣に考えている者が多かった」、
「予想を超えた来場者数で、充実した説明が
できた」等



産学連携の取組み ～G30産学連携フォーラムへの参画～

- 2010年8月
第1回G30産学連携フォーラム
立ち上げに東京大学とともに参画
- 2011年8月 第2回フォーラム
「留学生の雇用について」
西日本分科会の幹事校を務める
- 2012年9月 第3回フォーラム
- 2013年9月 第4回フォーラム



グローバル人材育成に
関する産学共同の
議論の場として定着

31

産学連携の取組み ～グローバル人材養成プログラム①～

- 国内学生と留学生が、グループでの学び合いを通じて、国内外を問わずグローバルに活躍できる人材を養成するプログラム

2013年度受講生 国内学生:30名、留学生:19名



- 産業界との連携促進
- 企業が抱える課題に対して解決策を提案するPBL学習プログラム
- グローバル展開をしている企業でのインターンシップ など
- 2013年度より一部プログラムを日英二言語で実施。

32

産学連携の取組み ～グローバル人材養成プログラム②～

目指す能力・資質 **グローバル人材**



産学連携の取組み ～グローバル人材養成プログラム③～

経営者よりも響いた学生の提言！ マンネリ化する 関西財界セミナーに新風

2012.2.19 07:00 (1/2ページ) [ビジネスの裏側]

関西の政財界人らが一堂に会する恒例の「関西財界セミナー」がこのほど、京都市内で開かれた。今回で50回目を教え、歴史を重ねてきた財セも昨今は“マンネリ化”が指摘され、関西の地盤沈下の影響か、開催の意味さえ問う声も少なくない。そんな中、今回はセミナー史上初となる意外な試みが行われた。

「ASEAN圏の国家はいつか淘汰(とうた)されると思う。ぜひ、日本を広く見てほしい!」。企業のグローバル競争と人材戦略について議論を交わした分科会会場で、立命館大大学院国際関係研究科の趙俊秀(ジョ・ジュンス)さんの声が響き渡った。

関西経済や成長戦略などテーマごとに6つの分科会に分かれて、議論が交わされた財セ。この分科会では外国人留学生の採用の実態とその課題について、企業側や大学教授らが意見を繰り広げた。その後、セミナーに初めての参加となった趙さんから外国人留学生3人と日本の大学生2人が企業の採用についてそれぞれの思いを語った。

グローバル化が重要と叫ばれながらも、外国人留学生に対する企業の採用数は少ないのが現実。「留学生は母国と関係を切っている。環境が変わることにアレルギーはない」。韓国から来日して5年という趙さんはこう続けた。

中国・上海から神戸大経営学研究科に留学している叶承啓(ヨウ・ショウケイ)さんも、流暢(りゅうちょう)な日本語で「優秀な日本人だけでなく、多国籍の人材を採用することは今の流れ。企業と留学生の間にもっと接点を作ってほしい」と呼びかけた。



関西財界セミナーに参加した大学生たち＝2月9日、京都市

関西財界セミナーにて
発言をする受講生

新たな風を財界へ吹き
込んだと報じられた。



2012年2月19日付 産経新聞ウェブサイトより抜粋

立命館大学における国際化の展開 ～国際化に関わる歩み～

- 1985** 国際センター設置
- 1986** 留学生特別入試を実施し、正規留学生の受入開始
海外短期派遣プログラム『海外セミナー(現:異文化理解セミナー)』開始
- 1987** 学生交換留学(派遣)開始
- 1988** 国際関係学部開設
- 1991** 『立命館・UBCジョイント・プログラム』を開始。100名を長期(8ヶ月)派遣
- 1994** アメリカン大学との学部共同学位プログラム開始
- 2000** 学部横断プログラム
『国際インスティテュート』開設
- 2001** 理工学研究科に初めての英語コース(国際産業工学特別コース)を設置
- 2009** グローバル30採択
- 2011** 学士課程で初めての英語コース「国際関係学部グローバルスタディーズ専攻」開設
- 2013** 政策科学部 Community and Regional Policy Studies専攻開設

2000年 同一法人内に立命館
アジア太平洋大学(APU)開学

35

立命館大学における国際化の展開 ～G30事業を契機とした全学の国際化～

● G30事業を契機として、全学の国際化を推進

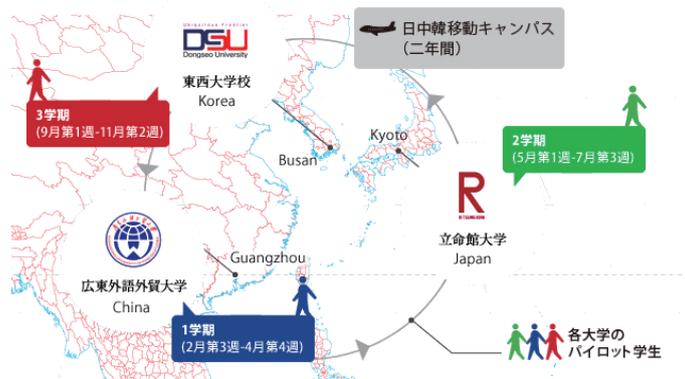


- 全学横断的なプログラム開発から
各学部・研究科のカリキュラムに内在した国際化へ
- 学部・研究科の特徴を生かした独自取組への発展
 - 1) 文学部 キャンパスアジア・プログラム(世界展開力事業採択)
 - 2) 情報理工学部 中国の大連理工大学と共同で「国際情報ソフトウェア学部」を大連理工大学内に設置
 - 3) 情報理工学部・情報理工学研究科 「グローバルIT人材育成リーディングプログラム」(グローバル人材育成推進事業採択)

36

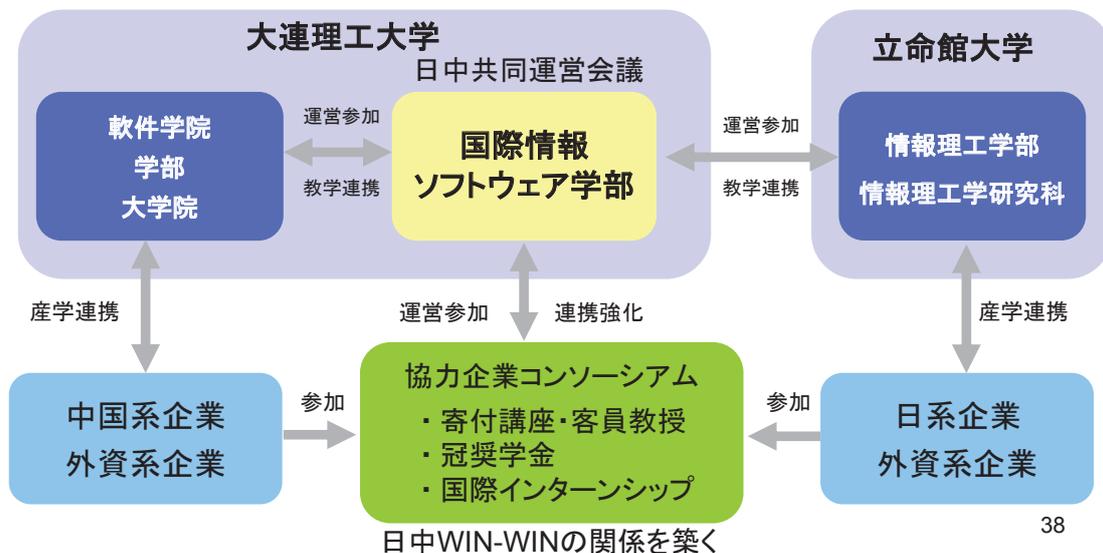
全学のさらなる国際化展開① ～文学部・キャンパスアジア・プログラム～ (文部科学省「平成23年度世界展開力強化事業」採択)

- 立命館大学、東西大学校(韓国)、広東外語外貿大学(中国)の三大学で共同運営。
- 3大学の学生と一緒に日本、中国、韓国の3キャンパスを移動しながら語学と専門科目を学ぶ。
- 2年にわたって、寮での共同生活、討論、文化摩擦、共同作業などを通じて、国際的なコミュニケーション能力を身につける。

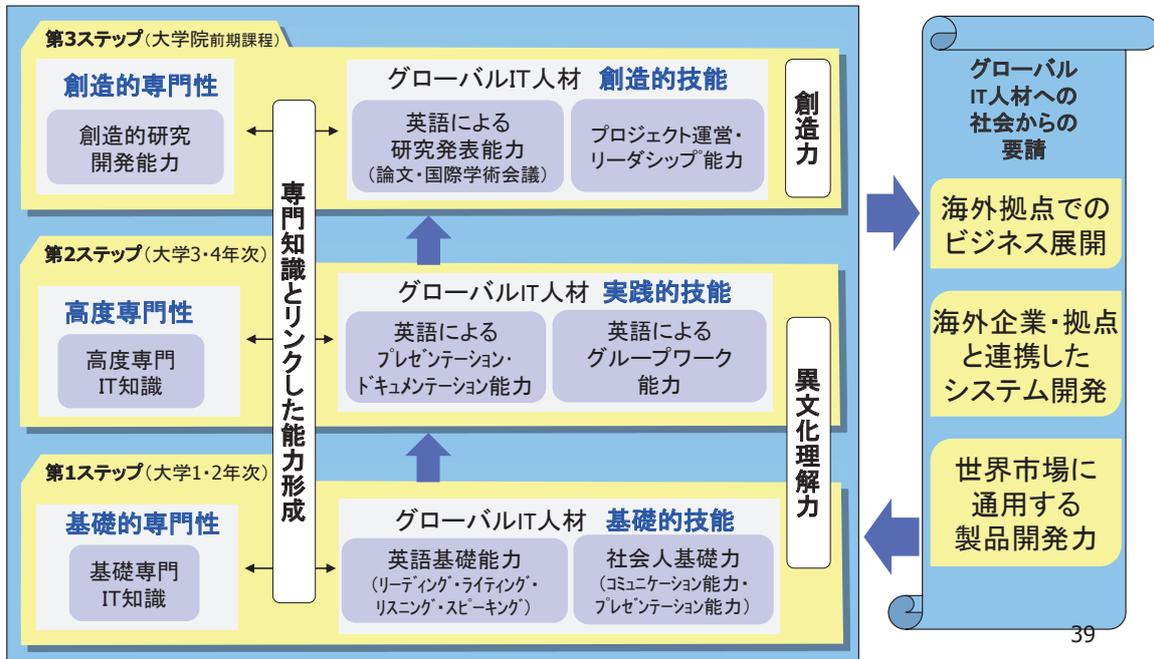


全学のさらなる国際化展開② ～中国の大学との共同での学部設置～

- 日中共同で設置する初の国際的なIT学部
- IT分野におけるグローバル人材の育成を目指す



全学のさらなる国際化展開③ ～グローバルIT人材育成リーディングプログラム～ (文部科学省「平成24年度グローバル人材育成推進事業・特色型」採択)



39

今後の取組施策と事業終了後の見通し

- 目標の達成に向けた着実な取り組み
 - 多様な留学生受入の促進と環境整備
 - 日本語基準の留学生向けにも渡日を必要としない入試方法を確立
 - 衣笠キャンパスにおける国際寮の整備(2015年)
 - オンキャンパスでの共同学習・交流の促進

- 2015年4月大阪府茨木市における新キャンパス「大阪いばらきキャンパス」の開設と各キャンパスの特色に応じた国際化の展開
 - 新キャンパスのコンセプトは「アジアのゲートウェイ」
 - 多様な国際連携の促進
 - 既存キャンパスでも、国際化をカリキュラムに埋め込んだ新たな教学展開
 - 大阪いばらきキャンパスにおける国際寮の整備

40